

観音山古墳群瀬戸Ⅳ群  
観音山古墳群中原Ⅲ群  
内河遺跡第1次

福岡県筑紫郡那珂川町所在遺跡の調査

2008

福岡県教育委員会

観音山古墳群瀬戸Ⅳ群  
観音山古墳群中原Ⅲ群  
内河遺跡第1次

福岡県筑紫郡那珂川町所在遺跡の調査



観音山古墳群等遠景(北上空から)

# 序

福岡県教育委員会では、平成13年度から独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（旧日本鉄道建設公団）九州新幹線建設局の委託を受けて、九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。筑紫郡那珂川町内では九州新幹線本線と工事用道路の建設があり、本線を県教育委員会が、工事用道路については県教育委員会と那珂川町教育委員会が地区を分担して発掘調査を実施しました。本書は県教育委員会が実施した発掘調査のうち、観音山古墳群中原Ⅲ群・同瀬戸Ⅳ群及び内河遺跡の報告を行うものです。

本書によって、新幹線建設工事の中で記録保存された埋蔵文化財の存在にわずかでも思いを馳せていただければ、また、本書が文化財愛護思想の普及及び学術研究・生涯学習への一助となれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査から整理・報告書作成に至る間に御協力・御助言いただきました関係諸機関や地元をはじめとする多くの方々に対しまして、深甚の謝意を表します。

平成20年3月31日

福岡県教育委員会  
教育長 森山 良一



## 例 言

- 1 本書は、九州新幹線鹿児島ルート建設に伴って発掘調査を実施した福岡県筑紫郡那珂川町大字松木に所在する観音山古墳群中原Ⅲ群、大字下梶原所在の同瀬Ⅳ群及び大字上梶原に所在する内河遺跡の記録で、九州新幹線関係埋蔵文化財報告の第11集である。
- 2 本遺跡群の発掘調査・整理報告は独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（旧日本鉄道建設公団）九州新幹線建設局の委託を受けて、福岡県教育庁総務部文化財保護課が実施した。
- 3 各遺跡は九州新幹線博多－船小屋間の埋蔵文化財調査地点のうち、第1地点（観音山古墳群中原Ⅲ群）・第11-2地点（同瀬戸Ⅱ群）・第15地点（内河遺跡）にあたる。
- 4 本書に掲載した遺構写真はそれぞれ調査担当者が行い、空中写真は九州航空株式会社、東亜航空技研株式会社及び空中写真企画有限会社に委託した。遺物写真は文化財保護課整理指導員北岡伸一が撮影したものである。
- 5 本書に掲載した遺構図は各担当者のほか、坂口朝子・野北祐子・中山朱美が作成した。
- 6 出土遺物の整理作業は九州歴史資料館及び文化財保護課太宰府事務所において、濱田信也及び各担当者の指導の下に行った。出土遺物の実測・製図は各担当者の他に、平田春美・棚町陽子・久富美智子・田中典子・坂田順子・橋之口雅子・堀江圭子・若松三枝子・寺岡和子・中川真理子・中川陽子・中村洋子・栗林明美・林知恵（実測）、豊福弥生・原カヨ子・江上佳子（製図）が行い、土山真弓美・安永啓子・山田智子・辻清子・藤美代子が補助した。
- 7 出土遺物・写真・図面はすべて九州歴史資料館及び文化財保護課太宰府事務所に保管している。
- 8 本書の執筆・編集は飛野・林知恵・大庭・秦がそれぞれ分担した。

# 目 次

巻頭図版

序

例言

図版目次

表目次

挿図目次

|     |                        |     |
|-----|------------------------|-----|
| I   | はじめに（飛野）-----          | 1   |
| 1   | 調査の経緯-----             | 1   |
| 2   | 調査の組織-----             | 4   |
| II  | 位置と環境（飛野）-----         | 7   |
| III | 発掘調査の記録-----           | 9   |
| 1   | 観音山古墳群瀬戸Ⅳ群（大庭）-----    | 9   |
|     | 1)はじめに-----            | 9   |
|     | 2)周溝墓-----             | 9   |
|     | 3)小 結-----             | 14  |
| 2   | 観音山古墳群中原Ⅲ群（飛野・林）-----  | 15  |
|     | 1)はじめに-----            | 15  |
|     | 2)観音山古墳群中原Ⅲ群33号墳-----  | 15  |
|     | 3)古墳以外の遺溝と遺物-----      | 21  |
| 3   | 内河遺跡第1次（秦）-----        | 45  |
|     | 1)調査の概要-----           | 45  |
|     | 2)中世の遺構と遺物-----        | 46  |
|     | 3)縄文晩期～弥生早期の遺構と遺物----- | 52  |
|     | 4)縄文早期の遺構と遺物-----      | 71  |
|     | 5)その他の遺構と遺物-----       | 76  |
|     | 6)小 結-----             | 79  |
| IV  | おわりに（飛野）-----          | 103 |

## 図版目次

巻頭図版 観音山古墳群等遠景（北上空から）

### 観音山古墳群瀬戸Ⅳ群

図版 1 周辺航空写真（上から、上が北）

図版 2 1. 遠景（南から） 2. 全景（西から）  
3. 全景（上から、上が北）

図版 3 1. 周溝墓調査前（1）（東から） 2. 周溝墓調査前（2）（南から）  
3. 周溝墓（1）（東から）

図版 4 1. 周溝墓（2）（南東から） 2. 周溝墓（3）（北東から）  
3. 周溝墓（4）（西から）

図版 5 1. 周溝墓東西土層ベルト（南東から） 2. 周溝墓東西土層ベルト西側（南西から）  
3. 周溝墓南北土層ベルト中央（西から）

図版 6 1. 周溝墓南北土層ベルト（北東から） 2. 周溝墓南北土層ベルト周溝土層（東から）  
3. 周溝墓掘り下げ状況（南東から）

図版 7 1. 第1トレンチ（南西から） 2. 第3トレンチ（北西から）  
3. 第4トレンチ（北東から）

図版 8 1. 第5トレンチ（西から） 2. 第7トレンチ（南から）  
3. 第8トレンチ（東南東から）

### 観音山古墳群中原Ⅲ群

図版 9 1. 全景（上空から） 2. 本線調査区（上空から）  
3. 工事用道路調査区（上空から）

図版 10 1. 33号墳全景（上空から） 2. 33号墳全景（上空から）  
3. 33号墳全景（南東から）

図版 11 1. 33号墳閉塞状況（南から） 2. 33号墳閉塞状況（南西から）  
3. 33号墳石室（南西から）

図版 12 1. 33号墳検出状況（南から） 2. 33号墳検出状況（南西から）  
3. 33号墳石室内堆積状況（北から）

図版 13 1. 33号墳閉塞状況（西から） 2. 33号墳閉塞中土器出土状況（南西から）  
3. 33号墳全景（東から） 4. 33号墳周溝土層（南から）

図版 14 1. 1号土坑（西から） 2. 2号土坑（北から）  
3. 3号土坑（西から）

図版 15 1. 4号土坑（西から） 2. 調査区北壁土層（南東から）  
3. 本線北東隅縄文土器出土状況（西から）

図版 16 出土遺物 1（33号墳出土土器・石器等・縄文土器 1）

図版 17 出土遺物 2（縄文土器 2）

図版 18 出土遺物 3（縄文土器 3）

図版 19 出土遺物 4 (縄文土器 4)

図版 20 出土遺物 5 (縄文土器 5)

#### 内河遺跡第1次

図版 21 1. 内河遺跡全景 (北西上空から) 2. 調査区南半第1遺構面検出状況 (南西上空から)

図版 22 1. 第1遺構面南半部全景 (北から) 2. 1号土坑 (北から)  
3. 1号土坑土層断面 (東から) 4. j3・4グリッド北壁土層断面 (南から)  
5. m3グリッド南壁土層断面 (北から) 6. 第2遺構面南半部東側全景 (北から)

図版 23 1. 2号土坑粘土塊出土状態 (南から) 2. 2号土坑下位遺物出土状態 (西から)  
3. 2号土坑掘り下げ状態 (西から)

図版 24 1. 調査区北半部第2遺構面全景 (上空から)  
2. 調査区南半第2遺構面全景 (南から)

図版 25 1. 3号土坑遺物出土状態 (東から) 2. 3号土坑掘り上り状態 (東から)  
3. 3号土坑土層断面 (西から)

図版 26 1. 4号土坑 (東から) 2. 4号土坑土層断面 (西から)  
3. 5号土坑 (東から)

図版 27 1. 3～5号土坑・流路 (上空から) 2. 5号土坑断面 (西から)  
3. 流路土層断面 (西から) 4. 流路内石匙出土状態 (北西から)

図版 28 出土遺物 1

図版 29 出土遺物 2

図版 30 出土遺物 3

図版 31 出土遺物 4

図版 32 出土遺物 5

図版 33 出土遺物 6

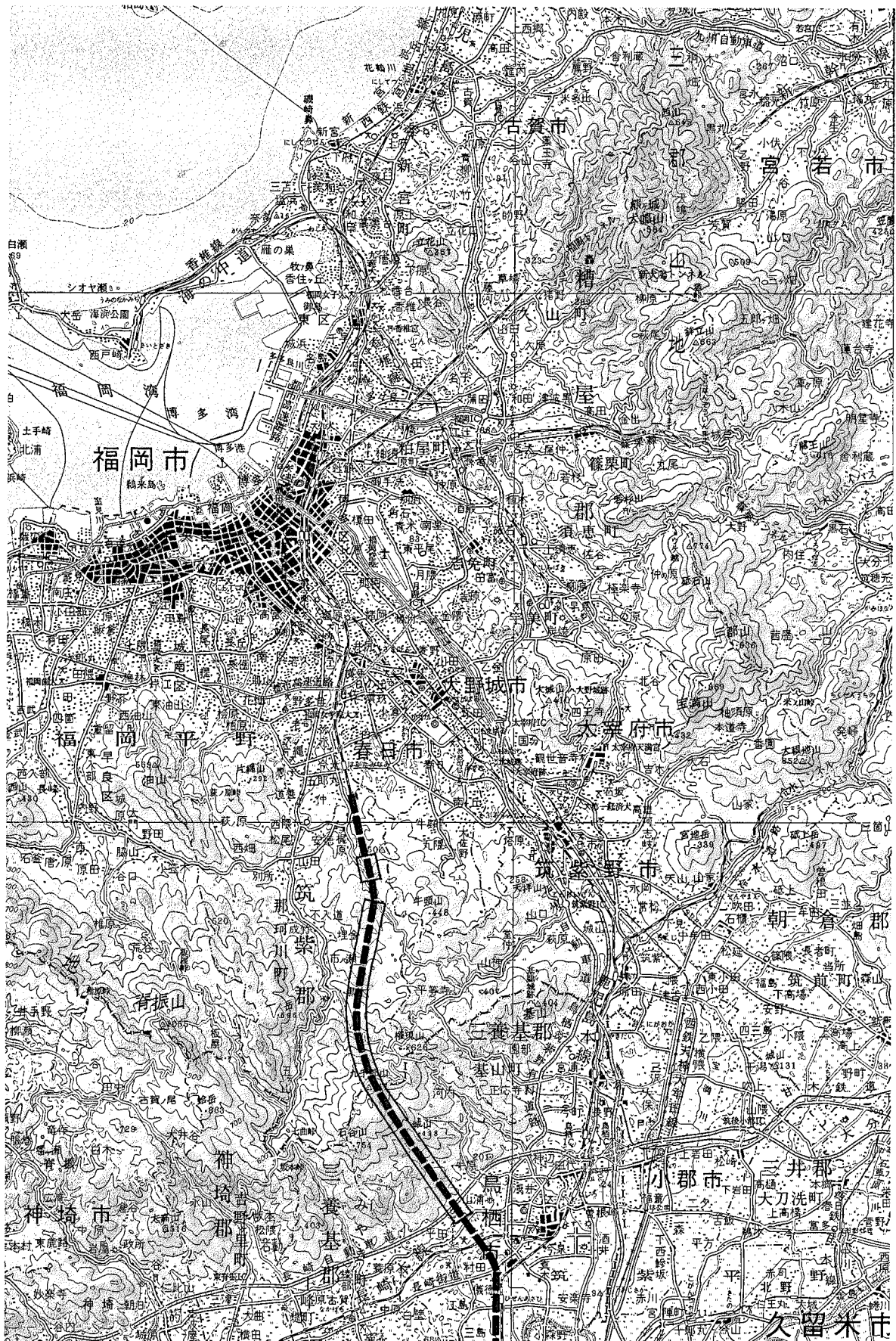
## 表目次

|     |                           |       |
|-----|---------------------------|-------|
| 表 1 | 九州新幹線関係那珂川町内調査対象地点一覧      | 3     |
| 表 2 | 観音山古墳群中原Ⅲ群出土石器観察表         | 39    |
| 表 3 | 観音山古墳群中原Ⅲ群出土土器観察表         | 41～44 |
| 表 4 | 玄界灘沿岸地域の縄文晩期～弥生早期資料群の併行関係 | 81    |
| 表 5 | 内河遺跡第1次出土縄文土器観察表          | 97    |
| 表 6 | 内河遺跡第1次出土石器観察表            | 99    |

## 挿図目次

|            |                                  |     |
|------------|----------------------------------|-----|
| 第1図        | 九州新幹線路線図（1/200,000）-----         | vii |
| 第2図        | 那珂川町内九州新幹線関係工事位置図（1/10,000）----- | 2   |
| 第3図        | 周辺遺跡分布図（1/25,000）-----           | 6   |
| 観音山古墳群瀬戸Ⅳ群 |                                  |     |
| 第4図        | 観音山古墳群瀬戸Ⅳ群位置図（1/1,000）-----      | 10  |
| 第5図        | 観音山古墳群瀬戸Ⅳ群地形図（表土除去前、1/200）-----  | 11  |
| 第6図        | 調査区遺構配置図（表土除去後、1/100）-----       | 12  |
| 第7図        | 周溝墓実測図（1/60）-----                | 13  |
| 第8図        | 調査区第1トレンチ土層実測図（1/60）-----        | 14  |
| 観音山古墳群中原Ⅲ群 |                                  |     |
| 第9図        | 遺構配置図（1/400）-----                | 15  |
| 第10図       | 周辺古墳等分布図（1/7,500）-----           | 16  |
| 第11図       | 33号墳主体部実測図（1/60）-----            | 17  |
| 第12図       | 33号墳出土遺物実測図1（1/3）-----           | 18  |
| 第13図       | 33号墳出土遺物実測図2（1/3）-----           | 20  |
| 第14図       | 土坑実測図（1/40）-----                 | 22  |
| 第15図       | 縄文土器実測図1（1/3）-----               | 23  |
| 第16図       | 縄文土器実測図2（1/3）-----               | 24  |
| 第17図       | 縄文土器実測図3（1/3）-----               | 26  |
| 第18図       | 縄文土器実測図4（1/3）-----               | 26  |
| 第19図       | 縄文土器実測図5（1/3）-----               | 27  |
| 第20図       | 縄文土器実測図6（1/3）-----               | 28  |
| 第21図       | 縄文土器実測図7（1/3）-----               | 29  |
| 第22図       | 縄文土器実測図8（1/3）-----               | 30  |
| 第23図       | 縄文土器実測図9（1/3）-----               | 31  |
| 第24図       | 縄文土器実測図10（1/3）-----              | 31  |
| 第25図       | 縄文土器実測図11（1/3）-----              | 33  |
| 第26図       | 縄文土器実測図12（1/3）-----              | 34  |
| 第27図       | 縄文土器実測図13（1/3）-----              | 35  |
| 第28図       | 縄文土器実測図14（1/3）-----              | 36  |
| 第29図       | 縄文土器実測図15（1/3）-----              | 37  |
| 第30図       | 石器等実測図（2/3）-----                 | 38  |
| 第31図       | 包含層出土遺物（1/3）-----                | 40  |
| 内河遺跡第1次    |                                  |     |
| 第32図       | 内河遺跡1次調査区周辺地形図（1/4,000）-----     | 45  |
| 第33図       | 内河遺跡1次調査区基本層序模式図（1/20）-----      | 46  |
| 第34図       | 内河遺跡1次調査遺構配置図（1/300）-----        | 47  |

|        |                                                          |    |
|--------|----------------------------------------------------------|----|
| 第 35 図 | 第 1 遺構面中世前期遺構図 (1/60) -----                              | 48 |
| 第 36 図 | 1 号土坑出土土器・陶磁器実測図 (1/3) -----                             | 49 |
| 第 37 図 | 1 号土坑・遺物包含層上層出土中世遺物実測図 (1/3) -----                       | 51 |
| 第 38 図 | 調査区割・グリッド設定図 (1/400) -----                               | 52 |
| 第 39 図 | 2 号土坑実測図 (1/30) -----                                    | 53 |
| 第 40 図 | 2 号土坑出土土器実測図 1 (5 は 1/4、他は 1/3) -----                    | 54 |
| 第 41 図 | 2 号土坑出土土器実測図 2 (1/3) -----                               | 55 |
| 第 42 図 | 2 号土坑出土石器実測図 (2/3) -----                                 | 56 |
| 第 43 図 | ピット 5 実測図 (1/20) -----                                   | 57 |
| 第 44 図 | ピット 5 出土土器実測図 (1/4) -----                                | 58 |
| 第 45 図 | 遺物包含層グリッド出土遺物水平分布図 (1/150) -----                         | 59 |
| 第 46 図 | 遺物包含層グリッド出土遺物垂直分布図・セクションベルト土層断面図 (1/120)                 | 60 |
| 第 47 図 | 遺物包含層下・中層出土土器実測図 (1/3) -----                             | 61 |
| 第 48 図 | 遺物包含層上層出土土器実測図 1 (1/3) -----                             | 62 |
| 第 49 図 | 遺物包含層上層出土土器実測図 2 (1/3) -----                             | 63 |
| 第 50 図 | 遺物包含層上層出土土器実測図 3 (1/3) -----                             | 64 |
| 第 51 図 | 遺物包含層上層出土土器実測図 4 (1/3) -----                             | 65 |
| 第 52 図 | 遺物包含層下・中層出土石器実測図 (2/3) -----                             | 66 |
| 第 53 図 | 遺物包含層中層出土石器実測図 (9 は 1/2、他は 2/3) -----                    | 67 |
| 第 54 図 | 遺物包含層上層出土石器実測図 1 (2/3) -----                             | 68 |
| 第 55 図 | 遺物包含層上層出土石器実測図 2 (2/3) -----                             | 69 |
| 第 56 図 | 遺物包含層上層出土石器実測図 3 (1/2) -----                             | 70 |
| 第 57 図 | 3・4 号土坑実測図 (1/60) -----                                  | 71 |
| 第 58 図 | 5 号土坑実測図 (1/60) -----                                    | 72 |
| 第 59 図 | 3～5 号土坑出土土器実測図 (1/3) -----                               | 73 |
| 第 60 図 | 遺物包含層出土縄文早期土器実測図 (1/3) -----                             | 74 |
| 第 61 図 | 縄文早期の遺構・遺物包含層出土石器実測図 (2/3) -----                         | 75 |
| 第 62 図 | 流路土層断面実測図 (1/60) -----                                   | 76 |
| 第 63 図 | 流路・溝状遺構・ピット出土遺物実測図 (1/3) -----                           | 77 |
| 第 64 図 | 流路・中世の遺構出土の縄文晩期～弥生早期の石器実測図 (2/3) -----                   | 78 |
| 第 65 図 | 玄海灘沿岸地域の縄文晩期土器編年図 1 (5・11・45 は 1/16、他は 1/12) -----       | 82 |
| 第 66 図 | 玄海灘沿岸地域の縄文晩期土器編年図 2 (8・9・12・20 は 1/16、他は 1/12) -----     | 83 |
| 第 67 図 | 玄海灘沿岸地域の縄文晩期土器編年図 3 (40・41 は 1/16、他は 1/12) -----         | 84 |
| 第 68 図 | 玄海灘沿岸地域の縄文晩期土器編年図 4 (5・6・12・13・16・19・22 は 1/16、他は 1/12)  | 85 |
| 第 69 図 | 玄海灘沿岸地域の縄文晩期土器編年図 5 (2・3・17・30・33・35 は 1/16、他は 1/12) --  | 86 |
| 第 70 図 | 玄海灘沿岸地域の縄文晩期土器編年図 6 (1・3・4・14・24・30 は 1/16、他は 1/12) ---- | 87 |
| 第 71 図 | 玄海灘沿岸地域の縄文後期～弥生早期黒曜石製石器変遷図 1 (1/4) -----                 | 91 |
| 第 72 図 | 玄海灘沿岸地域の縄文後期～弥生早期黒曜石製石器変遷図 2 (1/4) -----                 | 92 |
| 第 73 図 | 玄海灘沿岸地域の縄文後期～弥生早期黒曜石製石器変遷図 3 (1/4) -----                 | 93 |



第1図 九州新幹線路線図(1/200,000)

# I はじめに

## 1 調査の経緯

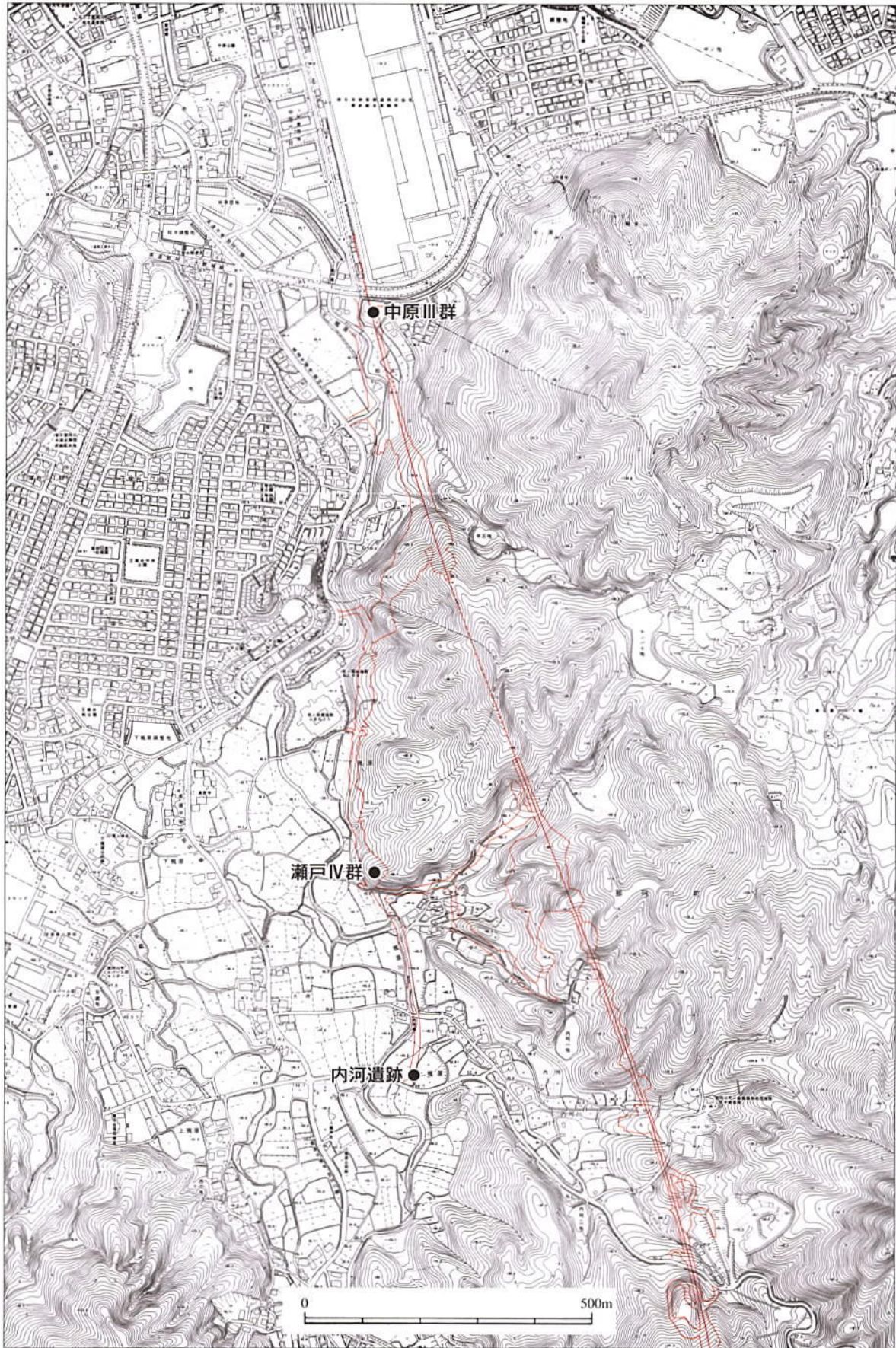
九州西海岸の主要都市を結ぶ全長256.82kmの九州新幹線鹿児島ルートは、昭和48年11月に整備計画が決定され、平成3年9月には熊本県八代―鹿児島県西鹿児島（現鹿児島中央）間が着工、16年3月に同区間が開業した。続いて平成10年3月に福岡県船小屋（筑後市）―新八代間が、13年6月には博多―船小屋間も着工され、22年度末の全線開業を目指して急ピッチで工事が進められている。船小屋―新八代間の埋蔵文化財発掘調査に至る経緯については既に詳述している（福岡県教育委員会「山門前田遺跡」『九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告』3、2006）。ここでは、博多―船小屋間の経緯について以下に記す。

平成13年6月4日付けで、日本鉄道建設公団（現鉄道建設・運輸施設整備支援機構、以下「鉄道・運輸機構」という。）九州新幹線建設局長から福岡県教育委員会（以下「県教委」という。）に対し、「九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財の有無及びその取扱について」（九建用一第30号）の照会がなされた。引き続いて、同6月13日には同局から県庁関係各課に対する「平成13年度九州新幹線事業計画」と題する説明会がもたれた。これらを受けた教育庁文化財保護課は一部の建設予定地の踏査を行うとともに、筑紫郡那珂川町・久留米市・三潞郡三潞町（現久留米市）・筑後市教育委員会に対して路線内の埋蔵文化財等の有無について文書で照会し、それを取りまとめて平成14年3月18日付けで「九州新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財の有無及びその取扱について」（13教文調第103号）として九州新幹線建設局長あて回答を行った。その中では那珂川町19地点、久留米市24地点、三潞町4地点、筑後市16地点の文化財の所在を記した。もちろん、試掘調査はほぼ全線を対象としており、一定の用地取得、構造物の除去後に随時連絡を受けて実施することとした。

那珂川町内の新幹線本線及び関連する工事用道路の計画が提示されたのは平成14年である（平成14年6月3日、九建用一第39号）。工事用道路の一部はそのまま町道として利用するという一方で、県文化財保護課と町教育委員会との間で協議した結果、町道として使用する部分を町教育委員会が、その他の部分を県教委が担当するという基本的合意を得た。ただし、本線と工事用道路が隣接する範囲については、同一の遺跡を分割して調査することは作業効率が劣り、遺跡を理解する上でも支障があることなどから双方ともに県教委が対応することとなった。県教委の調査は平成17年の内河遺跡に始まり、観音山古墳群中原Ⅲ群、同古墳群平石Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群、同古墳群瀬戸Ⅱ・Ⅳ群（順不同）の発掘調査を実施、平成19年6月をもってすべて終了した。もちろん、それらの間に工事用道路や本線部分の試掘・確認調査、立会を随時実施している。

表1に那珂川町内の調査対象地一覧を掲載した。先に挙げた久留米市については全面的に対応を市教育委員会（現文化観光部文化財保護課）に一任し、筑後市教育委員会も発掘調査を主体的に実施していて、県教委としてすべてを把握しているわけではないので詳細の掲載を略する。いずれ刊行される報告書を参照されたい。旧三潞町については県教委が発掘調査を実施し、既に報告書を刊行している（県教委「西牟田大立遺跡・西牟田北原遺跡・西牟田平野遺跡（2次調査）」『九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第5集、2006）。





第2図 那珂川町内九州新幹線関係工事位置図(1/10,000)



本書で報告する各遺跡の調査経緯は以下のとおりである。

平成15年11月、観音山古墳群瀬戸Ⅳ群周辺の詳細な工事計画平面図が鉄道・運輸機構から教育庁文化財保護課に持ち込まれた。当該地是那珂川町文化財分布地図（那珂川町教委1995）では周知の遺跡外であったが、北に続く山中には大規模な観音山古墳群が存在し、平地にも多くの遺跡が存在するため、同年12月に現地踏査を行ったところ、丘陵頂部に古墳状の高まりを複数確認し、瀬戸Ⅳ群と命名した。その後の協議の結果、伐採終了後の平成16年7月～9月まで、本調査及び試掘調査を県教委が実施することで合意した。その後、堀削範囲を広げる計画変更があり、それに伴う確認調査を平成17年5月に実施した。

中原Ⅲ群は平成18年1月17日～3月23日に調査を実施した。平成17年度から当該地の南250mで観音山古墳群平石Ⅲ群の発掘調査を実施していたが、中原Ⅲ群の用地終了と立木抜開の連絡を受けて重機を用いての確認調査を平成17年12月に実施した。現地は大部分が駐車場として使用されており、造成されて遺跡は既に削平を受けているとの印象を受けた。雑木が生い茂っていた西側の斜面は、地形が乱れていて、大型石材が一つ見えたものの古墳の存在を予想させるものではなかった。むしろ南端付近にわずかな高まりがあり、それが古墳かも知れないと南北方向に試掘溝を開けたが、周溝は確認できず、柱穴を若干認めたことから全体を重機で表土堀削し、結果的に古墳を発見したものである。なお、発掘調査は用地の問題があって本線部分を先行し、若干の日時において工事用道路部分に取りかかった。なお、平石Ⅲ群の発掘調査と一部並行して実施している。

内河遺跡第1次調査是那珂川町内での九州新幹線関係の最初の発掘調査であった。試掘調査の結果を受け、平成16年2月12日から重機を入れて南半分の表土剥ぎを行い、2月16日から作業員による遺構検出作業を開始した。中世の遺構面の調査終了後、2月19日に縄文時代の遺物の集中する範囲を中心に、任意にグリットを設定し、縄文時代の包含層の堀削を始め、3月12日に中世遺構面の調査を終え、縄文時代晩期の包含層は時間の制約からグリットを設定せずに掘り下げたところ、下に縄文早期層があることが判明し、これを人力で掘り下げた。3月31日に埋め戻し、撤収した。

| 地点   | 遺跡名        | 所在地       | 対象面積 (㎡) | 調査面積 (㎡) | 調査年度   | 報告年度    | 備考           |
|------|------------|-----------|----------|----------|--------|---------|--------------|
| 1    | 観音山古墳群中原Ⅲ群 | 那珂川町大字松木  | 1,600    | 1,200    | H17    | H19     |              |
| 2    | 観音山古墳群平石Ⅰ群 | 那珂川町大字松木  | 4,300    |          | —      | —       | なし           |
| 3    | 観音山古墳群平石Ⅱ群 | 那珂川町大字松木  |          |          | —      | —       | なし           |
| 4    | 観音山古墳群平石Ⅲ群 | 那珂川町大字松木  | 3,900    | 2,700    | H17・18 | H21(予定) |              |
| 5    | 観音山古墳群平石Ⅳ群 | 那珂川町大字松木  | 5,600    | 300      | H18・19 | H20(予定) |              |
| 6    | 観音山古墳群平石Ⅴ群 | 那珂川町大字松木  | 2,800    | 600      | H18    | H20(予定) |              |
| 7    | 観音山古墳群平石Ⅵ群 | 那珂川町大字松木  | 4,000    | 4,000    | H17    | H20(予定) | 那珂川町調査       |
| 8    | 観音山古墳群平石Ⅶ群 | 那珂川町大字松木  |          |          | —      | —       | トンネル上のため調査不要 |
| 9    | 観音山古墳群瀬戸Ⅰ群 | 那珂川町大字下梶原 | 5,000    | 5,000    | H17    | H20(予定) | 那珂川町調査       |
| 10   | 観音山古墳群瀬戸Ⅱ群 | 那珂川町大字下梶原 | 500      | 300      | H18    | H20(予定) |              |
| 11   | 観音山古墳群瀬戸Ⅲ群 | 那珂川町大字下梶原 | 5,000    | 5,000    | H17    | H20(予定) | 那珂川町調査       |
| 11-2 | 観音山古墳群瀬戸Ⅳ群 | 那珂川町大字下梶原 | 2,400    | 380      | H16    | H19     |              |
| 12   | ヤンバラ池遺跡群   | 那珂川町大字下梶原 |          |          | —      | —       | なし           |
| 13   | 猿田彦命       | 那珂川町大字松木  |          |          | —      | —       | 影響なし         |
| 14   | 見返り灯籠      | 那珂川町大字上梶原 |          |          | —      | —       | 解体保存中        |
| 15   | 内河遺跡群      | 那珂川町大字上梶原 | 450      | 350      | H15    | H19     |              |
| 16   | 内河古墳群      | 那珂川町大字上梶原 |          |          | —      | —       | なし           |
| 17   | 大行事        | 那珂川町大字上梶原 |          |          | —      | —       | 移設           |
| 18   | 遺物散布地      | 那珂川町大字上梶原 |          |          | —      | —       | なし           |
| 19   | 楠木B遺跡      | 那珂川町大字上梶原 |          |          | —      | —       | なし           |

表1 九州新幹線関係那珂川町内調査対象地点一覧

## 2 調査の組織

ここに報告する各遺跡の発掘調査は平成15～17年度に実施したもので、関係者は以下の通り。

### 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部 九州新幹線建設局

|                       | 平成15年度         | 平成16年度        | 平成17年度 | 平成19年度         |
|-----------------------|----------------|---------------|--------|----------------|
| 局 長                   | 高山 博文          | 高山 博文<br>北川 隆 | 北川 隆   | 元木 洋           |
| 次 長                   | 伊藤 英二          | 伊藤 英二         | 関根 茂   | 関根 茂           |
| 用地第一課長                | 関根 茂           | 田中 等          | 田中 等   | 高橋 秀幸          |
| 用地第一課長補佐              | 有屋田幸郎<br>木佐一正和 | 木佐一正和         | 木佐一正和  |                |
| 用地第一課担当係長             | 入江 万久          | 入江 万久         | 入江 万久  | 入江 万久<br>房野 和清 |
| 工事第一課長                | 三浦 正宜          | 三浦 正宜         | 三浦 正宜  | 佐々木幸一          |
| 工事第一課課長補佐             | 松原 鉄雄          | 松原 鉄雄         | 松原 鉄雄  | 三好 省三          |
| 工事第一課担当係長             | 高嶋 雅彰          | 後藤 敏之         | 後藤 敏之  | 長野 利幸          |
| 鳥栖鉄道建設所長              | 中村 和仁          | 中村 和仁         |        |                |
| 同担当副所長(那珂川担当)         | 長野 利幸          | 内海 稔郎         |        |                |
| 那珂川鉄道建設所長(平成16年12月より) |                | 坂元 茂          | 坂元 茂   | 坂元 茂           |
| 同担当副所長                |                | 内海 稔郎         | 寺田 修   | 寺田 修           |

### 福岡県教育委員会

|             | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成19年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|
| 総 括         |        |        |        |        |
| 教育長         | 森山 良一  | 森山 良一  | 森山 良一  | 森山 良一  |
| 教育次長        | 三瓶 寧夫  | 清水 圭輔  | 清水 圭輔  | 植崎洋二郎  |
| 総務部長        | 清水 圭輔  | 中原 一憲  | 中原 一憲  | 大島 和寛  |
| 副理事兼文化財保護課長 |        |        |        | 磯村 幸男  |
| 文化財保護課長     | 井上 裕弘  | 井上 裕弘  | 久芳 昭文  |        |
| 副 課 長       |        |        | 川述 昭人  | 佐々木隆彦  |
| 参事兼課長技術補佐   | 木下 修   | 木下 修   | 木下 修   | 小池 史哲  |
| 参事兼課長補佐     | 久芳 昭文  |        | 安川 正郷  | 中藺 宏   |
| 課 長 補 佐     |        | 安川 正郷  |        |        |
| 庶 務         |        |        |        |        |
| 参事補佐兼管理係長   | 古賀 敏生  |        | 稲尾 茂   |        |
| 管理係長        |        | 稲尾 茂   |        | 井手 優二  |
| 事務主査        | 宮崎 志行  | 宮崎 志行  | 石橋 伸二  |        |
| 主任主事        | 末竹 元   | 石橋 伸二  | 末竹 元   | 淵上 大輔  |

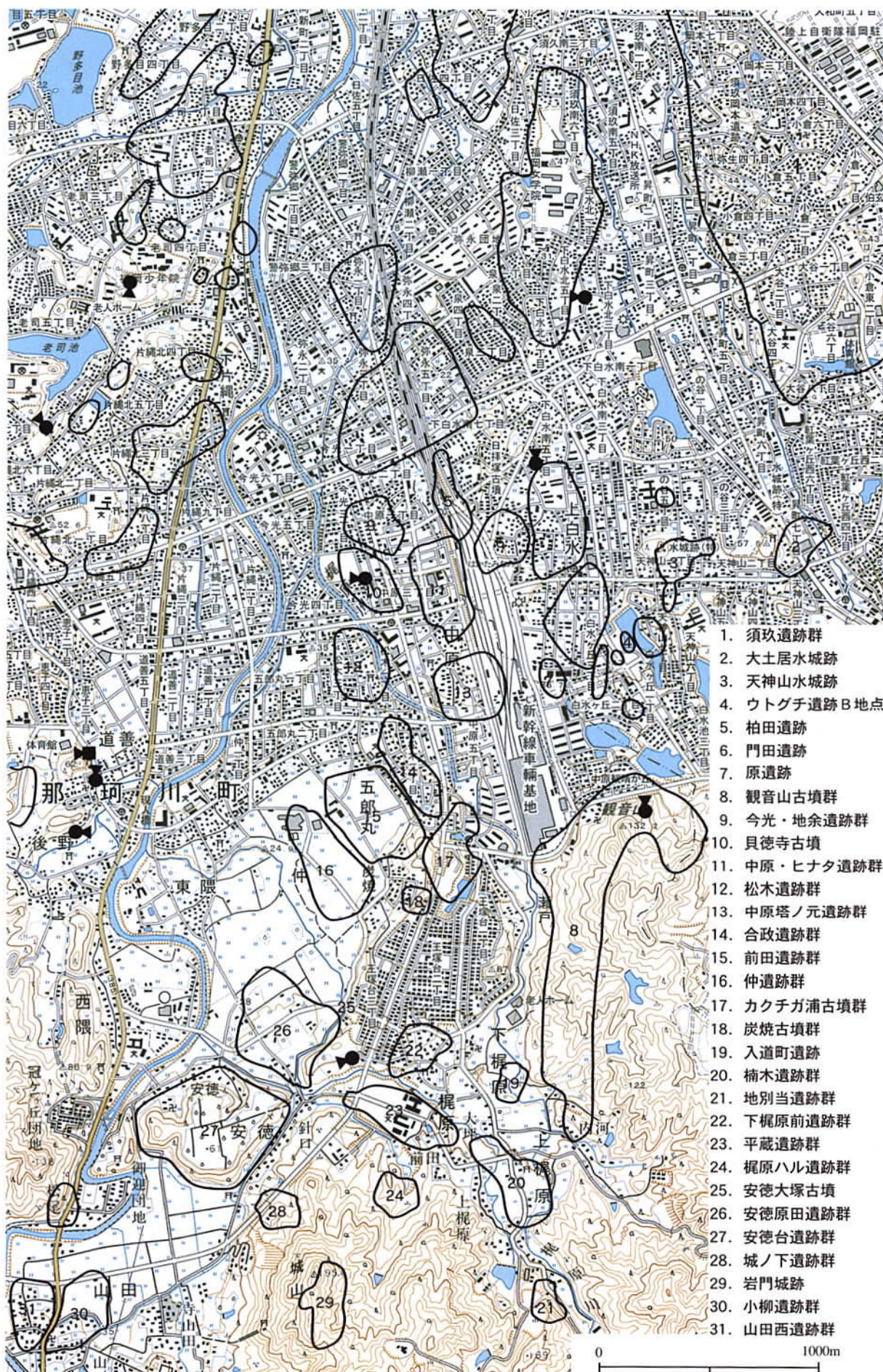
|              | 平成15年度 | 平成16年度        | 平成17年度        | 平成19年度 |
|--------------|--------|---------------|---------------|--------|
| 主任主事         | 秦 俊二   | 末竹 元          | 湖上 大輔         | 柏村 正央  |
| 主任主事         |        |               |               | 小宮 辰之  |
| 主任主事         |        |               |               | 野田 雅   |
| 調査・報告        |        |               |               |        |
| 参事補佐兼調査第二係長  | 中間 研志  | 中間 研志         | 飛野 博文         | 飛野 博文  |
| 参事補佐         |        |               | 濱田 信也         | 濱田 信也  |
| 技術主査         |        |               |               | 秦 憲二   |
| 主任技師         | 秦 憲二   | 秦 憲二<br>大庭 孝夫 | 秦 憲二<br>大庭 孝夫 |        |
| 九州歴史資料館学芸第二課 |        |               |               |        |
| 主任技師         |        |               |               | 大庭 孝夫  |

また、実際の発掘調査においては、那珂川町教育委員会をはじめ、工事用道路の大部分の工事主体者である同町五ヶ山ダム・九州新幹線対策室、りんかい日産・広成特定建設工事共同企業および奥村・三井住友・岡本・古賀特定建設工事共同企業体の九州新幹線建設工事関係者から便宜を図っていただくとともに、炎暑や極寒の中で発掘調査に携わっていただいた那珂川町をはじめとする地元の方々の御協力を得て、無事に調査を完了することができた。改めて関係者に謝意を表します。



周溝墓調査状況





第3図 周辺遺跡分布図(1/25,000)

福岡市報603集「野多目A遺跡5」1999、春日市報39集「ウト口遺跡B地点」2004、那珂川町報65集「裂田溝」2005より作成



## II 位置と環境

九州新幹線鹿児島ルートは、博多総合車両基地付近まで既存の路線を使用し、以南に新設する高架橋は除々に高さを増して、延長約12kmの筑紫トンネルを経て佐賀県鳥栖市に至る。この筑紫トンネル以北での建設工事は福岡県春日市域及び那珂川町域で行われるが、春日市域は既に車両基地建設時に発掘調査を実施しているため、福岡県内の文化財調査対象地は那珂川町域に限られる。

筑紫郡は明治29年（1896）、那珂<sup>ちくし</sup>・<sup>むしろだ</sup>席田<sup>みかさ</sup>・御笠郡が合併して成立した。その後、一部が福岡市へ編入し、春日市・筑紫野市・大野城市・太宰府市などの市制施行によって、昭和57年（1982）以降は那珂川町のみが郡名を負っている。町域は東西6.2km、南北14.5km、総面積74.99km<sup>2</sup>を測り、南は背振山系に位置し、佐賀県に接する。人口は約48,000人を擁する。昭和51年の山陽新幹線開業に伴い、春日市・那珂川町にまたがって博多総合車両基地が設置され、基地西側は広く区画整理事業が実施された。さらに平成2年には車両基地の一角に博多南駅が開業するなど交通の便が飛躍的に改善される中、町北部は福岡市のベットタウンとして急速に変貌しつつあり、南部の田園風景と好対照をなしている。

ここに報告する各遺跡は筑紫郡那珂川町大字松木<sup>まつのき</sup>（観音山古墳群中原Ⅲ群）、同大字下梶原（同古墳群瀬戸Ⅳ支群<sup>うちこう</sup>・内河遺跡）に位置する。現在は住宅団地等の開発で印象が薄れているが、上梶原・下梶原地区は脊振山系から複雑に派生した丘陵地を解折する梶原川を中心に開けた小規模な盆地状の地形にある。梶原川は一旦山間を経て福岡平野に流出するが、その最深部右岸に観音山古墳群が位置する。その東には大野城市・春日市との境界となる山塊があって、その中の観音山（標高169m）は都市近郊の手軽なハイキングコースとなっている。

町内での大規模発掘調査は、昭和46年度から始まった山陽新幹線建設工事に伴う緊急調査であった。ナイフ形石器・削器・彫器・細石刃・細石核・爪型文土器などがまとまって出土した門田遺跡、押型文土器を主体とする縄文各期の土器・石器とともに32基の石組炉<sup>ふかばる</sup>が発見された深原遺跡、縄文後期の竪穴式住居などを検出した柏田遺跡、弥生時代集落の柏田遺跡や門田遺跡、甕棺墓を主体とする墓地の門田遺跡<sup>はる</sup>・原遺跡などのほか、辻田遺跡では琴を始めとする各種の木製品も出土している。門田遺跡では鉄戈1・鉄剣1とともに銅鏡2面分の痕跡が残る24号甕棺、鉄戈1・鉄剣2を副葬する27号甕棺などいわゆる特定集団墓が確認されている。古墳時代では中期の原古墳群、後期の観音山古墳群が調査された。観音山古墳群は今回報告する1基の古墳に近接するものである。また、門田・柏田遺跡などでは7世紀後半の瓦や大宰府学校院出土と同範の文様埴なども出土した。このように博多総合車両基地内だけでも豊富な内容をもつ遺跡群がかつて存在した。その後、車両基地周辺の区画整理事業や各種開発によって、基地西側には中原・ヒナタ遺跡群、中原塔ノ元遺跡群、カイ子<sup>ね</sup>遺跡群、今光<sup>いまみつ</sup>・地余<sup>じあまり</sup>遺跡群、松木遺跡群、合政<sup>ごうせい</sup>遺跡群、仲遺跡群、前田遺跡群などが周知され、縄文時代から歴史時代にいたる遺跡が広域に分布することが分っている。

梶原地区小盆地でも調査事例がいくつかある。入道町遺跡は梶原川の氾濫源に広がる遺跡で、縄文早期押型文土器の単純包含層が検出されたほか、同前期・後期・晩期、古墳時代～中世に至る種々の遺物を出土したが、時期不明の掘立柱建物跡のほかの遺構は乏しい。ただ、長期にわたる遺物は該期の人々が卑近な地で生活していたことを物語る。

盆地北西部を塞ぐ形の丘陵は現在では宅地化しているが、北端部に前期の方墳・方形周溝墓（エゲ古墳）、その南西部には5世紀後半の比較的初期の横穴式石室を主体とするカクチガ浦古墳群、

さらに南西に接近して前期の小古墳からなる炭焼古墳群が連なっていた。丘陵南西端には地域最古の前方後円墳とされる安徳大塚古墳（全長64m）が位置する。いずれも丘陵北側あるいは西側の那珂川流域を望む位置にあるのは当然であろう。

盆地の西はかつての梶原川の流路と考えられている小さな谷が那珂川流域に開けるが、その奥まった部分に平蔵遺跡がある。旧石器時代から中世に至る長期の遺跡で、後期古墳も存在した。古代の鍛冶関連遺物も出土したが、主体は中世後期の掘立柱建物跡群であった。遺跡の南、城山山頂には中世山城岩門城が知られ、それに関するものであろう。

那珂川町・春日市・大野城市・太宰府市の境界となる山塊の北及び東側には牛頸古窯跡群と総称される九州最大の須恵器窯跡群が存在するが、山塊の西側では何故かほとんど発見されていない。今回の九州新幹線建設に伴う工事用道路等でも全く痕跡を確認していない。中で唯一上梶原地別当遺跡で2基の須恵器窯跡が調査された。梶原小盆地の最奥部、標高100mの丘陵頂部付近に位置する。半壊の窯跡1基と全長2.6mの小型窯1基を調査し、8世紀代の須恵器蓋杯などが出土した。

車両基地の調査でも古代瓦が出土していたが、その後、基地東方500mの春日市域でウト口<sup>ぐち</sup>瓦窯跡が調査され、鴟尾や鬼瓦など各種の瓦が出土した。山田寺系瓦を使用した7世紀後半の白水<sup>しろうず</sup>廃寺が想定されているがまだ確認できていない。

近年の注目すべき遺跡として安徳台遺跡群が挙げられる。那珂川流域の福岡平野最深部に独立する丘陵上にあって、周囲との比高30m、上部平坦地が100,000㎡を測る。部分的な調査であるが、直径14mを測る円形住居跡を含む弥生時代の住居跡130棟以上を確認し、豊富な土器や石器とともに青銅器鋳型・漢式三稜鏃や天河石製玉などが出土している。一角で10mの範囲に集中した10基の甕棺を検出し、2号棺から熟年男性の人骨とともに塞杆状ガラス製品2、ガラス製勾玉3、ガラス製管玉334、立岩型貝輪43、鉄剣1、鉄戈2が、5号棺では成年後半から熟年女性の人骨に塞杆状ガラス製品2が伴っていた。奴国王墓として知られる須玖岡本遺跡まで直線で5.5km、同じく鉄戈を出土した門田遺跡まで同2.7kmを隔てる。また、瓦を伴う8世紀以前の掘立柱建物跡群や100mほどの区画をもつ中世居館など、これも豊富な内容をもっている。

## 遺跡報告書

福岡県教育委員会「炭焼古墳跡群」（『福岡県文化財調査報告書』第37集、1968）

福岡県教育委員会『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第1～12集、1976～79

那珂川町教育委員会「平蔵遺跡」Ⅰ～Ⅲ（『那珂川町文化財調査報告書』第5・22・41集）、1980・90・98）

那珂川町教育委員会「カクチガ遺跡群」（『那珂川町文化財調査報告書』第23集、1990）

那珂川町教育委員会「地別当遺跡群」（『那珂川町文化財調査報告書』第40集、1997）

春日市教育委員会「ウト口遺跡B地点」（『春日市文化財調査報告書』第39集、2004）

那珂川町教育委員会「岩門城」（『那珂川町文化財調査報告書』第68集、2006）

那珂川町教育委員会「安徳台遺跡群」（『那珂川町文化財調査報告書』第67集、2006）

福岡県教育委員会「入道町遺跡群」（『福岡県文化財調査報告書』第207集、2006）

### Ⅲ 発掘調査の記録

#### 1 観音山古墳群瀬戸Ⅳ群

##### 1) はじめに

本遺跡は、福岡県筑紫郡那珂川町大字下梶原字瀬戸18番地、牛頸山（標高448m）に源を発する梶原川が形成する狭長な谷部に面した、標高約65mの丘陵先端部に位置する。

調査は伐採終了後の平成16年7月12日から開始した。地形測量終了後、丘陵頂部（第4図トーン範囲、約170m<sup>2</sup>）の人力による表土剥ぎと併行して、古墳状の高まり2箇所にはトレンチを設定し、遺構の有無を確認した。この結果、東側の高まりは表土直下が地山であり自然地形と判断できたが（第8図）、西側の高まりは墳丘周囲に周溝が巡る構造であることが判明したため、十字の土層観察用ベルトを残し、慎重に表土剥ぎを行った。7月29日に丘陵頂部全体の表土剥ぎが終了したが、先述した周溝墓以外の遺構は確認できなかったため、8月3日から周溝墓に調査を集中させた。

8月17日～30日まで、調査担当者が有明海沿岸道路建設に伴う県指定史跡黒崎堤防の調査を行うことが本遺跡調査前から決定していたため、やむなく本現場を一時中断したが、黒崎堤防調査終了後の9月2日から本現場の調査を再開し、周溝墓主体部の検出を慎重に行ったが、主体部は検出できなかった。9月13～15日にかけて本調査区以外の斜面部に6本のトレンチを設定し、試掘調査を行ったが、いずれのトレンチでも表土及び表土下の木の根などによる攪乱層の下は黄褐色バイラン土の地山であり、遺構・遺物とも発見できなかった（対象範囲は第4図太一点破線内、約2,000m<sup>2</sup>）。9月17日に航空写真撮影を行い、実測終了後の9月28日に調査が終了した。

また、翌年度の平成17年5月に当該地で工事用道路と接続する、新幹線保守点検道路の設計変更があり、本遺跡西側の丘陵頂部・斜面も新たに道路用地となったため、6月17日に周溝墓西側の試掘調査を行った（第4図第9トレンチ）。結果は表土直下は地山であり、遺構・遺物とも発見できなかった（第1～9トレンチ総計試掘調査面積、約210m<sup>2</sup>）。

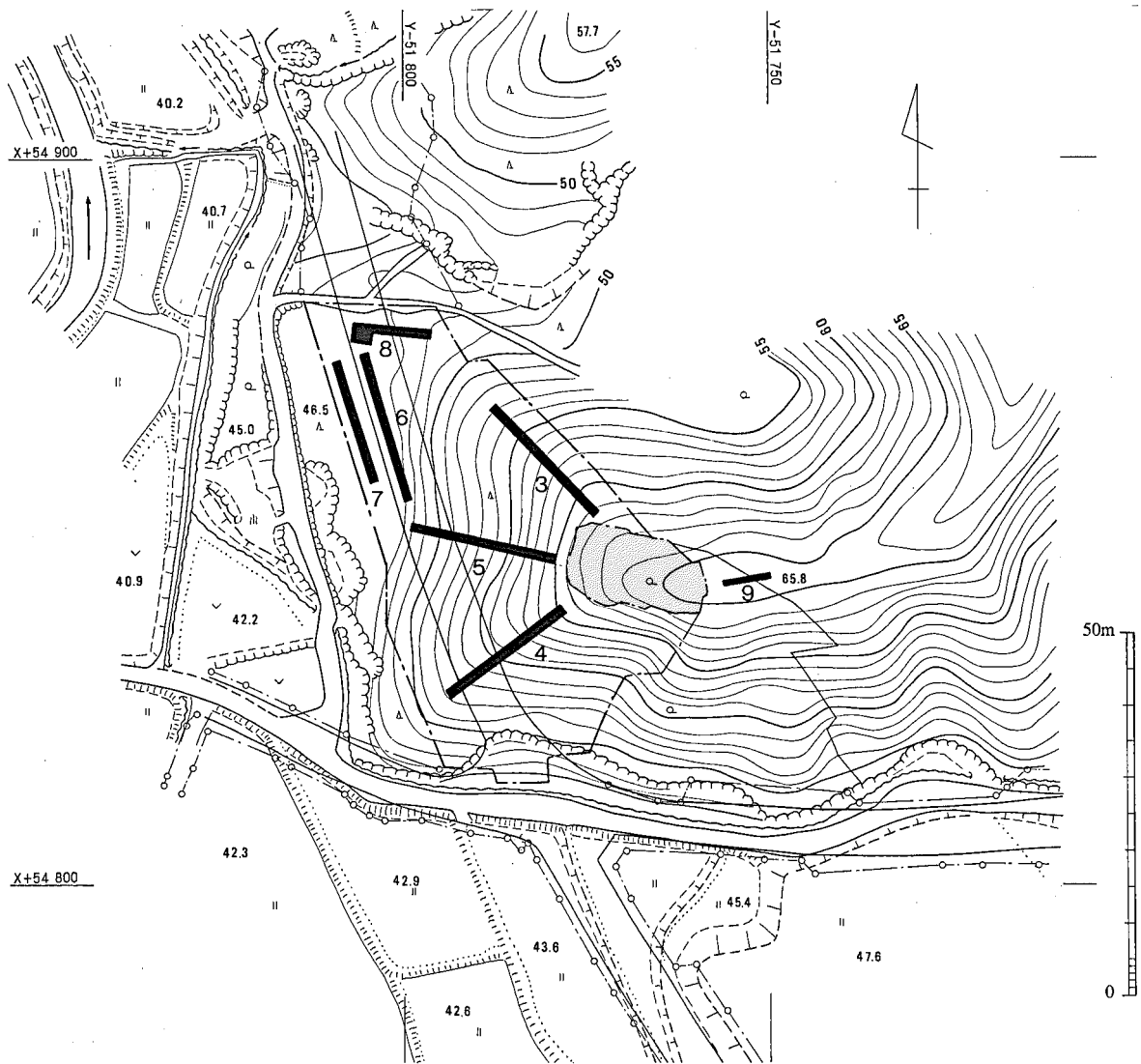
##### 2) 周溝墓（第2～4図、図版3～6）

丘陵頂部は、1/100の地形測量終了後に発掘調査を開始した。まず、この古墳状の高まりの構造を把握するために、墳丘の東西・南北に2本のトレンチを設定したところ、墳丘裾に周溝が巡ることを確認したため、遺構であると判断した。調査前の地形は、東西4.6m×南北5.0m、見かけの高さは最も比高差がある西側で1.8m、比高差がない東側で1.2mを測る楕円形プランの墳丘であり（第5図）、調査当初は古墳時代の低墳丘墓の可能性が考えられた。



調査終了後、工事中の遺跡（西から）

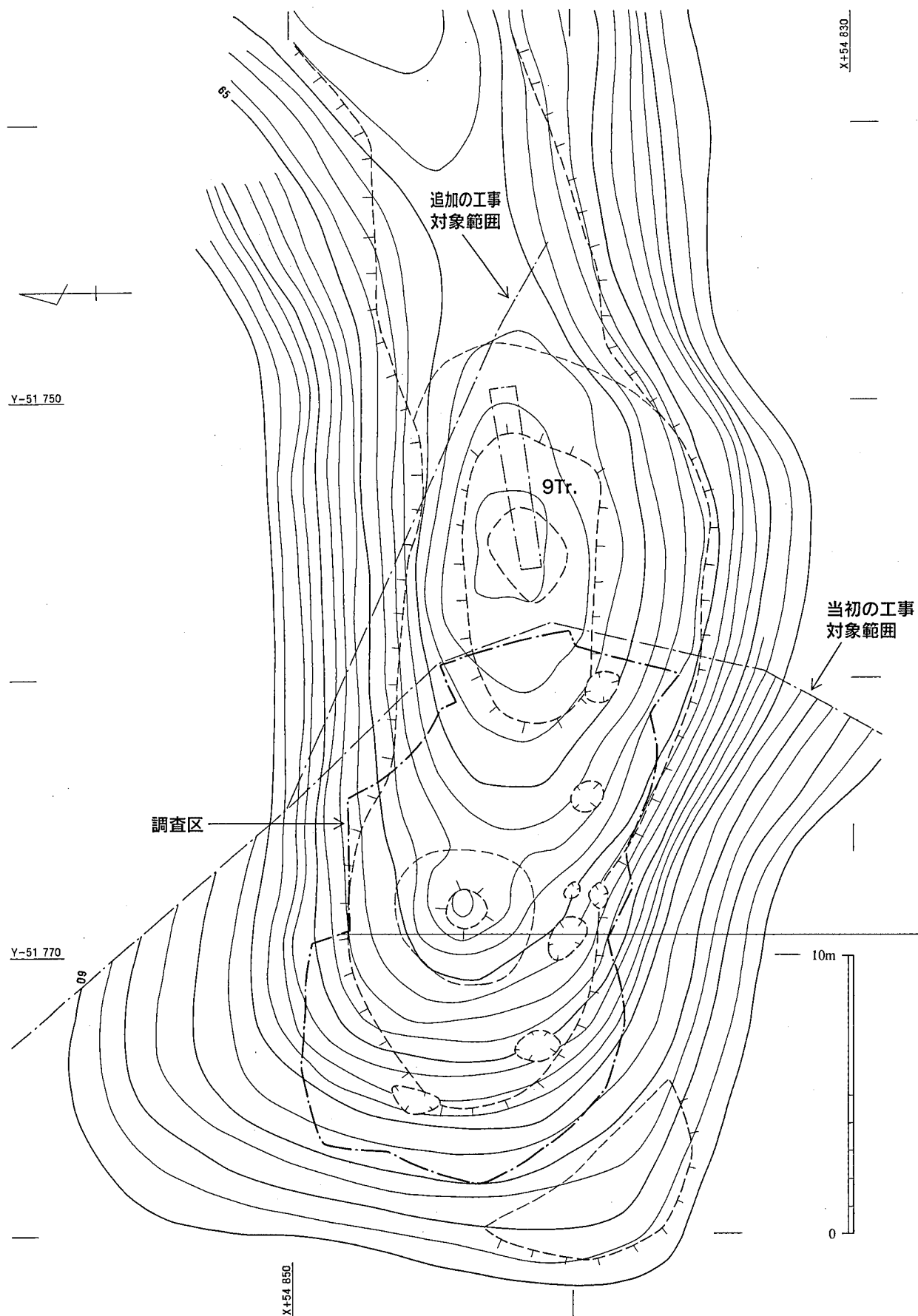




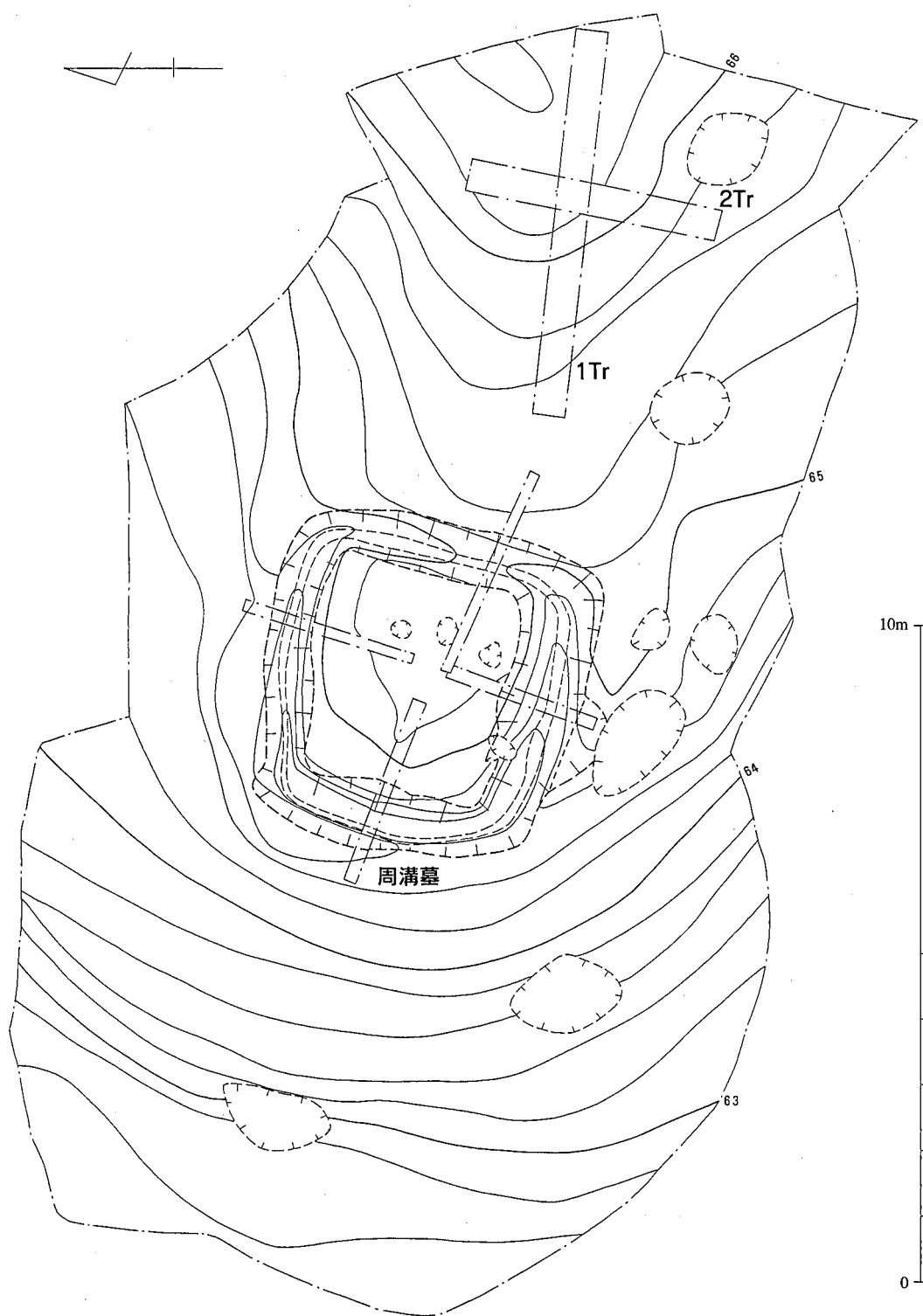
第4図 観音山古墳群瀬戸Ⅳ群位置図(1/1,000)

本遺構の規模は、周溝内側の肩から肩で東西3.3m×南北3mのほぼ正方形の墳丘に、最大幅1.1m、平均0.9m、深さ0.3～0.5mの断面が逆台形状の周溝が巡る。地形に沿って周溝は西側が浅く、東側が深い。周溝南側中央は突出しているが、これは木の根による攪乱によるものである。表土掘削後の墳丘見かけの高さは、最も比高差がある西側で0.7m、比高差がない東側で0.1mを測る。墳丘は周溝掘削土により、現状で最大30cm程度の盛り土を行っていた（第7図）。

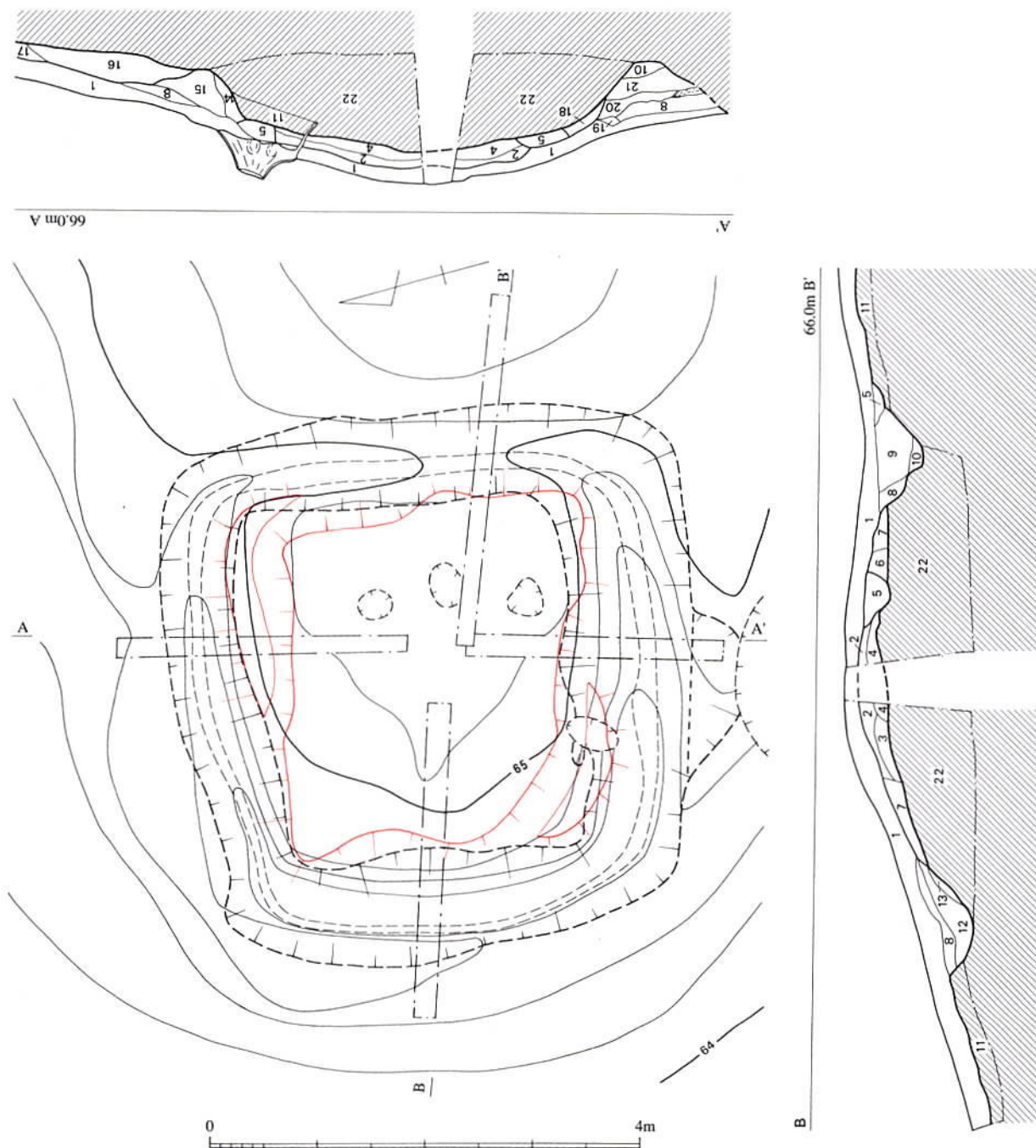
なお、墳丘盛土崩落土である8・13層や周溝の深さなどから、築造当初からあまり高い墳丘でなかったことが想定される。また墳丘盛土は特に壊れないように土を固めた痕跡はなく、単純に土を盛っているだけと考えられる。地山の整形は墳丘の全周にかけて行われ（第7図赤波線）、北東・南西部には段が付く。



第5図 観音山古墳群瀬戸IV群地形図(表土除去前、1/200)



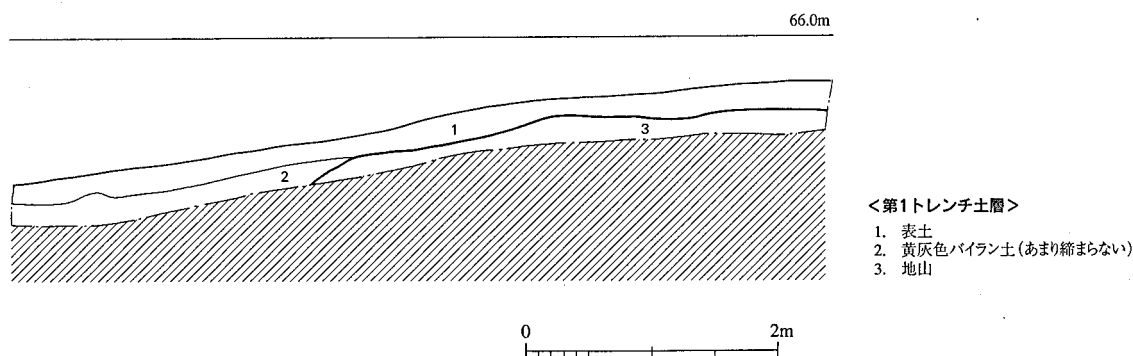
第6図 調査区遺構配置図(表土除去後、1/100)



<土層名>

- |                           |                 |                                          |        |
|---------------------------|-----------------|------------------------------------------|--------|
| 1. 表土                     |                 | 11. 黄灰色バイラン土(木の根により、地山がカクランされ、軟らかくなったもの) |        |
| 2. 暗黄褐色バイラン土(軟らかい、粗砂)=積み土 |                 | 12. 9よりやや暗い、木の根多い                        | ] 周溝埋土 |
| 3. 灰黄褐色バイラン土(軟らかい、粗砂)     | ] 旧表土           | 13. 8よりやや明るい、(盛土崩落土)                     |        |
| 4. 3よりやや暗い                |                 | 14. 8より暗い、やや締まる                          | ] 周溝埋土 |
| 5. 木の根によるカクラン             | 15. 9より暗い、やや締まる |                                          |        |
| 6. 暗黄灰色バイラン土(軟らかい、粗砂)     | ] 盛土            | 16. 暗黄褐色バイラン土(よく締まる、周溝掘削段階の地山)           |        |
| 7. 明黄灰色バイラン土(軟らかい)        |                 | 17. 表土下の腐食土=旧表土                          |        |
| 8. 9よりやや明るい(軟らかい)=盛土崩落土   |                 | 18. 2より明るく締まらない=盛土                       |        |
| 9. 暗黄褐色バイラン土(やや締まる、木の根多い) | ] 周溝埋土          | 19. 黄茶褐色バイラン土ブロック=木の根により入った土か?           |        |
| 10. 灰黄褐色バイラン土             |                 | 20. 9より暗く、あまり締まらない(2+21)                 |        |
|                           |                 | 21. 15より土が締まる                            |        |
|                           |                 | 22. 地山                                   |        |

第7図 周溝墓実測図(1/60)



第8図 調査区第1トレンチ土層実測図(1/60)

表土下の墳丘盛土上面では主体部や火葬骨や掘り込みなど検出できなかったため、徐々に掘り下げたが、主体部は発見できなかった。このことは、地山及び墳丘盛土が粒の粗いバイラン土であり、墳丘盛土が流出してしまった結果、主体部も流出してしまい、検出できなかった可能性が想定される。当遺構から遺物は出土しなかった。

### 3) 小結

本遺跡で発見できた遺構は、周溝墓1基のみである。本遺構からの出土遺物はなく、時期は不明であるが、肥前西部・筑後地域の類例から中世墓の可能性が高く、本遺構も中世に属する周溝墓と判断した。本遺跡の特徴として、肥前西部・筑後地域の周溝墓のほとんどは複数で群をなすのに対して、本周溝墓は試掘調査第9トレンチの結果や地形的（第4・5図参照）に単独で存在した可能性が高い。

周溝墓は、北部九州では肥前西部地域の9世紀、県内では10世紀中頃の小郡市干潟遺跡円形周溝墓を初現とし、15世紀頃まで存続したと考えられる地域性の強い墓制である。周溝墓の平面形態は当初は円形を基調としていたが、13世紀前後を境に方形を基調とするように変化する。本遺構は方形を呈することから、13～15世紀に属する可能性が高い。また、本遺構主体部は、小郡市北牟田遺跡2号古墓例のように主体部が浅い墓壇に木棺を直葬するタイプか、同市津古土取遺跡例のように浅い土壇に火葬骨を入れたタイプになると想定される。

最後に周溝墓は県内では筑後地域に集中し、本遺跡とは距離があること、また舌状丘陵上に立地する例が肥前西部地域に少数ながら見られること、さらに肥前西部地域とは背振山地を挟んで接するという地理的環境から、当遺跡周溝墓は肥前西部地域の影響を受けて成立したと推測される。

ちなみに本遺跡は那珂川町を一望できる眺望のよい丘陵先端部に位置する。梶原川を挟んで隣接する入道町遺跡群C区で検出した中世と考えられる掘立柱建物跡2棟との関連も含め、今後の調査の進展により、本遺跡の位置づけが明らかになることに期待したい。

### 参考文献

狭川真一編2004『中世墓資料集成—九州・沖縄編—』中世墓資料集成研究会



## 2 観音山古墳群中原Ⅲ群

### 1) はじめに

観音山古墳群中原第Ⅲ群では、昭和46年から48年にかけて新幹線車両基地建設に伴って大字中原に所在する31基の古墳が発掘調査された。その後、昭和53年には今回調査地のすぐ西側、大字松木でツツカ尻遺跡及び観音山32号墳が調査されている。さらに、調査地東方（大字松木）の住宅地の一部は平成3年に観音山古墳群平石Ⅰ群として5基の古墳が調査されている。那珂川町作成の分布地図では、今回調査地の大部分が中原Ⅲ群、南東の一部が平石Ⅰ群とされているが、調査時に古墳の名称を付けかねて、「観音山中原Ⅲ群九（州）新（幹線）1号墳」と仮称し、注記もそのようにしているが、本報告に当たって、那珂川町教育委員会と協議の結果、中原Ⅲ群33号墳と改めたい。

調査区は大部分が駐車場として使用されていて、表土下30cmほどで地山の灰黄褐色砂質土（真砂土の再堆積土と思われる）が現れ、その上面で後述する縄文時代の土器・石器が出土した。北東部に集中する傾向があるが、図で薄網をかけた範囲に分布する。

古墳周溝付近では客土が厚く、1mほどとなる。古墳は灌木に覆われた緩斜面の端部に位置し、石室は大破していたものの周溝は比較的良好に残存する。なお、駐車場として使用されていた部分はほとんどが攪乱されていて、整地のために使用されたと思われる重機の爪痕が多数刻まれている。

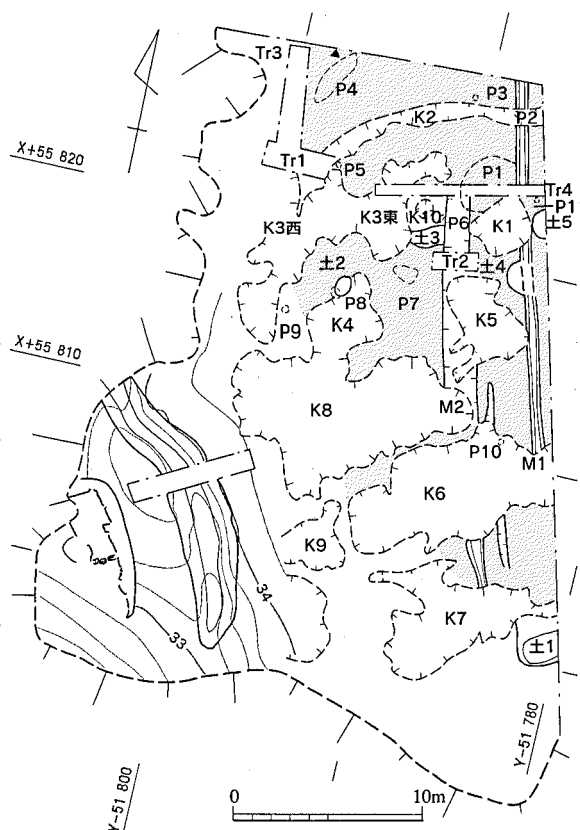
### 2) 観音山古墳群中原Ⅲ群33号墳

#### i) 墳丘（図版10・13、第10図）

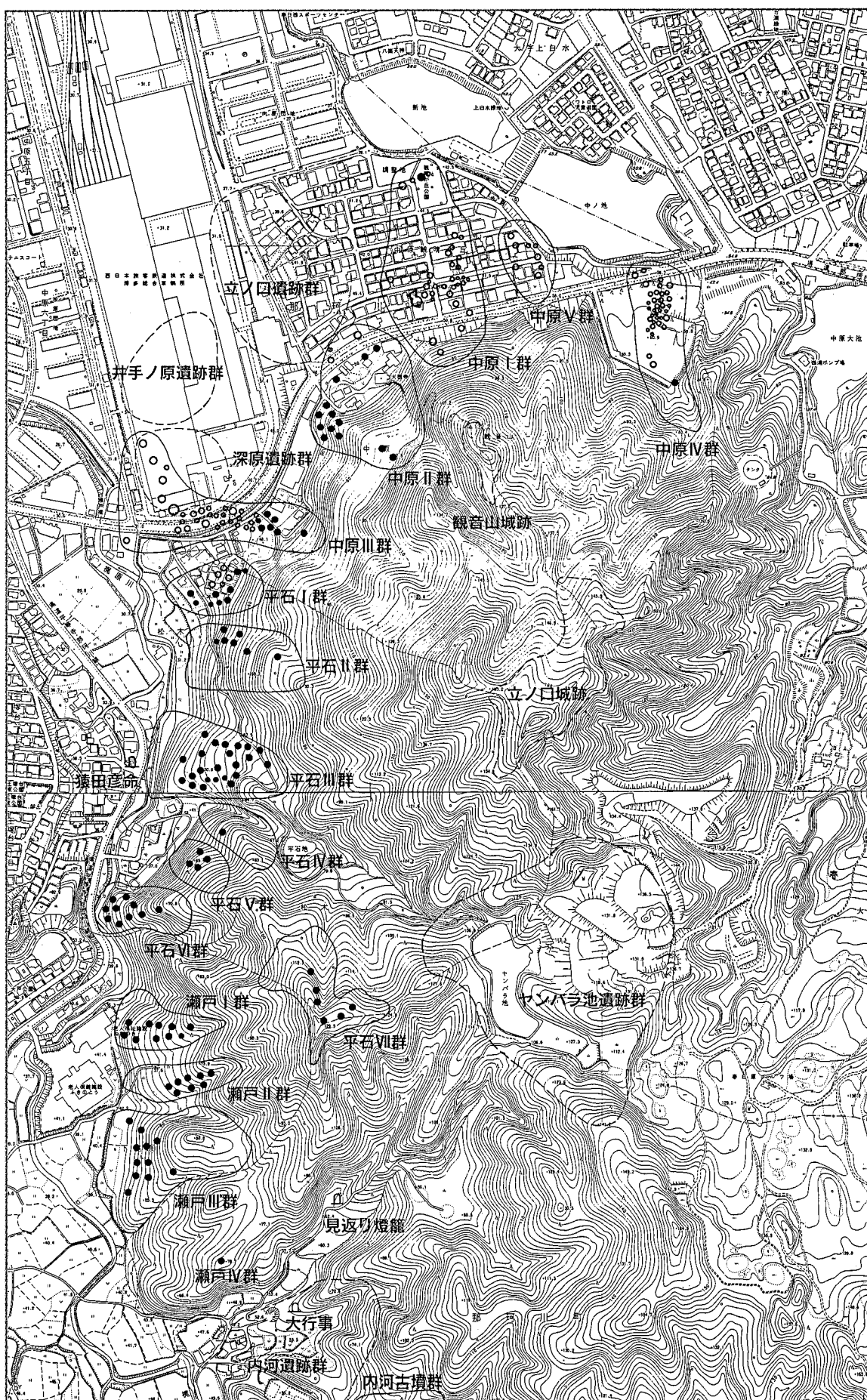
重機で表土掘削を行ったために盛土を確認していないが、現況で高まりを認めることはできず、右壁の突出した石材の上半ほどが姿を現す状況であった。

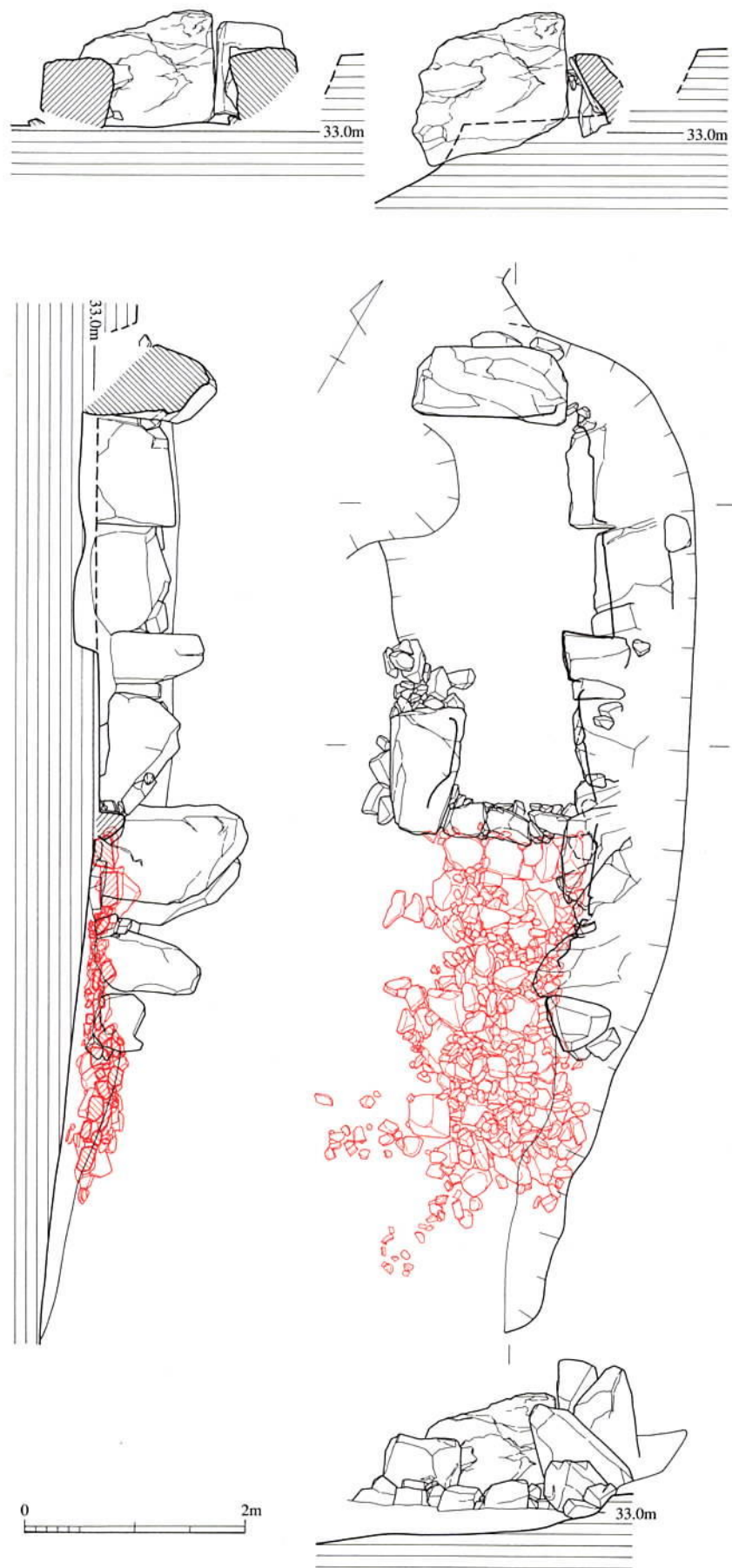
発掘の結果、主体部中心から4mほど東で最大幅3m、深さ0.5mほどの周溝を検出した。周溝は南端で途切れ、石室主軸と並行に北へ向かって延びて、北端では主体部から離れるようなラインを描くが、ここは崖落ちとなって地形が乱れているせいであろう。いずれにしても、円弧を描くのではなく、地形的に高い北側から西側にかけて弧状に主体部を囲むようである。

なお、周溝から古墳に関する出土遺物はない。



第9図 遺構配置図(1/400)





第11図 33号墳主体部実測図(1/60)

ii) 主体部 (図版11～13、第11図)

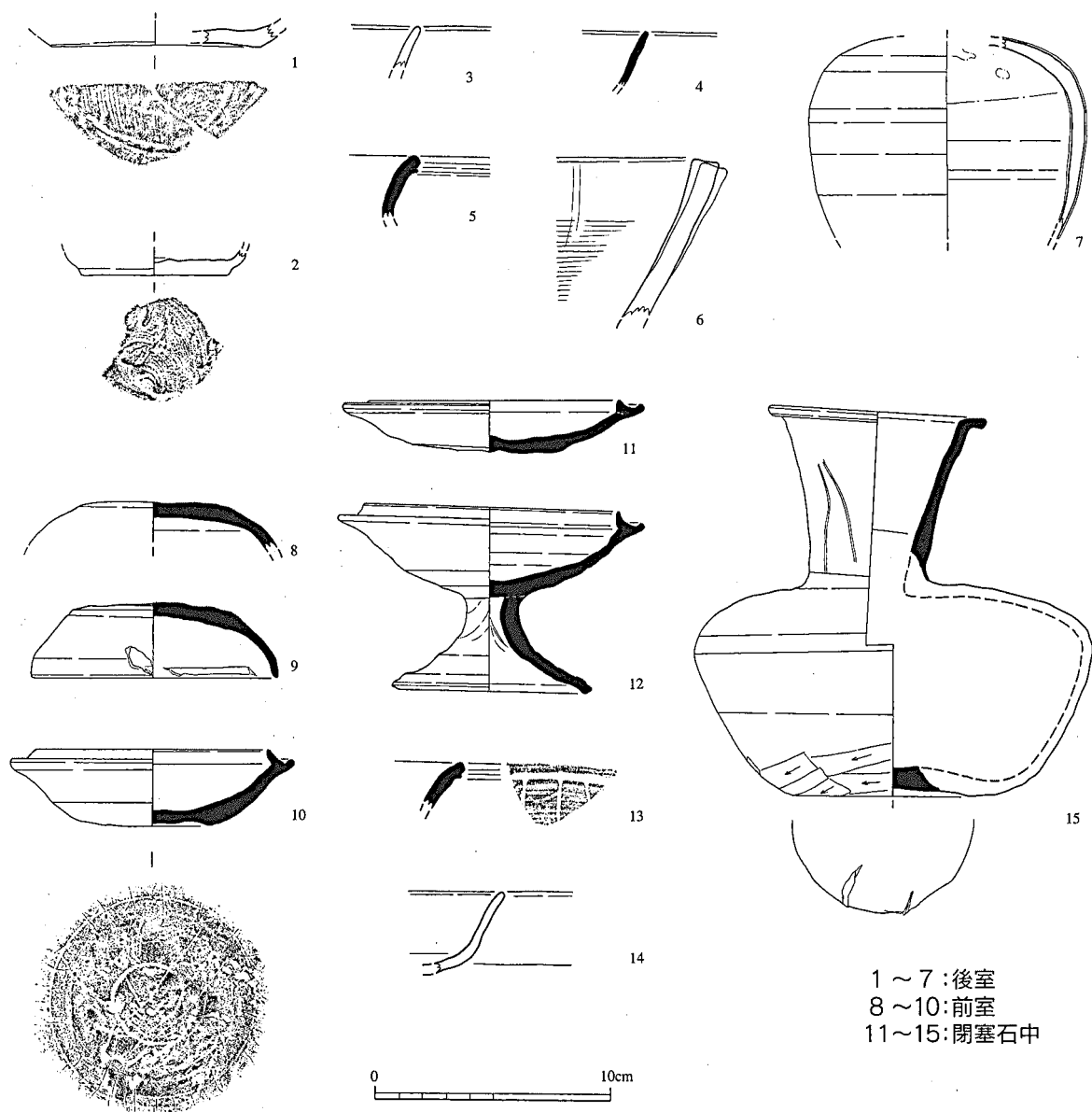
西側は大破して石材のほとんどが抜かれており、奥壁及び東側も西へ傾斜する腰石を残すのみで、床面プランは単室を思わせる。しかし、閉塞石前端に並べられた石材があることから複室を意識したものであるといえる。対応して右壁に立てた石材を置くこともそれを裏付ける。

以上から、玄室の規模は長さ約2m、幅は推定で1.4m前後となる。前室を意識した部分の規模は長さ1.6m、幅1.1mほどとなる。なお、石室全長は5.8mを測る。

玄室は徹底的に攪乱を受け、若干の土器片を除いて出土品もない。床面はやや掘りすぎたが、非常に軟弱な山砂であった。

仕切石 (框石) の前面には比較的小型の櫓を多く用いた閉塞が残存しているが、これも図にみるように掻き出されたという状況であった。

墓道は浅く、明瞭な掘り込みをもたない。



第12図 33号墳出土遺物実測図1(1/3)

iii) 出土遺物 (図版13・16、第12・13図)

玄室内・前室・墓道及び墓道周辺などから土器が出土した。出土場所ごとに説明を加える。

玄室 (第12図1~7) 1・2は土師器皿。1は胎土粗く、仕上げも雑な感となる。外底面は回転糸切り痕が明瞭に残り、明るい黄褐色を呈する。2は1と異なって胎土は精良で、調整も非常に丁寧である。底部が肉厚で高台状となる。3は外面が灰黄色、内面及び器肉が淡灰色となる小片。調整が丁寧で、酸化炎焼成された須恵器杯身であろう。4は須恵器杯身小片。5は小型壺の口縁部であろう。胎土精良で丁寧に作られている。6は土師質の播鉢で、片口の一部分が残存する。口端部にシャープな面を造り、外面は非常に荒れているが、内面には浅く幅広い横刷毛が残る。7は上質の白磁壺片。

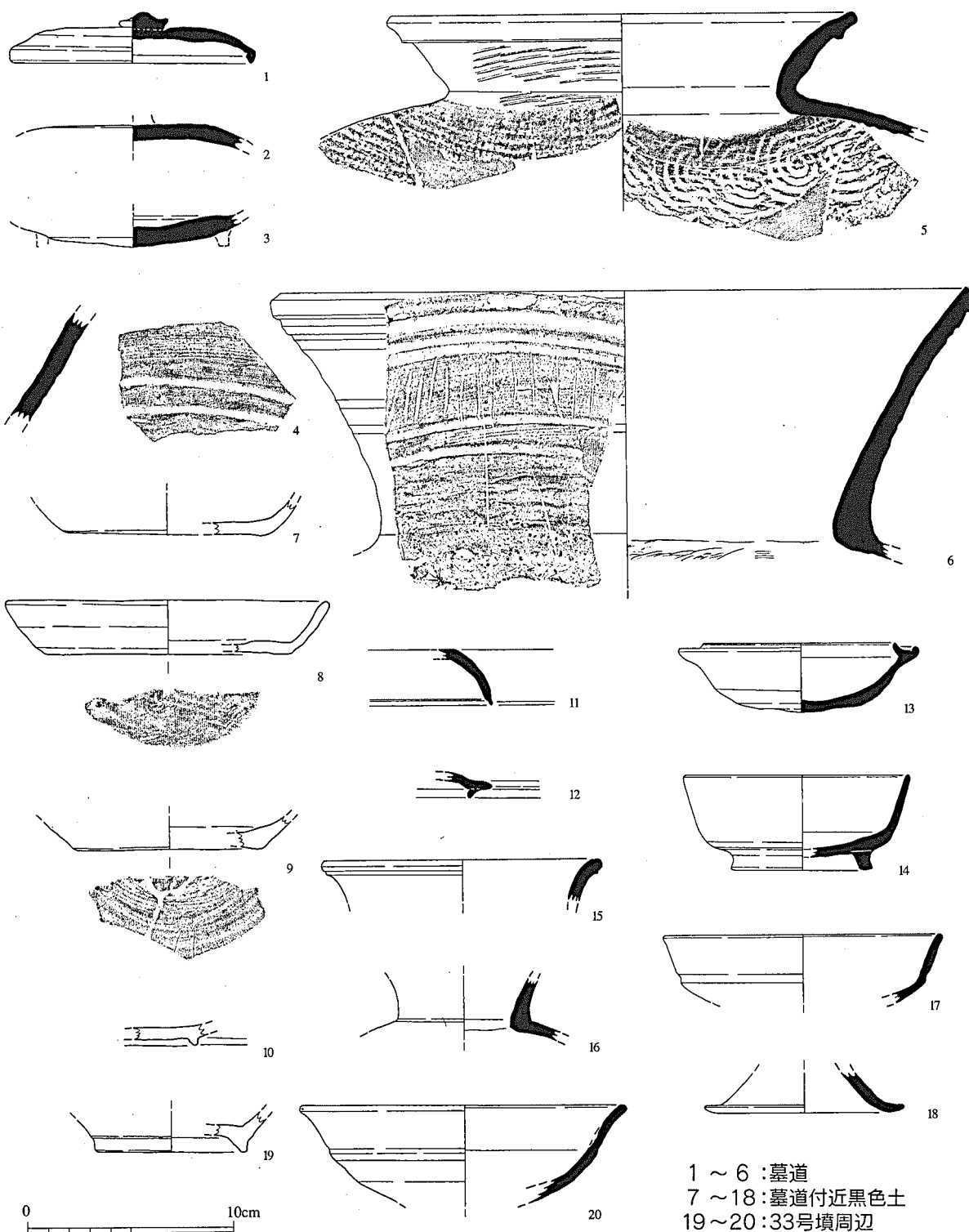
前室 (同8~10) 8は内面が淡灰色、外面が明黄褐色となる酸化炎焼成の須恵器蓋。天井部外面は篋削りのままで終わるようだが、摩滅のためはっきりしない。篋記号状のものが見えるが、これも確たるものではない。9は須恵器蓋で、図で見る以上に天井が平坦化し、身とした方が妥当かとも思えるが、外面全面に顕著な灰被りがあることから蓋としておく。口縁部付近が明瞭に屈曲して立ち、内外面に熔着物がある。黒色粒子が溶け出す点特徴的である。口縁部付近の1/4を欠く。10は口縁部付近の1/3を欠く。内外面ともに灰を被ったものか黒色となり、器肉も灰黒色に近い。外底面付近は比較的丁寧な篋削りで終わり、繊細な3本の線が刻まれる。口縁部立ち上がり外面に熔着痕があり、火膨れが随所に見える。なお、立ち上がりは別造りのようである。11は内外面が明黄褐色、器肉が淡灰色を呈する。天井部外面は回転篋削りのままで終わるが、細部は摩滅して不明瞭である。口縁部の1/3が残存し、天井部中央付近は完存するがつまみはない。12は脚端部の1/2ほどを欠く他はほぼ完存する。杯部下位を部分的に篋削りする他は横撫でで仕上げ、凹線などは見られない。脚端部を小さく屈曲させて装飾している。13は小型壺の口縁部小片で、丁寧に作られた須恵器である。縦方向に篋記号状の沈線があるが、工具の先端が小さく割れている。14は灰黄褐色土師質の杯であるが、ロクロ整形をしているようで赤焼き須恵器とすべきかも知れない。胎土も精良といってよい。15は一見長頸壺を思わせるが、口頸部が中心に位置しないことや体部の形状から平瓶としておく。口縁部は直角に近く外折して終わり、口縁部内面及び図左側の頸部・体部下半が灰を被って黒色化、それ以外は灰が飛んだように青灰色となる。全体に横撫でで調整するが、体部下端付近には不定方向の篋削りが見える。また、底部外周も部分的に篋削りを行うようで、焼台の熔着痕が1か所残る。

墓道 (第13図1~6) 1は口端部の1/3ほどを欠く他は完存する須恵器杯蓋で、つまみは中心からやや偏している。天井部外面は丁寧に回転篋削りがなされるが、器形が歪んでいることや、砂粒が多く器表に浮いているなど粗雑な感がある。2・3はいずれも焼きが甘く器表が荒れているが、色調などからセット関係にあるものと思われる。2は天井外面中央付近につまみの剥離痕が、3では外面外周付近に高台の剥離痕が見える。4は甕頸部の小片であろう。2条の甘い凹線が刻まれる。5は口頸部が強く外反し、口縁部下に小さな突帯を付す。頸部に並行叩き痕がよく残る。6は口端部を断面方形に近く成形し、端面はシャープ。その下位に2条の凹線を連続して刻み、縦位の篋描沈線、そして間隔の広い2条の凹線を巡らせて文様帯とする。凹線はいずれも甘く、下位のそれは並行とならない。沈線はとても鋭利な工具で刻まれるが、配置は乱れている。下方にも2条の沈線が残るが、上方の沈線と違う工具で刻まれ、かつ、これは意図的なものかどうか判断に苦しむ。

墓道付近黒色土 (同7~18) 墓道は明瞭な堀り込みをもたないが、石室延長線上に薄く黒色土が広がっていた。7は土師器の杯であろう。胎土は精良で、外底面には回転篋切り痕のような痕跡がある。



体部・底部間は丸味をもち、内面は丁寧な横なでを施している。明黄褐色を呈するが、部分的に黒色化する。8は1/4が残存する明黄褐色の土師器皿。体部中位では横撫での境が弱い稜線となり、外底面には回転糸切り痕といわれる板状圧痕が残る。9は1/4弱の土師器皿で、灰黄褐色を呈する。外底面にはやはり回転糸切り痕が残る、内面は丁寧に撫でて仕上げる。10は瓦器碗小片で器表が荒れている。高台は小振りの断面三角形となり、内外面が灰黒色、器肉は灰白色となる。11は土師器で高台付碗か。断面三角形に近い大振りの高台が底部外周に貼り付けられる。胎土は精良で灰黄白色を呈する。



第13図 33号墳出土遺物実測図2(1/3)

11は須恵器杯蓋小片。口端部に甘い面を残す。12は器高が低いので蓋としたが、身としてもおかしくはない小片。焼きが甘く灰黄色に近い。13は1/3ほど欠いているが、破面が新しいようで表土掘削時に破損したものかも知れない。受け部端が上方へつまみ出されるような形状で、立ち上がりが低く内傾する。全体に暗灰褐色を呈し、特に外面は灰を被るが、比較的丁寧な回転篋削り痕が見える。14は高台と底部が接合し得ないが図上復原した。体部の1/3ほど、高台の3/4が残存する。胎土は比較的精良、調整も丁寧で、灰茶褐色を呈する。15は小型の壺であろう。口縁部下に小さな突帯を付す。胎土精良で、焼成も良好。16は壺類の頸部片で、肩部との境に甘い沈線が刻まれる。17は臑か。口縁部付近のみ1/2ほどが残存する。胎土精良で丁寧に作られる。18は無蓋高杯で灰赤褐色を呈する。屈曲部以下のほとんどを丁寧に篋削りして後横撫でを施すようである。焼きは甘い、胎土は精良。19は高杯脚部の小片。装飾はない。

#### iv) 小 結

出土土器の中、前室および墓道から出土した須恵器蓋杯（第12図7・8、第13図13）は外見上は非常によく似た土器で、同じ窯で生産されたものとして良いと思われる。前室出土の蓋杯は口径が10.2cm、9.2cmであるが、実際に組み合わせると厳密なセットとは認めがたい大きさである。墓道付近出土の第13図13は口径9.1cmでセットとしては相応しい。また、この3点はいずれも外面に灰被りが見られるが、蓋とした第12図8がもっとも著しい。このことから焼成時に蓋として置かれていたことは確かであろうが、天井部は丸いというよりは平坦面を意識したような形状であり、制作時にはむしろ身として作られていたのかも知れない。いずれにしても、これらの土器は古墳時代須恵器の中では最小化したもので、近隣では大野城市牛頸小田浦50-I号窯跡出土品に類似し、7世紀前半頃に比定されている。第13図1・14などは墓道等石室外の出土品であり、8世紀代に古墳が再利用されたと確信させるものではないが、古墳に対する祭祀行為が行われた可能性は考えられる。

中世以降の土器が古墳内部から出土する例は多く、盗掘・再利用が考えられる。ここでは優秀な白磁壺片が出土していて、墓地として再利用された可能性が高いものと思われる。

#### 参考文献

舟山良一1997「北部九州－生産地の様相－」『古代の土器研究－律令的土器様式の西・東5 7世紀の土器－』

### 3) 古墳以外の遺構と遺物

#### i) 層 位

調査区北端の3トレンチ北端付近の土層を図版15に示した。最上層は駐車場のための客土・整地層、その下位に暗茶褐色土・黒色土が薄く堆積するが、下位の2層は人為的なものではなく、自然堆積とみてよい。駐車場造成時の表土であろう。さらに40cmほどの灰黄褐色砂質土が見えるが、この土層の表層付近が遺物包含層となる。この包含層は山塊を形成する真砂土の再堆積層と思われる。その包含層の下位には15cmほどの厚さで灰黒色砂質土が、そして黄褐色土がみられる。この黒色土に押型文土器等が包含されていないかと、1・3トレンチを掘ってみたが、遺物を全く検出しなかったことから、発掘調査の対象を灰黄褐色土層に絞った。

発掘調査は包含層を数cmずつ掘り下げて行き、遺物が出土しなくなった時点で取りやめた。

ii) 土 坑 (図版14・15、第14図)

1号土坑

調査区南東端付近でその一部を検出した。北辺を破壊されるが、平面形はおおむね隅丸長方形となるようである。床面の形状は西小口に小さなテラスがあり、最深部の形状は平面・断面ともに整ったものではない。埋土はほぼ灰黒色土が堆積し、内部に拳大の礫が散乱していた。長軸1.6m以上、短軸1.3m以上、深さは最大で0.7mほどとなる。

出土遺物 (図版17、第15図1)

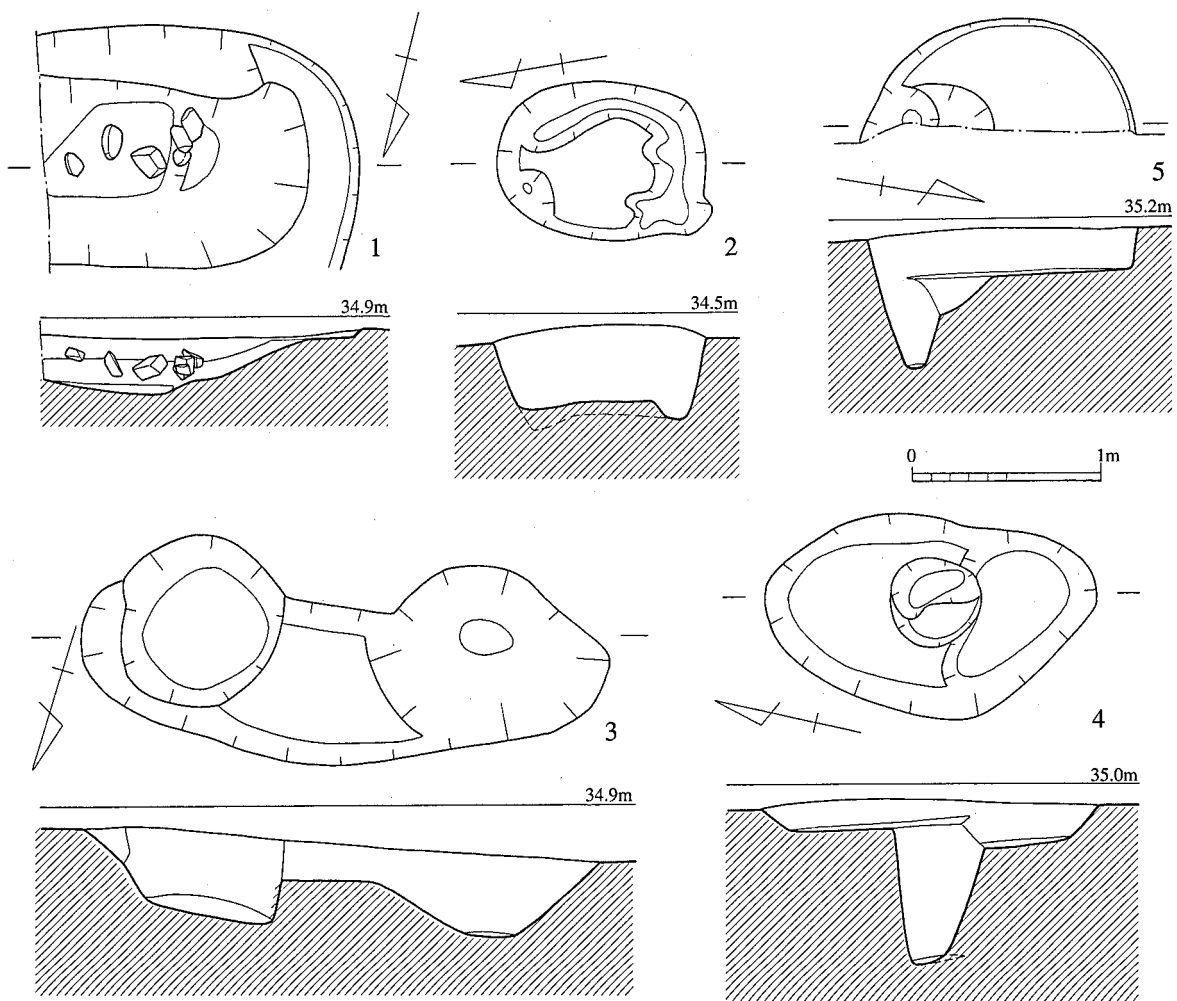
1は粗製深鉢小片だが、内面は研磨しているようである。

2号土坑

調査区中央付近のやや北方に位置する。検出時は灰褐色の埋土をもつ長軸1.1m、短軸0.8mの比較的整った長円形であったが、発掘の結果は特に床面外周に灰黒色土が入っていて形状が不整となった。深さは0.5mを測る。

出土遺物 (図版17、第15図2～9)

2～5は精製浅鉢。2は口縁部内面に幅広い沈線を刻む。外面が屈曲するが、剥離しているのであろう。3は口縁部がく字状に屈曲し、体部との間に甘い稜を持つ。また、口端部は内側へ摘まれ、



第14図 土坑物実測図(1/40)

断面が方形に近い形になる。4は体部間の屈曲がなく、口縁部は短く強く外反する。口端部はやはり内側へ摘まれている。5は口縁部が短く直立し、端部が外方へ摘まれる。口端部は丸味をもって内傾するが、不連続の甘い沈線が見える。

6～8は粗製の深鉢だが、直口縁の6は作りが丁寧である。7は小さく外反する口縁をもつ。8も直口縁だが、端部を方形に作る。器肉が厚く、二枚貝条痕が著しい。

9は粗製深鉢の底部小片。

### 3号土坑

2号土坑の北東に近接する。直径1m弱の円形土坑2基が連結した形状となるが、埋土は灰褐色軟質のシミ状であって、遺構との確信はない。

出土遺物（図版17、第15図11・12）

11は精製土器である。口縁部が外折し、内面に稜をもつ。

12は非常に器肉が薄い。浅鉢か。

### 4号土坑

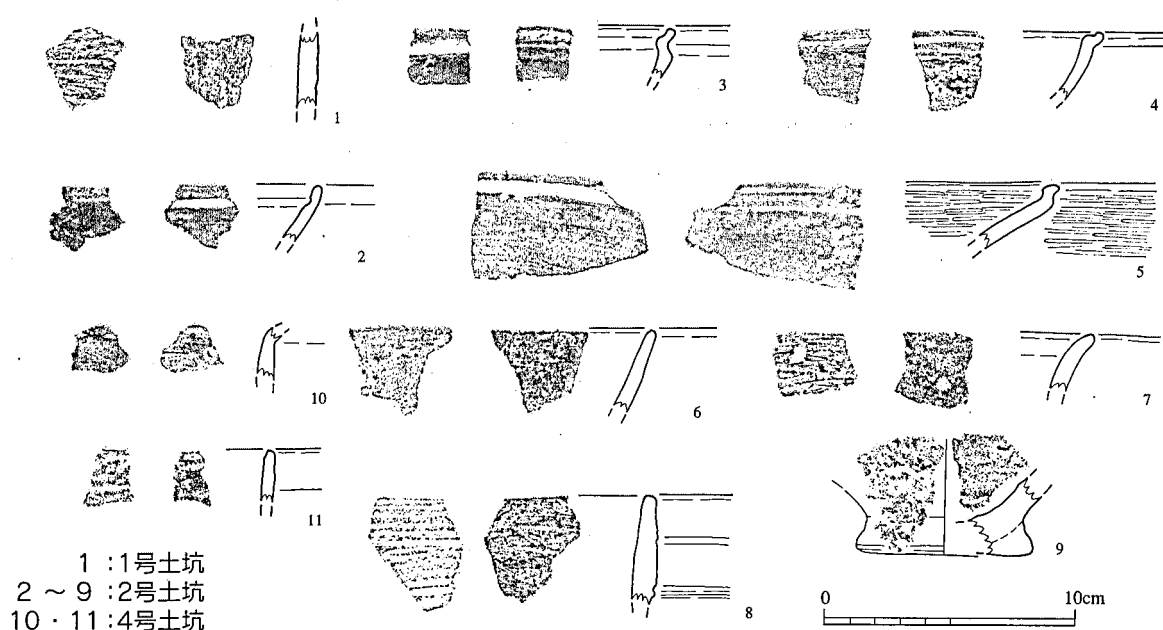
3号土坑の東、東辺近くに位置する。これも形状が不整で、埋土上方はシミ状、柱穴様の落ち込みには締まりのない灰黒色土が入っていて、遺構との確信はない。根痕かも知れない。

出土遺物

図示していないが粗製深鉢の体部小片が1点ある。外面は二枚貝条痕で、器表内外が荒れている。

### 5号土坑

4号土坑の北に近接し、半部分が調査区外へ続く。その断面を観察しても、埋土は緻密、シミ状で、これも遺構との確信はない。



第15図 縄文土器実測図1 (1/3)

### iii) 溝状遺構

#### 溝 1

調査区東辺にほぼ沿うように走る幅0.5mの溝で、1号土坑の南では検出していないが、これは調査区外へ続いているのかも知れない。埋土は灰黒色土で、深さ0.1mに満たない浅いものである。

縄文土器の他、須恵器甕小片が出土している。

#### 溝 2

1号溝の西2.5～3mを隔ててほぼ平行に走る。調査区北端付近では検出できず、南端は幅を減じて攪乱の中で終わるようである。最大幅2m弱、深さは最大で0.2mほどである。

時期を示すような出土遺物はない。

### iv) 包含層等出土遺物

包含層出土遺物は、比較的まとまっていたものはグルーピングを行ったが、ドットマップは作成していない。また、必ずしも遺構と確信できなかった柱穴（P）、攪乱坑（K）から出土したものもここで併せて紹介する。

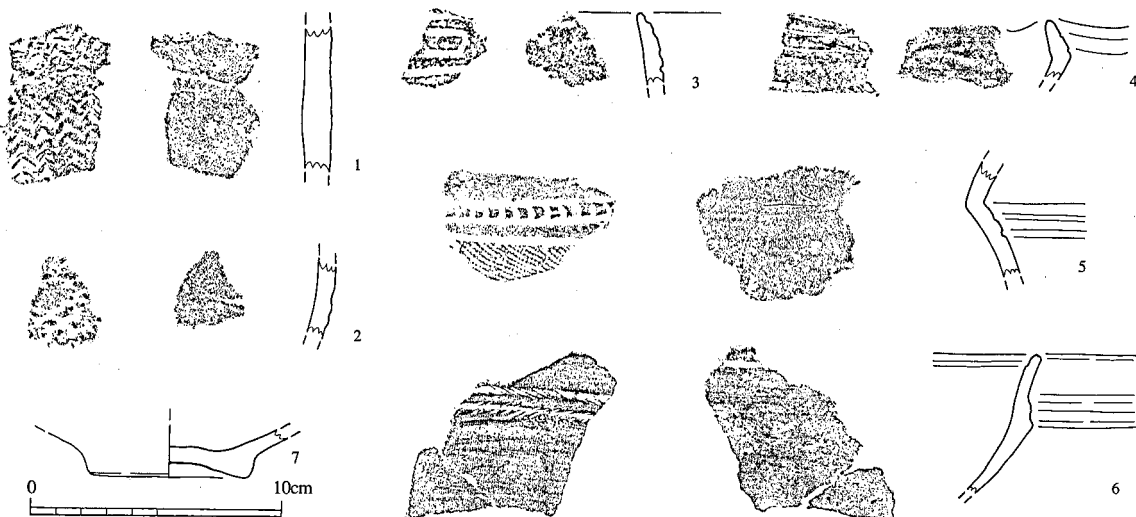
### 土器

大部分は晩期の土器であるが、若干時期を異にするものが混ざっている。晩期の土器は口縁形態に着目して挿図を組んでいる。

#### 後期以前の土器（図版16、第16図）

1・2は押型文土器。1は単位の大きな山形文を、2は横長扁平な楕円文を外面に刻むもの。2の上端は口端部の可能性もある。

3は深鉢口縁部付近で、口端部が残存しているか自信はない。中央付近のコ字状の幅広く浅い沈線の内部は地紋様が消されていて、周囲には浅い縄文が施される。その上下の横位沈線はしっかりと刻まれる。後期後葉の太郎迫式に属するものであろう。



第16図 縄文土器実測図2(1/3)



4は口縁部がシャープな稜をもって内傾し、外面に繊細な2条の沈線を刻む太郎迫式と思われる波状口縁小片。内外面ともに撫でて仕上げるようであるが、外面がより丁寧である。なお、外面下半には煤が付着する。5は頸部が強く外反し、胴部上端に半截竹管の刺突が一部見える。西平式～太郎迫式に属する。

6は口縁部が屈曲外彎するもので、屈曲部は明瞭な稜をもつ。口縁部内面に一条、稜の上方に2条の甘い沈線を刻むが、上位の沈線上には右下がりの、下位の沈線上には右上がりの弱い短線を重ねている。三万田式に属する非常に丁寧に作られた土器である。

7は薄手上げ底の底部で、これも非常に丁寧に作られる。三万田式前後のものか。

#### 晩期の土器

本遺跡出土遺物の多くを占める。精製・粗製の他、口縁部形態によって分類し、説明を加える。

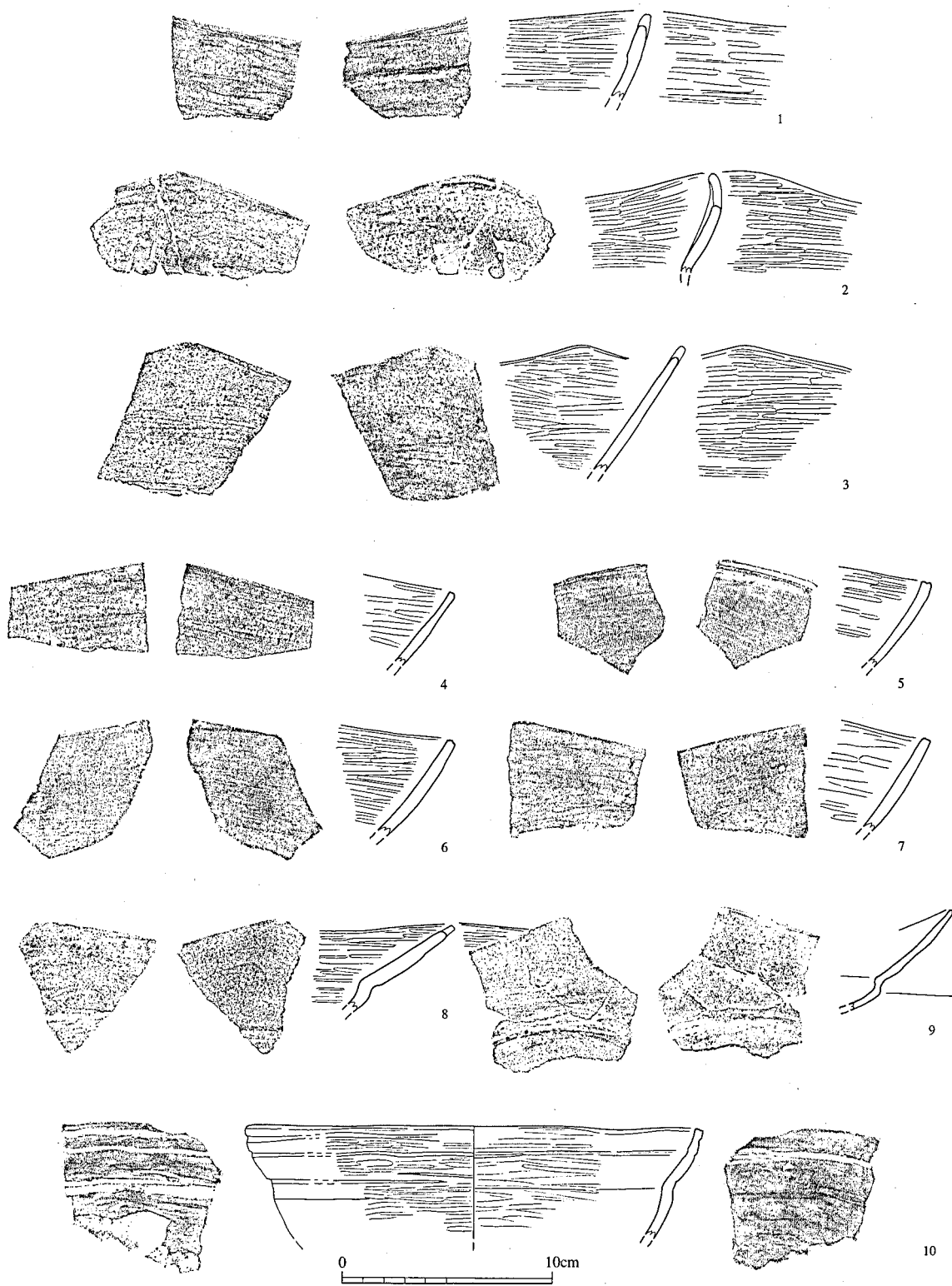
##### 精精土器

I a類（図版17、第17図1～9） 口縁部が直行ないし内彎気味に長く延びる精製浅鉢。すべて波状口縁となる。1～3は口端部が丸く終わるもの。1は口縁部が肥厚し、内面に段をもつ。外面は口縁部付近のみ黒色、以下は黄褐色となる。2は波頂部付近が特に強く内彎する。これは残存下端部で反転するようである。3は口縁部が長く直行する。4～7は口縁部が弱く内彎し、端部を断面方形に作るもの。4は胎土に1～2mmの砂粒が目立ち、他に比べて粗雑な感がある。5は端面を凹面状に強調している。8・9は体部への屈曲部が残存する。8の胎土はおおむね微砂粒を含むものであるが、締りがなく、肉厚となる点や篋磨きの仕上げも含めて粗雑な印象を与える。9は逆に非常に薄く作られる。

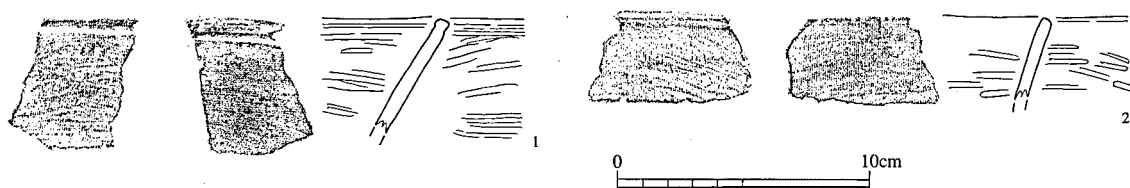
I b類（図版17、第18図） a類に似るが、波状口縁とならないものを分離したが、いずれも小片であり誤認があるかも知れない。1は口端部直下の外面に幅広の沈線を刻み、内面は小さく肥厚して玉縁状にする。残存部下端で反転するようである。2は口端部断面を方形に作る。

II 類（図版17、第17図10） 口縁部が短く内彎する精製浅鉢。口縁部内面に3条の粗雑な沈線を刻むが、最上段の沈線はやや浅い。下2条はシャープである。また、口縁部内面も同様の工具で沈線を刻むが、これはやや甘い。体部との屈曲は弱く、内面は丸味をもっている。胎土は非常に精良なものである。また、口端部は断面方形に作る。

III a類（図版17・18、第19・第20図） 口縁部が外彎して長く延びる精製浅鉢で、口端部の細部形状はバラエティがある。1は外面が弱く屈曲して立ち、内面には幅広の浅い沈線を刻む。2は口端部外面に雑な浅い沈線を刻み、内面は強く横撫でして変化をつけている。3は口端部に内傾する面を付し、そこに幅の広い沈線を1条刻み、内面は幅広の浅い沈線を刻む。残存部下端で反転するようである。4は端面に沈線を刻むというよりは強い匙面にしたといった方が相当しい。内面は彎曲するのみで、沈線は見られない。5は口端部を玉縁状とする。外面は口端部直下に意識した沈線か、あるいは強く横撫でした結果が判断に苦しむ甘い沈線状の痕跡が残る。内面に沈線はない。6は口端部に小さな面をもち、浅い沈線を付すようである。内面も小さくつまみ上げる。なお、この土器は2次的な火熱を受けたようで内外面が部分的に赤褐色となる。7は口端部上面を玉縁状に強くつまみ出し、内面には比較的明瞭に段が付く。外面の篋磨きは全面を覆わず、粗雑で終わる。8は外面にしっかりと沈線を刻んで玉縁状を意識するようだが、内面のつまみ出しが弱い。9も口端部上面を玉縁状に作るが、これは外面に沈線を刻んで形成する。10も同様の形状だが器肉がとても厚い。外面の沈線も幅広く深く刻まれる。11も同様の形状で、内面の段が顕著である。これは器表が非常に荒れている。12は口端



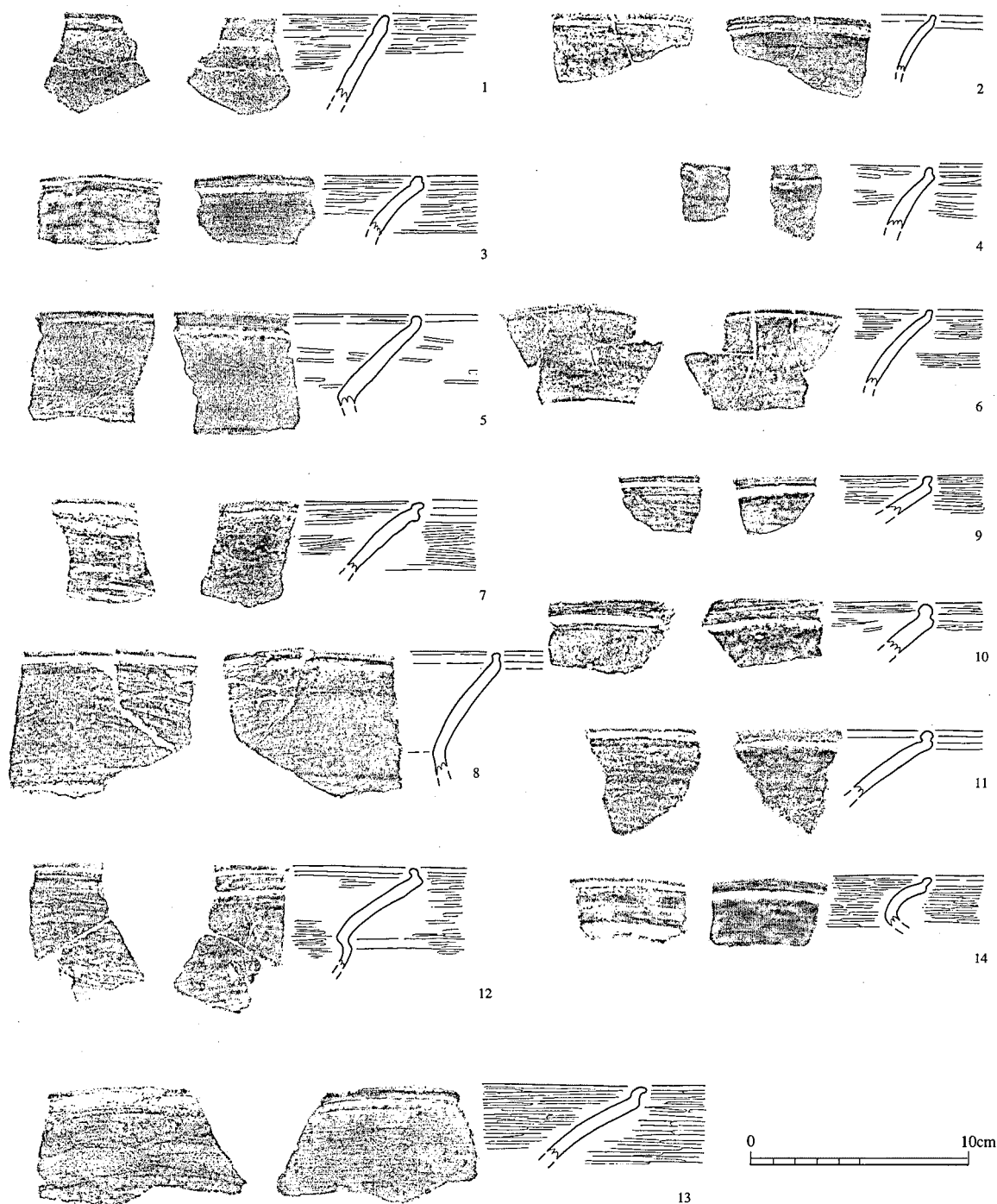
第17図 縄文土器実測図3(1/3)



第18図 縄文土器実測図4(1/3)

部が直角に近く内折し、外面に弱い沈線を刻む。体部外面の屈曲はシャープで稜が走るが、内面は丸く移行する。13の口端部は一旦垂直に立ち上がった後にさらに外方へつまみ出される。外面に沈線はない。これも焼けたようで部分的に赤褐色となる。

第20図は口縁部を欠くが、この種の土器の一部の可能性が高いのでここで紹介する。1は口端面の下端が残り、その形状は第19図13に似る。体部屈曲部は内外面ともに丸くなる。2は屈曲部外面が弱い稜をもち、内面は丸く移行する。3も2に似るが、内面突出部は甘い稜をもつ。4は屈曲部以外の破片で、器表外面が非常に荒れる。



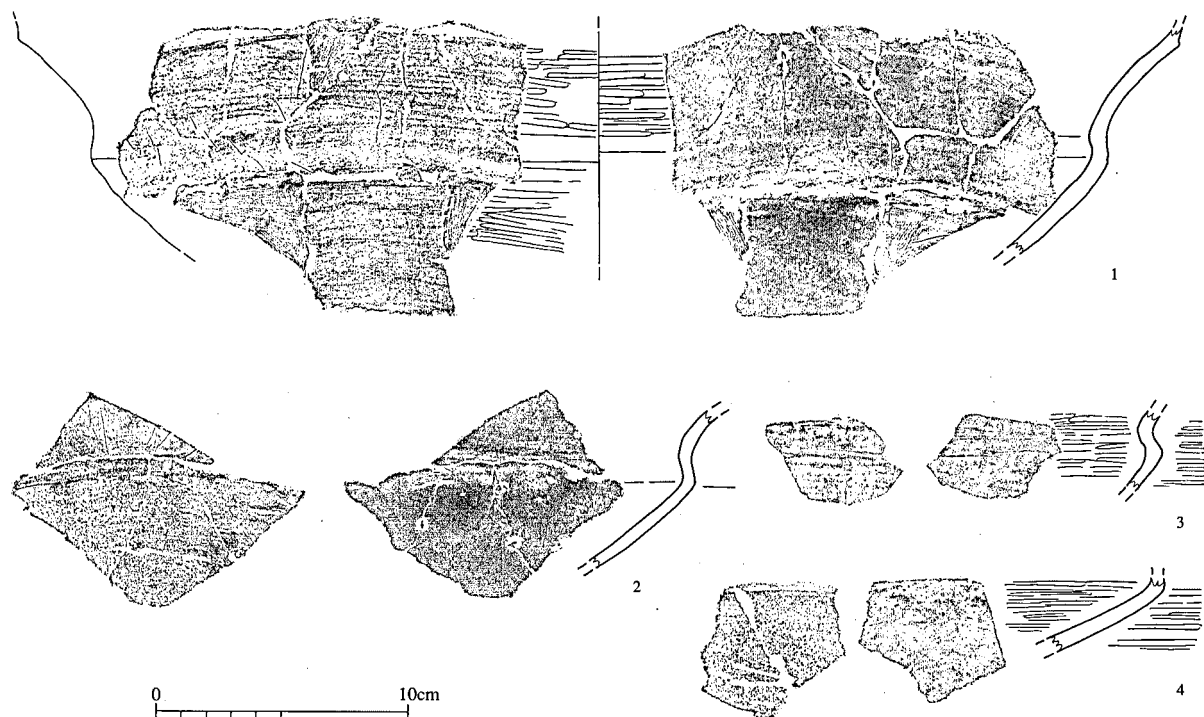
第19図 縄文土器実測図5(1/3)

Ⅲb類（図版17、第19図14） 口縁部が強く外彎し、短く終わるもの。小振りの端面に大振りの沈線を刻み、内面に段をもつ。体部界は内外面ともに丸味をもっている。

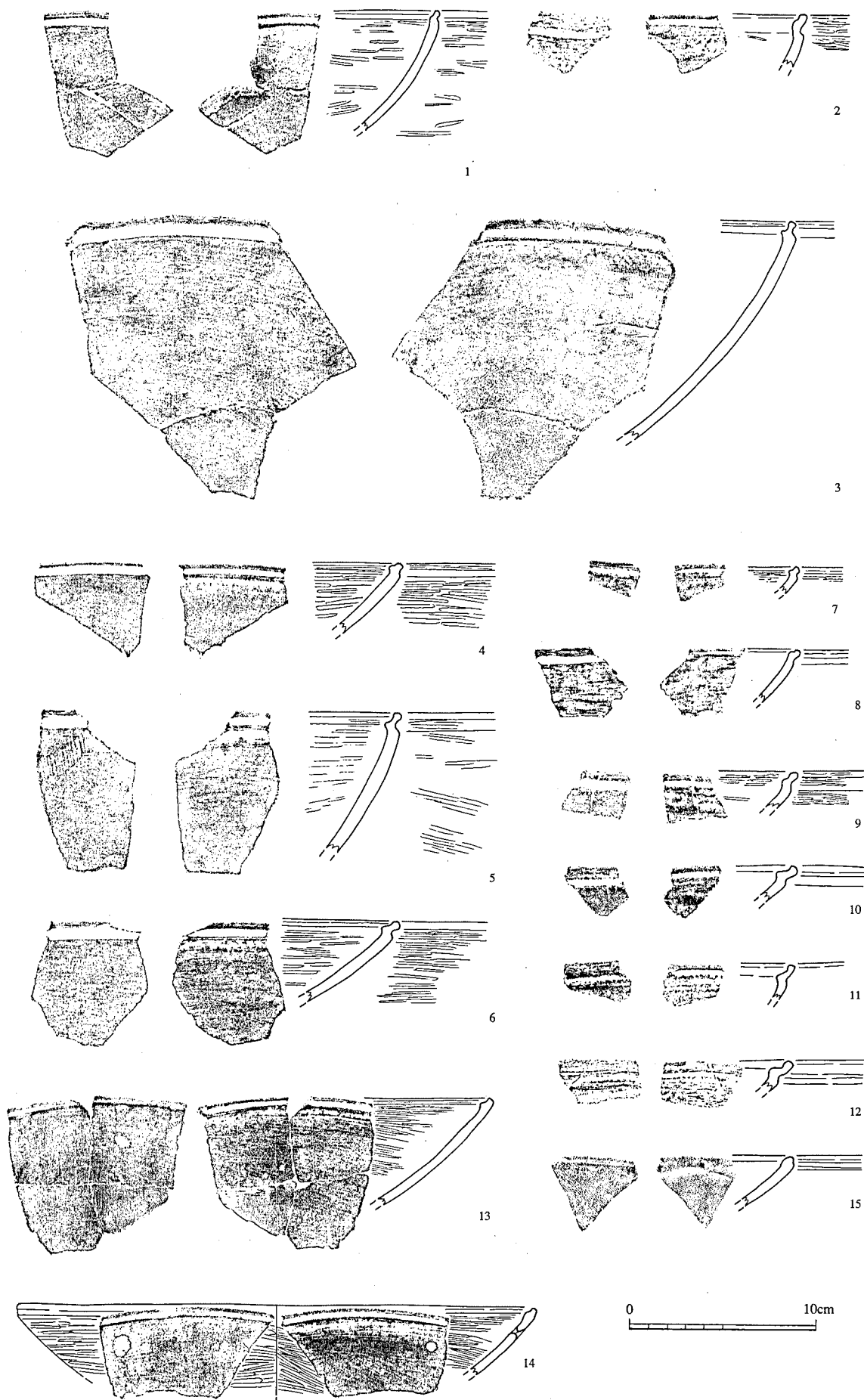
Ⅳa類（図版18、第21図13～15） 口縁部が内彎する精製浅鉢で、口端部内側を肥厚させ、外面に甘い面を付す。13は口端部外面に弱い稜を付けて部分的に甘い沈線を刻んでいるようだが、意図したものか不明である。内面は小振りの三角突帯を付すが、稜は甘い。突帯下部にわずかに黒色顔料が残る。14も13に似ていて、同一固体であるかも知れない。焼成後の穿孔が見られるが、外面で浅く広く、内面では狭く深く器表が剥がれる。15は上面の押えがなく、断面三角突帯ではなく口端部全体が肥厚した形となる。外面端部はより明瞭で、中央部がわずかに窪む。

Ⅳb類（図版18、第21図1～12） 口縁部外面にも沈線や段で変化を加え、結果口縁部が屈曲するもの。1は外面を筥状工具で窪ませて口端部を小さな玉縁状とする。とても丁寧に作られている。2は幅広い凹線を刻んだような形となり、内面の突出部は丸い。外面の一部に黒色顔料が残る。3は内外面ともに突出部ははっきりと稜をもち、凹凸がシャープになる。4は口端部の形状が1に似て小振りであるが、外面突出部ははっきりと稜線をもつ。5は外面を大きく窪ませる。6も5によく似るが、外面凹部の幅が異なるので別個体であろう。7は1に似て口縁部を小さく作る。8は外面に凹線を刻んで変化を加えるものであるが、凹線は筥磨きの延長として付されたように見える。9～11は口縁部を小さく外折させて端部を内側上方へ摘む。12は外面に幅広い凹線を刻んでいる。

V類（図版18、第22図1・2） 口縁部が短く外折して立ち上がり、体部径が口径をしのぐ精製浅鉢。1は体部の張りが大きく、最大頸部分が上位にある。口頸部は強く短く外反し、外面は中位に甘い沈線を刻み、内面はやはり中位に弱い段を付ける。2は外面の施文がなく、内面の段が強調される。体部の張りは1に比して随分弱い。



第20図 縄文土器実測図6(1/3)



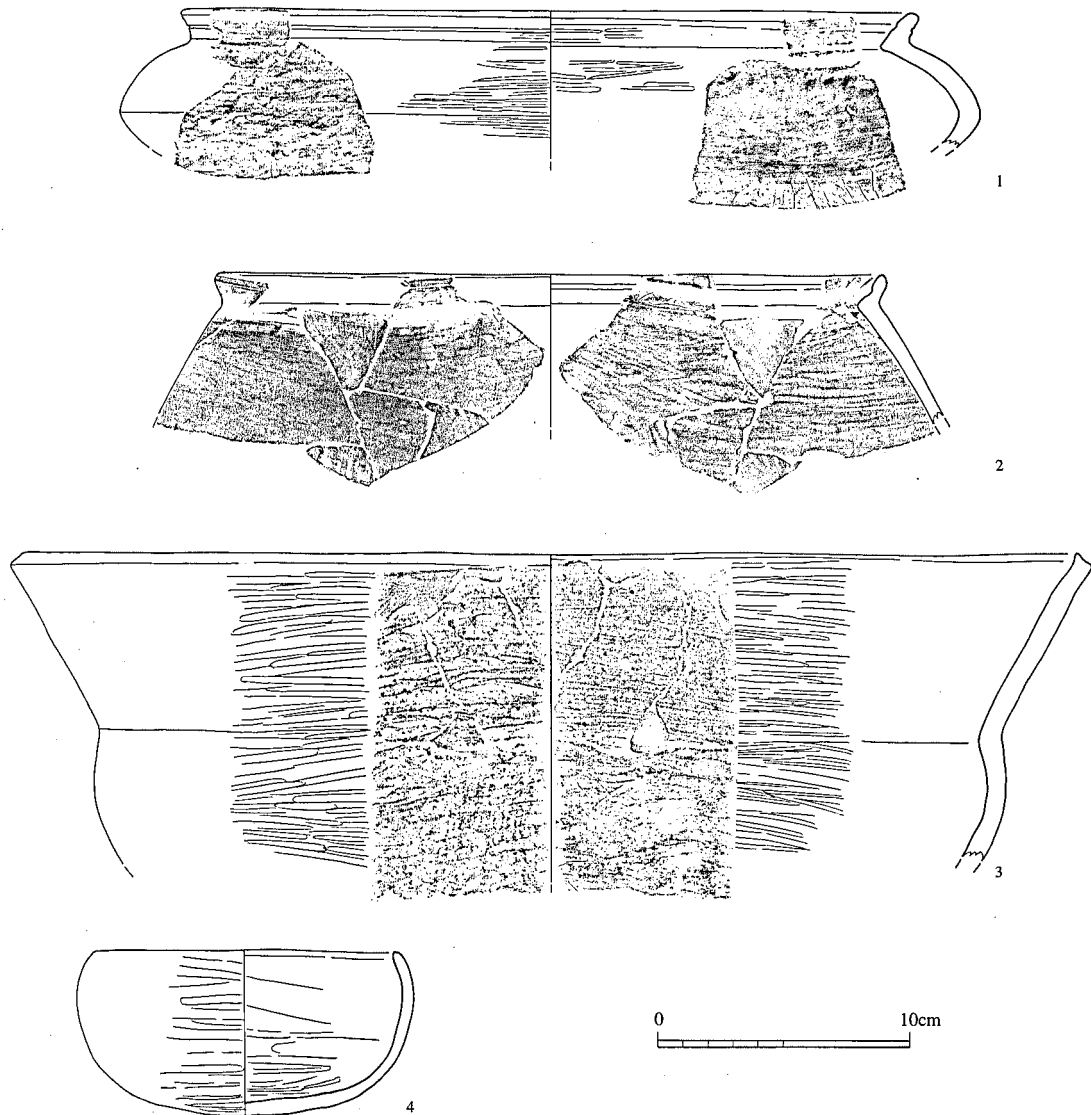
第21図 縄文土器実測図7(1/3)

Ⅵ類（図版18、第22図3） この遺跡ではほぼ唯一の精製深鉢。口頸部は斜め外方に高く直行し、端部はシャープな方形断面となる。体部への移行は丸く、なだらかとなる。匏磨きは左から右へ施すようであるが、その下で観察できる匏削りの痕跡と思われる砂粒の移動は逆方向である。なお、体部内面には器表がはじけた痕跡が多く残る。

Ⅶ類（第22図4） これも今回の調査で唯一確認できる椀形の精製土器。底部は緩くカーブを描く曲面で、口縁部にかけて緩やかに内彎して終わる。器形・文様などの装飾はなく、外面に黒色顔料がわずかに残るのみである。

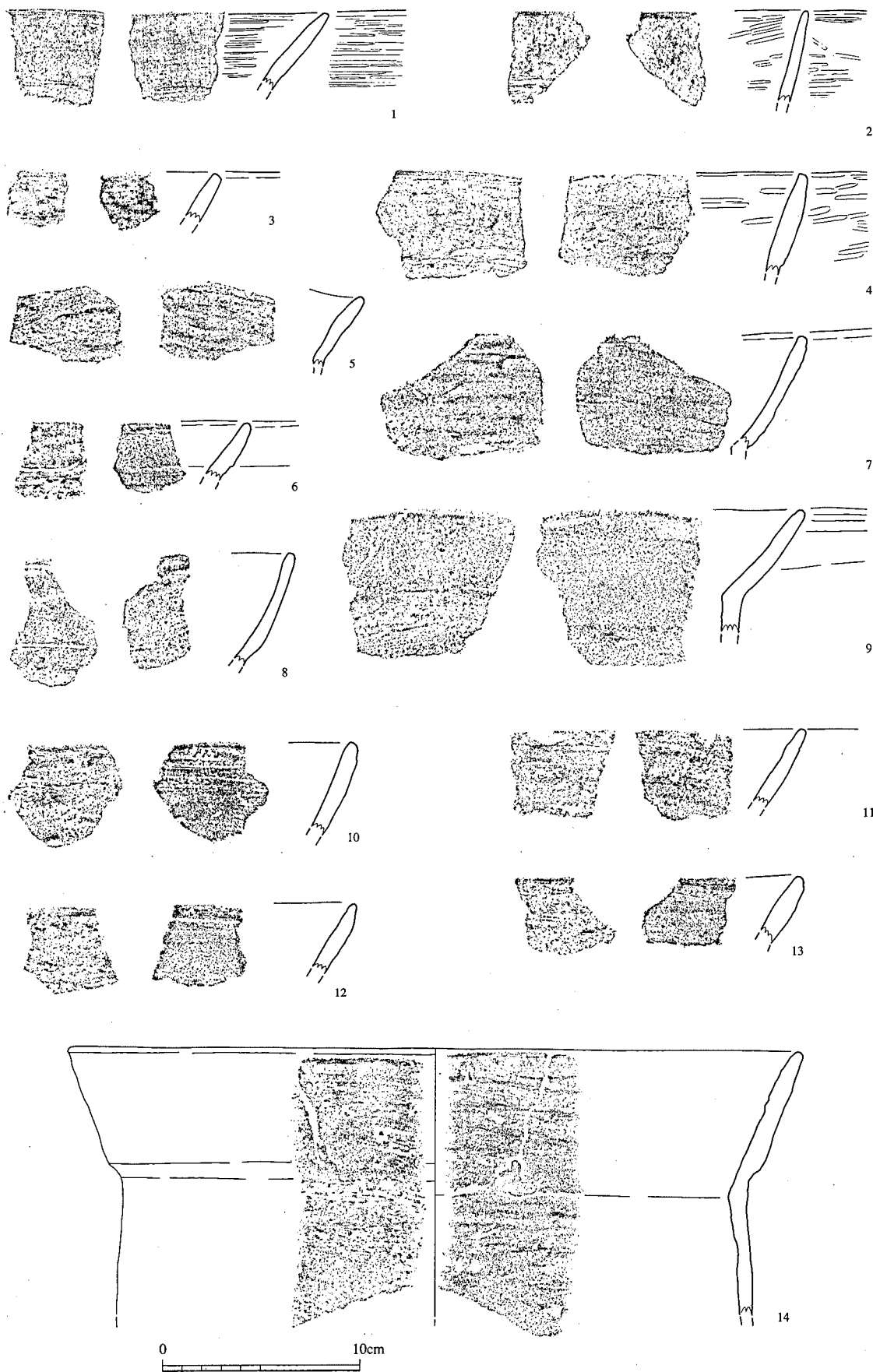
#### 粗製土器

Ⅷa類（図版19、第23図1～13） 深鉢で、口縁部が直行もしくは内彎気味に高く開き、頸部上方で外面に屈曲あるいは段を持つものを想定したが、小片については確信のないものを含む。1は内外面を匏磨きで仕上げ、胎土も精製土器の一部と遜色く、ここに分類することに躊躇を覚えるものである。2は形状や残存部全面を匏磨きで仕上げているなど1に似るが、胎土には比較的大型の砂粒が目立つ。3は内外面を匏磨きで仕上げ、胎土が比較的大きな小片。4は頸部直上までが残存し、比較的形状を察しうるもの。口縁部はほぼ直行するが、中央付近の器肉が最厚となるために内彎



第22図 縄文土器実測図8(1/3)





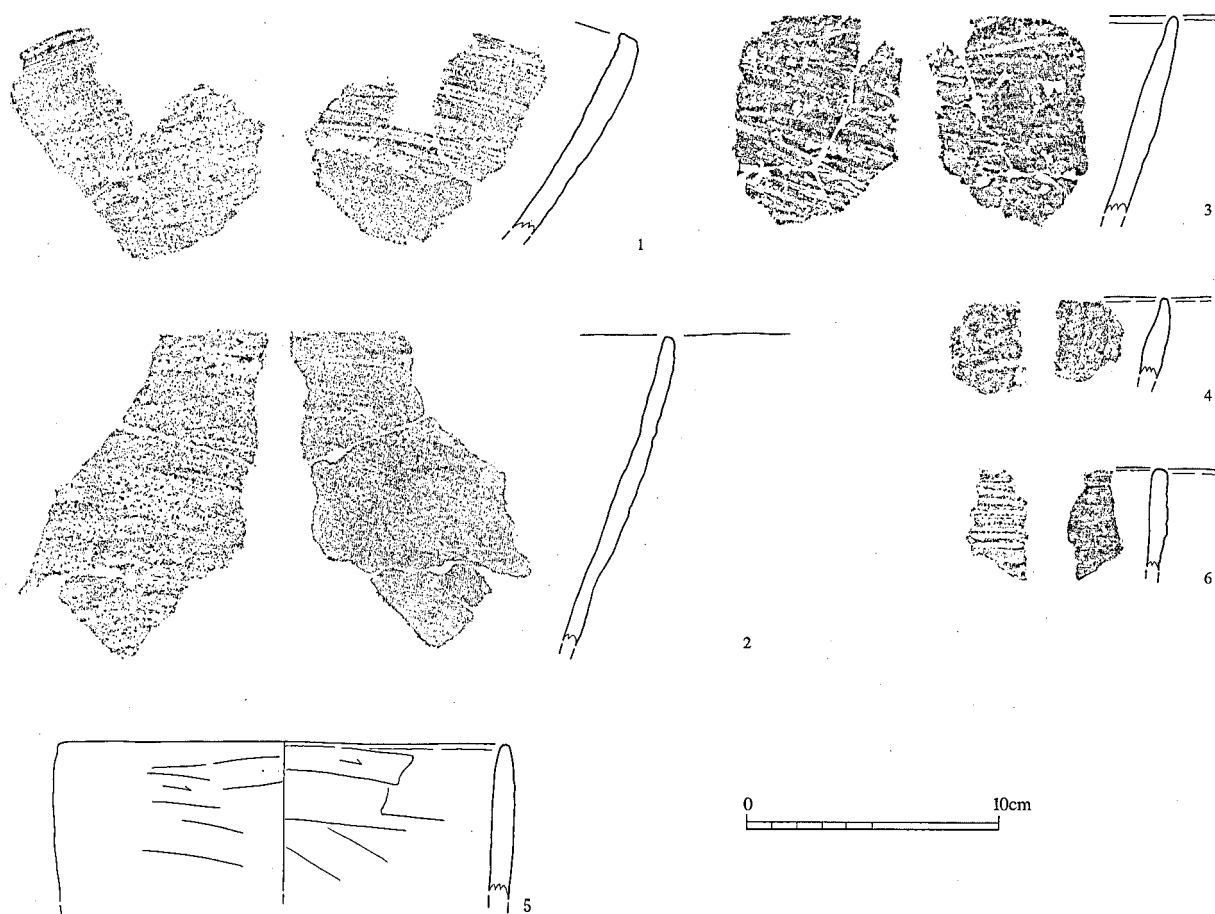
第23図 縄文土器実測図9(1/3)

して見える。外面は篋削りの後に篋磨きを雑に行うようである。胎土は粗い。

5以下は調整や胎土から明らかな粗製土器。5は口縁部外面の上半と下半で調整原体を変えるように、上半は平滑となり、下半は凹凸が目立つ。他に比して短い口縁部片である。6も同様に口縁部外面上半が丁寧な撫で、下半は原体を変えて強く撫でるために段が生じている。これは波状口縁となるようである。7は頸部界がかろうじて残存する。外面は規則的に弱い凹凸が見られるが、条痕は見えない。8もよく似た形状で、これは口端部を断面方形に作る。9は口端部が丸く終わるが、外面に沈線状の浅いくぼみが見える。口縁部外面が煤けたように幾分黒色化する。10は内外面ともに黒色に焼き上がっている。11の口縁部は篋で切り落したようなシャープな方形断面となる。13は口端部付近を強く横撫でし、外面に幅広の甘い面を作る。

VIIIb類（図版19、第24図1～4）粗製深鉢で、口縁部が直行し、その下端は肥厚して段をもつのである。14の1点のみが図示に堪える。口端部は横撫でで甘い面を作り、横撫では口端部から内面で1cm、外面では2cmまで及ぶ。内面では、頸部付近に撫でが施される他は削りで仕上げている。外面では横方向の繊細な条痕が見える。

IX類（図版19、第24図1～4）口縁部が内彎気味に終わる粗製深鉢。1は口端部を明瞭な凹面とし、内側を小さく摘む。残存する口縁部はわずかだが、波状口縁となるようである。2は外面の調整は粗いが、内面は口縁部付近を横撫で、それ以下を丁寧に篋磨きを行う。なお、口端部付近外面に煤が付着する。3はそれらと異なり、口端部付近が薄くなって終わるもので、内外面に無数の小孔がある。胎土に砂粒がほとんど見えず、色調も含めて特異な土器である。4は3に似た形状の小片

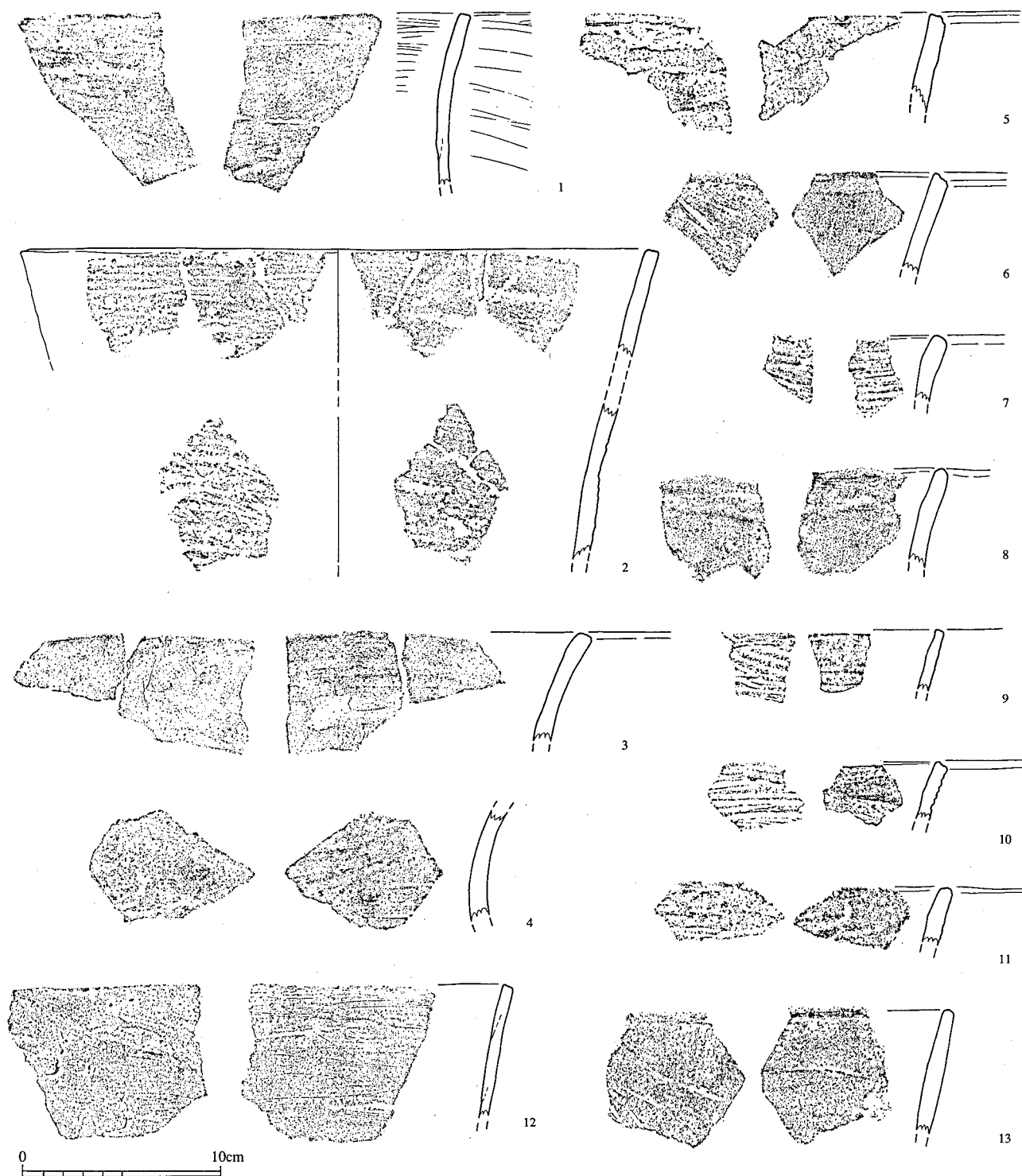


第24図 縄文土器実測図10(1/3)

であるが、胎土や色調は大いに異なる。

X類（図版19、第24図5・6） 口縁部が直立直行する粗製深鉢。5は残存部から見て間違いなが、小型品である。これは胎土に砂粒が見えるが、器表の小孔や色調は先の3に似る。6は小片で確信はない。内面は磨きで仕上げるが、外面には粗い二枚貝条痕が深く刻まれる。

Xla類（図版19、第25図） 口縁部が外反ないし直行する粗製深鉢である。1は口端部にかけて緩く外彎するもので、端部を押さえて断面方形とする。調整は丁寧になされ、器面はかなり平滑化する。2は接合しないが同一個体と考えられる。これも口端部はしっかりとした断面方形となり、



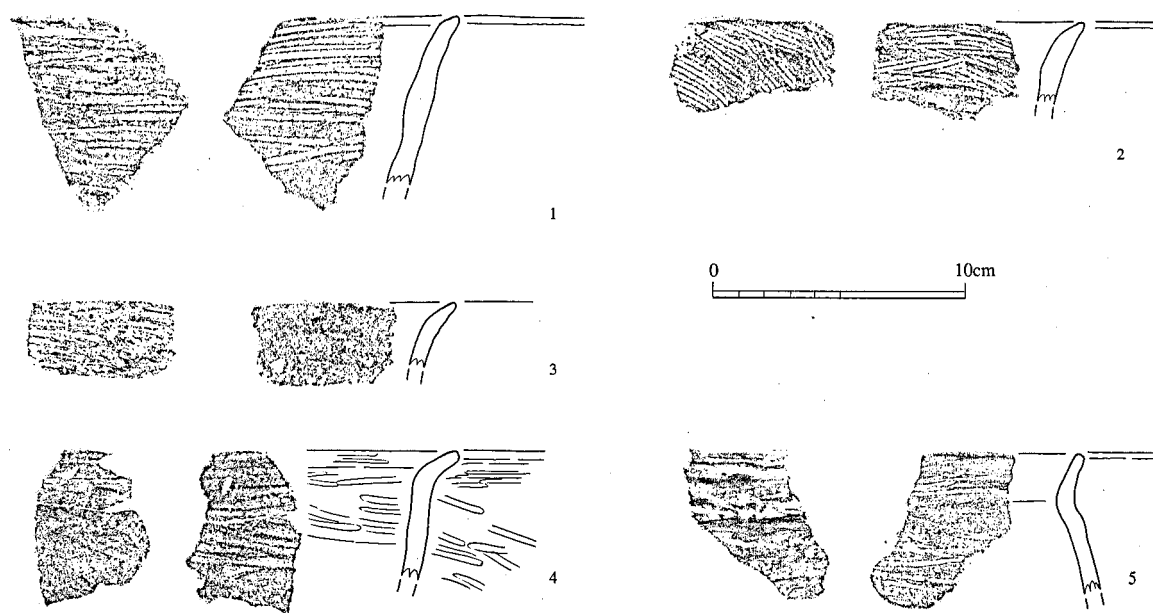
第25図 縄文土器実測図11 (1/3)

第24図3・5と同様に器表内外に小孔が多く、色調も似る。3は外面に広く煤が認められるが、器面の調整は丁寧である。口端部の形状は一定せず、丸くおさめる部分と方形に近い形状になる部分がある。4も外面に煤が付着する。色調や胎土から見て3と同一個体のものである。5は明瞭な端面をもつ。胎土は非常に粗いものの、特に内面の仕上げは丁寧である。6は外傾する口端面をもつ。これも内面の仕上げは丁寧。7は小片だが、口端部に丸味をもつ面を意識するようである。8は低い波状口縁を持つものか。外面に煤が多く付着し、あるいは3・4と同一個体かも知れない。9は器壁が薄く、口端部上面から外面にかけて黒色となる。内面の仕上げはとても丁寧。10は口端部に外傾する面をもつ。器表全体が黒色化し、外面は二枚貝の痕跡が深く刻まれるが、内面はとても平滑化している。11は内傾する小振りの端面をもつ。12も口端面をもつが、これは上端を切り取って作ったような痕跡が残る。内面では上端から2.5・6.5cmほどの位置に接合痕が見える。また、内外面ともに二枚貝で調整するようだが、その痕跡は浅い。13の口端部は丸く終わる。外面では下端に二枚貝条痕がわずかに見え、内面では中位付近で原体を変えたものか、段が残る。

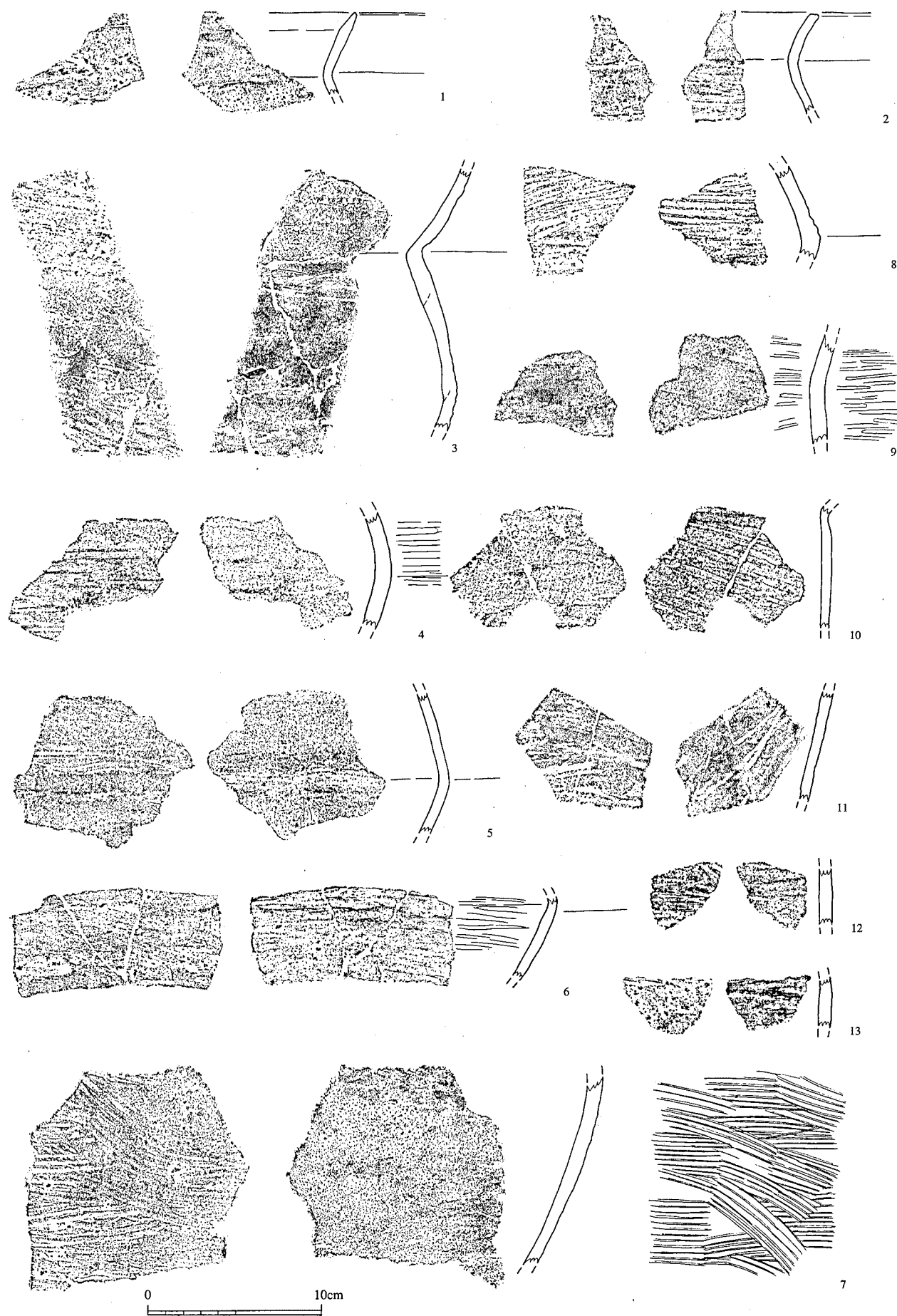
XIb類（図版19、第26図1～3） 口縁付近が小さく外彎するもので、薄くなって終わる。1は内外面とも二枚貝条痕が著しいが、内面下端には条痕は見えない。2も二枚貝条痕が顕著であるが、内面下半は撫でるようである。なお、原体は1に比して小型のものを使用する。条痕凹部は例外なく黄白色となり、同凸部は暗褐色等の地色が現れている。化粧掛けを施したものか。これは口端部に小さな面を作る。3は器表が荒れているが、条痕は外面のみに見られ、内面には残らない。

XIc類（図版20、第26図4・5） 口端部が強く外反する深鉢。4は弥生前期の甕のような形態で、頸部内面に弱い稜をもつ。調整は丁寧になされている。5は傾きにやや不安がある。調整は篋磨きを多用するようであるが、外面には粘土紐接合痕が見えるなど粗雑な点がある。

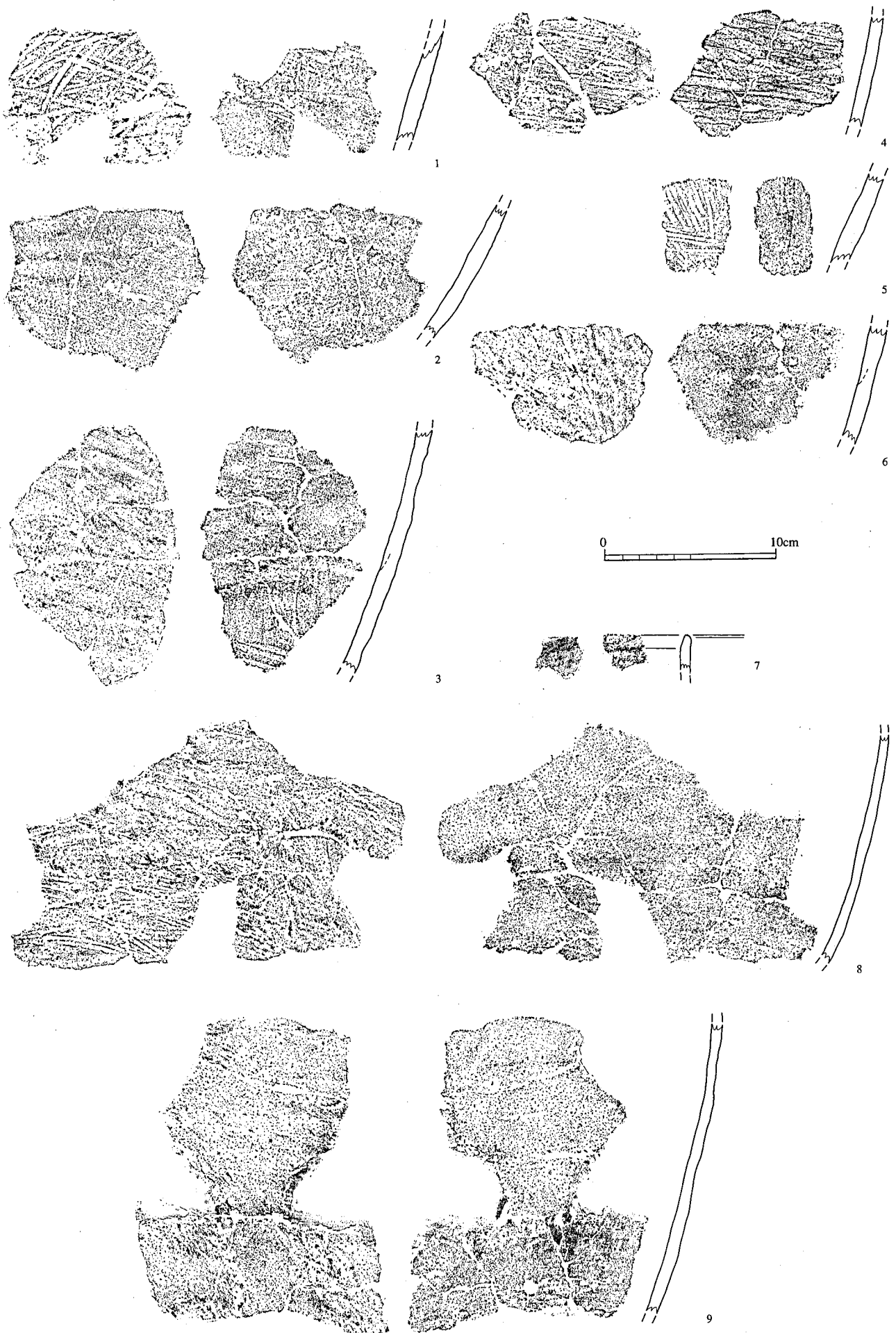
XId類（図版20、第27図1・2） 口縁部がく字状に外反し、長く延びる粗製土器。小片であり、傾きには不安がある。1は小さな口端面がわずかに残る。2は残片が2点あるが、いずれも下端部が口縁部と見まがうような擬口縁となっている。図示した残片は口端面をもつが、口端面とした部分の内面のみに焦げ付きがみられる。ただ、器面調整は口縁部とした部分が丁寧な撫で、頸部以下は条痕で仕上げている。



第26図 縄文土器実測図12(1/3)



第27図 縄文土器実測図13(1/3)

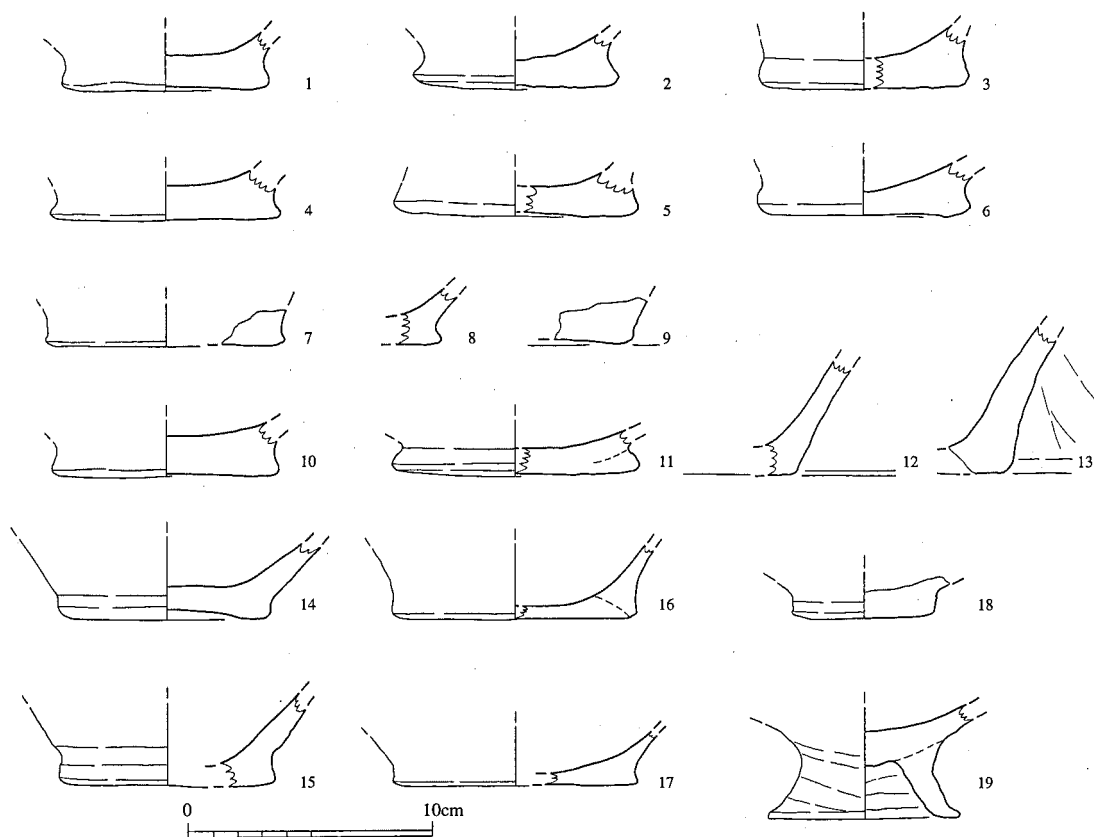


第28図 縄文土器実測図14(1/3)

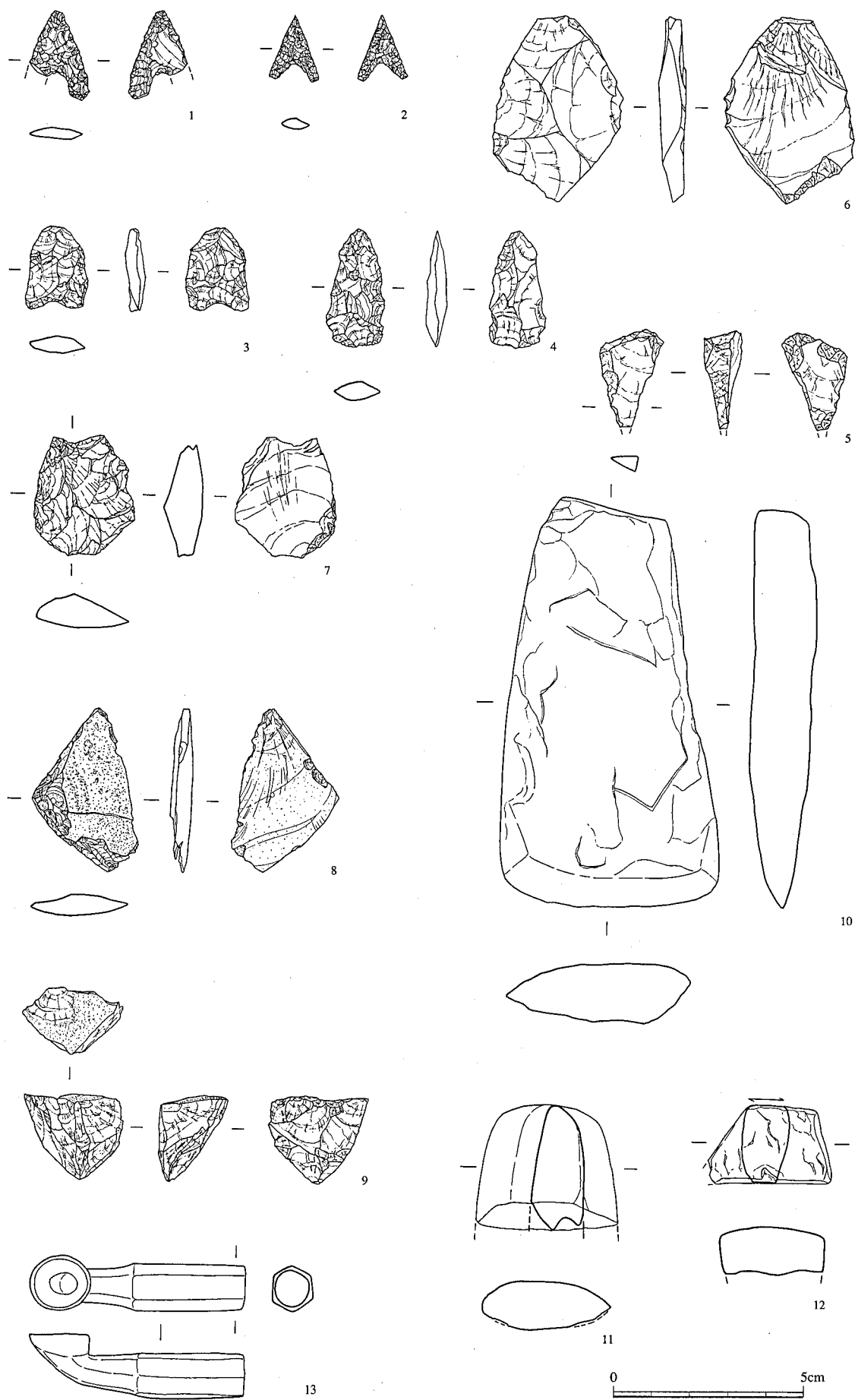


その他の縄文土器（図版20、第27図3～11・28・29図）体部の破片をまとめて紹介する。ほとんどは粗製深鉢であるが、中に精製浅鉢と思われるものも含む。3は頸部が強くくびれ、対する内面は丸味をもつ。くびれの上下で調整工具を変えるようで、上位では単位幅が狭く浅いが、下位の最大頸部以上は撫で、以下は単位幅が広く深い原体を使用している。内面は比較的丁寧に撫でて仕上げるものの、くびれ以下には粘土紐接合痕が明瞭に残る。接合痕は2本を図示し、その間に今ひとつあるようだが、破面や石膏で確認できない。外面には煤が付着している。4は外面上半が丁寧に撫でられ、下半には二枚貝条痕と思われる痕跡がわずかに見える。内面も二枚貝条痕が薄く見えるが、丁寧な撫でて仕上げるようである。5の内面は丁寧に撫でている。屈曲部以外の外面は篋削りのようである。6は調整が粗いが、胎土精良で外面は黒色化を意図している。精製浅鉢であろう。7は外面には二枚貝条痕が顕著であるが、内面は丁寧に撫でている。外面には煤がかなり付着する。8は屈曲部をもつ体部片で、内外面に二枚貝条痕が著しい。9は内外面ともに丁寧に器面調整される。10は頸部直下の残片であろう。外面は篋削りのようで、今回の出土品では珍しい。内面は条痕が浅いが二枚貝を使用している。外面には煤が付着する。11の拓本で内面に見える条痕状のものは発掘時の傷である。丁寧に撫でている。12・13は粗製深鉢小片で、13では外面に粘土紐接合痕が残る。

第28図1の外面は二枚貝を用いたと思われる条痕が装飾を意識したものか各方向に刻まれ、内面は丁寧に撫でて仕上げる。2は内面に厚く焦げ付きが残る。3の外面には平行に走る弱い条線が微かに見えるが、器面自体凹凸が甚だしい。内面の調整は丁寧に、下端部付近には二枚貝条痕が一部残る。4の外面には雑な二枚貝条痕が見られ、内面は幅の広い篋磨きを施すようである。5は底部付近と思われる。二枚貝を使用したと思われる条痕が縦方向後横方向に刻まれる。6も3のように外面はほとんど未調整かと思われる状態だが、縦方向の篋磨きのような痕跡が疎らに縦方向に走る。7は口縁部小片



第29図 縄文土器実測図15(1/3)



第30图 石器等实测图(2/3)

で、口端部内側に面を作る。8と7は同一個体であろう。外面では下位に二枚貝条痕がよく残るが、それ以上は未調整に見える部分が多い。内面下端に焦げ付きがあり、上半は使用によって器表が剥離している。9も8に似るが、外面に二枚貝条痕が見えないことから同一個体とは断じえない。

第29図は底部片を集めた。1が完周し、2もほぼ完存する。外底面は未調整のようで、無数の圧痕が残る。3は小片で、これは器表が荒れている。4は2/3が残存し、1・2に似る。5は1/4弱の残片で、外底面を撫でるようだが、大小の砂粒が多く浮いている。6は完周する。これも外底面を撫でるようである。胎土精良というわけではないが大型砂粒は浮いておらず、表面は微砂粒が見えるだけである。7は小片。外底面の外周が摩滅し、内側は丁寧に撫でるようである。8も小片で磨滅する。9は内面が剥離するようで、外底面は撫でるようである。10は1/3ほどが残存し、外底面は未調整。11は1/4弱の残片。底部側縁が強くくびれ、外底面は未調整。12・13は体部が高く立ち上がり、16・17に似るが胎土は全く異なって粗く、粗雑な感の土器。いずれも小片で、体部外面は篋削りあるいは粗い撫でて、外底面は未調整。12は内面に黒褐色の焦げ付きが残る。14は完存する。7同様に外底面の外周が荒れており、その内側は丁寧に撫でている。体部外面も丁寧な撫でて仕上げる。15は1/3ほどが残存。外底面は雑に撫でるよう。16は底部が非常に薄く、角度をもって立ち上がる。外底面は丁寧に篋削りを行った後に中心部付近を撫でているようである。胎土も比較的良好な1/3ほどの残片。17も底部が薄くなり、内面は丁寧に撫でる。他の多くに比べて比較的胎土良好であるが、外底面は未調整のようである。これは1/4ほどが残る。18は今回出土したなかで唯一精製土器の底部で。胎土はかなり精良で外底面も丁寧に撫でている。内面は荒れていて、はっきりしないうが剥離しているかも知れない。接地面から5mmほどまでが灰赤褐色となり、他は黒色である。19は脚台で、ほぼ完周する。

#### 石器・金属器（図版16、第30図）

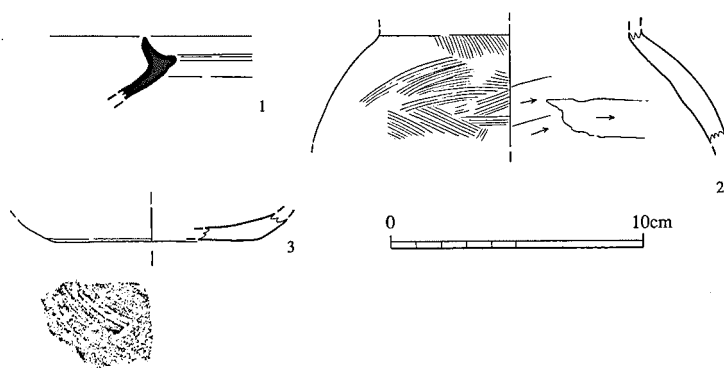
1～3は石鏃。1・2は漆黒の西北九州産黒曜石製で、いずれ脚部の挟りは深い。3は安山岩製で、全体の調整は粗く脚部の挟りは浅い。4は尖頭器である。安山岩製で小型の類である。5は石錐であろうか。先端部を欠損する。6～7は二次加工剥片である。いずれも安山岩製で、6の縁辺部の一部には使用痕が確認される。8は黒曜石製の剥片。背面に礫面を多く残し、他の石器と比べて風化が顕著である。

| 番号 | 種類     | 出土位置       | 石材  | 長さ (cm) | 幅 (cm) | 厚さ (cm) | 重さ (cm) |
|----|--------|------------|-----|---------|--------|---------|---------|
| 1  | 石鏃     | K5・K6間黄褐色土 | 黒曜石 | 2.3     | 1.4    | 0.4     | 0.73    |
| 2  | 石鏃     | K1         | 黒曜石 | 1.7     | 1.4    | 0.3     | 0.29    |
| 3  | 石鏃     | 3Tr.黄褐色土   | 安山岩 | 2.1     | 1.6    | 0.5     | 1.57    |
| 4  | 尖頭器    | K2北遺構面     | 安山岩 | 3.1     | 1.5    | 0.5     | 2.20    |
| 5  | 石錐     | 33号墳周辺黒色土  | 石英  | 2.5     | 1.7    | 0.5     | 2.79    |
| 6  | 二次加工剥片 | 33号墳周溝     | 安山岩 | 4.9     | 3.3    | 0.6     | 9.36    |
| 7  | 二次加工剥片 | K3東        | 安山岩 | 3.1     | 2.6    | 0.9     | 7.42    |
| 8  | 剥片     | 3Tr.黄褐色土   | 黒曜石 | 4.3     | 2.7    | 0.6     | 4.91    |
| 9  | 石核     | 北半黄褐色土     | 安山岩 | 2.2     | 2.6    | 1.4     | 7.56    |
| 10 | 打製石斧   | K2北黄褐色土    | 片岩  | 10.7    | 5.7    | 1.6     | 144.83  |
| 11 | 磨製石斧   | 33号墳石室内攪乱  | 頁岩? | 3.2     | 3.7    | 1.3     | 22.87   |
| 12 | 砥石     | K2北遺構面     | 砂岩  | 2.0     | 3.2    | 1.3     | 10.01   |

表2 石器観察表

9は石核。安山岩製で上面に自然面が残る。10は平面形が撥型を呈する打製石斧。11は磨製石斧であろうか。基部のみが残存する。12は砥石と思われる小片。触るとつるつるする面が1面ある。

13は火皿に直接管が付く銅製煙管。首部は断面六角形をなす。全長5.7cm、火皿部1.6cmを測る（林）



第31図 その他の包含層出土土器実測図(1/3)

その他の包含層出土土器（第31図）

1は須恵器杯身小片で、攪乱坑K8出土。

胎土や作りは良好である。2は図示部の2/3ほどで残存する土師器甕で、二次的な加熱を受けている。胎土はおおむね良好である。

3は中世土師器皿小片。遺構検出時に出土した。外底面に回転糸切り痕が見えるが、器表が荒れている。

#### v) 小 結

那珂川町の四周の山塊はすべて花崗岩類からなっていて、観音山も同様である。この調査でもその二次堆積と思われる黄褐色土（新砂土）の上層から主として縄文晩期の土器が出土した。土器面の状況は概ね良好で、卑近な位置に生活の場を想定して良いものと思われる。山陽新幹線建設時の調査では、車両基地の最南部付近で観音山古墳群に重複して32基の石組炉や押型文土器を主体とする多量の土器・石器が出土しているが、100m内外の距離を隔てた今回の調査では2点の押型文土器があるとはいえ大いに様相が異なっている。地山のほとんどが攪乱を受けているとはいえ、石組炉の痕跡を示す赤変した石材もほとんど見受けられなかった。

さて、出土した土器の位置づけであるが、Ⅲa類とした長く外反して口端部を変化させる浅鉢や、Ⅳa類とした内彎して口端部を変化させる浅鉢などは堀田Ⅰ式と分類されたものに共通するが、本遺跡では波状口縁をもつ浅鉢に沈線が見られないことから、若干様相を異にする。また、口頸部が短くなったⅢb類や、体部がふくらむⅤ類など後出的な遺物も混入している。

北部九州の縄文晩期土器については、変化の方向はほぼ共通するとしても、線引きは研究者間で各人各様である。ここでも資料を紹介するのみで留めておきたいと思う。

#### 参考文献

水ノ江和同・宮地聡一郎2002「橿原式土器と文化交流－九州地方と近畿地方の交流－」『日本考古学協会2002年度橿原大会研究発表資料集』

| 図番号  | 遺物番号 | 登録番号 | 出土遺構             | 外面調整        | 内面調整            | 外面色調        | 内面色調        | 胎土                            | 備考                            |
|------|------|------|------------------|-------------|-----------------|-------------|-------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 第15図 | 1    | 94   | 1号土坑             | 横位条痕        | 丁寧な撫で<br>あるいは磨き | 灰赤褐色        | 灰黄褐色        | 1mm以下の微砂粒                     | 内面の一部が黒変                      |
|      | 2    | 100  | 2号土坑             | 丁寧な撫で       | 横位磨き            | 灰黄褐色        | 灰黄褐色        | 1mm以下の微砂粒                     | 口端部外面剥離か                      |
|      | 3    | 102  | 2号土坑             | 緻密な<br>磨き   | 緻密な<br>磨き       | 灰黒色         | 灰黒色         | 非常に精良                         | 黒色磨研、口端部・<br>外面屈曲部付近は<br>灰黄褐色 |
|      | 4    | 99   | 2号土坑             | 削り後<br>横撫でか | 横撫で             | 灰黒色         | 灰黒色         | 3ミリの砂粒含むが<br>概ね微砂粒            | 黒色磨研、胎土・<br>作りに粗雑な感           |
|      | 5    | 95   | 2号土坑             | 横位磨き        | 横位磨き            | 灰黄褐色～灰赤褐色   | 灰褐色～灰黒色     | 1mm以下の微砂粒                     | 黒色磨研が二次加熱で<br>脱色か             |
|      | 6    | 98   | 2号土坑             | 丁寧な撫で       | 磨き              | 黒褐色         | 灰黒色         | 1～2mmの砂粒多い                    |                               |
|      | 7    | 101  | 2号土坑             | 二枚貝条痕       | 撫でか             | 灰黄色         | 灰黄色         | 1mm以下の微砂粒                     |                               |
|      | 8    | 96   | 2号土坑             | 二枚貝条痕       | 丁寧な撫で<br>あるいは磨き | 灰黒色         | 灰黒色         | 1～2mmの砂粒多い                    |                               |
|      | 9    | 97   | 2号土坑             | 撫でか         | 撫でか             | 灰赤褐色        | 灰褐色         | 1～2mmの砂粒多い                    |                               |
|      | 10   | 104  | 4号土坑             | 削り後丁寧な撫で    | 磨き              | 淡褐色         | 淡褐色         | 1mm以下の微砂粒                     |                               |
|      | 11   | 105  | 4号土坑             | 撫でか         | 撫でか             | 淡褐色         | 灰黒色         | 1～2mmの砂粒多い                    |                               |
| 第16図 | 1    | 34   | K3北・K2北<br>黄褐色土  | 大ぶりの<br>山形文 | 丁寧な撫で・<br>指撫で   | 灰黄褐色        | 灰黄褐色        | 暗灰色、1～3mmの<br>砂粒多い            |                               |
|      | 2    | 64   | K5北・K6間黄褐色土      | 横長楕円文       | 丁寧な撫で           | 灰褐色         | 灰褐色         | 1mm以下の微砂粒                     | 口端部か                          |
|      | 3    | 166  | 北半黄褐色土           | 磨消縄文        | 丁寧な撫で           | 灰褐色         | 灰褐色         | 1～2mmの砂粒多い                    | 口端部か                          |
|      | 4    | 161  | 北半黄褐色土           | 丁寧な撫で       | 指撫で・撫で          | 黄褐色～灰褐色     | 黄褐色～灰褐色     | 1mm前後の砂粒多い                    | 液状口縁、<br>外面下半に凝附着             |
|      | 5    | 168  | 遺構検出             | 磨消縄文        | 丁寧な撫で           | 明黄褐色        | 明黄褐色        | 5mmの砂粒ほか<br>微砂粒多い             |                               |
|      | 6    | 134  | P2               | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 暗褐色～黒褐色     | 灰黄褐色～灰黒色    | 微砂粒                           | 黒色磨研                          |
|      | 7    | 50   | K3               | 丁寧な撫で       | 丁寧な撫で           | 灰赤褐色        | 灰褐色         | 微砂粒                           | 外面被熱か                         |
| 第17図 | 1    | 91   | 溝1               | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 黒色～灰黄褐色     | 灰黒色～暗灰色     | 微砂粒                           | 器肉は黄褐色                        |
|      | 2    | 48   | K3北黄褐色土          | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 灰黒色～灰褐色     | 灰褐色         | 1～2mmの砂粒多い                    | 器肉も黒色                         |
|      | 3    | 120  | P1               | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 暗灰赤色～黒色     | 暗灰赤色～黒色     | 1～2mmの砂粒多い                    | 器肉も灰黒色                        |
|      | 4    | 78   | K8               | 磨き          | 磨き              | 灰黒色         | 灰黒色         | 1～2mmの砂粒多い                    | 器肉も黒色                         |
|      | 5    | 90   | 溝2               | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 灰褐色～灰黒色     | 灰黒色         | 非常に精良                         | 器肉も黒色                         |
|      | 6    | 119  | P1               | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 黒色～明灰褐色     | 灰黒色～明灰褐色    | 非常に精良                         | 本来の器表は明灰褐色                    |
|      | 7    | 121  | P1               | 磨き          | 磨き              | 灰黒色～灰赤色     | 灰褐色         | 1mm前後の砂粒多い                    | 器肉は灰赤色、<br>二次被熱か              |
|      | 8    | 151  | 3Tr.黄褐色<br>(砂質)土 | 磨き          | 磨き              | 黒色          | 黒色          | 1mm前後の砂粒多く、<br>緻密さを欠く         | 器肉は灰褐色                        |
|      | 9    | 125  | P1               | 磨き          | 丁寧な磨き           | 灰黒色         | 黒色          | 1～4mmの砂粒を<br>若干含むが、<br>おおむね精良 | 本来の器表は<br>赤褐色                 |
|      | 10   | 118  | P1               | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 灰褐色～灰黒色     | 暗褐色         | 非常に精良                         | 黒色磨研                          |
| 第18図 | 1    | 171  | 遺構検出             | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 暗褐色         | 黒色～灰褐色      | 1mm前後の砂粒多い                    | 器肉は黒色                         |
|      | 2    | 83   | K8               | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 暗褐色         | 灰黒色～灰褐色     | 微砂粒                           | 器肉は黒色～灰褐色                     |
| 第19図 | 1    | 52   | K3               | 丁寧な磨き?      | 丁寧な磨き?          | 灰黄色～灰褐色     | 灰黄色～灰黒色     | 微砂粒                           | 器肉は黒色                         |
|      | 2    | 135  | P3               | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 暗褐色         | 暗褐色         | 微砂粒                           | 器肉中心は黒色、<br>器表は暗褐色            |
|      | 3    | 30   | K2北遺構検出          | 丁寧な磨き?      | 丁寧な磨き?          | 淡灰色～灰黒色     | 灰褐色～灰黒色     | 微砂粒                           | 器肉は黒色                         |
|      | 4    | 157  | 5Tr.黄褐色土         | 丁寧な磨き?      | 丁寧な磨き?          | 淡灰色～灰褐色     | 淡灰色～灰褐色     | 微砂粒                           |                               |
|      | 5    | 65   | K5-K6間黄褐色土       | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 黒色～暗褐色      | 黒色          | 微砂粒                           | 器肉は灰黒色                        |
|      | 6    | 51   | K3               | 丁寧な磨き?      | 丁寧な磨き?          | 赤褐色～<br>灰黒色 | 赤褐色～<br>灰褐色 | 1mm前後の砂粒少々<br>と微砂粒            | 二次被熱か                         |
|      | 7    | 29   | K2北遺構検出          | 磨き          | やや雑な磨き          | 黒色          | 黒色          | 1mm前後の砂粒少々<br>と微砂粒            | 器肉は灰褐色                        |
|      | 8    | 142  | P7               | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 灰褐色～灰黒色     | 淡黒褐色        | 1mm前後の砂粒多い                    | 器肉は黒色                         |
|      | 9    | 107  | 北半遺構検出           | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 暗褐色         | 暗褐色         | 1mm前後の砂粒少々<br>と微砂粒            | 器肉は黒色                         |
|      | 10   | 163  | 北半黄褐色土           | 丁寧な磨き?      | 丁寧な磨き           | 灰褐色         | 褐色          | 1mm前後の砂粒多い                    | 器肉は黒色                         |
|      | 11   | 35   | K2北黄褐色土          | 丁寧な磨き?      | 丁寧な磨き?          | 暗褐色～黒褐色     | 暗褐色         | 1mm前後の砂粒多い                    | 器表荒れる                         |
|      | 12   | 172  | 遺構検出             | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 灰褐色～灰黒色     | 暗黄褐色～灰黒色    | 微砂粒                           | 器肉は褐色                         |
|      | 13   | 28   | K2北遺構検出          | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 灰褐色～赤褐色     | 灰褐色～灰黒色     | 1mm前後の砂粒多い                    | 器肉は褐色                         |
|      | 14   | 47   | K3北黄褐色土          | 丁寧な磨き       | 丁寧な磨き           | 灰黒色         | 灰黄色～灰黒色     | 1mm前後の砂粒少々<br>と微砂粒            | 器肉中心は黒色、<br>器表は灰黄色            |

表3-1 縄文土器観察表

| 図番号  | 遺物番号 | 登録番号  | 出土遺構                          | 外面調整                  | 内面調整                                       | 外面色調                   | 内面色調              | 胎土                 | 備考                  |
|------|------|-------|-------------------------------|-----------------------|--------------------------------------------|------------------------|-------------------|--------------------|---------------------|
| 第20図 | 1    | 128   | P1下層                          | 丁寧な匏磨き                | 丁寧な匏磨き                                     | 口縁部は褐色～灰黒色、<br>体部は灰赤褐色 | 口縁部は黒色、<br>体部は暗褐色 | 1mm前後の砂粒多い         |                     |
|      | 2    | 131   | P1                            | 匏磨き                   | 匏磨き                                        | 口縁部は黒色、<br>体部は暗褐色      | 口縁部は黒色、<br>体部は灰褐色 | 1mm前後の砂粒多い         |                     |
|      | 3    | 106   | 北半遺構検出                        | 丁寧な匏磨き                | 丁寧な匏磨き                                     | 灰黒色                    | 黒色                | 1mm前後の砂粒多い         | 器肉は淡灰色              |
|      | 4    | 155   | 4Tr                           | 匏磨き                   | 丁寧な匏磨き                                     | 灰褐色                    | 黒色                | 1mm前後の砂粒多い         | 器肉は灰褐色              |
| 第21図 | 1    | 89    | 溝1                            | 丁寧な匏磨き                | 丁寧な匏磨き                                     | 暗褐色                    | 暗褐色               | 微砂粒                | 器肉は灰黒色              |
|      | 2    | 159   | 4Tr.東北隅横<br>黄褐色土              | 匏磨き?                  | 匏磨き?                                       | 灰褐色～灰黒色                | 暗褐色               | 1～5mmほどの砂粒多い       | 器表荒れる               |
|      | 3    | 132   | P1下層                          | 丁寧な匏磨き                | 丁寧な匏磨き                                     | 暗褐色                    | 灰黒色               | 2mm以下の砂粒多い         | 器肉は灰黒色              |
|      | 4    | 108   | 北半遺構検出                        | 丁寧な匏磨き                | 丁寧な匏磨き                                     | 暗褐色～黒色                 | 灰褐色               | 2mmほどの砂粒<br>ほか微砂粒  | 器肉は灰黒色              |
|      | 5    | 117   | P9                            | 丁寧な匏磨き                | 丁寧な匏磨き                                     | 暗褐色                    | 灰黄褐色～灰黒色          | 3mmほどの砂粒<br>ほか微砂粒  | 器肉は灰黒色              |
|      | 6    | 92    | 溝2                            | 丁寧な匏磨き                | 匏磨き                                        | 灰黒色                    | 暗褐色               | 1mm以下の微砂粒          | 器肉は灰黒色              |
|      | 7    | 162   | 北半黄褐色土                        | 匏磨き?                  | 匏磨き?                                       | 灰赤褐色～暗褐色               | 灰赤褐色              | 1mm以下の微砂粒          | 器肉は暗灰色              |
|      | 8    | 57    | K4                            | 匏磨き                   | 匏磨き                                        | 灰赤褐色～灰黒色               | 灰黒色               | 1mm以下の微砂粒          | 器肉は灰黄褐色             |
|      | 9    |       |                               |                       |                                            |                        |                   |                    |                     |
|      | 10   | 36    | K2北黄褐色土                       | 匏磨き?                  | 匏磨き?                                       | 灰黄色                    | 灰黒色               | 1mm以下の微砂粒          | 器肉は黒色               |
|      | 11   | 77    | K8                            | 匏磨き?                  | 匏磨き?                                       | 灰黒色                    | 灰黒色               | 微砂粒                | 器肉は灰黒色、器表荒れる        |
|      | 12   | 61    | K5・K6間<br>黄褐色土                | 匏磨き                   | 匏磨き                                        | 黒色                     | 灰黒色               | 3mmほどの砂粒<br>ほか微砂粒  | 器肉は灰褐色              |
|      | 13   | 44    | K3西                           | 丁寧な匏磨き                | 丁寧な匏磨き                                     | 暗褐色                    | 暗褐色               | 微砂粒                | 器肉は黒色               |
|      | 14   | 40    | K3西                           | 丁寧な匏磨き                | 丁寧な匏磨き                                     | 暗褐色                    | 暗褐色               | 微砂粒                | 器肉は黒色               |
|      | 15   | 196   | 古墳前面付近                        | 匏磨き?                  | 匏磨き?                                       | 灰黄褐色                   | 灰黄褐色              | 微砂粒                | 器肉は灰褐色、器表荒れる        |
| 第22図 | 1    | 71・72 | K6                            | 丁寧な匏磨き                | 体部内面は匏削りの<br>後部分的な匏磨き?<br>口縁部内面は丁寧<br>な匏磨き | 暗褐色                    | 灰褐色               | 1mm前後の砂粒多い         | 器肉は茶褐色              |
|      | 2    | 67    | K6南東端、K6・2Tr.間、<br>4Tr.東北黄褐色土 | 丁寧な匏磨き                | 丁寧な匏磨き                                     | 灰褐色～黒褐色                | 灰褐色               | 微砂粒                | 器肉中心は灰黒色、<br>表層は灰白色 |
|      | 3    | 26    | P4、K2北黄褐色土、<br>K3北黄褐色土        | 匏削り後匏磨き               | 匏磨き                                        | 暗褐色～黒色                 | 暗褐色～黒色            | 1～5mmほどの砂粒多い       | 器肉は暗褐色              |
|      | 4    | 146   | P9                            | 丁寧な匏で、底面は<br>指押さえ痕が残る | 底部は丁寧な匏で、<br>底部には棒状の<br>掘進痕などあり            | 暗灰色～灰黒色                | 灰黒色               | 1mm内外の砂粒多い         | 器肉中心は灰黒色、<br>表層は灰黄色 |
| 第23図 | 1    | 24    | K2                            | 丁寧な匏磨き                | 丁寧な匏磨き                                     | 淡灰黒色                   | 灰黒色               | 微砂粒                |                     |
|      | 2    | 158   | 4Tr.東北隅横黄褐色土                  | 丁寧な匏磨き                | 丁寧な匏磨き                                     | 灰黒色                    | 灰赤褐色              | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 3    | 63    | K5・K6間黄褐色土                    | 匏磨き                   | 匏磨き?                                       | 灰黒色                    | 明黄褐色～灰褐色          | 1～3mmの砂粒多い         |                     |
|      | 4    | 79    | K8                            | 荒い匏磨き                 | 匏磨き?                                       | 暗褐色～灰黒色                | 黒色                | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 5    | 113   | 北半遺構検出                        | 撫で、二枚貝条痕?             | 丁寧な撫で                                      | 黒褐色                    | 灰赤褐色～灰黒色          | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 6    | 41    | K3西                           | 撫で                    | 丁寧な撫で                                      | 黒色                     | 淡灰色～灰黒色           | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 7    | 123   | P1                            | 撫で                    | 丁寧な撫で                                      | 灰褐色～黒色                 | 灰褐色～灰黒色           | 1mm以下の微砂粒          |                     |
|      | 8    | 46    | K3南                           | 撫で                    | 丁寧な撫で                                      | 黒色                     | 黒色                | 1mm内外の砂粒多い         |                     |
|      | 9    | 154   | 4Tr.                          | 丁寧な撫で                 | 丁寧な撫で                                      | 暗褐色                    | 灰褐色               | 1～5mmの砂粒多い         | 煤付着                 |
|      | 10   | 19    | K1・K4間黄褐色土                    | 撫で                    | 丁寧な撫で                                      | 灰黒色～黒色                 | 灰黒色               | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 11   | 60    | K5・K6間黄褐色土                    | 撫で?                   | 丁寧な撫で                                      | 灰褐色                    | 灰褐色～黒色            | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 12   | 156   | 4Tr.                          | 撫で?                   | 丁寧な撫で                                      | 明黄褐色                   | 明黄褐色              | 1mm内外の砂粒多い         |                     |
|      | 13   | 152   | 3Tr.黄褐色(砂質)土                  | 撫で?                   | 撫で?                                        | 灰黒色                    | 暗灰色               | 1mm内外の砂粒多い         |                     |
|      | 14   | 122   | P1                            | 撫で                    | 撫で、削り                                      | 灰黄褐色                   | 淡褐色               | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
| 第24図 | 1    | 56    | K3・K4間黄褐色土                    | 二枚貝条痕?                | 二枚貝条痕                                      | 暗褐色～黒褐色                | 灰褐色～灰黒色           | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 2    | 58    | K4東                           | 条痕                    | 匏磨き                                        | 灰黄褐色～灰黒色               | 灰褐色               | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 3    | 200   | 古墳石室周辺清掃                      | 二枚貝条痕?                | 二枚貝条痕?                                     | 明杯黄色                   | 明杯黄色～暗灰色          | 砂粒見えず              | 器表に小孔多い             |
|      | 4    | 85    | K10                           | 撫で                    | 撫で                                         | 灰褐色                    | 暗褐色               | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 5    | 22    | K1・K4間<br>黄褐色土                | 撫で                    | 二枚貝条痕?                                     | 暗灰黄色                   | 暗灰黄色              | 3mmの砂粒含むが<br>概ね微砂粒 | 器表に小孔多い             |
|      | 6    | 86    | K10                           | 二枚貝条痕                 | 匏磨き                                        | 暗褐色                    | 暗褐色               | 1～3mmの砂粒多い         |                     |

表3-2 縄文土器観察表



| 図番号  | 遺物番号 | 登録番号   | 出土遺構           | 外面調整           | 内面調整                   | 外面色調     | 内面色調     | 胎土                 | 備考                  |
|------|------|--------|----------------|----------------|------------------------|----------|----------|--------------------|---------------------|
| 第25図 | 1    | 38     | K3西            | 撫で             | 撫で                     | 灰褐色～灰黒色  | 灰褐色～黒色   | 1mm以下の微砂粒          |                     |
|      | 2    | 73     | K6・K7間<br>黄褐色土 | 二枚貝条痕          | 二枚貝条痕                  | 黄褐色～灰赤色  | 灰褐色～灰黒色  | 3mmの砂粒含むが<br>概ね微砂粒 |                     |
|      | 3    | 68・112 | K6南東脇・北半遺構検出   | 丁寧な撫で          | 丁寧な撫で                  | 灰褐色～灰黒色  | 灰褐色      | 1～3mmの砂粒多い         |                     |
|      | 4    | 69     | K6南東脇          | 丁寧な撫で          | 上半撫で、<br>下半二枚貝条痕?      | 暗灰色      | 灰黄褐色～暗灰色 | 1～3mmの砂粒多い         | 外面に煤付着              |
|      | 5    | 70     | K6             | 筥削り?           | 丁寧な撫で                  | 黄褐色～暗褐色  | 灰黒色      | 3mmの砂粒多い           |                     |
|      | 6    | 170    | 遺構検出           | 二枚貝条痕?         | 丁寧な撫で                  | 灰黄褐色     | 灰黄褐色～灰赤色 | 1～3mmの砂粒多い         |                     |
|      | 7    | 173    | 遺構検出           | 二枚貝条痕          | 二枚貝条痕                  | 黒色       | 黒色       | 1～2mmの砂粒多い         | 器肉は茶褐色              |
|      | 8    | 76     | K7             | 丁寧な撫で          | 丁寧な撫で                  | 灰黄色～灰黒色  | 灰黄色～暗灰色  | 1～3mmの砂粒多い         | 器肉は黒色               |
|      | 9    | 150    | 2Tr.周辺清掃       | 二枚貝条痕          | 丁寧な撫で?                 | 黒色       | 暗褐色      | 1mm内外の砂粒多い         |                     |
|      | 10   | 23     | K1・K4間黄褐色土     | 二枚貝条痕          | 丁寧な撫で?                 | 黒色       | 黒色       | 1～2mmの砂粒多い         | 器肉中心は暗灰色、<br>器表は暗褐色 |
|      | 11   | 137    | P4             | 二枚貝条痕          | 丁寧な撫で?                 | 灰黄褐色     | 灰黄褐色～灰赤色 | 1mm内外の砂粒多い         |                     |
|      | 12   | 80     | K8             | 二枚貝条痕          | 二枚貝条痕                  | 黒色       | 灰黒色～暗褐色  | 1～3mmの砂粒多い         |                     |
|      | 13   | 141    | P7             | 丁寧な撫で<br>二枚貝条痕 | 丁寧な撫で?                 | 暗褐色～黒褐色  | 灰褐色      | 1～3mmの砂粒多い         |                     |
| 第26図 | 1    | 165    | 北半黄褐色土         | 二枚貝条痕          | 二枚貝条痕                  | 暗褐色      | 灰黄褐色     | 1～3mmの砂粒多い         |                     |
|      | 2    | 164    | 北半黄褐色土         | 二枚貝条痕          | 二枚貝条痕                  | 黄白色～灰黒色  | 黄白色～灰黒色  | 3mmの砂粒含むが<br>概ね微砂粒 | 化粧掛け?               |
|      | 3    | 43     | K3西            | 二枚貝条痕          | 丁寧な撫で?                 | 灰褐色      | 灰黄褐色     | 1～3mmの砂粒多い         |                     |
|      | 4    | 66     | K6             | 筥磨き?           | 筥磨き                    | 暗褐色～灰黒色  | 灰赤褐色～灰黒色 | 1mm以下の微砂粒          | 珍しく金雲母含む            |
|      | 5    | 162    | K5・K6間黄褐色土     | やや粗い筥磨き        | 口縁部は筥磨き、<br>頸部以下は撫で?   | 暗褐色      | 灰褐色～暗褐色  | 1～3mmの砂粒多い         | 外面に煤付着              |
| 第27図 | 1    | 45     | K3西            | 粗い撫で?          | 丁寧な撫で                  | 灰褐色～灰黒色  | 灰黄色～灰黒色  | 1～5mmの砂粒多い         | 口縁部外面に煤付着           |
|      | 2    | 54・55  | K3             | 条痕の後撫で?        | 口縁部は丁寧な撫で、<br>体部は二枚貝条痕 | 暗褐色～灰黒色  | 暗褐色～灰黒色  | 1mm以下の微砂粒          | 黄肉は黒色               |
|      | 3    | 144    | P8・2号土坑・K4南清掃  | 二枚貝条痕・撫で       | 丁寧な撫で                  | 灰褐色～灰黒色  | 暗灰褐色～灰黒色 | 1～5mmの砂粒多い         | 珍しく金雲母含む            |
|      | 4    | 109    | 北半遺構検出         | 二枚貝条痕?・撫で      | 二枚貝条痕・撫で               | 暗褐色～灰黒色  | 淡灰赤褐色    | 1mm内外の砂粒多い         |                     |
|      | 5    | 146    | P9             | 二枚貝条痕・筥削り      | 丁寧な撫で                  | 灰赤褐色～灰黒色 | 暗褐色～灰黒色  | 1～2mmの砂粒多い         |                     |
|      | 6    | 27     | K2北遺構検出        | やや粗い撫で         | やや粗い撫で                 | 灰黒色      | 灰黒色      | 1～2mmの砂粒含むが<br>微砂粒 | 黄肉は灰褐色              |
|      | 7    | 148    | P11            | 二枚貝条痕          | やや粗い撫で                 | 暗褐色      | 灰黄褐色     | 1～5mmの砂粒多い         | 外面に煤付着              |
|      | 8    | 42     | K3西            | 二枚貝条痕          | 二枚貝条痕                  | 灰褐色～灰黒色  | 黒色       | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 9    | 149    | 2Tr.周辺清掃       | 丁寧な撫で          | 丁寧な撫で                  | 灰黄褐色     | 暗灰色      | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 10   | 116    | P1             | 筥削り            | 二枚貝条痕                  | 暗褐色      | 灰赤褐色     | 1～3mmの砂粒多い         | 外面に煤付着              |
|      | 11   | 87     | 1号溝            | 二枚貝条痕?         | 丁寧な撫で                  | 灰黄色～灰黒色  | 灰黄褐色     | 微砂粒                |                     |
|      | 12   | 53     | K3             | 二枚貝条痕?         | 丁寧な撫で                  | 灰黒色      | 黄褐色～暗灰色  | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 13   | 93     | 2号溝            | 撫で?            | 撫で?                    | 暗褐色      | 暗褐色      | 1～3mmの砂粒多い         | 外面に煤付着              |
| 第28図 | 1    | 74     | K6・K7間黄褐色土     | 二枚貝条痕          | 丁寧な撫で                  | 黄褐色      | 暗灰色～黒色   | 1～3mmの砂粒多い         |                     |
|      | 2    | 115    | P1             | 筥削り            | 丁寧な撫で                  | 灰赤褐色     | 暗灰色      | 1mm内外の砂粒多い         | 内面に焦げ付き多い           |
|      | 3    | 129    | P1下層           | 粗い撫で?          | 撫で、二枚貝条痕               | 暗褐色～黒色   | 暗灰色～黒色   | 1～3mmの砂粒多い         |                     |
|      | 4    | 20     | K1・K4間黄褐色土     | 二枚貝条痕          | 筥磨き?                   | 灰黄色      | 灰赤褐色     | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 5    | 59     | K5・K6間黄褐色土     | 二枚貝条痕          | 丁寧な撫で                  | 灰黄色～灰黒色  | 灰黄色～灰黒色  | 1～3mmの砂粒多い         |                     |
|      | 6    | 130    | P1下層           | 粗い撫で?<br>一部磨き? | 撫で                     | 暗褐色      | 灰褐色      | 1～5mmの砂粒多い         |                     |
|      | 7    | 39-1   | K3西            | 撫で?            | 撫で?                    | 黒色       | 灰黒色      | 1～3mmの砂粒多い         |                     |
|      | 8    | 39-2   | K3西            | 粗い撫で?<br>二枚貝条痕 | 撫で                     | 灰褐色～灰黒色  | 暗灰色～黒色   | 1～3mmの砂粒多い         |                     |
|      | 9    | 37     | K3西            | 粗い撫で?          | 撫で                     | 灰褐色～灰黒色  | 暗灰色～黒色   | 1～3mmの砂粒多い         |                     |

表3-3 縄文土器観察表

| 図番号  | 遺物番号 | 登録番号       | 出土遺構                  | 外面調整                        | 内面調整             | 外面色調             | 内面色調     | 胎土         | 備考      |
|------|------|------------|-----------------------|-----------------------------|------------------|------------------|----------|------------|---------|
| 第29図 | 1    | 160        | 遺構検出                  | 未調整                         | 撫で               | 灰黄褐色～暗褐色         | 灰黒色      | 1～5mmの砂粒多い |         |
|      | 2    | 136        | P4                    | 未調整                         | 撫で               | 灰黄褐色             | 灰黄褐色     | 1～5mmの砂粒多い |         |
|      | 3    | 81         | K8                    | 磨滅                          | 磨滅               | 灰黄褐色             | 灰黄褐色     | 1mm内外の砂粒多い |         |
|      | 4    | 25         | K2                    | 撫で                          | 撫で               | 灰赤褐色             | 暗褐色      | 1～3mmの砂粒多い |         |
|      | 5    | 75         | K7                    | 撫で?                         | 撫で               | 灰褐色              | 灰赤褐色～灰褐色 | 1～5mmの砂粒多い |         |
|      | 6    | 127        | P1下層                  | 撫で                          | 撫で               | 暗褐色              | 灰赤褐色     | 1～5mmの砂粒多い |         |
|      | 7    | 21         | K1・K4間黄褐色土            | 磨滅                          | 撫で               | 暗褐色              | 灰褐色      | 1～3mmの砂粒多い |         |
|      | 8    | 33         | K2北遺構検出               | 磨滅                          | 磨滅               | 灰赤色～暗灰色          | 灰黒色      | 1mm内外の砂粒多い |         |
|      | 9    | 138        | P4                    | 剥離?撫で?                      | 底部は未調整?<br>体部は撫で | 明黄褐色             | 暗黄褐色     | 1～3mmの砂粒多い |         |
|      | 10   | 198        | 古墳前面付近黒色土             | 撫で                          | 丁寧な撫で            | 灰黄褐色             | 暗灰色      | 1～5mmの砂粒多い |         |
|      | 11   | 124        | P1                    | 未調整?                        | 撫で               | 灰黄褐色             | 灰白色      | 1～3mmの砂粒多い |         |
|      | 12   | 31         | K2北黄褐色土               | 体部は撫で?                      | 撫で               | 暗褐色～灰赤褐色         | 黄白色～灰黒色  | 1～3mmの砂粒多い | 内面に焦げ付き |
|      | 13   | 147        | P10                   | 磨滅                          | 磨滅               | 灰赤褐色             | 灰黄褐色     | 1～3mmの砂粒多い |         |
|      | 14   | 114        | K1                    | 底部外周磨滅、<br>内側丁寧な撫で<br>体部は撫で | 全体に撫で            | 暗褐色              | 灰赤褐色     | 1～3mmの砂粒多い |         |
|      | 15   | 110<br>153 | 北半遺構検出<br>4Tr.東北隅黄褐色土 | 底部は未調整?<br>体部は粗い撫で          | 撫で               | 灰赤褐色土            | 灰黒色      | 1～5mmの砂粒多い |         |
|      | 16   | 126        | P1下層                  | 底面は丁寧な<br>削り、一部撫で<br>体部は条痕  | 丁寧な撫で            | 暗褐色              | 灰赤褐色     | 1mm内外の微砂粒  |         |
|      | 17   | 140        | P7                    |                             | 丁寧な撫で            | 暗褐色              | 灰黄褐色     | 1mm内外の微砂粒  |         |
|      | 18   | 111        | 北半遺構検出                | 全体に丁寧な撫で                    | 剥離?              | 底部付近赤褐色<br>以上は黒色 | 灰黒色      | 1mm以下の微砂粒  |         |
|      | 19   | 139        | P5                    | 全体に撫で                       | 撫で               | 灰黄色              | 灰黒色      | 1～3mmの砂粒多い |         |

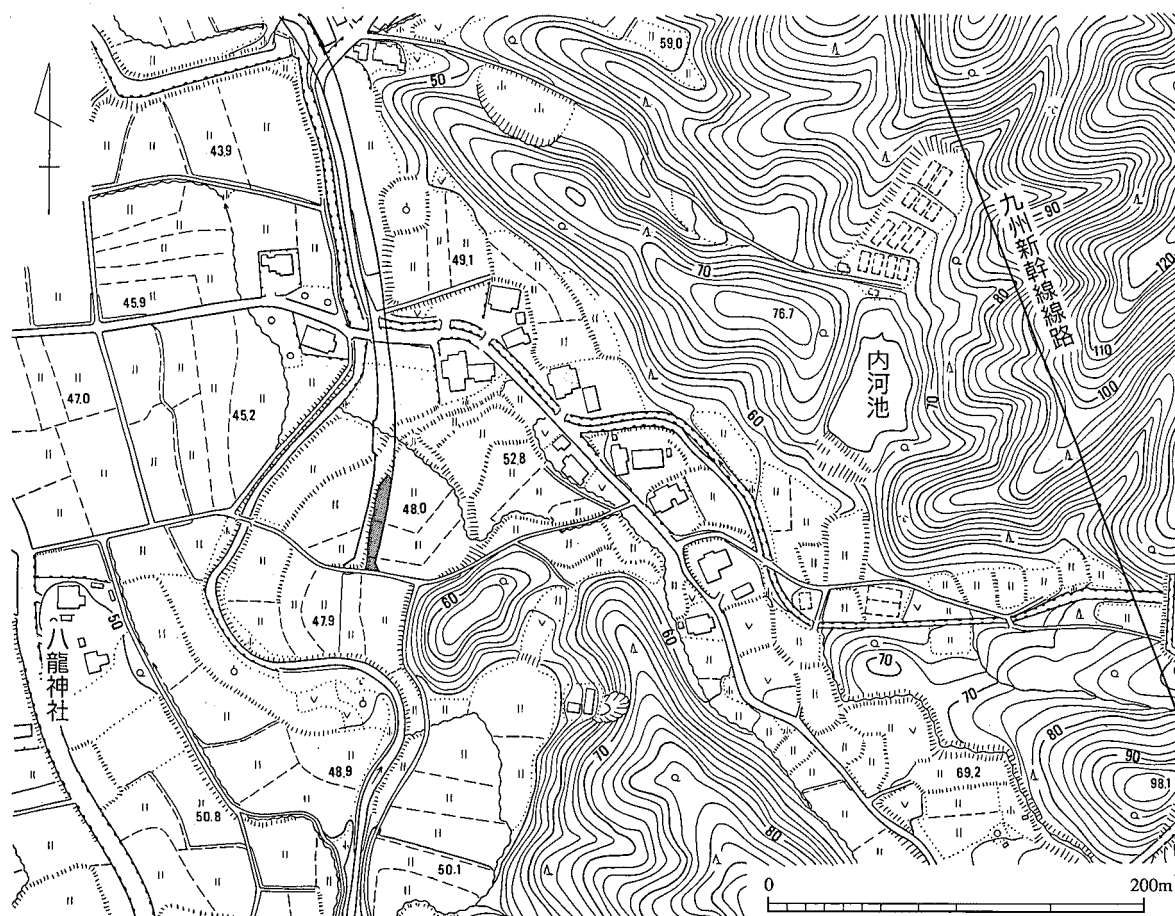
表3-4 縄文土器観察表

### 3 内河遺跡第1次調査

#### 1) 調査の概要

内河遺跡群は、筑紫郡那珂川町大字内河の山間の緩やかな斜面に位置しており、今回調査した地点は、梶原川東岸の南北に張り出した丘陵の間の標高48mの緩斜面に位置する。この緩斜面は段々に削平されて水田となっており、削平を免れた平坦面の先端部に遺跡が残っていた。路線内の調査地北側の下位の水田は試掘調査の結果、水田床土下は砂層で、梶原川の旧流路とわかった。大字内河225・226-1番地を調査対象地とした。

調査は排土を用地内で処理する必要があったため、南北に分割して調査することにし、平成16年2月12日から重機を入れ、南半分の表土剥ぎを行い、2月16日から作業員による遺構検出を開始した。2月19日に南半部の中世の遺構面の全体写真を撮影し、撮影終了後、縄文時代の遺物の集中する範囲を中心に、任意にグリッドを設定し、縄文時代の包含層の掘削を始めた。2月27日、グリッド設定範囲の南側に試し掘りグリッドを入れてみたが、遺物がほとんどなかったことから、グリッド範囲内を掘り上げ、無遺物層に達した。3月5日、高所作業車で南半部の全体写真を撮影する。



第32図 内河遺跡第1次調査区周辺地形図(1/4,000)

3月9日に実測を終了し、南半部を終了した。3月10日から北半部の掘削を開始し、11日から作業員による掘削作業を開始した。3月12日に中世遺構面の写真撮影を行い、縄文時代の包含層は時間の制約からグリッドを設定せずに掘り下げた。3月16日、縄文晩期の包含層下位の黄色土層から押型文が出土し、早期層があることが判明し、これを掘り下げた。無遺物層に達したため、期間内で下の段の流路をトレンチ調査した。3月24日、空中写真を撮影し、3月31日に埋め戻しを完了して撤収した。

調査区の南側は削平されており、遺構・遺物ともに見られなかった。調査区南端の町道柿ノ木田内河線建設の際に掘削されたようだ。調査区中央部西側には傾斜して中世～夜臼1式土器を包含する黒色土層が見られ、黒色土層の縁辺に黒川式土器の包含層が見られた。このことから、斜面に沿って堆積する夜臼・黒川式2枚の包含層が水平に削られていたことがわかった。調査区北半は南半よりも深く削平を受けており、黒色土層が完全に削られていた。黒色土層中には礫が集中していたが、熱を受けたものも見られないので、以上の状況から堆積層内の礫であり、集石遺構ではないと判断した。

にぶい暗黄橙色土は黒色土の影響を受けた黄橙色土の上位で、多くの遺物を包含する。下位は遺物が少なく、礫混じり土層はほとんど遺物を含まない。その下の粗砂層が完全に無遺物層であるが、そこに明黄色土を埋土とする落ち込み遺構が見られる。明黄色土は包含層としては存在せず、上面が粗砂層であることから、この粗砂層は洪水層であり、これに流されて深い落ち込みに溜まった部分だけが残ったものと思われる。

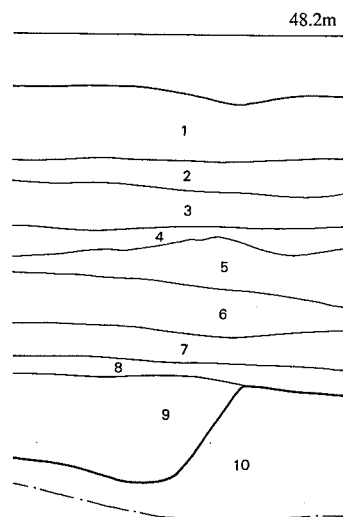
## 2) 中世の遺構と遺物

### 1号土坑 (図版22、第35図)

調査区南西端に位置し、西側を大きく削られている。平面長方形で、北側にテラスを持つ。長軸5.20m、短軸は現存で2.0mあり、深さは55cm程の規模の大きい土坑である。N-90°-Eを主軸とする。黒色土を埋土としていたため明瞭に検出された。土器・陶磁器はパンコンテナ1箱ほど出土しており、礫も多く混入しているが、遺物と一緒に捨てられたものだろう。土層ラインや平面プランに凹凸が多いが、遺構面中の礫が抜けた跡かもしれない。出土遺物から12世紀前半に比定できる。

### 出土遺物 (図版12・28、第33・36・37図)

小皿 いずれも遺存度50%以下の小片で、2種類ある。第36図1～5・8は、体部の外面をナデた後、内面を口唇部までナデているため、口唇部外端に稜ができる。復元口径は7.4～9.2cm、器高0.9～1.1cmで、黄白色を呈する。底部は板状圧痕の後、糸切りで、圧痕が明瞭に残るものが多く、特に1は凹凸が大きく、簾状を呈する。



1. 青灰色粘土(水田土壌)
2. 暗橙灰褐色粘土(床土)
3. 黒灰色土
4. 黒色土(中世包含層)
5. にぶい暗黄灰色土(縄文晩期包含層上層上位)
6. にぶい暗黄橙灰色土(縄文晩期包含層上層)
7. にぶい橙灰色土(縄文晩期包含層中層)
8. 暗淡灰色砂質土(中間層)
9. 明黄色土(縄文早期包含層)
10. 黄灰色砂質土(基盤層)

第33図 内河遺跡第1次調査区基本層序模式図(1/20)

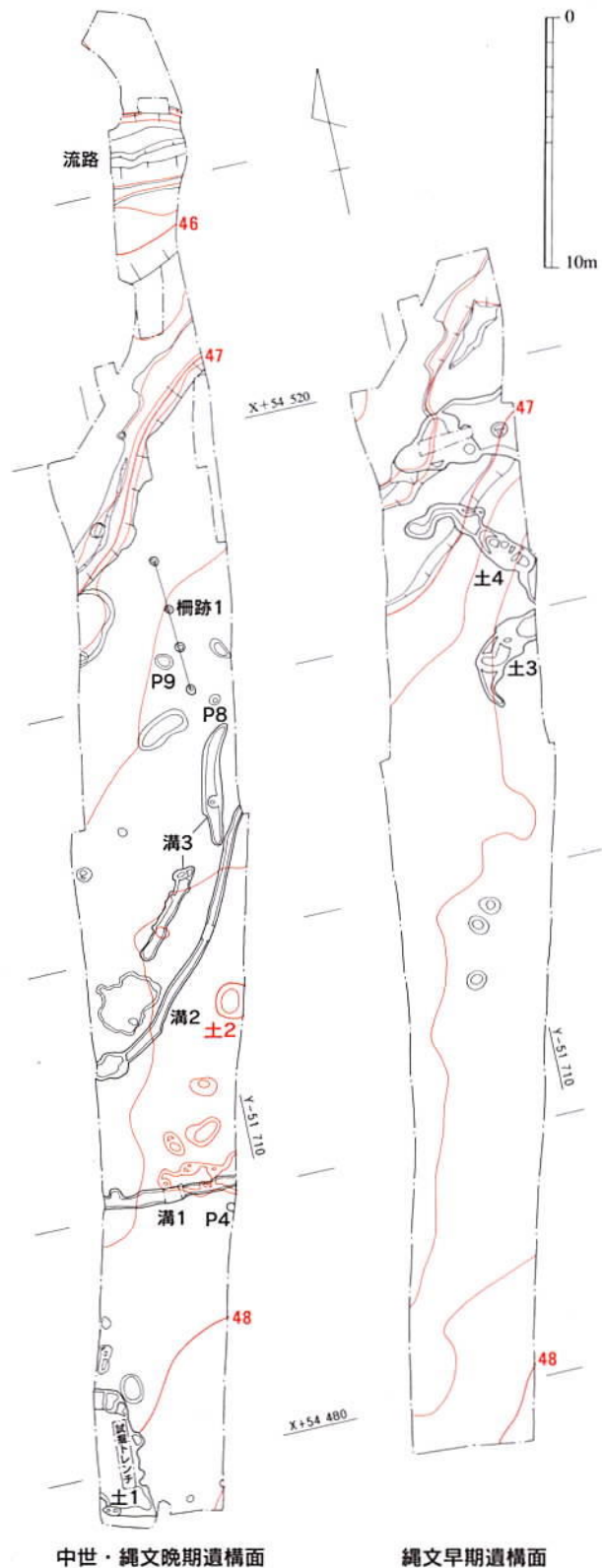
これに対して6・7は体部の内外を一度にナデたらしく、内面の体部と底部の接合部に窪みができる。復元口径は8.8と9.4cm、器高は0.9と1.1cmであり変わらない。底部も板状圧痕に糸切りで同じだが、圧痕は木目の間隔が狭く、付き方も浅い。

最も大きな差異は色調で茶橙色を呈する。

杯 第36図9・11・12は、体部下位の外面が窪んで器壁が薄くなる特徴を持つ。9は底部がわずかなため糸切りのみ確認できる。11は縦横に圧痕があり、一見すると網代状だが、横方向の圧痕が一直線につながっておらず、縦方向も不均一であることから、焼けて縦横にひびの入った板の圧痕ではないかと考えられる。12は板状圧痕の後、糸切り。色調はいずれも黄白色である。これに対して、第36図10は体部の内外を一度にナデたらしく、内面の体部と底部の接合部に窪みができる。底部の遺存度がわずかなため糸切りのみ確認できる。色調は茶橙色を呈し、小皿の6・7と調整方法も含めて同じである。

土鍋 第36図13は土師質の鍋で、口唇部にスタンプ状の列点文が入る。体部が内外ハケで、口唇部はナデ。暗黒褐色を呈し、外面は使用のため黒化している。胎土には砂粒を多く含み、特に長石の混入が多い。

瓦器椀 第36図14・15は法量のほとんど同じもので、復元口径16.8と16.6cm、器高は6.0cm、底部の法量は高台外端で復元径3.2～3.7cm、高台高は0.4～0.5cmとほぼ等しい。摩滅が著しく調整不明のことが多いが、15はケズリ状のナデの後にミガキ、胴下位に板状工具によるオサエが見られる。高台は貼り付けで、15は自重で歪んでいる。胎土はいずれも軟質精良。色調は埋土の鉄分の影響を受けて茶褐色に変色しているものがあるが、14・15・18は外面の口縁部から体部中位まで黒色で、内面は黄灰白色、第36図16は内外灰黒色、第36図17は外面灰色、内面黒灰色である。



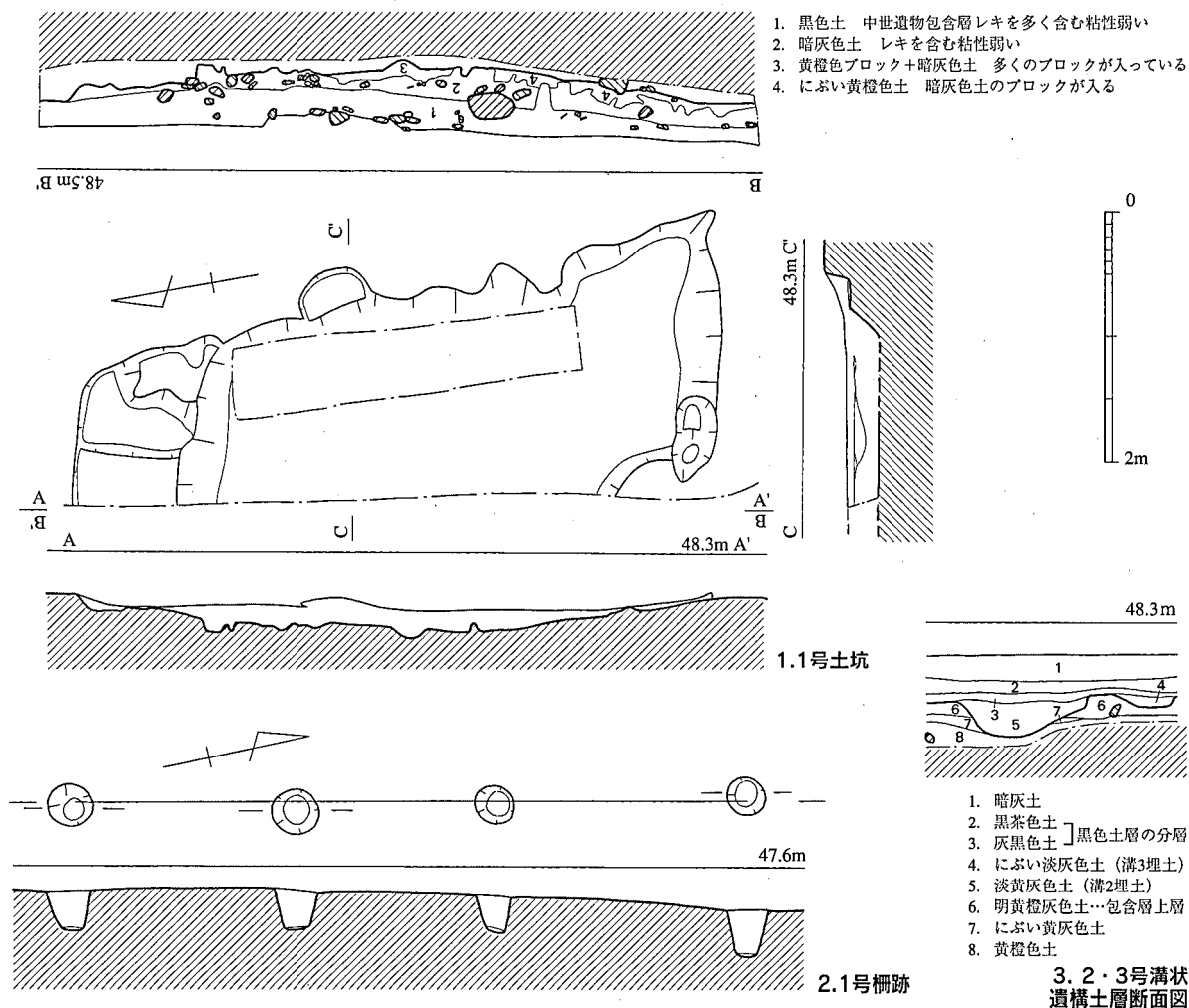
第34図 内河遺跡第1次調査遺構配置図(1/300)

須恵器 第36図20は壺の肩部で、耳の付いていた痕跡がある。色調は、外面は青灰色の上に自然釉が掛かっており、内面は灰色を呈する。胎は精良。第36図21は壺の底部で、復元底径10.5cmを測る。外面暗青灰色～黒色、内面青灰色、胎土は精良で白色粒子が入る。第36図22は甕の体部下位で、器壁は薄く、調整はナデのみで、タタキは見られない。外面は自然釉の釉垂れがあり黄灰色、内面と胎は橙灰色を呈し、焼成不良であることがわかる。胎土は精良でやや軟質。20～22は混入品だろうか。

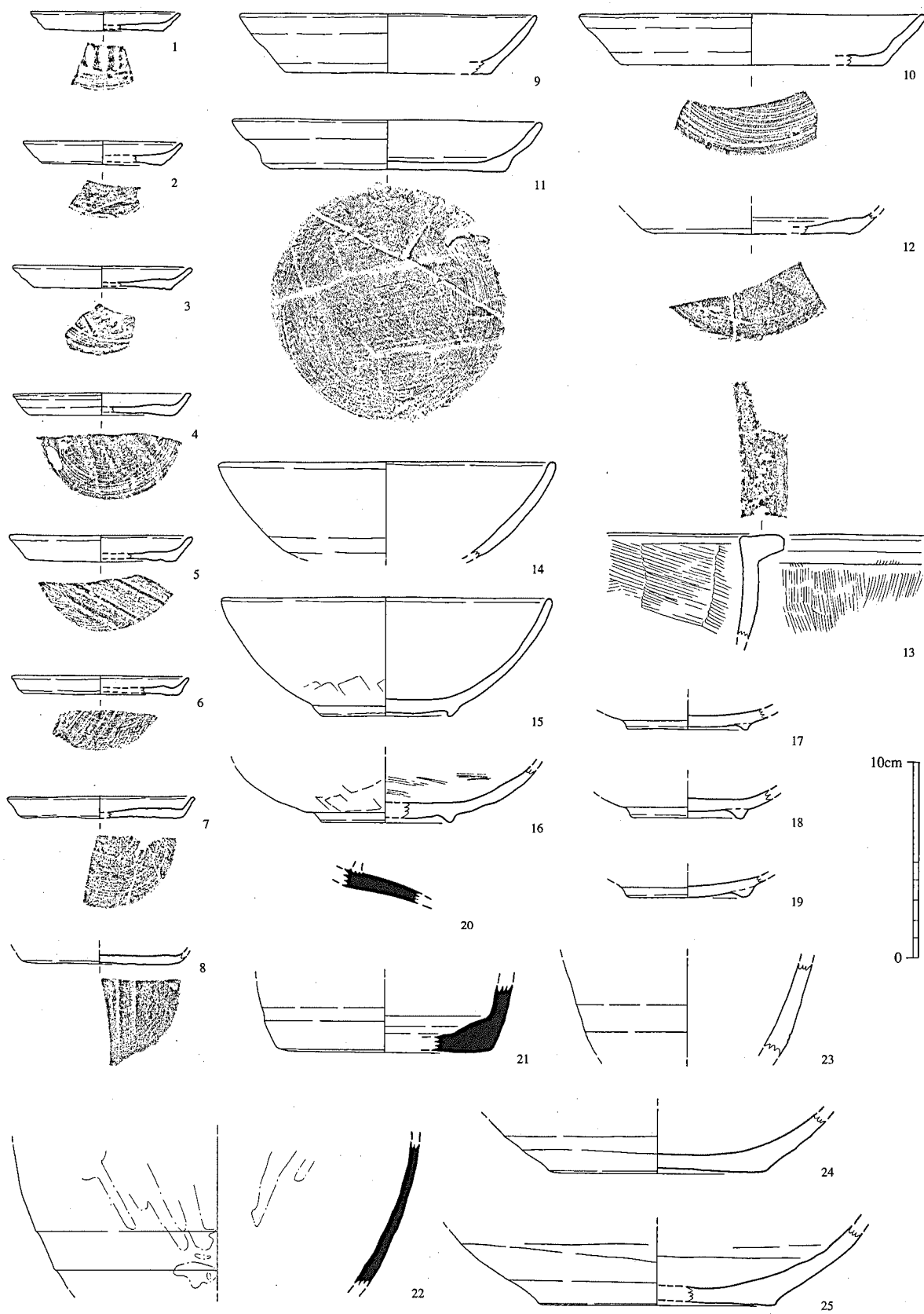
陶器瓶 第36図23は瓶の胴部片で、傾きと径から底部付近の胴下位の細長い瓶と考えられる。釉はかかっておらず、色調は内外にぶい灰黄色を呈する。中国製陶器である灰緑釉瓶の露胎部分の可能性が高い。

陶器鉢 第36図24・25は、内面の平滑なナデと白色粒子の混入が著しい胎土が特徴的である。24は外面にぶい灰褐色、内面橙灰褐色を呈する。25は色調が外面茶灰褐色、内面灰色を呈し、赤褐色までは達していないが、内面がよく焼けていることから器種としては鉢が想定される。25の内面見込みには褐色の釉溜まりがあるので、外面上位に褐釉が掛かっていたものと思われ、胎土の特徴と考え合わせると、中国製褐釉陶器の可能性はある。

白磁碗 第37図1～3は白磁碗Ⅴ－3・c類にあたる。胎は灰白色～黄灰白色。復元口径8.5cm～9.0cmを測る。第37図4は体部の傾きと高台の形状から白磁碗Ⅷ類で、復元高台径6.0cm。外面は露胎で、



第35図 第1遺構面中世前期遺構図(1/60)



第36图 1号土坑出土土器·陶磁器实测图(1/3)



胎は灰白色。第37図5は白磁碗Ⅳ類の底部で、外面にカンナ痕が残る。復元高台径7.0cm。胎は灰白色、釉は黄色味かかった灰白色で外面は露胎である。第37図6は高台の高さから白磁碗Ⅴ類の底部と考えられ、内面に小さな段がある。復元高台径6.0cm。外面は胴下位露胎で、胎は白灰色を呈する。

白磁皿 第37図7・8は見込みに蛇ノ目釉剥ぎがあり、白磁皿Ⅲ-1類にあたる。7は釉・胎とも橙黄白色を呈しており、8は灰白色を呈し、外面胴下位以下は露胎である。8が本来の色調で、7は焼成不良のために変色したものであろう。復元口径は7が5.0cm、8が4.8cm、器高は8が2.3cmを測る。

第37図9・10は、釉が黄味の強いオリーブ色で、内面は全面、外面は体部中位まで釉が掛かる。胎は暗灰色を呈する。内面の体部中位に沈線が入る。釉調は同安窯系に近いが、底径の大きさと無文であることから、白磁皿Ⅵ-1・a類にあたるものと考えられる。

青磁碗 第37図11は内面の草花文を片切彫でなく櫛目文で施したもので、龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2の亜種であろう。胎は焼成不良のため淡橙灰白色を呈する。

第37図12~14は体部外面にヘラ片切彫文が入る同安窯系青磁碗Ⅲ-1類である。12・13は内面にヘラによる文様が入る。釉は暗黄緑灰色。14は胴下位に粗いケズリが残る。釉は透明感のある暗緑灰色が厚く掛かり、釉上に砂粒が付着する。

第37図15~17は同安窯系青磁碗Ⅰ-1・b類で、内外に櫛目文を持つ。15は内面口縁下に界線は入る。釉はいずれも灰緑色で、胎は灰白色。

青磁壺 第37図18は胴部下位の小片で、外面は露胎部分にカキメが残る。黄緑色の釉が内面は全面、外面は下になるほど薄く掛かっている。胎は灰白色を呈する。体部外面は窪んでいるが、そこに目跡と見られる白色粘土が付着しているので、焼成時に窯道具が設置された痕跡とわかる。胎は灰白色を呈する。

第33図7は縄文時代の包含層から混入したもので、上端は調整剥離で平坦にしており、丁寧に全周加工する略方形の削器であろう。

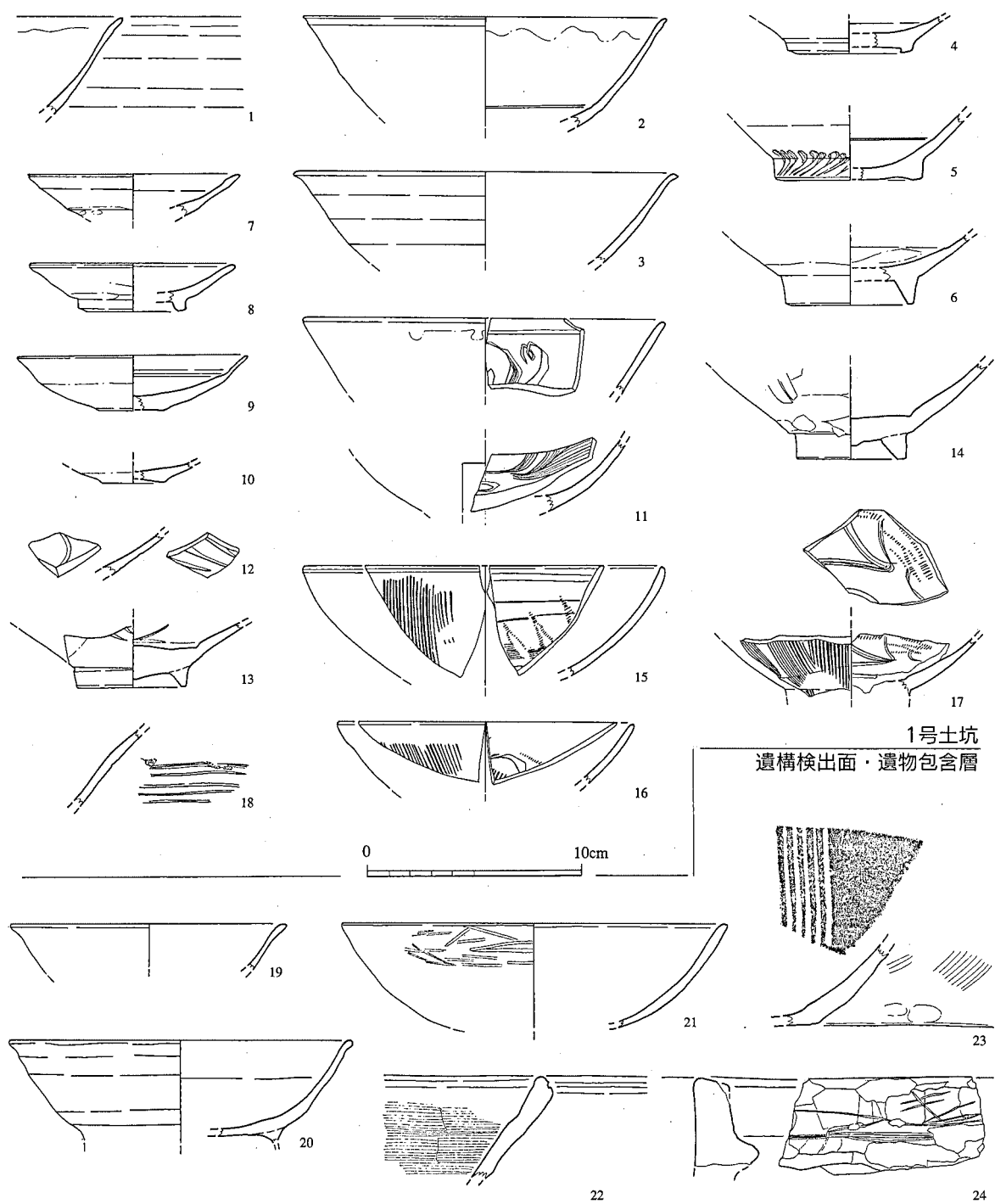
#### 1号柵跡（第35図）

調査区北部に位置しており、長軸5.40mを測り、東側に展開する掘立柱建物跡の可能性もある。柵跡の一部であるピット10からは押型文土器片が出土しているのみで、遺構に伴う遺物はない。N-2°-Wを主軸とする。

#### 包含層・遺構検出面出土の中世遺物（図版28、第37図）

土師器碗 19はh3グリッド上層出土の小型の碗で、復元口径12.6cm、内外ヨコナデ。色調はにぶい黄褐色で外面に黒斑あり。20は遺構検出面出土で、復元口径15.8cm、内外ヨコナデ。器壁の薄いやや外に開く高台が付く。色調は内外橙褐色で、褐色粒子を含む特徴的な胎土。年代は両者とも11世紀中葉前後。

瓦器碗 21は遺構検出面出土で、復元口径17.8cm。内外器面が摩滅しているが、外面の上位は口唇部までミガキが残る。口縁部は黒色で、それ以下は灰色。胎土は精良で軟質。年代は12世紀代か。



第37図 1号土坑・遺物包含層上層出土中世遺物実測図(1/3)

瓦質土器 22は遺構検出面出土の鉢で、外面は器面が剥離して調整不明。内面は目の細かいヨコハケ。口唇部がやや肥厚し、接合痕が沈線状に残る。内外灰黄褐色で、胎土は白色粒子が多くやや軟質。23は遺構検出面出土の摺鉢片で、外面はハケメ、底部との接合部にオサエ痕あり。内面には摺り目が入るが単位は不明。内面はあまり摩滅していない。土師質に近い軟質胎土であることから、摺鉢としては使用しなかった可能性が高い。年代は14～15世紀代か。

滑石製石鍋 24は包含層最上層の黒灰色土層から出土した。小片のため、正確に復元できないが、径は25cm前後になる。内面は平滑に仕上げられており、外面は加工時のノミ痕が残る。鐶の下欠損は工具で裁断されたものであるが、両側辺の欠損は割れ面であるので、胴部を再利用するために切断した残欠か、再利用の途中で廃棄されたものだろう。177.2gを測る。部分的に赤片があり、鐶の下に煤が付着している。口縁部がほぼ直立なので年代は12世紀後半代～13世紀前半。

### 3) 縄文晩期～弥生早期の遺構と遺物

調査グリッドは縄文晩期の遺物を包含する範囲に任意に設けたもので、遺物の出土状況を見ながら拡張した。

#### 2号土坑 (図版23、第39図)

調査区中央東部に位置し、調査区壁半分かかって検出された。平面円形で長軸135cm、短軸は現存で114cmあり、深さは62cmを測る。

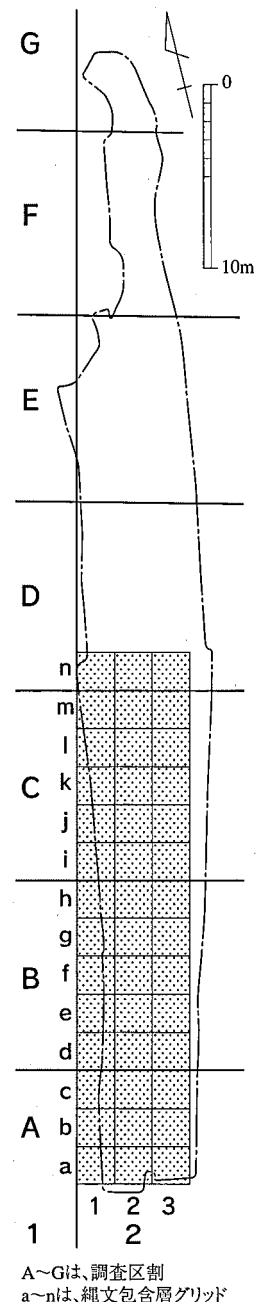
包含層上層の検出段階で礫と遺物集中部があり、竪穴住居跡を想定して1号竪穴遺構としていたが、掘り下げた結果、住居跡と断定できず2号土坑と改名した。

本土坑は土層断面から包含層中層から掘り込まれたことがわかる。埋土上位は包含層上層が入っていたため、上位の遺物は包含層上層のものが混入している。掘り下げると床面から浮いた状態で、土器のような板状の粘土塊がまとまって出土した。礫や土器の上に乗って出土しており、床面に貼り付いたものでないことは明らかである。

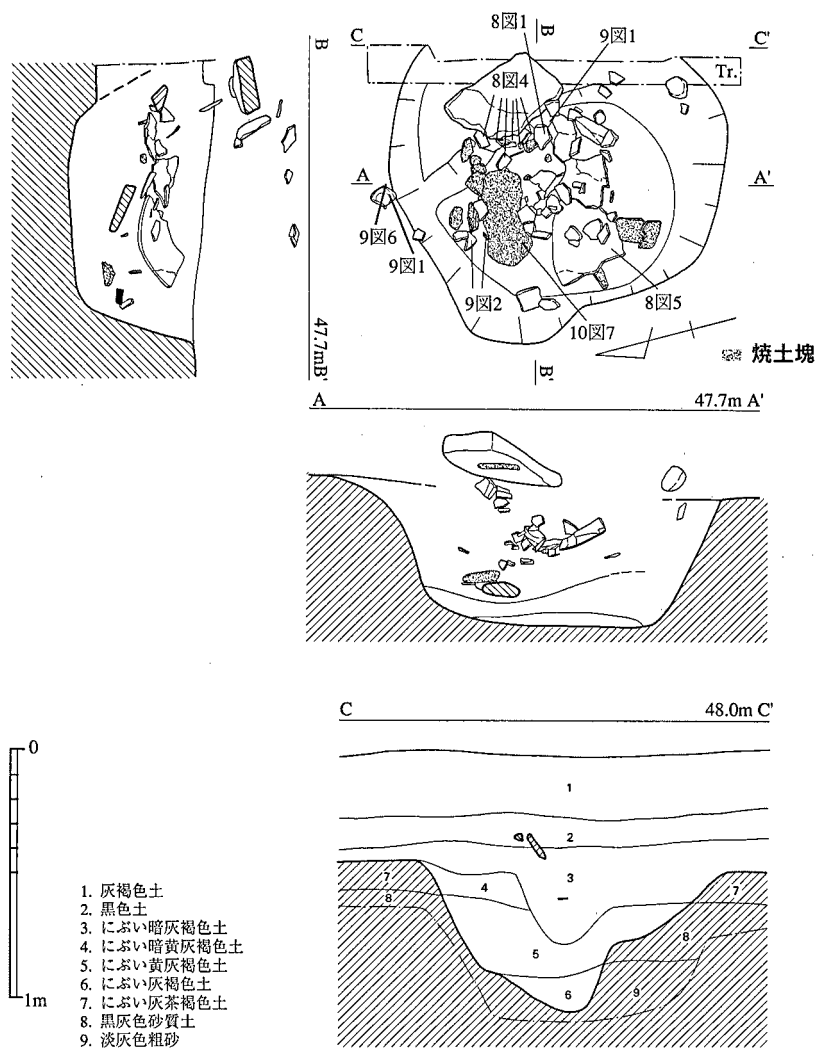
土坑の床面に焼けた痕跡がないことから炉ではなく、下位で出土した土器も土器炉として使用された痕跡はなく、個体数が多いことから廃棄されたものなので、本土坑は廃棄土坑といえる。

#### 出土遺物 (図版28・29、第40～42図)

土器 第40図2はマリ形の小型鉢であり、見込みに種子圧痕らしいものが見られる。栽培植物ではなく草の実と思われるが、鑑定は行っていない。第40図4は孔列文土器の浅鉢で、穿孔は中から外方向に行われている。第40図6は内面が丁寧に磨かれ、外面は条痕を残すので、第35図23・24・26のタイプの浅鉢である。第41図1は小片のため不確実だが、径30cm前後の浅鉢になる。第41図2・3は接合しないが同一個体の可能性が高い深鉢の肩部片である。肩部の沈線は刻目ではなく、条痕のナデ消されたものである。第41図4は補修孔をもつ深鉢で、肩部の屈曲は削り出



第38図 調査区割・グリッド設定図 (1/400)

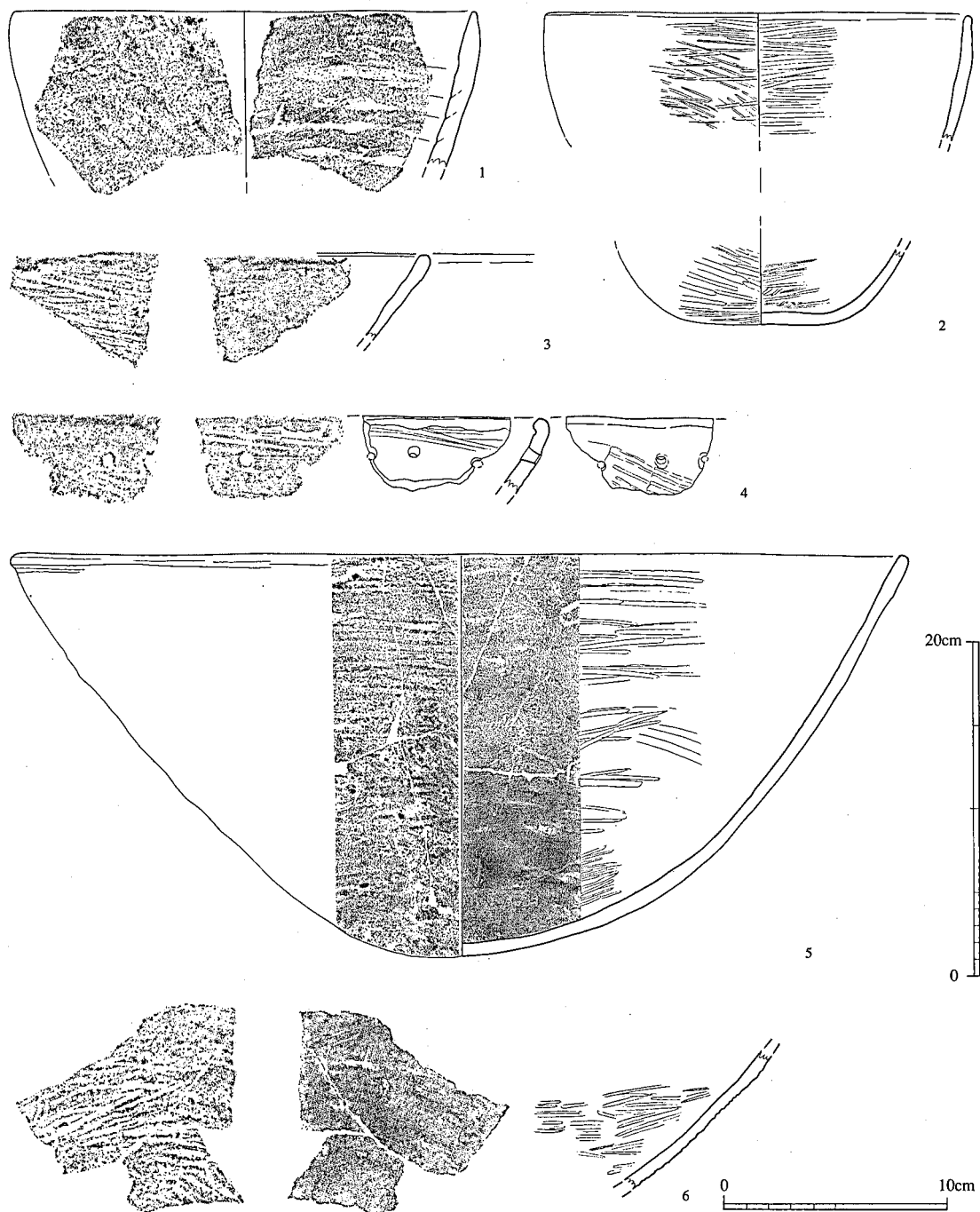


第39図 2号土坑実測図(1/30)

されたものである。第41図5は小片のため不確実だが、径13cm前後の小壺になる。

石器 第42図2は右側縁の刃部が下端で屈曲しているので、下端は欠損であろう。第42図3は片側に自然面を残す刃部をもつ削器である。第42図4は縦長剥片で、側縁に刃部が見られず、下縁にやや湾曲した刃部があることから搔器だろうか。第42図5は長方形に調整剥離した削器である。第42図6はラウンドスクレーパーだが、右側縁は刃潰し加工であり、下辺のみを刃部として使用している。第42図7の左側縁は調整剥離で、右上・右下に刃部を作っている。

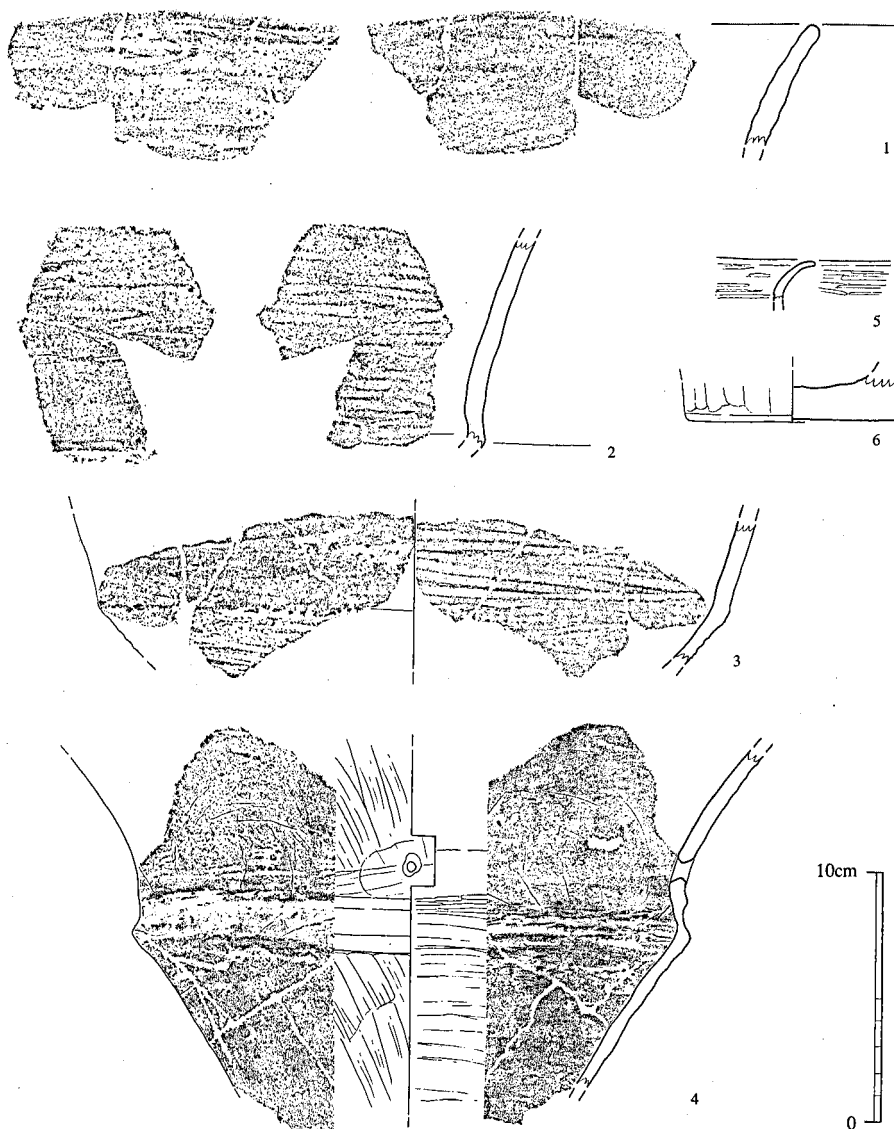
粘土塊 出土した粘土塊は焼けた平坦面と平坦面を持たず焼けていない面があり、平坦面には湾曲がほとんどない。大きいもので、15cm四方程度で、厚さは5cm前後である。粗砂を多く含み非常に軟質で、土器のように焼成されてないので、それ自体で機能するものではない。したがって壁体状のものと思われる。平坦面に湾曲がほとんどないことから球面を成していたものではなく、土器窯の壁体とするとかかなり大型のものを想定しなければならない。平坦面の裏側は接地していたものが剥がれたように見えることから、石囲炉の石を地面に貼るための粘土だったのではなかろうか。本遺跡の所在する台地は砂質土であることから、掘り込んだ炉の壁に石を固定するためには粘土が必要であっただろう。それを土器とともに廃棄したのではなかろうか。



第40図 2号土坑出土土器実測図1(5は1/4、他は1/3)

# ピット5 (図版22、第43図)

調査区中央に位置し、包含層の掘り下げ後に検出されたため、どの面から掘り込まれたかはわからない。径46cm、深さは20cmだが、上位の土器の出土状態から掘り込み面はまだ上位であったようだ。大きめの土器片が入っていたが、3個体分の土器片であったので、廃棄されたものと見られる。



## 出土遺物 (図版29、第44図)

1～3は法量、器形ともに似た深鉢だが、器壁の厚さと外器面の調整が異なっているので、別個体である。

3は胴中位まで黒褐色に変色しており、その使用による変色と思われ、変色の下端が水平であることから土器炉として埋設されていたことが想定される。内面の器面摩滅は使用によるものである。2・3の口縁部が黒灰色なのは焼成時のもの

だが、その上の光沢を伴った暗黒褐色の変色は煮沸時のふきこぼれと思われる。

4は深鉢の胴部片で調整は内外条痕。5は深鉢で、使用のため内面も炭化物が吸着して変色している。6はマリ形土器の鉢で、外面口縁部と内面下端に炭化物が付着しているが、煮沸した痕跡はない。廃棄時に付着したものであろう。

第41図 2号土坑出土土器実測図2 (1/3)

## 縄文遺物晩期～弥生早期包含層出土遺物

包含層上面には人頭大の礫が点在していたが、人為的に配置された状況も、火を受けた痕跡もなかった。また、包含層上面は北西に向かって傾斜しており、黒色土は北西に厚く堆積していた。なお、包含層は上・中・下の3層に分けたが、間層も大きな差異も見られなかった。

包含層下層出土遺物（図版29、第47・52図）

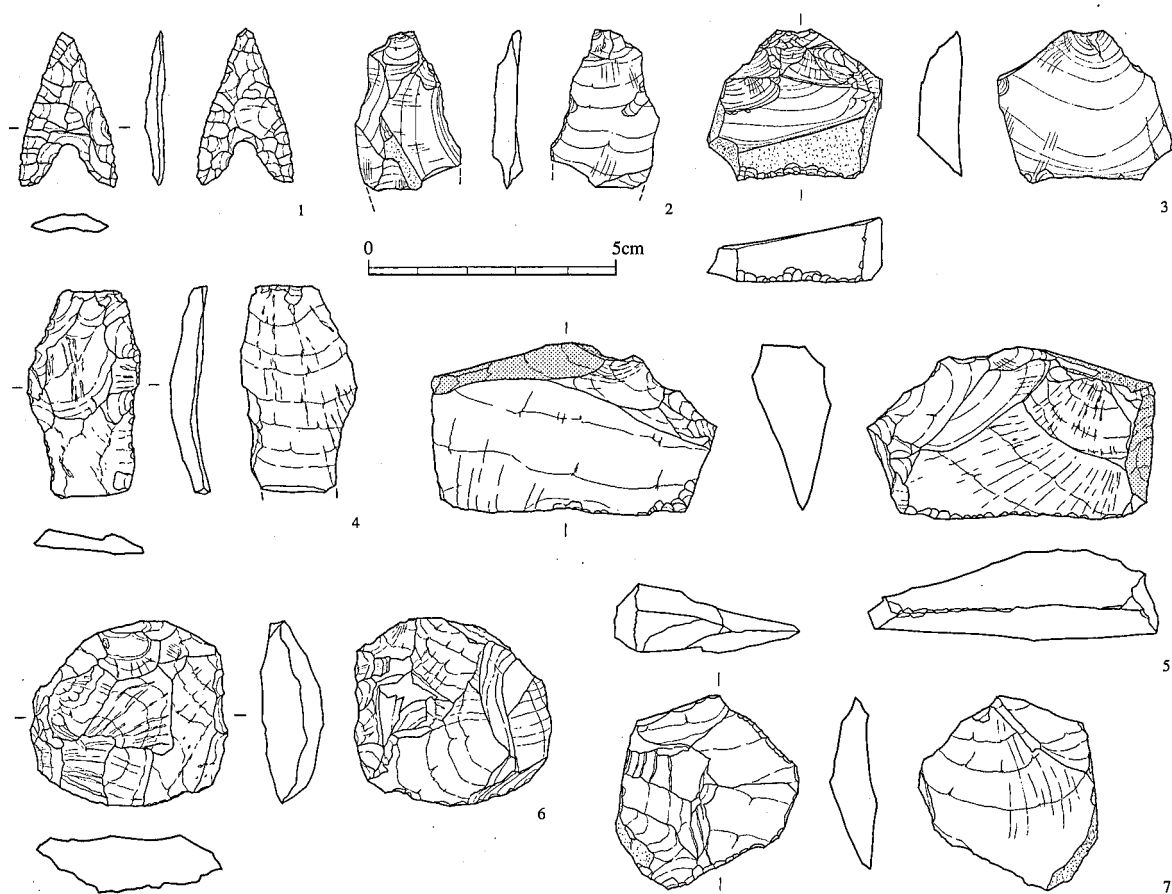
土器 第47図1は黒色磨研土器だが、黒褐色化していない。小片のため不明確だが、口径は約24cm前後の浅鉢になる。第47図2の深鉢口唇部の突起はその部分のみ幅が広く平坦面を持つことから、久山町堀田遺跡3号溝出土（第68図24）のものに近く、口縁部の鰭状突起の終末形態であろう。第47図3・5・4・16は色調や胎土、口唇部をナデて外反する点が類似する深鉢である。第47図7は平底の底部で外面に2次焼成の痕跡がないことから浅鉢の底部だろう。小片のため不明確だが、15cm前後に復元できる。第47図11は深鉢の肩部片で、肩部の平坦面は削り出しによるものである。

石器 第52図1・2は石錐で、先端が使用のため摩耗している。前者の上位は欠損面ではなく、本来の形状と考えられる。後者は錐部の磨耗が著しく、一見すると尖頭器にも見える。第52図6は原石皮剥ぎ段階の剥片の一部に刃を作ったもので、上端は古い剥離面で、調整剥離ではない。

包含層中層出土遺物（図版29・30、第47・52・53図）

土器 第47図12の器面のミガキはヘラの単位が見えないことから、皮や葉のようなもので仕上げられたものと思われる。小片のため不明確だが、口径は30cm前後になる。

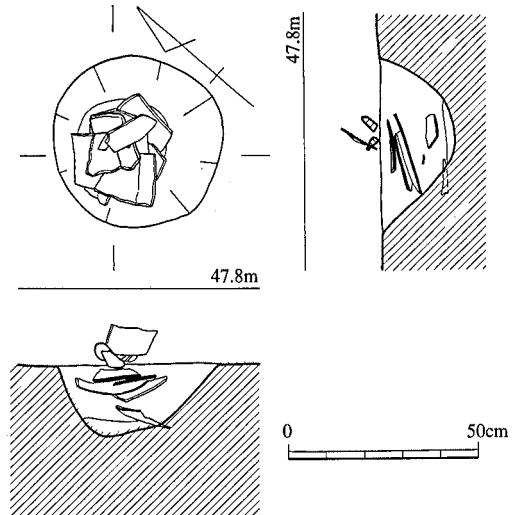
石器 第52図8は下端が欠損しているが、薄く略方形に全面加工していることからコンポジットツールのサイドブレードであろう。第52図13は形態的には長三角形の削器だが、刃部の成形が不十分なので未製品とした。第52図17は風化の著しい剥片で、縄文早期か細石刃核に伴う時期のもの



第42図 2号土坑出土石器実測図(2/3)



混入であろう。第53図2の右端欠損のため全体像がわかりにくい、左側縁は調整剥離されており、下端は刃縁が揃わないので上面に平坦面をもつ楔形石器の可能性はある。第53図3は古い剥離面を残しているが、その剥離面の風化が著しいことから、原石の一部と考えられる。第53図5は下端にのみ刃を作っており、剥離面の風化が著しいところは原石の素面であり、その他は調整剥離。第53図6は下端を調整剥離して厚く湾曲する刃部を形成している、搔器である。第53図7は右端の欠損面を含めて表面の風化が著しいことから、原石の一部であろう。第53図8は原石から粗割りした剥片の剥離面を周縁から加工したもので、サヌカイト製であることから大型スクレーパーの未製品だろう。



第43図 ピット5実測図(1/20)

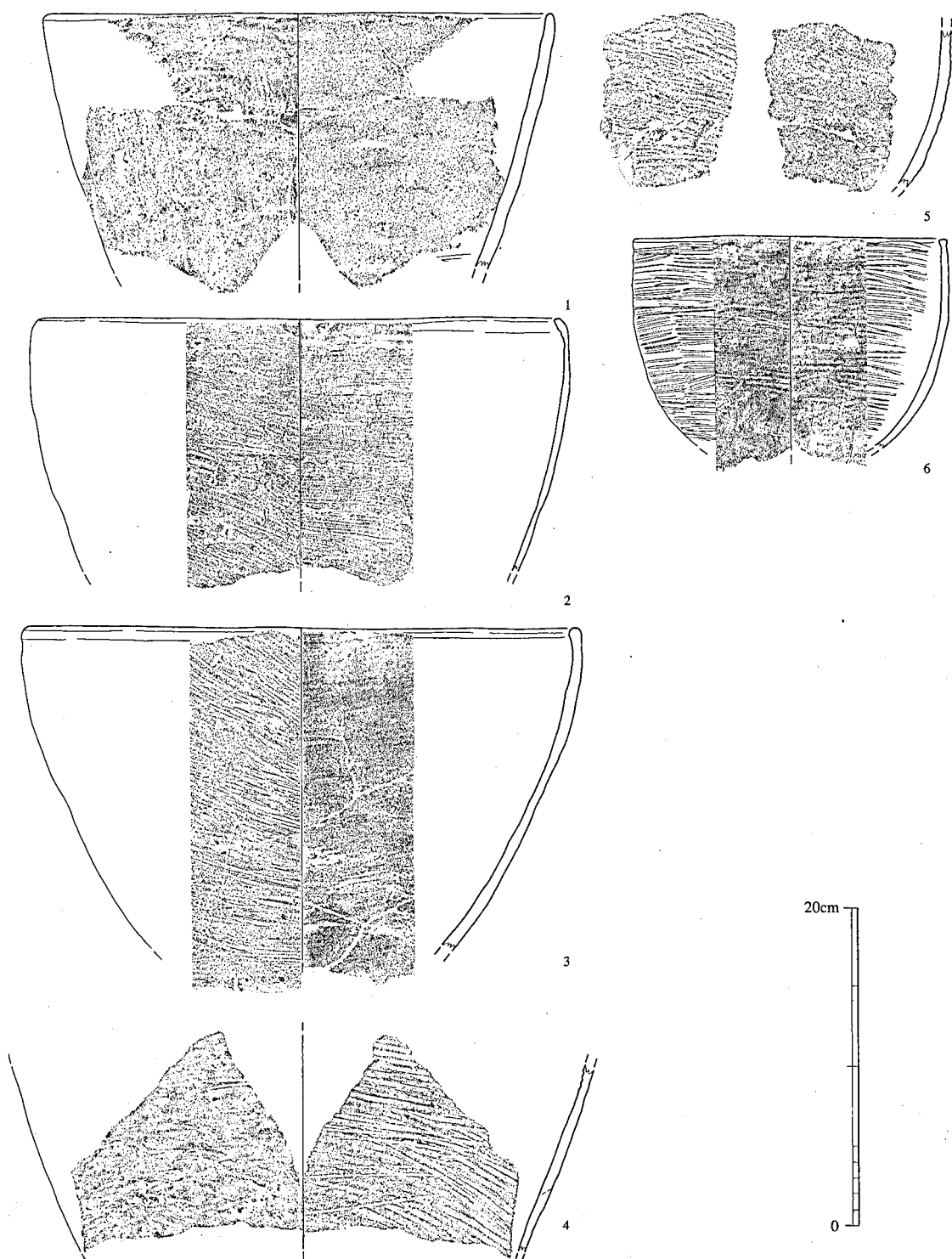
う。第53図9の側縁は調整剥離されており、上辺の両端は意図的に角が作られている。玄武岩製であることから打製石斧の可能性が高い。

#### 包含層上層出土遺物（図版29～31、第48～51・54～56図）

土器 第48図10は肩部が丸く張る浅鉢の胴部と頸部の接合部で欠損したものである。第48図12は小片のため不明確だが胴部径で18cm前後になり、口縁部の突帯の一部が残っていることから、後述編年図1（第65図）52～54にあたる壺である。第47図14と第49図1・2は5条単位の櫛目状の条痕が酷似している。第49図5は4本単位で、第49図1・2・5は1本の沈線が深く、ナデ消されていないので、文様的に見える。特に5は深鉢口縁部の多条沈線が退化したものであろう。

第49図6は口縁部の歪みではなく、後述土器編年図2（第66図）12にあたる波状口縁の浅鉢である。傾きは不確定だが、内面がミガキで、外面に条痕を残す。第49図7は半裁竹管状の工具によるケズリであろう。第49図8は5条単位の櫛目状の条痕で、第49図1・2に酷似している。第49図9は同一個体の可能性が高いものとしてm4グリッド上層から出土した3個体を1つに図化している。器面調整が粗く、粘土塊が付着している。第50図1は小さな突起がつく深鉢の口縁部片で、後述土器編年図2（第68図）8にあたる。外面に炭化物が広く付着している。内面は器面の荒れや変色がなく、煮沸使用によるものか不明。口唇部にわずかな突起があるが、口唇部の調整の際に偶然できたものともとれるが、波状口縁の退化したものの可能性もある。第50図2の外面調整はミガキのようだが、ミガキの単位がなく、ナデとした。第50図3は外面口縁部に径3mmの円形の窪みがある。内面側には窪みに対応した突起がないことから刺突によるものではなく、混和材の砂粒が落ちた跡と判断した。第51図1・3・4は刻目突帯文の甕で、第51図2は1と同一個体の可能性が高い。

第51図1と4は口縁部が黒色に変化している。第51図2も上部に黒変が見られ、同一個体の可能性はある。第51図5はm1グリッド上層出土だが、同一個体と見られる破片がjk3グリッドとk4グリッドの上層とj1グリッド中層から出土している。外面にミガキがあることと、中層からも出土していることから、本来中層に属するものであろう。第51図6は、同一個体と見られる破片がn4グリッド



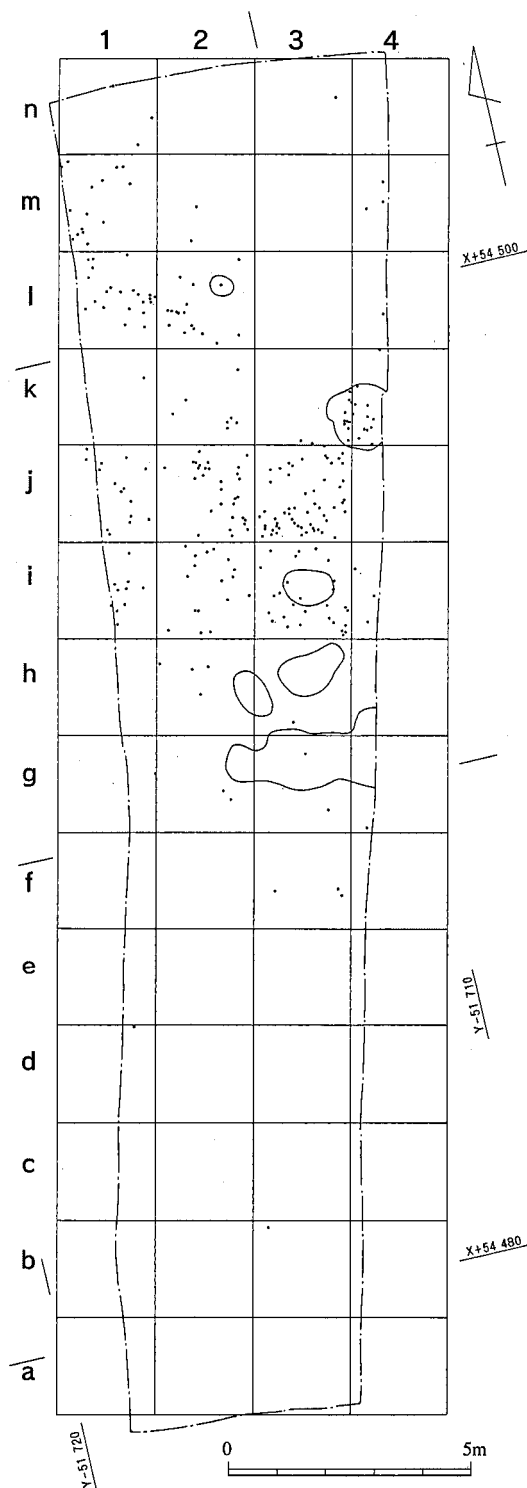
第44図 ピット5出土土器実測図(1/4)

上層からも出土している。外面調整から黒川式新段階～夜臼式期の可能性が高い。第51図9は5号土坑土層断面の5層から出土したもので、包含層上層に当たる。14は外底に条痕が入る。

第51図16～18は弥生土器で、16は弥生中期中葉の小型甕の口縁部で、内外ナデ。内外灰黄色を呈する。17・18は弥生中期後葉の甕の底部で外面はタテハケが底部に達し、内面はナデ。胎土は長石が多い。17は4・5号土坑の壁面土層の5層（にぶい暗黄灰色土層＝遺物包含層上層）から出土したもので、復元底径は8.0cm。色調は外面橙褐色、内面にぶい灰黄褐色で、使用による変色と思われる。18はi 4グリッド包含層上層出土で、外面橙黄褐色、内面灰黄褐色で、使用による変色と思われる。第51図19はヘラ記号入りの須恵器杯身に当たり、TK27併行期に当たり、混入したものである。

石器 第54図2は先端欠損後、調整剥離して先端を尖らせて再利用している。第54図3は完形の石鏃で、全面風化している。第54図4は石錐で古い剥離面を2面残している。第54図5は縦型の石匙で、全面風化している。第54図6はサヌカイト製で、全周加工していることから、縦長剥片を横にして作った石匙の先端部分であろう。全面風化している。第54図7は上下端が欠損する削器で、右側縁に角がつき茎部を形成する可能性が高い。第54図8は下端欠損で、右側縁を刃として使用している。第54図9は右側縁を刃部として使用しているの、内湾刃の削器である。第54図10は、使用剥片とされることが多いが、後述石器変遷図3（第42図）のように、先端を尖らせた部分は彫器として使用でき、刃部は削器として使用したと考えられる。第54図11は、後述石器変遷図3（第73図）のように、上端の突起部と側縁を刃潰し加工して、挟り部を2つ設けてその間を突出させ彫器の刃部として使用し石錐として使用している。第54図12は風化が著しい細石刃核で、剥出される細石刃は採集されなかった。石核両側の調整加工は入念であり、自然面や主剥離面を残していない。いわゆる楔形細石刃核である。平面形態や打面調整の方向など春日市門田遺跡に類例がある。

第54図13～15は削器であろう。13は右側縁に角を持ち、角から下を刃部とし、上は刃潰ししている。



第45図 遺物包含層グリッド出土遺物水平分布図(1/150)

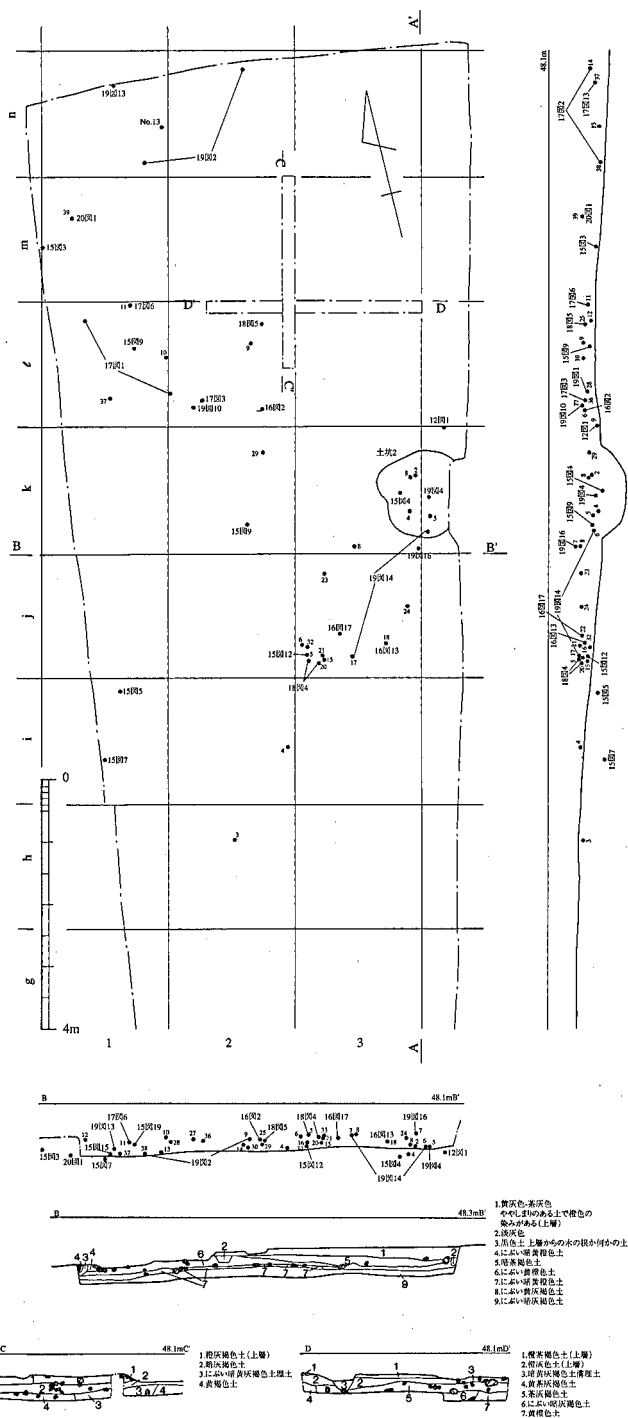
左側縁には刃がなく、上端は丸く調整されているので、角から上が基部である。14は非常に薄く、明瞭な刃部がない。サイドブレードの可能性を残す。15は右側縁に角を持つが、13と異なり、角の上下両方に刃がついている。左側縁は刃潰ししているのので、角を利用しつつ2辺とも刃として使用したものと思われる。

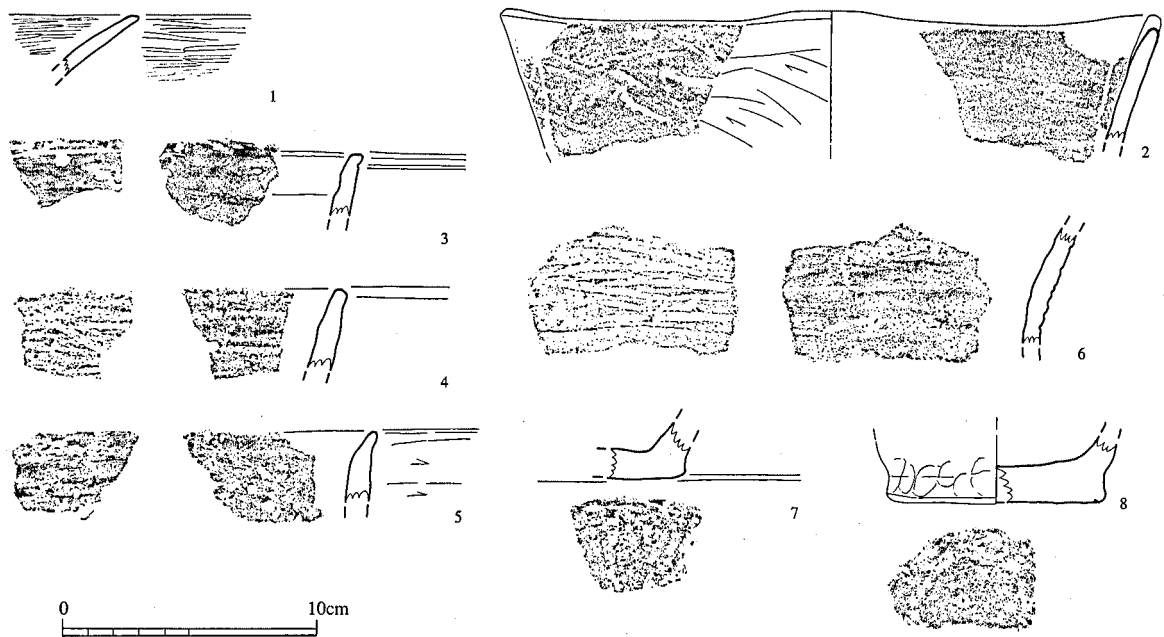
第54図16は使用痕の残る剥片で、表面の古い剥離面3面をそのまま利用している。第54図17は下位に古い剥離面を残す。左側縁を刃部とする。第54図18は上端部を刃部とするが、刃縁が直線ではなく作りが粗い。下端面は平坦で、側面も平坦であることから楔形石器といえる。第54図19は中央に稜を持つ縦長剥片を利用し、両側縁を刃部とした削器であろう。下端は調整剥離が見られるので、欠損ではない。

第55図9～11は石核で、上面を基調としつつ打点を転移させながら小型の不定形剥片を剥ぎ出しており、部分的に古い剥離面をもつ。第55図12は、上下端面以外は古い剥離面で、一見すると尖頭器の上下端が欠損したものに見える。古い石器を再利用したものかもしれないが、風化が他の石器と比べて著しく、ここでは原石に近い石核とする。

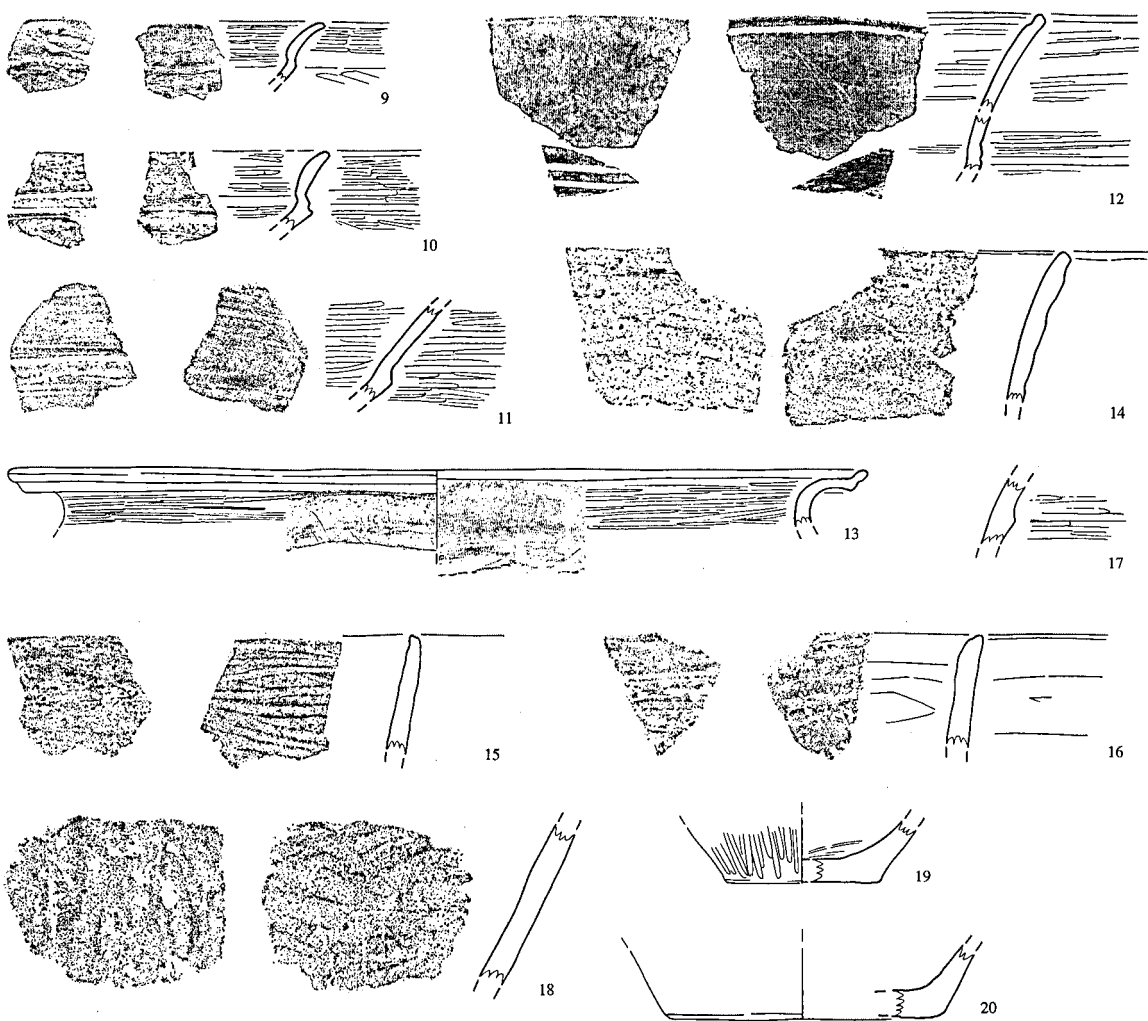
第55図13は完形の局部磨製石斧で、側面に装着のための調整剥離と緊縛痕らしい摩擦した窪みがある。第55図14は風化が著しい磨製石斧で研磨痕が観察できない。第55図15は不純物が入る凝灰岩製の磨製石斧の刃部片である。

第56図1の左下端は古い剥離面であり、刃部ではない。下端に刃を作る途上のものである。第56図2は原石から粗割りした剥片の剥離面を周縁から加工したもので、サヌカイト製であることから全周加工の削器の未製品ではなかろうか。第56図3はサヌカイト製の幅の厚い横長剥片で、両側面を均等に剥離して台形を呈していることから、大型削器か横型の石匙未製品かもしれない。



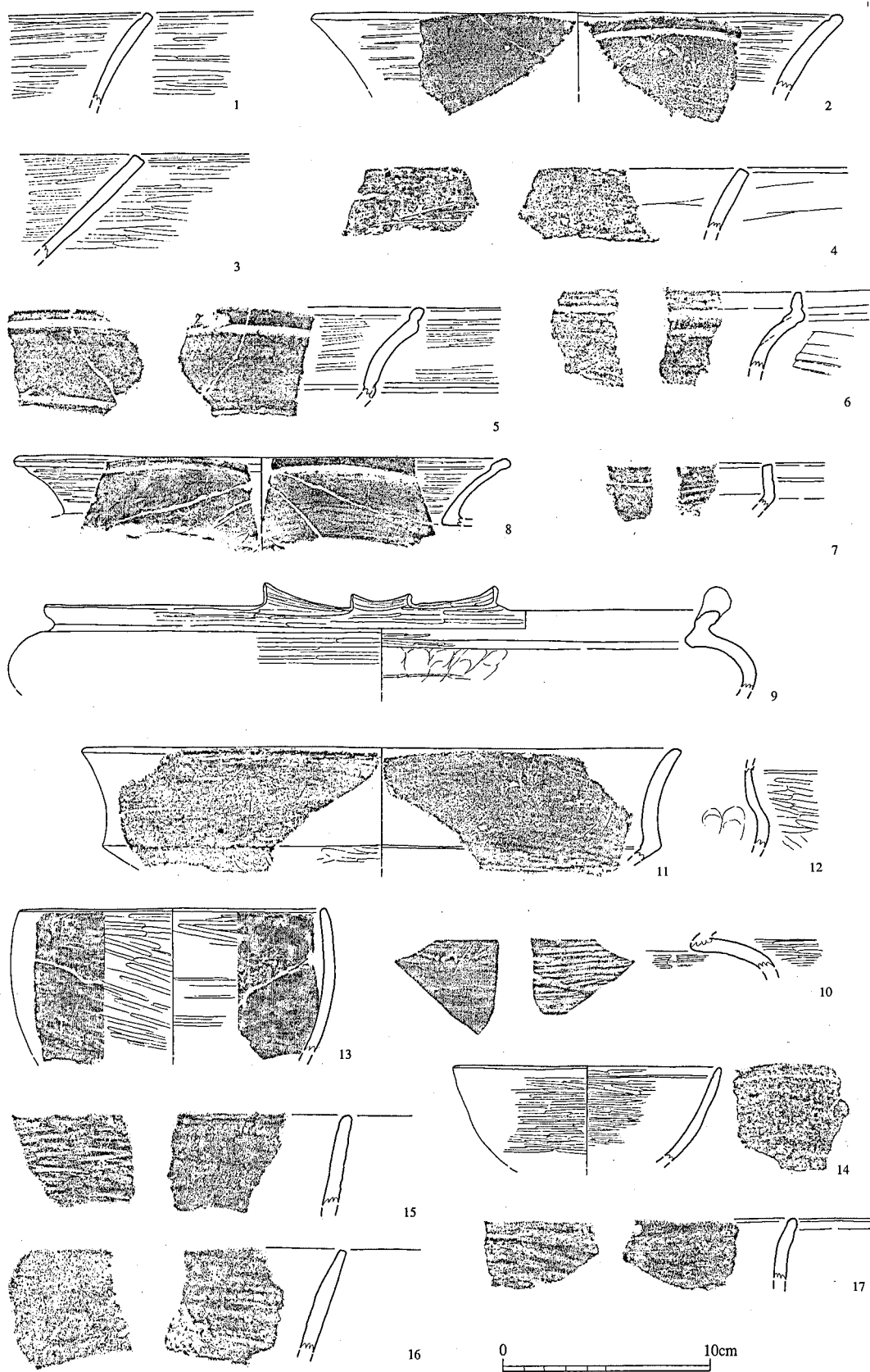


グリット下層出土土器



グリット中層出土土器

第47図 遺物包含層下・中層出土土器実測図(1/3)

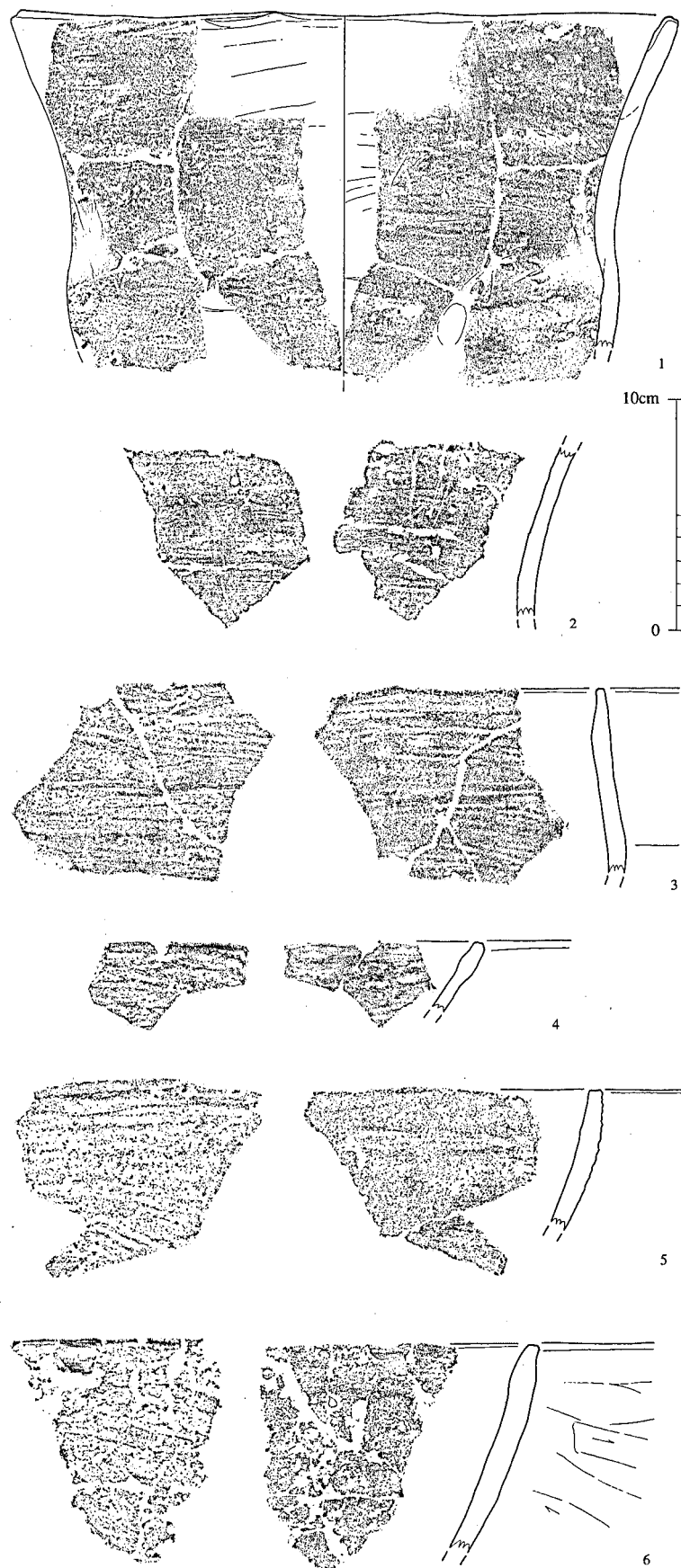


第48図 遺物包含層上層出土土器実測図1(1/3)

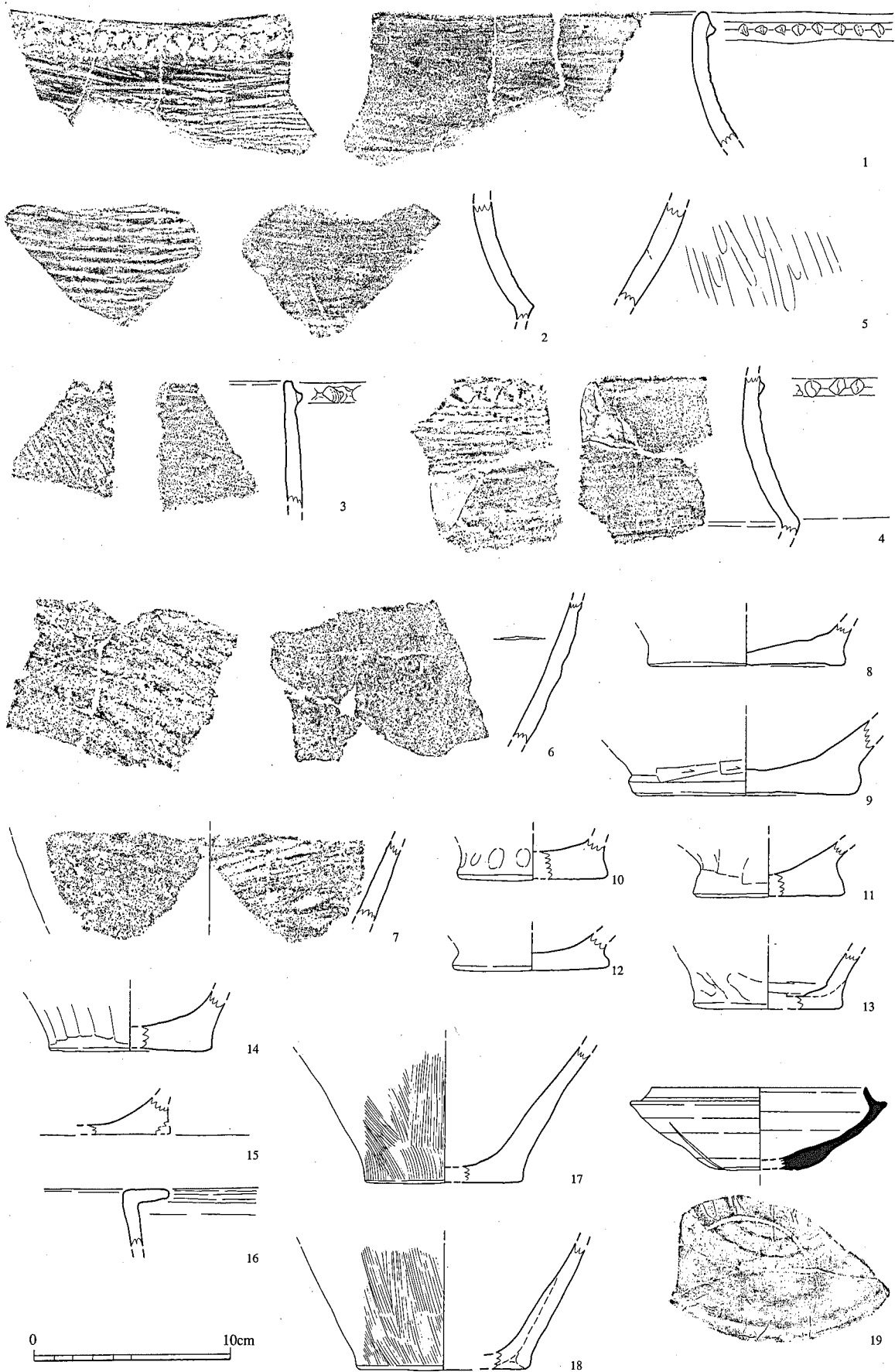


第49図 遺物包含層上層出土土器実測図2(1/3)

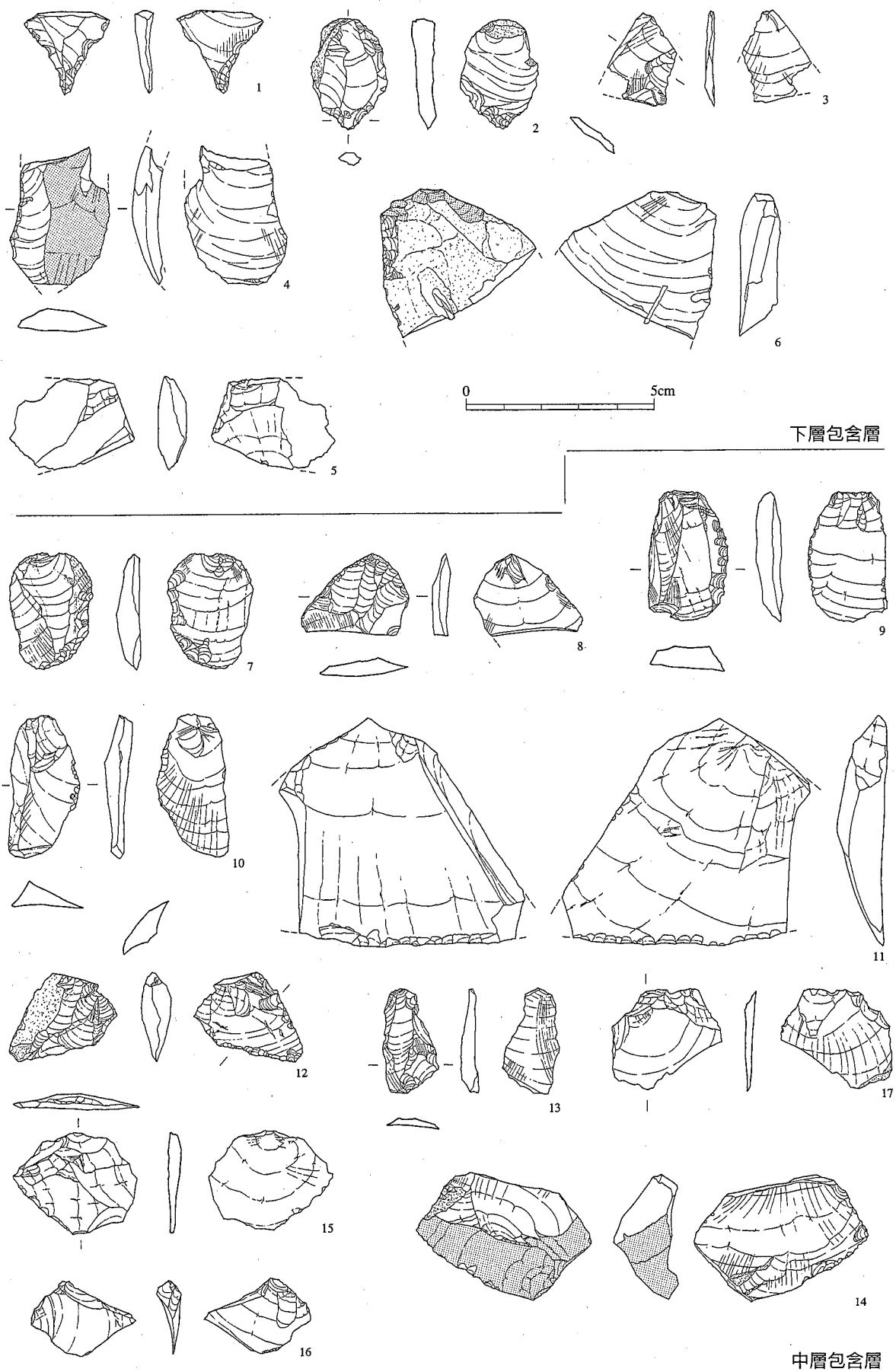




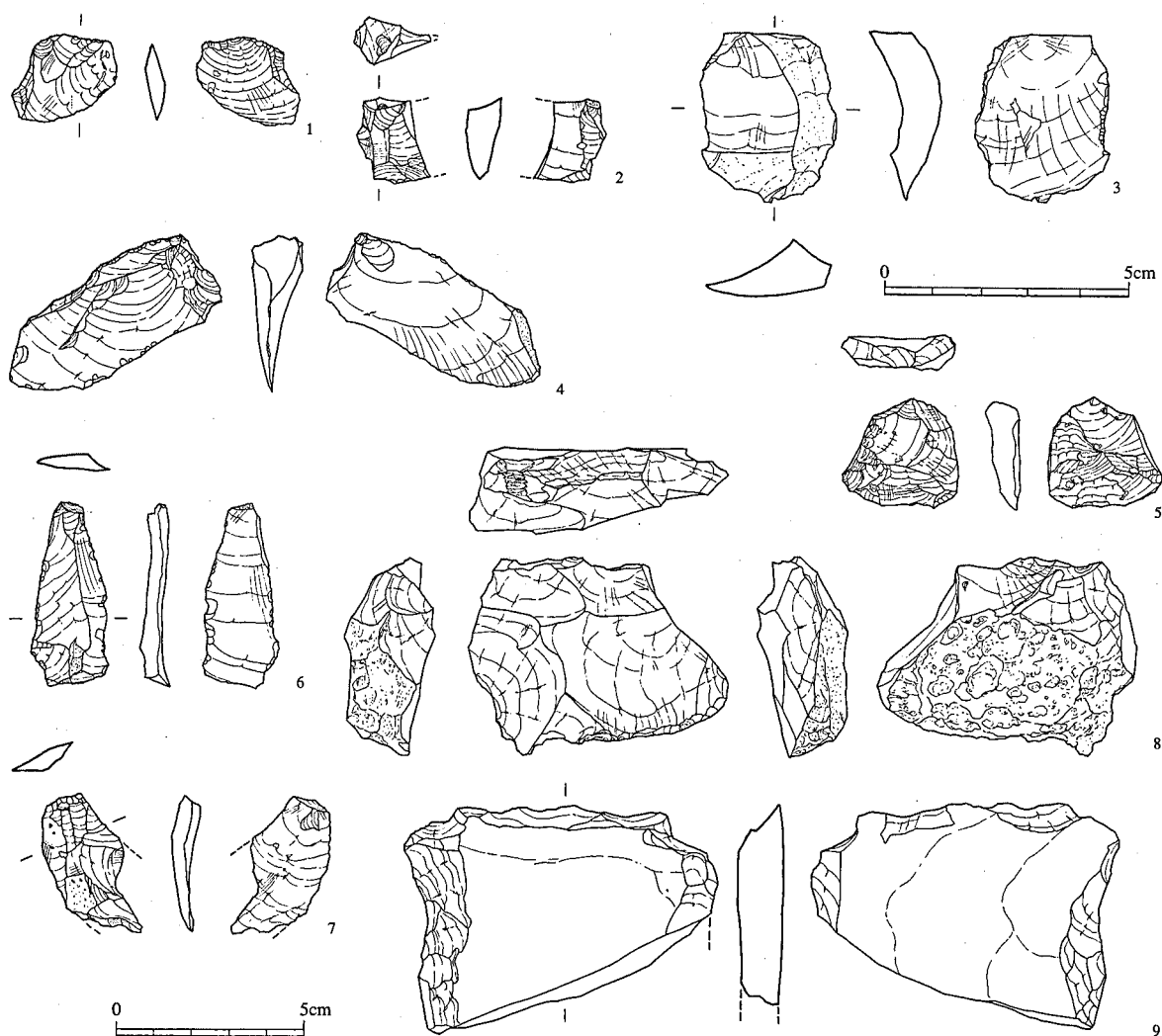
第50図 遺物包含層上層出土土器実測図3(1/3)



第51図 遺物包含層上層出土土器実測図4(1/3)

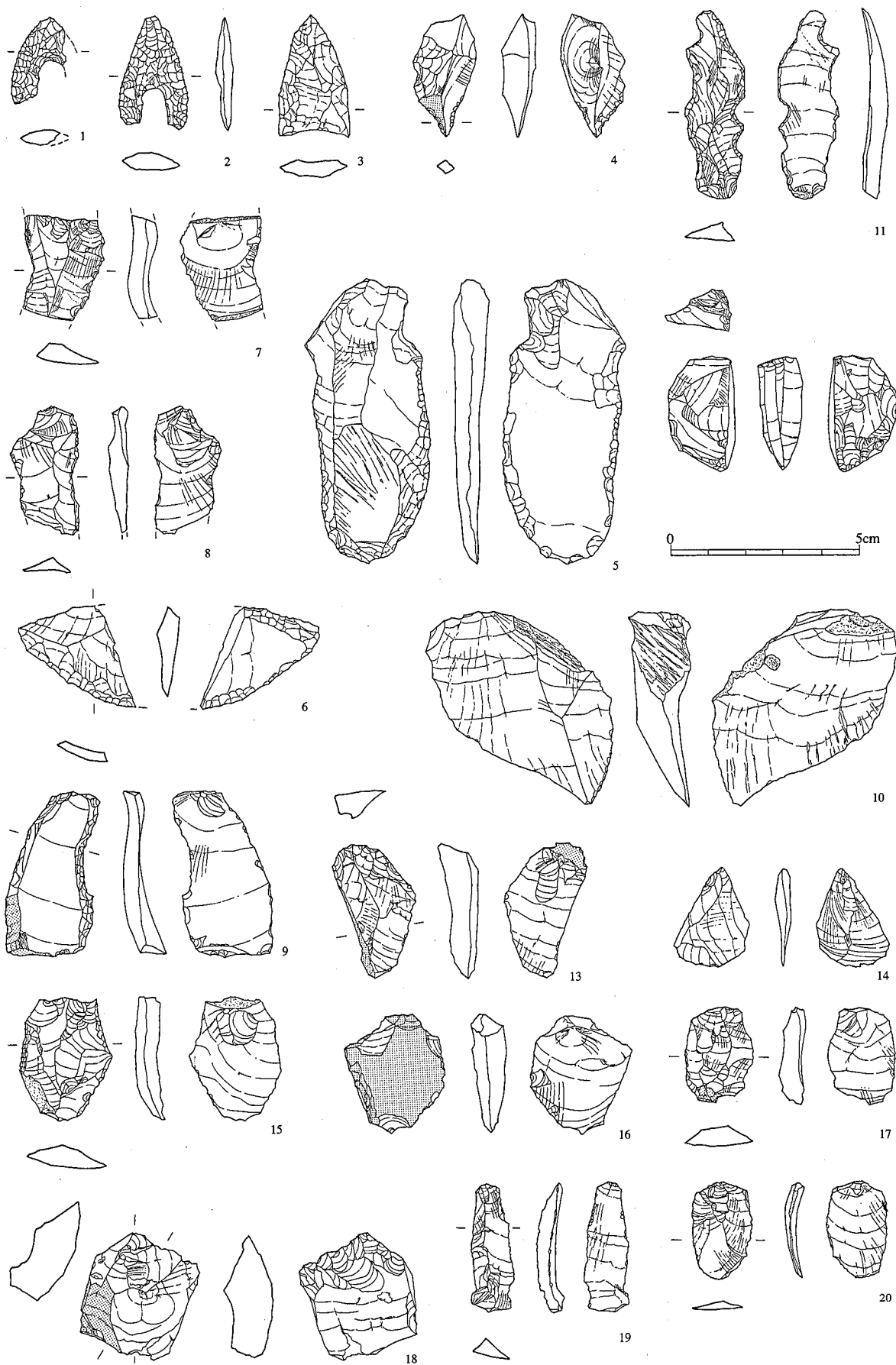


第52図 遺物包含層下・中層出土石器実測図(2/3)

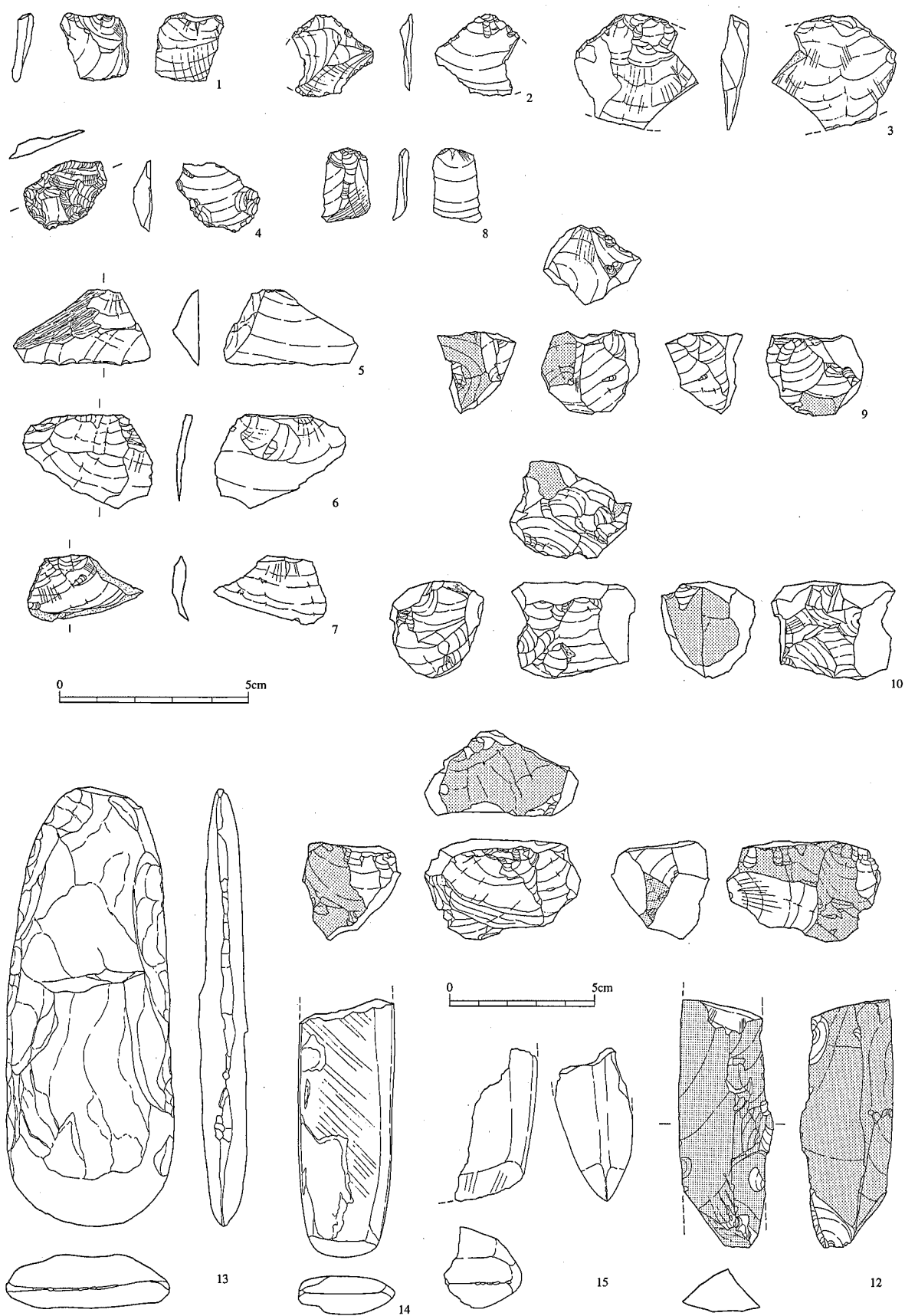


第53図 遺物包含層中層出土石器実測図(9は1/2、他は2/3)

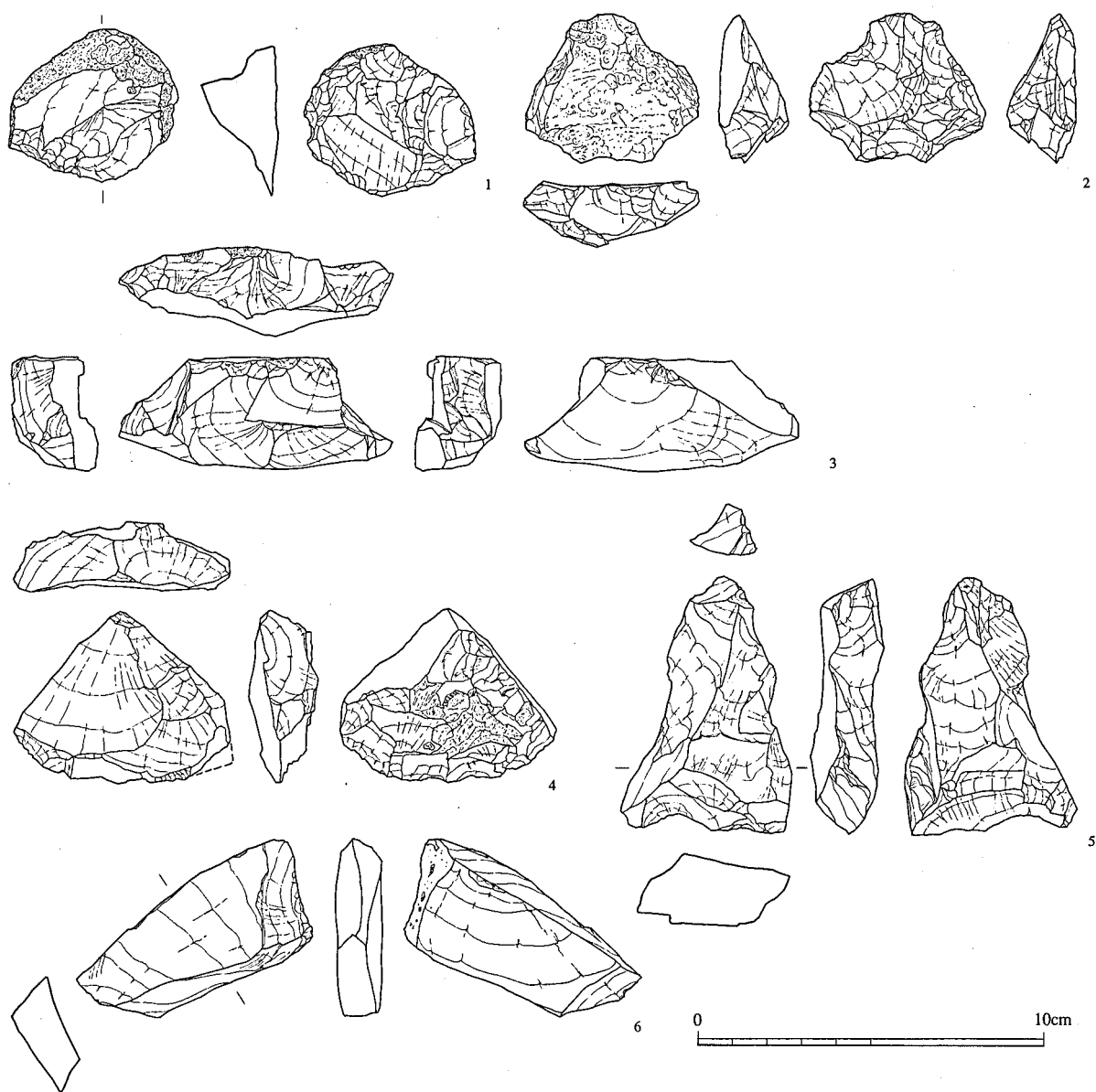
第56図 4 は三角形の大型削器の未製品であろう。第56図 5 は縞が多く入る特徴的な石材で、堅緻で縞があるためうまく剥離できなかったので廃棄されたのではなかろうか。剥片を剥ぎ出すことが目的でなく、石器の未製品であろう。第56図 6 は直方体に剥ぎ出された目的剥片である。横長剥片を斜めに使用するタイプの削器の未製品であろうか。



第54図 遺物包含層上層出土石器実測図1(2/3)



第55図 遺物包含層上層出土石器実測図2(2/3)

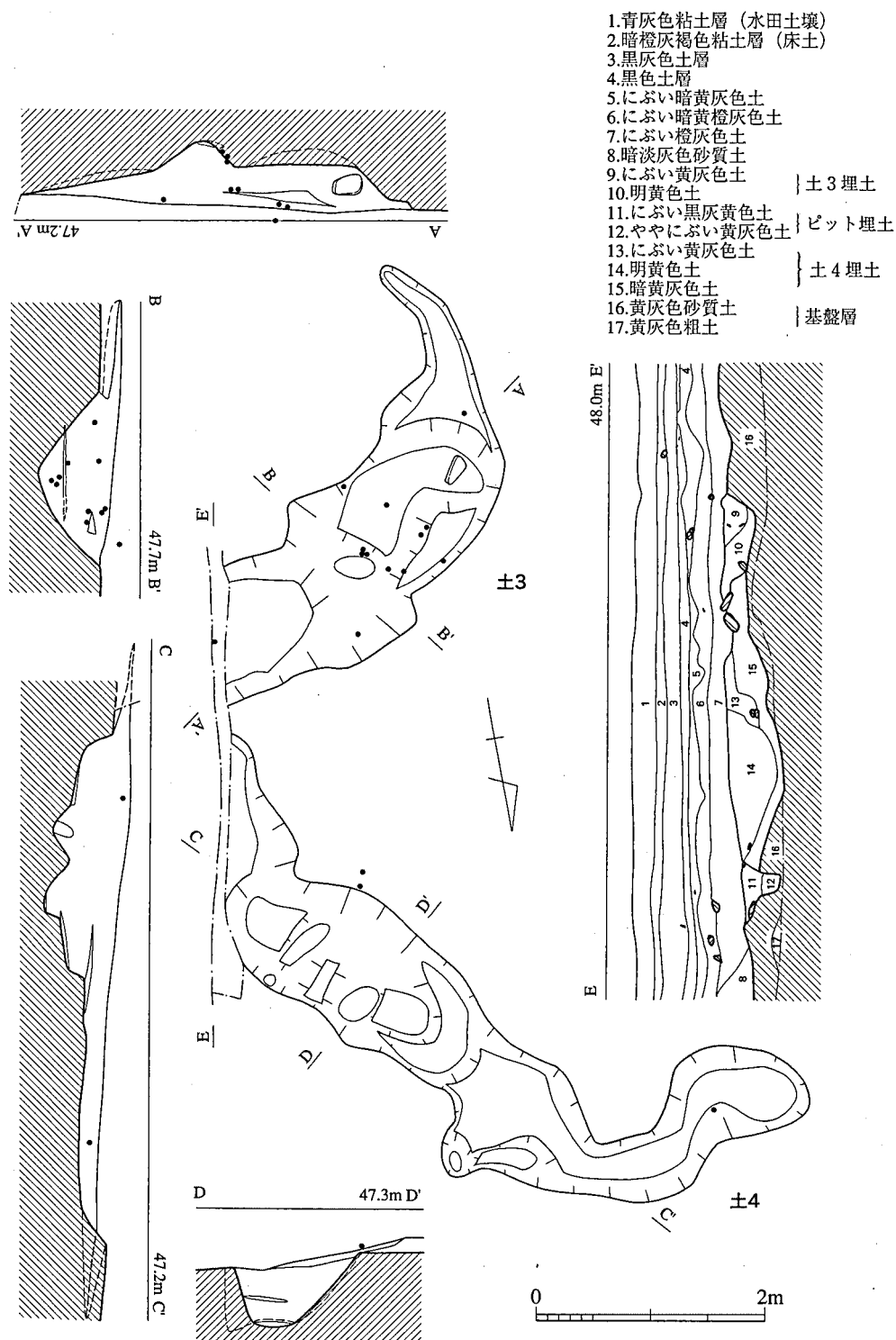


第56図 遺物包含層上層出土石器実測図3(1/2)



#### 4) 縄文早期の遺構と遺物

縄文早期の遺構は、晩期～弥生早期の包含層の下に検出された。調査区壁の土層から見ると遺構の掘り込みは検出面より40cmほど高く、検出面を下げすぎた。遺構面は粗砂層上面で、北の流路に向かって傾斜している。



第57図 3・4号土坑実測図(1/60)

早期の遺構はいずれも降下火山灰層と見られる明黄灰色土を埋土としており、明確に検出されたので、調査区北半に遺構が集中していたことに間違いはない。この明黄色土は包含層としては堆積しておらず、5号土坑の周囲の落ち込みと遺構内のみ見られることから上面が洪水層に流されたのかもしれない。

検出された遺構は土坑3基とピットで、土坑はいずれも軟質の砂層土層に掘り込まれており、床面の凹凸も多く、不整形で人為的な掘削とは考えにくい。

### 3号土坑（図版25、第57図）

調査区中央東側に位置する不整形の土坑で、南西部が浅く細長く延びる。床面の凹凸が多く、東側に最深部がある。埋土は明黄灰色土と上面が変色したもののみであった。長軸4.20m、短軸1.50m、深さは最深部で50cm前後である。遺物は深い部分の床面付近に集中しており、礫がわずかに入る。N-60° -Eを主軸とする。

#### 出土遺物（図版32、第59図）

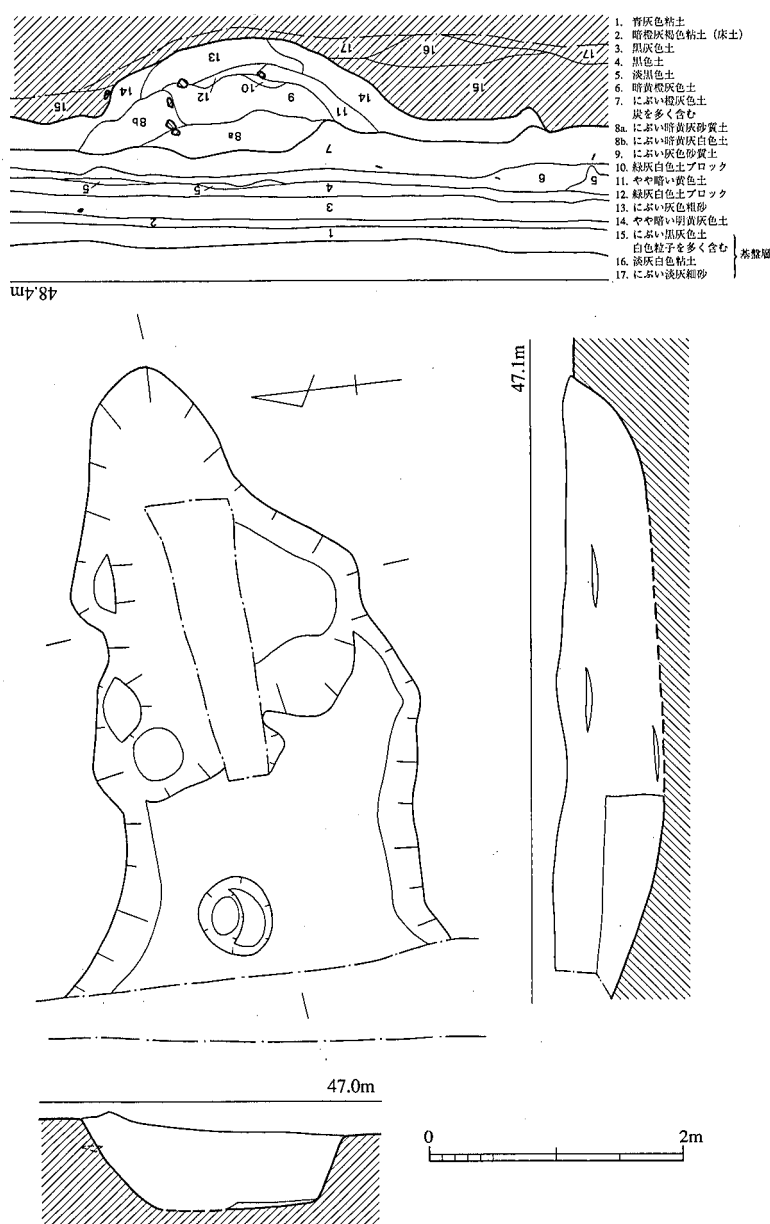
土器 1～3は押型文で、いずれも小片だが文様・色調・胎土の特徴から同一個体の可能性

が高い。山形押型文は横走が主体で、部分的に縦走がある。横走のみの破片も存在する。遺物包含層出土の第59図11・12と同一個体の可能性あり。石器 第61図1は下端に刃部は形成していないが刃こぼれがあり、上端を簡単に調整剥離している。2の左端は欠損しており全体像がわからないが、右端は端部になる。3は刃部がつく下端が欠損しているため、ここでは使用痕をもつ剥片とする。

### 4号土坑（図版26・27、第57図）

調査区中央東側に位置する不整形の土坑で、西部が浅くなりながら細長く延びる。埋土は明黄灰色土のみであった。

床面の凹凸が多く、東側に最深部がある。長軸5.6m、短軸1.25m、深さは最深部で47cm前後である。N-40° -Wを主軸とする。遺物は壁近

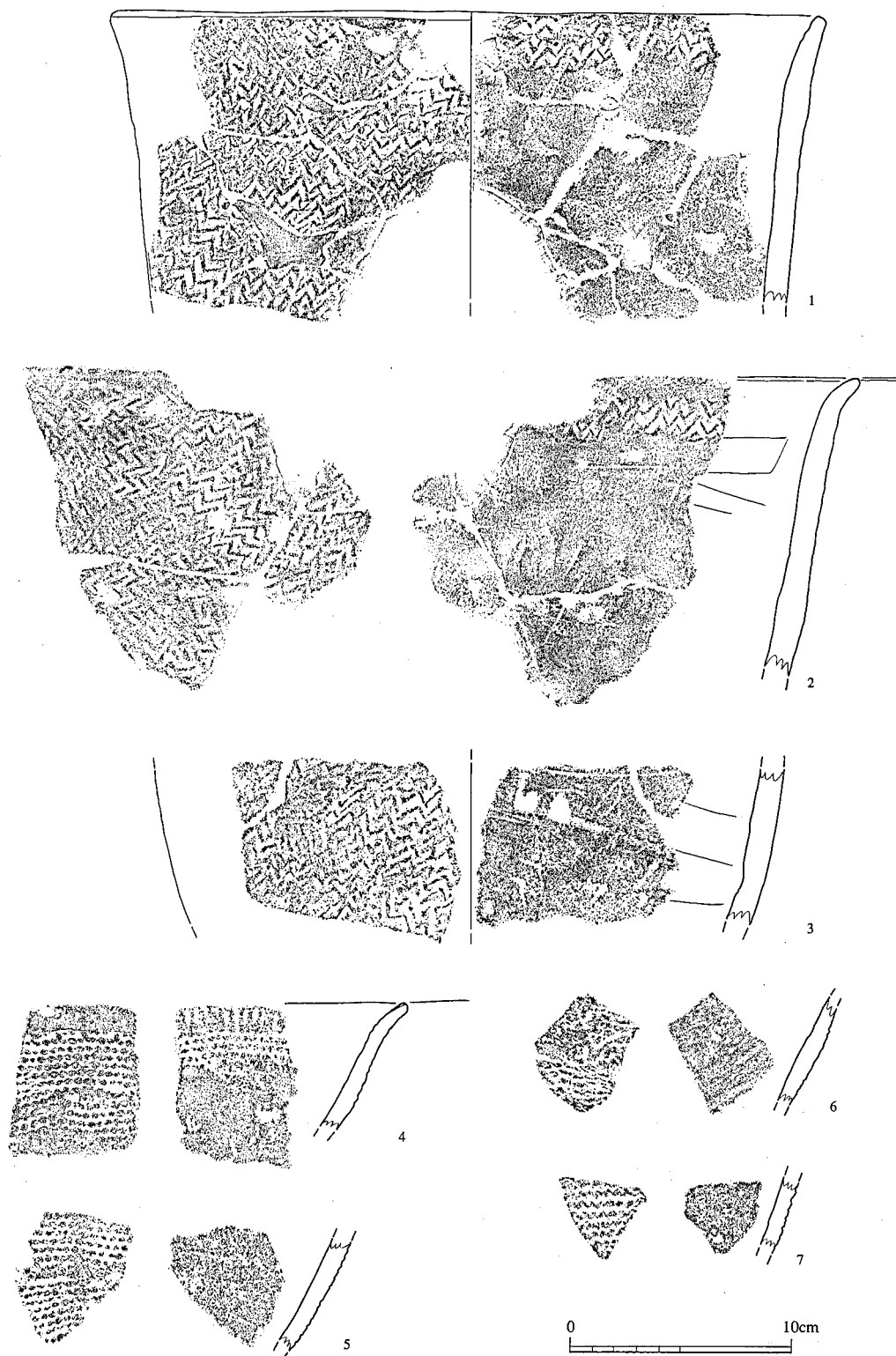


第58図 5号土坑実測図 (1/60)

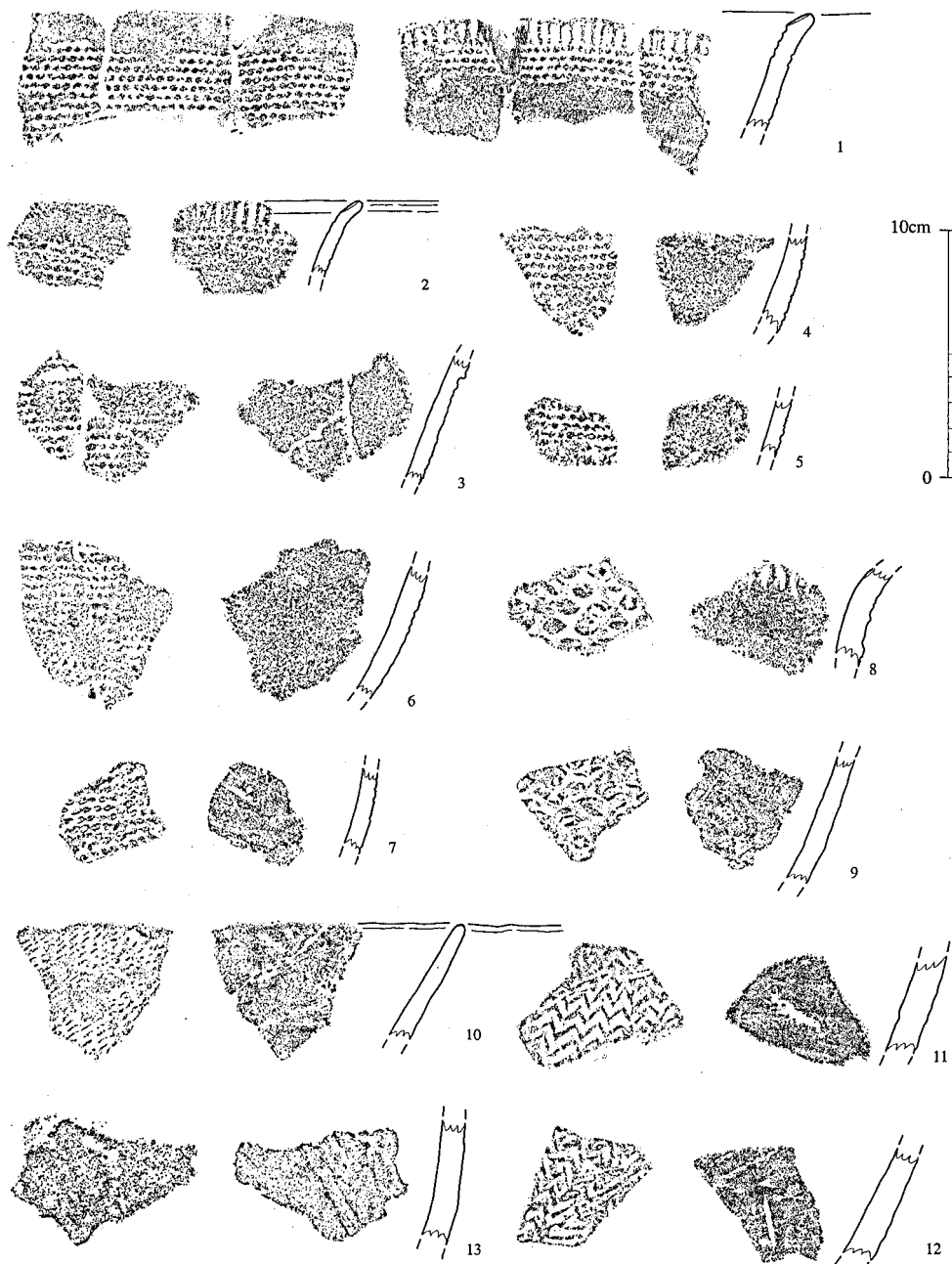
くから出土している。

出土遺物（図版32、第59・61図）

土器 4・5は小型の楕円文が横走する押型文土器で、文様の原体幅は2.6cm程である。文様・色調・胎土の特徴、器壁の厚さから見て同一個体の可能性が高い。遺物包含層出土の第60図1～7と同一



第59図 3～5号土坑出土土器実測図(1/3)



第60図 遺物包含層出土縄文早期土器実測図(1/3)

個体の可能性が高い。図を掲載していないが、遺物登録番号239（図版32）の土器小片も同一個体であろう。

石器 第61図5は横長の目的剥片で、第61図5は右側縁・下端面に丸みがあり、それ以外の上下面は平坦であることから、球形に近い原石の縁部分を皮剥ぎしたものから剥ぎ出された目的剥片といえ、上面に打点が残る。全面風化が著しい。

#### 5号土坑（図版26・27、第58図）

調査区中央東側に位置する不整形の大型土坑で、南西部が浅く細長く延びる。床面の凹凸が多く、西側に最深部がある。埋土の上位は礫を含む砂質土が入っており、明黄灰色土は壁面のみにあった。

長軸4.94m、短軸2.64m、深さは最深部で72cm前後である。遺物は壁近くの明黄灰色土から出土している。

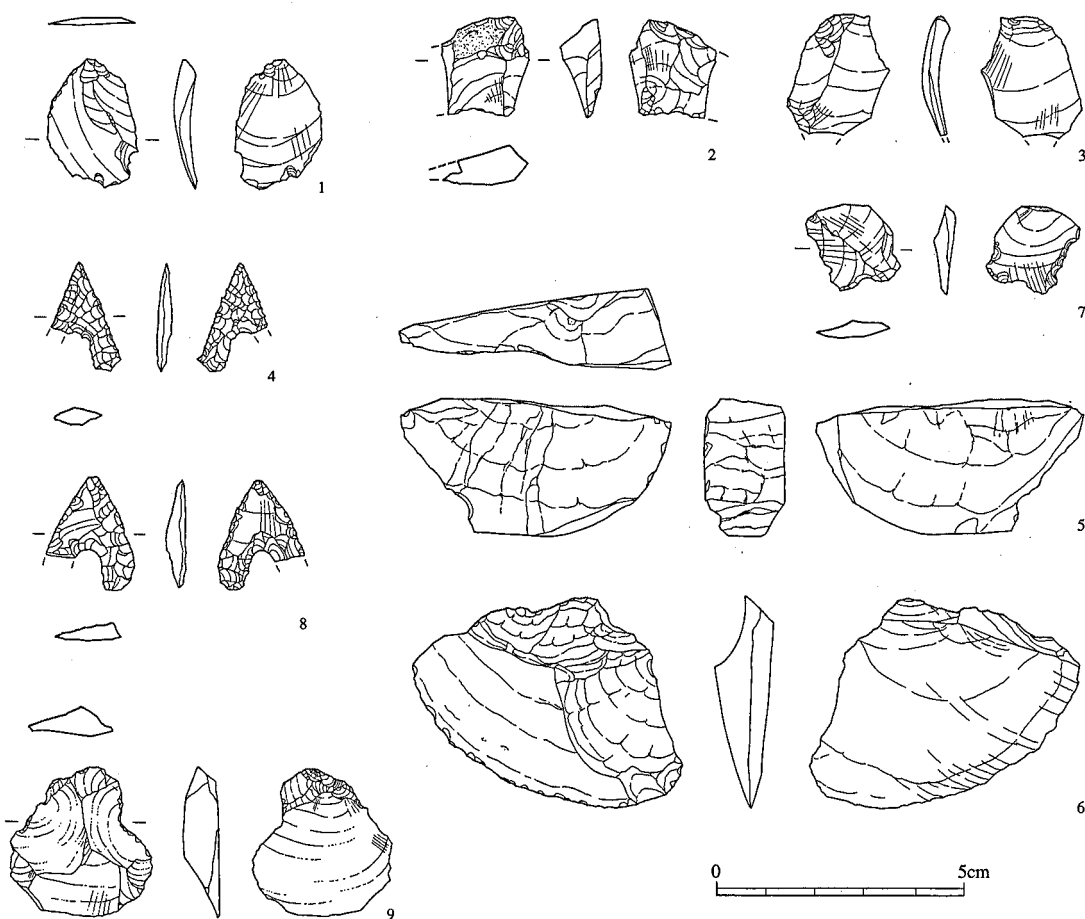
出土遺物（図版32、第59図）

6はナデのため一部の押型文が失われているが、全面施文。第59図10と同一個体の可能性あり。

遺物包含層出土縄文早期土器・石器（図版32、第60・61図）

土器 第60図1～7は4号土坑出土の第59図4・5と同一個体の可能性が高い。第60図11・12は3号土坑出土の土器と同一個体の可能性が高い。第60図10は5号土坑の第59図6と同一個体の可能性あり。

石器 第61図2は右側縁が欠損しているので、全体像がわからないが、下端を刃とする削器とする。第61図6は5号土坑の土層断面の早期包含層にあたる黄色土層から出土したもの。刃部を作り出さず、剥片の下端縁をそのまま利用したもので、上端は調整剥離している。第61図7は包含層の下位に部分的に広がった黄色土出土のもので、下左右の3側縁に抉り部をもつ。第61図9は右側縁に抉り部をもつ。



第61図 縄文早期の遺構・遺物包含層出土石器実測図(2/3)

## 5) その他の遺構と遺物

### 流路 (図版24・27、第62図)

調査区北端に位置し、北東に走る。トレンチ調査により、遺構面への緩やかな立ち上がりが確認され、溝ではなく自然流路と判断した。東西方向に走っており幅は3.2mほど、深さは最深部で1.50mほどある。流路内からは近世から縄文時代までの土器・石器が混在しており、流路上面は近世後期に整地されていた。

### 出土遺物 (図版32、第63・64図)

縄文土器 (1~4) 1はローリングを受けて、胎土内の砂粒が落ちている。器面も摩滅のため、一見するとケズリ状のナデが単なるナデに見える。

黒色土器B (5) 流路上面から出土した椀の底部で、復元高台径は9.0m。摩滅のため調整は不明。外面は黄白色、内面は黒色。胎土は精良。高台の高さから11世紀後半代か。

陶器 (6) 流路のなおい黄橙灰色土から出土した甕で、復元底径11.6cm。内外明灰色で、内面にハケ状に施された鉄鏝のような褐色の釉がかかる。胎は混入物は少なくやや軟質で、明灰白色である。小片のため産地・時期を特定できない。

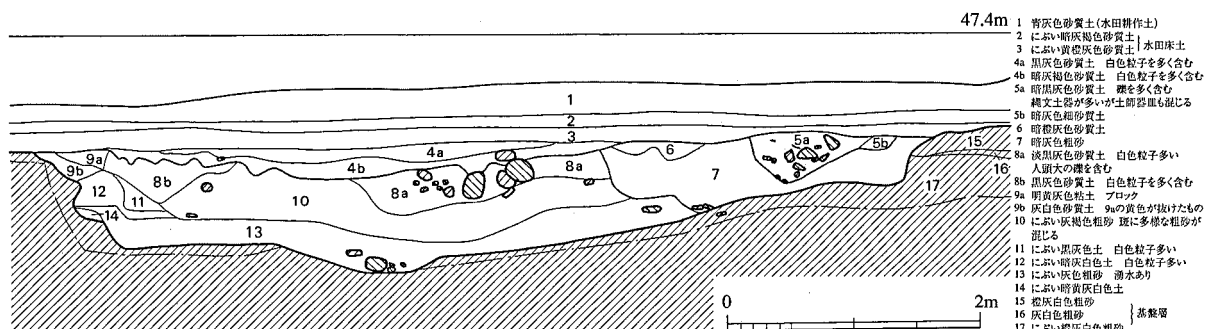
青磁 (7) 流路上面から出土した水注の把手で、傾き不明。胎は灰色で暗緑色釉が薄く掛かる。小片のため時期は不明。

白磁 (8) 流路上面から出土した白磁碗V~Ⅶ類の口縁部だが、小片のため特定できない。胎・釉ともに灰白色。時期不明。

滑石製石鍋 (9) におい灰褐色粗砂層から出土したもので、摩滅しているがノミ痕が残っている。緑灰色で金雲母を多く混じる特徴的な石材。煤などの変色は見られない。口縁部はやや内湾するが、鰐が下がっているので年代は12世紀後半代~13世紀前半。82.9 gを測る。

### 打製石器

第64図1は左右端に古い剥離面を残す。第64図5はスクレイピング刃こぼれが見られ、側面は湾曲しているので、搔器とした。第64図7は成形段階の剥離で、刃部は形成されていない。左側縁が薄くなっているのでここに刃がつく削器の未製品であろう。第64図9は上端に古い剥離面を残す。第64図9は上右端に自然面を残す。第64図10は側面が湾曲しており、スクレイピング刃こぼれが見られるので、搔器とした。第64図12は側面が湾曲しており、搔器的に使用した可能性が高い。上端は欠損後に調整剥離して、再利用したのではないか。



第62図 流路土層断面実測図 (1/60)

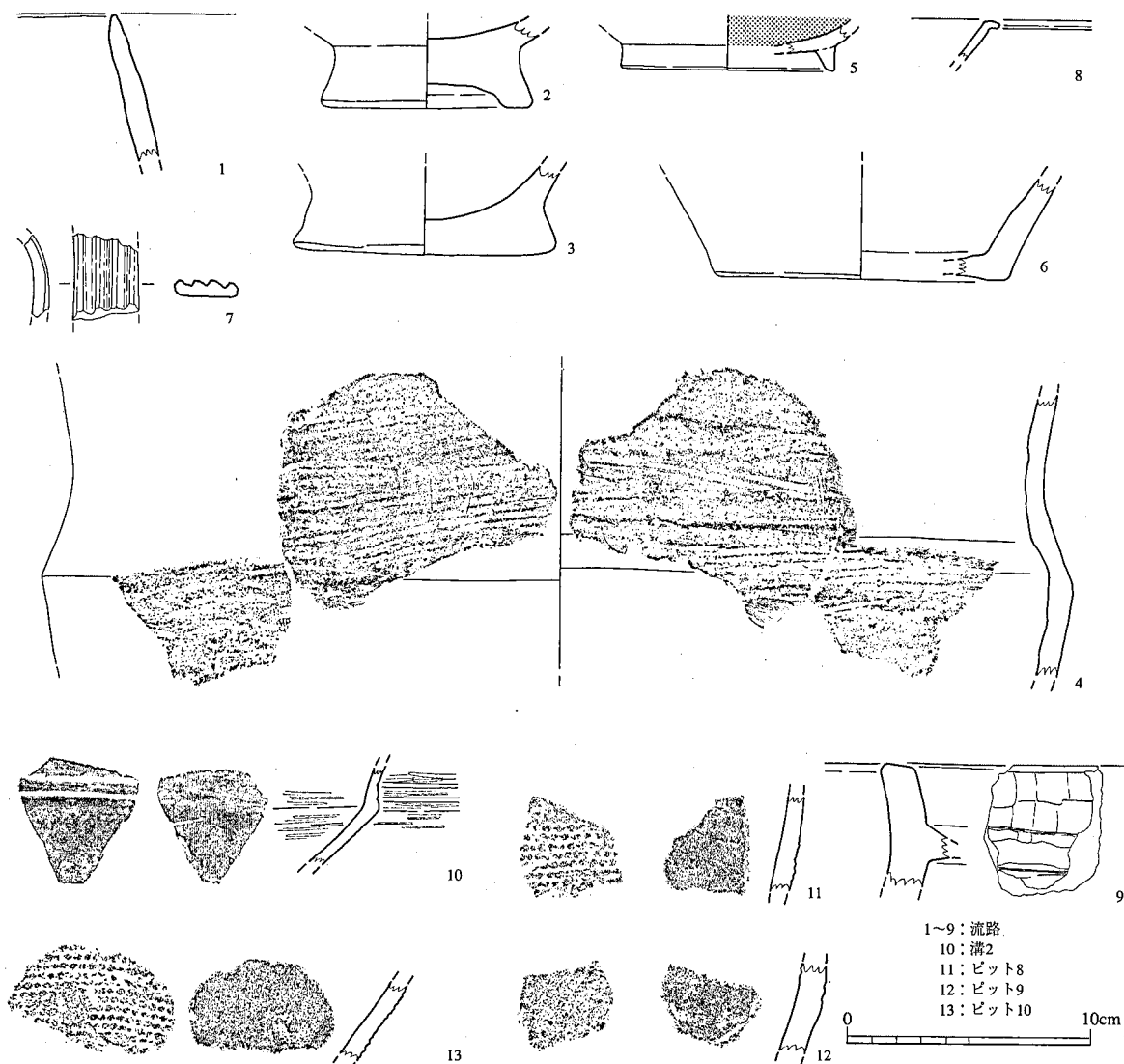
### 1号溝状遺構（図版24、第34図）

調査区中部にあり、縄文晩期～弥生早期包含層上層（にぶい黄灰橙色土層）上面から掘り込まれており、にぶい暗橙灰色土を埋土とする。最大幅は56cm、最深部で8cmほどしかない。床面の勾配は西に下がっている。

出土遺物は黒色磨研土器の小片しか出土しておらず、黒色土が入っていないことから、縄文晩期～弥生早期に属する可能性も否定できない。

### 2号溝状遺構（図版24、第34・36図）

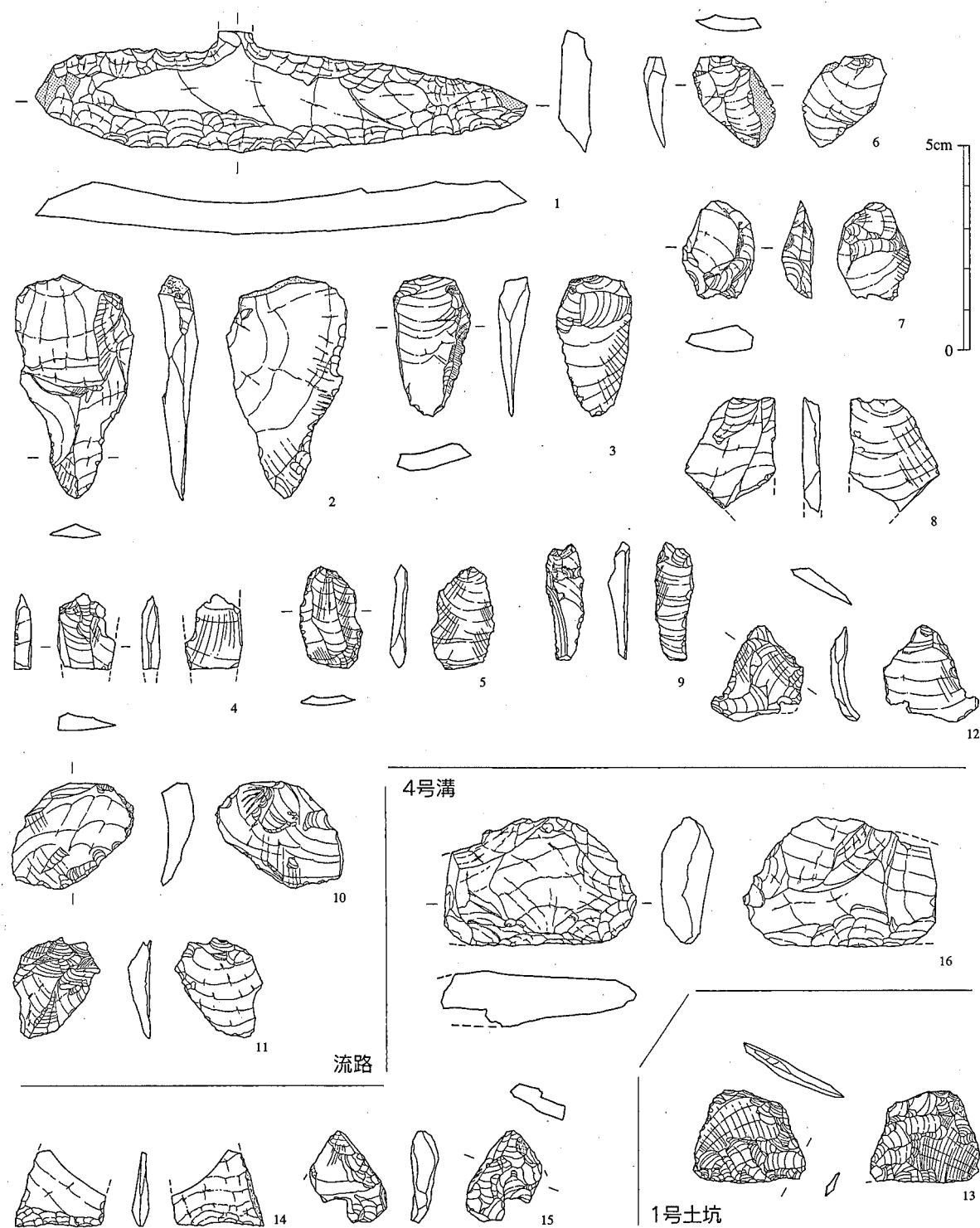
調査区中部にあり、3号溝状遺構に併走している。縄文晩期～弥生早期包含層上層（にぶい黄灰橙色土層）上面から掘り込まれており、にぶい暗橙灰色土を埋土とする。最大幅は42cm、最深部で8cmほどしかない。床面の勾配は南西に下がっている。



第63図 流路・溝状遺構・ピット出土遺物実測図(1/3)



わずかな出土遺物のなかで、第62図10が唯一実測に耐え得る。縄文土器の黒色磨研土器の浅鉢で、肩部に2条沈線が入っている。詳細は観察表を参照。1号溝状遺構と同様の理由で、縄文晩期の可能性もある。



第64図 流路・中世の遺構出土の縄文～弥生早期の石器実測図(2/3)

### 3号溝状遺構（図版24、第34・36図）

調査区中部にあり、2号溝状遺構に併走している。鈍い黄灰橙色土層上面から掘り込まれており、にぶい暗橙灰色土を埋土とする。最大幅は53cm、最深部で8cmほどしかない。床面の勾配は北東に下がっており、途中で途切れているので、排水目的ではないだろう。

遺物はわずかでいずれも小片のため、実測に耐えない。弥生土器片らしいハケの入ったものと、瓦器片らしいものがあるので、中世のものか。

### 4号溝状遺構出土遺物（図版32、第64図）

調査区北部にあり、北東から南東に走る近世の溝状遺構なので、遺構としては報告せず、遺物のみ掲載する。

第64図14～16は本来包含層上層に所属するものと思われる縄文時代の石器で、第64図14は薄い小型剥片を利用しており、左下端を尖らせ、刃縁が短いことからコンボジットツールのサイドブレイドとした。第64図15は全体を三角形に加工し、下端中央を抉り込ませている。右上に微細剥離を途中まで施していることから、凹基形石鏃の未製品であろう。第64図16の左端は新欠。

### ピット出土遺物（第62図8～10）

ピット8～10から押型文土器が出土しているが、いずれもちょうど縄文早期の遺構の上位に位置しており、かつ、早期の遺構から出土するものと同一個体の可能性が高いものであることから、早期に属するピットではなく、それ以降の時期の遺構に混入したものとする。特にピット10は柵跡を構成する柱跡であり、検出面からみても混入と判断される。出土遺物についての詳細は観察表を参照。

## 6) 小 結

今回の調査地点からは本遺跡からは中世前期、縄文晩期～弥生早期、縄文早期の遺構・遺物が確認された。混入品であるが、細石刃期のものと見られる石器も数点ある。

梶原川の下流に位置する入道町遺跡群で押型文の包含層から早期初頭の瘤文土器が出土していることから、上梶原地区では縄文早期初頭の遺跡も存在するようだ。

以下、時代ごとに本調査の成果をまとめる。

#### 縄文時代早期

本遺跡からは、3基の土坑が検出された。4・5号土坑は小型の楕円・山形押型文が横走し、器壁が薄いことから早期中葉の早水台式にあたる。3号土坑は大型の山形押型文が横走を基本としながらも部分的に縦走・斜走しており、器壁が厚いことから下菅生B式にあたる。

4号土坑出土の小型の楕円押型文土器と3号土坑出土の大型の山形押型文土器は、包含層出土の同一の文様をもつものと同一個体と見られる。また、早期の土器片と見られるもののなかに無文土器片はわずかしかない。

早期の遺物を含む明黄色土は、無遺物層の粗砂層に掘り込まれているが、包含層としてはほと

んど存在していない。上面が粗砂層であることから、この粗砂層は洪水層で、明黄色土はこれに流されてしまい、深い落ち込み（土坑）に溜まっていた部分だけが残ったものと思われる。さらに、この明黄色包含層はほかの土層と異なり風化花崗岩砂の砂質土を基調としていないことから、この明黄色土はアカホヤと考えられるが、アカホヤの下に早期の包含層が見られないことから、出土土器型式とアカホヤ降下までの時間的間隔が短すぎるので疑問が残る。2次堆積にしては基盤層に含まれる砂質分が含まれておらず、今後の検討を要する。

石器については、パティナの進み方から縄文早期以前と見られるものがあるが、明黄色包含層から出土したものはほとんどない。

本遺跡からは縄文早期遺跡によく見られる集石遺構や集石炉は検出されなかった。包含層の遺存状態も悪く、遺物量が少ないため、早期集落の実態に迫ることができないが、比較的大きな破片の資料を得られた。

#### 縄文時代晩期

那珂川町の縄文時代後・晩期の遺跡としてはこれまで、山田地区の山田西遺跡群<sup>註3</sup>・小柳遺跡<sup>註4</sup>と、観音山山麓から中原地区に延びる段丘上に位置する中原ヒナタ遺跡<sup>註5</sup>、松木遺跡<sup>註6</sup>、深原遺跡群<sup>註7</sup>があり、これに隣接する春日市柏田遺跡<sup>註8</sup>、門田遺跡<sup>註9</sup>が知られている。

本遺跡は両地区の中間に位置しており、入道町遺跡群<sup>註10</sup>とともに上梶原地区での縄文後晩期集落の存在を明らかにすることができた。

本遺跡の様相を説明するためには、まず遺構・包含層の時期を明らかにしなければならない。しかし、本調査地点の中心的な時期である黒川式期から夜臼式期は、型式名や時期区分に多くの意見があるとともに、福岡平野については夜臼式の研究は進んでいるが、黒川式については資料不足のため北九州市域や二丈町・唐津市域、筑後地域ほどの進展は見られない。近年、福岡市重留遺跡1次調査の報告書<sup>註11</sup>が刊行され、良好な資料が公開されたので、これを契機に既存の資料から福岡平野を中心とした黒川式土器の編年を作成したうえで、本調査地点出土資料を検討することにする。

#### 黒川式を中心とする土器編年について

前述したとおり、福岡平野に限定すると当該期は資料不足であるため、玄界灘沿岸地域まで対象範囲を広げ、不足分を北九州市域と二丈町・唐津市域の資料で補填することにした。

編年に際して使用する資料は先後関係・共伴関係の根拠とするため、遺構出土資料と土層ごとに取り上げられた資料を中心に用い、不足する場合は包含層資料を加えた。基準資料の対応関係は第4表の通りとした<sup>註12</sup>。

時期の変化を表す属性は浅鉢に多いので、浅鉢によって併行関係を捉え、これに共伴する深鉢の変化を捉えることにした。浅鉢については型式変化の誤認を防ぐため器種を細分したが、紙面の都合上、本遺跡から出土していないものや、土器群間の併行関係に関わらない器種については割愛しており、すべての器種を網羅したものではない。

編年図1（第65図）は、肩や胴が張る浅鉢の編年である。短口縁で胴部が丸く張る黒川式に特徴的な器形は黒川式古段階に成立し、中段階に最も大きく張った後に、新段階古相に肩部が垂れ始め、

| 那珂川町域         | 福岡平野域                                            |                 |                     | 北九州市域                                        |                                 |                               | 二丈町・唐津市域           |
|---------------|--------------------------------------------------|-----------------|---------------------|----------------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|--------------------|
| 山田西遺跡<br>2号住居 | 重留遺跡<br>1次SC01<br>A-1区包含層                        |                 | 堀田遺跡<br>Ⅱ・Ⅲ区<br>包含層 |                                              | 貫川遺跡<br>1地点G3<br>土器溜まり          |                               | 広田遺跡<br>0区<br>大溝3群 |
| 松木遺跡<br>6層    | 大原D遺跡<br>3次6-1区<br>SD01<br>8-4区<br>包含層           |                 |                     | 春日台遺跡1号土坑<br>貫・井出ヶ本遺跡3号土坑<br>上徳力遺跡24地点1・2号土坑 | 貫川遺跡<br>3地点<br>No.150~154<br>地点 |                               |                    |
| 松木遺跡<br>5層    |                                                  |                 |                     |                                              | 貫川遺跡<br>1地点<br>護岸部<br>G3最上層     | カキ遺跡<br>Ⅶ区15<br>b・17層・<br>20層 | 菜畑遺跡<br>13層        |
| 松木遺跡<br>3・4層  |                                                  |                 | 江辻遺跡<br>SX1         | 長行遺跡B地区                                      |                                 |                               |                    |
|               | 脇山A遺跡<br>5次<br>A地点                               |                 |                     |                                              |                                 |                               |                    |
|               | 橋本一丁田遺跡<br>2次SD001-11層<br>・SX088・4次SX100<br>・121 | 板付遺跡<br>G-7ab下層 |                     | 中貫遺跡                                         |                                 |                               | 菜畑遺跡<br>8~12層      |

第4表 玄界灘沿岸地域の縄文晩期～弥生早期資料群の併行関係

新相には口縁部が短縮し内湾化する。口縁が長く外反し、胴部が丸く張る壺状の器形は数量的には少なく、良好な資料がないが、第48図8との比較のため口縁形態の変化を提示した。この比較から第48図8は黒川式新段階古相に当たる。

内傾口縁で胴が屈曲するものは出土していないが、第65図52～54の広口壺の成立と関わる。第48図12のこの広口壺の口縁部である。このタイプと外傾口縁で胴が屈曲するものは祖形を同じくするものである。

第65図3のタイプは本遺跡では出土していないが、参照資料で掲載した。口唇部形態が独特な外反口縁の資料だが、瀬戸内地方の影響を受けたものである。福岡市次郎丸高石遺跡の外反口縁の深鉢はこれに当たり、共伴する浅鉢がなく時期の特定が難しいが、黒川式新段階新相に当たるものと思われる。

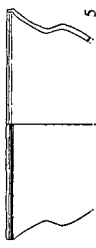
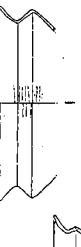
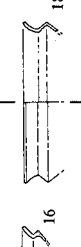
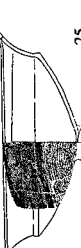
編年図2（第66図）は、口縁部に最大径をもつ口縁が外反する浅鉢の編年である。口縁の長さや外反形態、胴部の屈曲形態で細分したが、口唇部の時間的な変化は共通している。肩・胴部にケズリによる段を設けるのは黒川式中段階の特徴であり、この技法の結果この時期の肩・胴部は鋭利な稜をなす。この特徴は本遺跡出土の浅鉢のなかでは第47図11にあり、このほか第41図4の深鉢にも見ることができる。

黒川式新段階になると、口縁部と胴部で外面の調整方法を分けるものが見られる。これは瀬戸内地方に見られるもので、影響を受けたものであろう。第40図6は外面の条痕をナデ消さず、内面を丁寧に磨く浅鉢なので、この時期の浅鉢の体部にあたる。

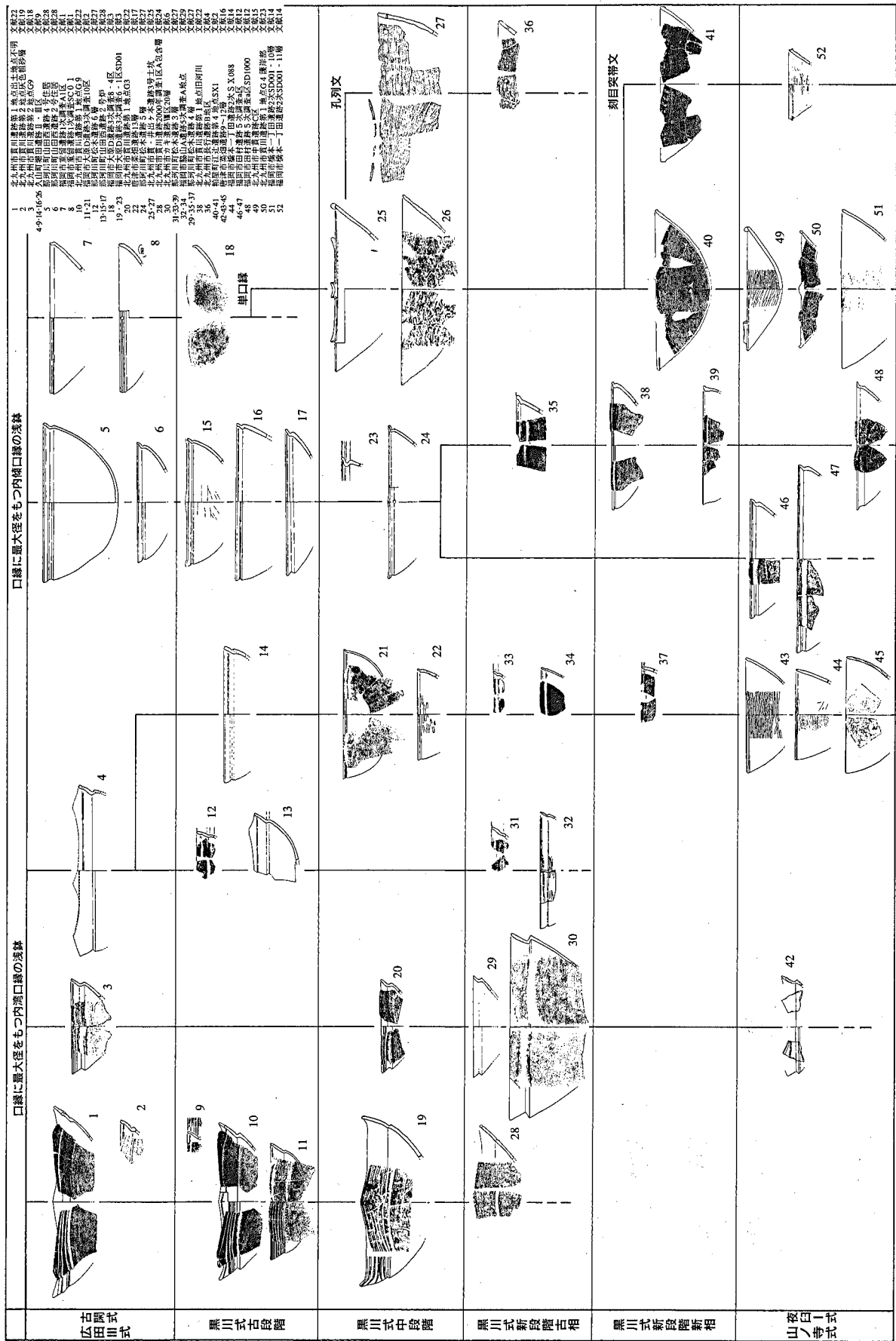
第49図6の口縁部は、方形浅鉢の祖形と考えられる第66図12に類例を見ることができる。これとは、外面調整が磨きでなく条痕であることも一致している。

編年図3（第67図）は口縁部に最大径をもち、口縁が内湾・内傾する浅鉢と短・単口縁の編年である。前者は口縁部外面に多重沈線文をもつタイプから口縁の短いものが派生しており、47図10



|              | (身の浅いもの)                                                                              | 口縁に最大径をもつ外反口縁の流鉢 (身の深いもの)                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 土器式<br>田代IV式 |    |     | 1-4<br>1 北九州市青川遺跡第1地点G15(土器海まり)<br>2 北九州市青川遺跡第1地点G15(土器海まり)<br>3 福岡市大瀬川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>5-9-11-14<br>6 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>7 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>8-12<br>8 福岡市大瀬川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>9 福岡市大瀬川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>10 福岡市大瀬川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>11 福岡市大瀬川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>12 福岡市大瀬川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>13 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>14 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>15 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>16-17-21<br>16 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>17 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>18 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>19 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>20 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>21 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>22 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>23 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>24 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>25 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>26 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>27 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>28 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>29 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>30 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>31 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>32 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>33 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>34 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり)<br>35 北九州市青川遺跡第1地点G6(土器海まり) |
| 黒川式古段階       |    |    | 12<br>11                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 黒川式中段階       |    |    | 19<br>20                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 黒川式新段階古相     |    |    | 21                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 黒川式新段階新相     |   |   | 27<br>28<br>29<br>30<br>31                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 山夜ノ白ノ式       |  |  | 32<br>33<br>34<br>35                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

第66図 玄海灘沿岸地域の縄文晩期土器編年図2(8・9・12・20は1/16、他は1/12)



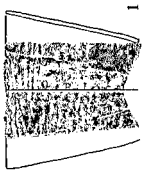
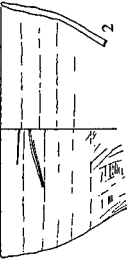
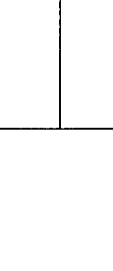
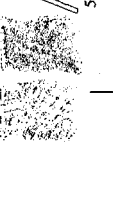
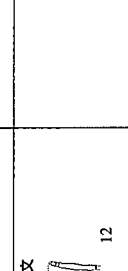
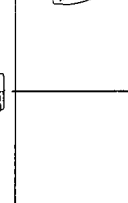
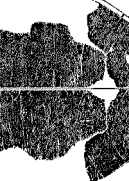
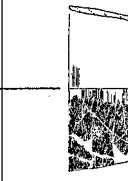
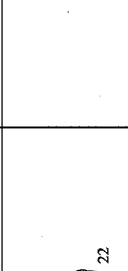
第67図 玄海灘沿岸地域の縄文晩期土器編年図3 (40・41は1/16、他は1/12)

| 外区口縁で屈曲部の深鉢 | 直立気味の外区口縁で屈曲部の深鉢 | 外区口縁で屈曲部の深鉢                                       | 外区口縁で深曲部の深鉢                                                                                        | 突帯文・刺突文                    | 刺突文      |    |
|-------------|------------------|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|----------|----|
| 古殿式<br>広田Ⅳ式 | 1<br>2           | 3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8<br>9<br>10<br>11<br>12 | 13<br>14<br>15<br>16<br>17<br>18<br>19<br>20<br>21<br>22<br>23<br>24<br>25<br>26<br>27<br>28<br>29 | 23<br>24<br>25<br>26<br>27 | 26<br>27 | 29 |
| 黒川式古殿       |                  |                                                   |                                                                                                    |                            |          |    |
| 黒川式中殿       |                  |                                                   |                                                                                                    |                            |          |    |
| 黒川式新殿       |                  |                                                   |                                                                                                    |                            |          |    |
| 山ノ手式        |                  |                                                   |                                                                                                    |                            |          |    |

第68図 玄海灘沿岸地域の縄文晩期土器編年図4(5・6・12・13・16・19・22は1/16、他は1/12)





|          | (身の浅いもの)                                                                              | 直線的・外区単口縁の深鉢 (身の浅いもの)                                                                 | やや口縁部のすぼまる単口縁の深鉢                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 古瀬式近田Ⅳ式  |    |    |    | 1~5<br>文獻3<br>二丁町佐田遺跡大溝V群 (2上層)<br>文獻17<br>福岡市東区道跡3次調査6-1区SD01<br>文獻2<br>福岡市東区道跡3次調査3号土坑<br>文獻25<br>北九州市東区道跡3号土坑<br>文獻20<br>北九州市東区道跡1号土坑<br>文獻22<br>北九州市東区道跡17層<br>文獻6<br>北九州市東区道跡B地区<br>文獻4<br>北九州市東区道跡4 地点SX1<br>文獻2<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻27<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻26<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻12<br>福岡市東区道跡5次調査a区SD1000<br>文獻14<br>福岡市東区道跡9~12層<br>文獻16<br>福岡市東区道跡9~12層<br>文獻26<br>福岡市東区道跡9~12層 |
| 黒川式古瀬様   |    |    |    | 6~7<br>北九州市東区道跡3号土坑<br>文獻20<br>北九州市東区道跡1号土坑<br>文獻22<br>北九州市東区道跡17層<br>文獻6<br>北九州市東区道跡B地区<br>文獻4<br>北九州市東区道跡4 地点SX1<br>文獻2<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻27<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻26<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻12<br>福岡市東区道跡5次調査a区SD1000<br>文獻14<br>福岡市東区道跡9~12層<br>文獻16<br>福岡市東区道跡9~12層<br>文獻26<br>福岡市東区道跡9~12層                                                                                              |
| 黒川式中段様   |    |    |    | 8~9<br>北九州市東区道跡3号土坑<br>文獻20<br>北九州市東区道跡1号土坑<br>文獻22<br>北九州市東区道跡17層<br>文獻6<br>北九州市東区道跡B地区<br>文獻4<br>北九州市東区道跡4 地点SX1<br>文獻2<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻27<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻26<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻12<br>福岡市東区道跡5次調査a区SD1000<br>文獻14<br>福岡市東区道跡9~12層<br>文獻16<br>福岡市東区道跡9~12層<br>文獻26<br>福岡市東区道跡9~12層                                                                                              |
| 黒川式高瀬様古相 |    |    |    | 10~11<br>北九州市東区道跡3号土坑<br>文獻20<br>北九州市東区道跡1号土坑<br>文獻22<br>北九州市東区道跡17層<br>文獻6<br>北九州市東区道跡B地区<br>文獻4<br>北九州市東区道跡4 地点SX1<br>文獻2<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻27<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻26<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻12<br>福岡市東区道跡5次調査a区SD1000<br>文獻14<br>福岡市東区道跡9~12層<br>文獻16<br>福岡市東区道跡9~12層<br>文獻26<br>福岡市東区道跡9~12層                                                                                            |
| 黒川式新段様新相 |   |   |   | 12~13<br>北九州市東区道跡3号土坑<br>文獻20<br>北九州市東区道跡1号土坑<br>文獻22<br>北九州市東区道跡17層<br>文獻6<br>北九州市東区道跡B地区<br>文獻4<br>北九州市東区道跡4 地点SX1<br>文獻2<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻27<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻26<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻12<br>福岡市東区道跡5次調査a区SD1000<br>文獻14<br>福岡市東区道跡9~12層<br>文獻16<br>福岡市東区道跡9~12層<br>文獻26<br>福岡市東区道跡9~12層                                                                                            |
| 安田一寺式    |  |  |  | 14~15<br>北九州市東区道跡3号土坑<br>文獻20<br>北九州市東区道跡1号土坑<br>文獻22<br>北九州市東区道跡17層<br>文獻6<br>北九州市東区道跡B地区<br>文獻4<br>北九州市東区道跡4 地点SX1<br>文獻2<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻27<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻26<br>相模町江上遺跡第4 地点SX1<br>文獻12<br>福岡市東区道跡5次調査a区SD1000<br>文獻14<br>福岡市東区道跡9~12層<br>文獻16<br>福岡市東区道跡9~12層<br>文獻26<br>福岡市東区道跡9~12層                                                                                            |

第70図 玄海灘沿岸地域の縄文晩期土器編年図6(1・3・4・14・24・30)は1/16、他は1/12)

は無文化した段階の第67図29に近く、黒川式新段階古相に当たる。単口縁の浅鉢は内外磨きのものが多いが、外面に条痕を残すものが黒川式中段階から新段階に見られるようになり、第40図5はこれにあたる。また、同時期には口縁が矮小化し、黒川式新段階新相には単口縁に沈線が入るのみになり、夜臼1式には沈線も失われる。第48図14は内面に沈線が残る階段のもので、第40図2は沈線が失われ、口唇部がやや外に屈曲するのみになっているので夜臼1式期に当たる。

編年図4（第68図）は、精製深鉢から変化する、口縁が外反し、肩部に稜がつくタイプで、口縁が一度内傾するもの、口縁が直立気味のもの、大きく外反するものの3種類に分かれる。口縁部に多条沈線の文様帯を持つものは黒川式古段階まで存続する。第49図5は条痕ではなくこの多条沈線が退化したものであろう。第41図2・3のように肩部に稜をもち、大きく外反するものは中段階以降に見られるが、新段階に続く資料がなく、現段階では消失時期がわからない。

編年図5（第69図）は、精製深鉢から変化する、口縁が内傾し、肩部に稜がつくか張るものである。口唇部に刻目をもつものは広田・古閑式段階から存在するが、刻目の間隔が黒川式中段階になって密になり、このため口唇部が平坦化して幅広くなり、端部の肥厚から口縁部上位での突帯へと移行している。この変化には地域差があり、北九州市域では黒川式中段階に刻目突帯が成立しているが、福岡平野では黒川式新段階新相まで見られない。粕屋町江辻遺跡SX1は福岡平野でも夜臼式より一段階早く刻目突帯文が深鉢以外の器種にも広がっているが、<sup>註14</sup>これは瀬戸内の影響を強く受けたためと思われる。

編年図6(第70図)は砲弾形の粗製深鉢の編年で、口縁が直立気味のものの、直線的だが傾きの大きいもの、口唇部がやや内湾するものに分けた。このうち、口唇部がやや内湾するもののなかから口唇部が屈曲して内傾するものが成立しており、第44図2はこれにあたる。また、口縁がやや内湾気味に直立する刻目突帯文は口唇部の変化から派生するのではなく、刻目突帯文がいろいろな器種に施される段階に出現するものである。本遺跡は福岡平野の内陸部にあたるため、瀬戸内地域からの影響が弱く、刻目突帯文は夜臼1式に成立するようだ。

以上の比較から、本遺跡から検出された遺構や包含層の時期を比定する。

## 2号土坑

第40図2の椀形の小型鉢は口縁部の沈線が失われているので、夜臼1式に近い。第40図3～5の浅鉢は黒川式中～新段階に見られる。第40図6は内面ミガキで外面に条痕をナデ消さずに残す特徴から黒川式新段階の口縁が大きく開く浅鉢に特定できる。

第41図2・3は肩部から外反する深鉢は黒川式古段階からあるが、2・3の肩部の稜が小さく口縁の傾きが大きい点や、3の外面が屈曲から上が条痕ナデ消しで、下がナデ消していない特徴的なものであること、第41図4の外面調整が縦方向の擦過であることから、中段階以降のものである。第41図5は口縁径が13cm前後であることから小型壺の可能性が高い。

以上のことから、2号土坑は黒川式中段階～新段階古相に比定でき、土層から上位は包含層上層の土層が入り込んでいるので、新段階新相～夜臼1式のものが混じるといえよう。

## ピット5

第44図2の口縁部が内傾するものは夜臼1式の特徴だが、粗製土器の器面調整は条痕が多い。44図6の椀形の小型鉢も口縁部に沈線が失われており、夜臼1式に近い。しかし、突帯文のないこと

が偶発的なこととは考えにくく、粗製深鉢が体部に屈曲や湾曲をもたないものが主体になっていることから黒川式新段階新相のものと考えたい。

#### 遺物包含層下・中層

下層出土の第47図1は口縁部に肥厚や沈線がないことから黒川式中段階のものである。第47図2の口唇部は波状突起が台形になった段階のものと見られるので黒川式中段階といえる。中層出土の第47図12は広田Ⅰ式、第47図13は広田Ⅳ式、第47図9・10は黒川式中段階で、第47図11は肩部を削り出す特徴から黒川式中～新段階のものである。このことから、第47図12・13を混入と見て、遺物包含層下・中層は黒川式中段階主体の時期と考えられる。2号土坑とピット5は中層上面に掘り込まれている。

#### 遺物包含層上層

第48図1・2は、口縁下内面に沈線をもつので三万田式～広田Ⅰ式の浅鉢に見えるが、黒川式新段階新相の粕屋町江辻遺跡6次SX-1にも同じ特徴をもつ浅鉢があり、ここでは後者にあてたい。第48図3・4のように口唇部に平坦面をもつ浅鉢は広田Ⅳ式の特徴である。第48図5～7は口縁部外面の沈線が残っているので広田Ⅳ式～黒川式古段階といえる。第48図8～10の口縁部や肩部形態は黒川式中段階のもので、第48図11～13は夜臼Ⅰ式のもので、第49図5は広田式深鉢の多条沈線口縁が退化したものと捉えられるので、広田Ⅳ式～黒川式古段階に相当する、肥厚していないので黒川式古段階と考えたい。第49図6の口縁部の突起は福岡市大原D遺跡3次8-1区（第66図12）の浅鉢に近い。第49図9は口縁が外傾し、底部の裾が小さく外に開くので、広田Ⅳ式から黒川式古段階のものだろう。

したがって、包含層上層は多くの時期の土器を含むが、包含層中・下層との関係から黒川式新段階新相～夜臼Ⅰ式とする。

以上の検討の結果、今回の調査地点では、縄文早期の遺構面を埋めた堆積層の上に、まず広田Ⅳ式から黒川式中段階の包含層が堆積して、この包含層の上面に黒川式中段階～新段階古相の2号土坑と新段階新相のピット5などの遺構が掘り込まれている。これを埋めるのが黒川式新段階新相～夜臼Ⅰ式の包含層である。

本調査地点で明確に遺構が見られるのは黒川式中段階～新段階のもののみで、土器を廃棄した土坑とピットが見られるだけであった。調査地点が遺跡の立地する丘陵の緩斜面下端部であることからみて、集落の縁辺部であったため遺構が少なく集落から出たゴミを捨てる廃棄土坑のみであったと考えられる。

#### 石器について

本調査地点から出土した石器は器種別を見ると、打製石斧と磨石など食物加工具や石錘が見られず、剥片石器が多量に出土しているのが特徴的である。この石器組成から考えれば本遺跡は狩猟のためのキャンプサイトということになるが、斜面下位の集落縁辺部であることを想定すると、

集落そのものの性格を表しているとは限らない。斜面上位から軽量の小型品が流されて包含層に堆積したものとみるべきだろう。

2号土坑からは混入物の入り方の同じ黒曜石の剥片が多く出土しており、土器の出土状況から廃棄土坑と見られるので、土器と同様に製作場所から持ち込まれたものである。

出土した剥片石器を、剥片を含めて石材別に見ると、点数でいえば黒曜石が69%、サヌカイトが29%と圧倒的に黒曜石が多いが、サヌカイト製の石器は大型品が多いため、重量的にはサヌカイトが上回る。1つ1つの重量が大きいためだが、サヌカイトの剥片が少ないのは特徴的である。

剥片石器については第71～73図の縄文時代後期から夜臼式期までの変遷の中に位置づけることで、本遺跡出土の石器群の特徴を理解することができる。

第71図は黒曜石製削器の変遷である。この図から縦長剥片が存続するのは広田・古閑式期頃までであり、形態はそのまま続くが全体的に小型で、縦方向が短く横幅が広くなる。夜臼式期になると自然面を多く残すようになり、内湾刃型は剥片を斜めに剥ぎ出している。<sup>註15</sup>

第72図は黒曜石製搔器の変遷である。縦長剥片が存続するのは広田・古閑式期頃までであり、この時期に刃部を側辺に付けるようになり、黒川式期には小型で、縦方向が短く横幅が広くなり、自然面が多くなる。夜臼式期になると有茎型は剥片を斜めに剥ぎ出すことで、長い剥片を入手している。<sup>註16</sup>

第73図は黒曜石製彫器の変遷である。厚い剥片を使用するものは北久根式期頃までしか見られず、同じ形態のまま扁平化する。黒川式期には小型で、縦方向が短く横幅が広くなる。また、この時期に縦長剥片の側辺に挟りを入れることで突起をつくるようになる。

縦長剥片は鈴桶型石刃技法から剥出されるものであり、これに代わり打点転移を繰り返して小型の不定形剥片を剥ぎ出す十郎川型剥片剥離技術の石核が見られるようになる。<sup>註18</sup>この技法では剥片が徹底的に剥ぎ出されており、残核は小さく球状になっている。この技法が黒曜石製石器の小型化をもたらしている。

こうした小型化のなかでも、基部を設ける場合は斜めに剥ぎ出すことで長い剥片を取るようだが、長い刃を得るための工夫は見られない。一方、丁寧に調整剥離されたコンボジットツールのサイドブレードと見られるものもあるが、数量的には決して多くないので、サイドブレードによって長い刃部を作る傾向も見られない。おそらく工具や調理具としての刃器はそれほど長い刃を必要としないし、大型のサヌカイト製刃器が補完しているからだろう。<sup>註19</sup>

鈴桶技法の消滅後の不定形剥片を剥出する石核については製作技法の粗雑化ととられているが、石核の残核をできるだけ小さくし、同等の石器の機能を得られるのであれば粗雑化ではなく効率化といえるのではなかろうか。石器の製作方法についても、その傾向が見られる。

夜臼式期に顕著に見られるのは自然面を多く残す石器であるが、これは全面剥離すると手に持つ部分を調整剥離や刃潰し加工をしなければならない部分ができるため、自然面をそのまま利用できるように計画的に剥離して、作業を少なくしている。

こうした作業の省略傾向は土器にも見ることができる。黒川式期になると精製深鉢が粗製化し、精製土器が一般的な浅鉢の中にも口縁部の単純化、文様や沈線の消滅とともに、外面や外面下半に条痕を残すものも出てくる。

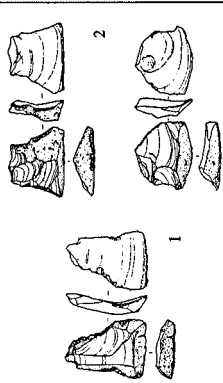
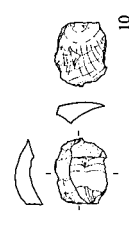
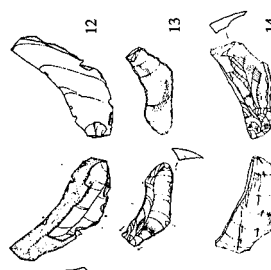
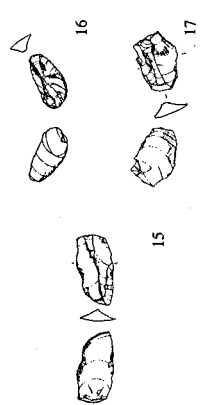
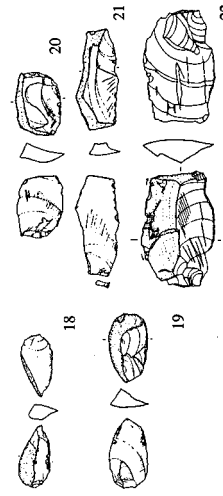
こうした石器・土器の製作の省略化・効率化は、これらの道具作りとは別に労働力を投下する

| 図 号           | 縦筋で先端が反って尖るタイプ |         |        | 縦筋で先端が反るタイプ | 先端の尖る箇所タイプ |    | 短冊タイプ    |              | 半月形箇所タイプ | し字形箇所タイプ | 梯形箇所タイプ | 有蓋内筒タイプ |
|---------------|----------------|---------|--------|-------------|------------|----|----------|--------------|----------|----------|---------|---------|
| すべて第三形態(田代遺跡) | 身長の長いもの        | 身長の短いもの | 水筒形のもの | 有蓋のもの       | 無蓋のもの      |    | 下腹部のないもの | 下腹部が膨らんで広いもの |          | 角の短いもの   | 角の長いもの  |         |
| 水筒型(田代遺跡)     | 1              | 2       | 3      | 4           | 5          | 6  | 7        | 8            | 9        | 10       | 11      | 12      |
| 水筒型(田代遺跡)     | 13             | 14      | 15     | 16          | 17         | 18 | 19       | 20           | 21       | 22       | 23      | 24      |
| 水筒型(田代遺跡)     | 25             | 26      | 27     | 28          | 29         | 30 | 31       | 32           | 33       | 34       | 35      | 36      |
| 水筒型(田代遺跡)     | 37             | 38      | 39     | 40          | 41         | 42 | 43       | 44           | 45       | 46       | 47      | 48      |
| 水筒型(田代遺跡)     | 49             | 50      | 51     | 52          | 53         | 54 | 55       | 56           | 57       | 58       | 59      | 60      |
| 水筒型(田代遺跡)     | 61             | 62      | 63     | 64          | 65         | 66 | 67       | 68           | 69       | 70       | 71      | 72      |

第71図 玄海灘沿岸地域の縄文後期～弥生早期黒曜石製石器変遷図1(1/4)

| 形 態        | 方柱状の剥片の先端に<br>刃部をつけるタイプ | 下部の一角を突出させ、方形の刃部をつけるタイプ | 楕圓剥片の1角を<br>刃部にするタイプ | 下部を斜めにして、片側に刃部をつけるタイプ | 先端を尖らせるタイプ | 側面に刃部をつけるタイプ |
|------------|-------------------------|-------------------------|----------------------|-----------------------|------------|--------------|
| 弥生前期(肥田遺跡) | <br>1                   | <br>2                   | <br>3                | <br>4                 | <br>5      | <br>6        |
| 弥生前期(肥田遺跡) | <br>7                   | <br>8                   | <br>9                | <br>10                | <br>11     | <br>12       |
| 弥生前期(肥田遺跡) | <br>13                  | <br>14                  | <br>15               | <br>16                | <br>17     | <br>18       |
| 弥生前期(肥田遺跡) | <br>19                  | <br>20                  | <br>21               | <br>22                | <br>23     | <br>24       |
| 弥生前期(肥田遺跡) | <br>25                  | <br>26                  | <br>27               | <br>28                | <br>29     | <br>30       |
| 弥生前期(肥田遺跡) | <br>31                  | <br>32                  | <br>33               | <br>34                | <br>35     | <br>36       |
| 弥生前期(肥田遺跡) | <br>37                  | <br>38                  | <br>39               | <br>40                | <br>41     | <br>42       |
| 弥生前期(肥田遺跡) | <br>43                  | <br>44                  | <br>45               | <br>46                | <br>47     | <br>48       |
| 弥生前期(肥田遺跡) | <br>49                  | <br>50                  | <br>51               | <br>52                | <br>53     | <br>54       |

第72図 玄海灘沿岸地域の縄文後期～弥生早期黒曜石製石器変遷図2(1/4)

| 型 式                  | 下側を広くして蓋部をつけ、蓋部を片側によせるタイプ                                                             | 「く」の字形の1辺に刃をつけ、1辺を蓋とするタイプ                                                             | 「く」の字形の蓋の短い側が突いているもの<br>先端が丸味をもって尖るもの                                                | 蓋部をもたない精製タイプ<br>精円形のもの<br>方形のもの                                                     |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 北久保山式陶(田代遺跡)         |    |    |                                                                                      |                                                                                     |
| 太田式陶                 |                                                                                       |                                                                                       |                                                                                      | 文脈1から引用 4・5は一部改変                                                                    |
| 高田式陶                 |                                                                                       |                                                                                       |                                                                                      |                                                                                     |
| 黒川式陶(石原遺跡・次)         |                                                                                       |   |   |   |
| 冬田式陶(田代遺跡・次・石丸・古川遺跡) |  |  |  |  |

11・13・14・17・22は文脈6、12・15・16・18～21は文脈7から引用  
11以外一部改変

第73図 玄海灘沿岸地域の縄文後期～弥生早期黒曜石製石器変遷図3(1/4)



必要があったことから起こるのではなからうか。その労働力を狩猟・採集活動を強化したのか、それとも水稻耕作以前の農耕に振り向けたのかは、石器組成を検討する必要がある。今後の黒川式期の石器資料の蓄積を待ちたい。

## 中世

遺跡の位置する内河地区は、南北に伸びる比高差の大きい丘陵と後背丘陵に囲まれ、前面に梶原川が流れる閉塞的な地形である。集落の北端には東進すると、春日市南部の丘陵地帯を直進して大野城市牛頸地区に出ることができる林道がある。この道は太宰府と那珂川を最短距離で結ぶルートであり、江戸時代には那珂川町の住民の大宰府天満宮への参詣道となり、現在も安政年間に建立された「見かえり燈籠」が残っている。

また、本遺跡の南西には岩門城が位置している。岩門城は延久5（1073）年に平家与党であった大宰権少貳原田種資が築城し、原田種直の主要な根拠地となっていた。また、元寇の際には九州官軍として、岩門と大宰府の城郭を領主が整備するよう定めており、福岡平野と大宰府の防衛に不可欠な拠点であったことがわかる。本遺跡のほかにも山裾に集落が営まれており、広義の「城下町」的な様相を見せている。本調査地点から多くの中国製陶磁器が出土するのは、岩門城との関係と大宰府へ至る道があることからだろう。

今回は内河地区で最初の発掘調査で、内河遺跡の縁辺部にあたる。遺跡の立地する丘陵斜面の下位であったことから、丘陵斜面の上位にある遺跡本体には、旧石器時代の遺跡から、縄文時代早期・晩期の集落、中世の有力者の存在する集落があることが想定される。

今回の調査により、内河地区の那珂川町における歴史的な位置付けの一端を知ることができた。今後の遺跡本体部分の調査に期待したい。

## 註

- 1 『久原遺跡群Ⅲ』久山町文化財調査報告書第3集1995久山町教育委員会
- 2 『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第11集1979福岡県教育委員会
- 3 『山田西遺跡群』那珂川町文化財調査報告書第28集1991那珂川町教育委員会  
『山田西遺跡群Ⅲ』那珂川町文化財調査報告書第59集2002那珂川町教育委員会  
『山田西遺跡群Ⅳ』那珂川町文化財調査報告書第66集2005那珂川町教育委員会
- 4 『小柳遺跡』福岡県文化財調査報告書第104集1993福岡県教育委員会
- 5 『中原・ヒナタ遺跡群Ⅱ』那珂川町文化財調査報告書第48集2000那珂川町教育委員会
- 6 『松木遺跡群』那珂川町文化財調査報告書第12集1985那珂川町教育委員会
- 7 『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第8集1978福岡県教育委員会
- 8 『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第4集1977福岡県教育委員会
- 9 前掲註2
- 10 『入道町遺跡群』福岡県文化財調査報告書第207集2006福岡県教育委員会
- 11 『入部Ⅱ』福岡市埋蔵文化財調査報告書第925集2007福岡市教育委員会
- 12 鉢・甕の変化は緩やかで、変化する属性が乏しいので、同時期に見えるが、浅鉢の変化から見れば1時期の中でも前後関係が認められる。将来的には分期される可能性があるが、現段階では各器種のセットがそろわないため分期しないものとした。山ノ寺式と夜白1式の関係については浅鉢の比較の結果、型式差に先後関係があったとしてもそれは僅差であって、時期を区分できるものではないので、同時期の地域差とした
- 13 次郎丸高石遺跡ではすでに刻目突帯文が成立しているが、瀬戸内地方の影響を強く受けたものと考えればこの時期に出現することも考えられる。  
『三筑遺跡・次郎丸高石遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第69集1981福岡市教育委員会
- 14 前掲11

- 15 内湾刃は切る対象を縦にして横向きに使用することが想定されるので、鎌のような使い方が考えられる。
- 16 基部に両側縁に刃をつけない範囲があるが、この端部は調整剥離させて整形したり、刃潰ししているので、柄と装着する茎部分であったのではないだろうか。これは刃を横につけるものと同じ使い方なので、黒川式から夜臼式期に多く見られる。
- 17 鈴桶型石刃技法については以下の文献を参照した。  
杉原莊介・戸沢充則・横田義章1966「北九州における特殊な石刃技法—佐賀県伊万里鈴桶遺跡の石器群—」『考古学雑誌』51-3  
橘昌信1977「西北九州における黒曜石製の縦長剥片についての一考察」『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告書第4集』  
横田義章1976「西北九州における縄文時代の一剥片石器群」『九州歴史資料館研究論集2』
- 18 橘昌信氏が西石丸・古川遺跡の縄文晩期後葉の剥片剥離技術を検討して設定したものである。  
『十郎川』1982住宅・都市整備公団
- 19 「サイドブレイド」の認識については研究者・報告者によって異なることがある。ここではコンポジットツールとしての使用を想定しうる両面加工の薄い方形の小型刃器に限定して使用する。これは以下の論文に依拠したものである。  
萩原博文・久原巻二1975「九州西北部にみられるサイドブレイドについて」『古代文化』27-4
- 20 「関東評定事書（近衛家本追加）」『太宰府市史中世資料編』2002太宰府市

#### 土器編年図に使用した図を掲載する文献

1. 『入部Ⅱ』福岡市埋蔵文化財調査報告書第925集2007福岡市教育委員会
2. 『江辻遺跡』粕屋町文化財調査報告書第14集1998粕屋町教育委員会
3. 『大原D遺跡3』福岡市埋蔵文化財調査報告書第732集2002福岡市教育委員会
4. 『長行遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第20集1983（財）北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
5. 山崎純男1980「弥生文化成立期における土器の編年の研究」『鏡山猛先生古稀記念 古文化論攷』
6. 『カキ遺跡（縄文時代編）』北九州市埋蔵文化財調査報告書第131集1993（財）北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
7. 『春日台遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第31集1984（財）北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
8. 『久原遺跡群Ⅱ』久山町文化財調査報告書第2集1994久山町教育委員会
9. 『久原遺跡群Ⅲ』久山町文化財調査報告書第3集1995久山町教育委員会
10. 『三筑遺跡・次郎丸高石遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第69集1981福岡市教育委員会
11. 『十郎川』1982住宅・都市整備公団
12. 『田村遺跡—Ⅵ—』福岡市埋蔵文化財調査報告書第200集1989福岡市教育委員会
13. 『徳力土地区画整理事業関係調査報告11』1998北九州市埋蔵文化財調査報告書第213集（財）北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
14. 『福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告—5—』福岡市埋蔵文化財調査報告書第582集1998福岡市教育委員会
15. 『中貫遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第238集1999（財）北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
16. 『菜畑遺跡』唐津市埋蔵文化財調査報告書第5集1982唐津市教育委員会
17. 『二丈・浜玉道路関係埋蔵文化財調査報告』1980福岡県教育委員会
18. 『貫川遺跡1』北九州市埋蔵文化財調査報告書第73集1988（財）北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
19. 『貫川遺跡2』北九州市埋蔵文化財調査報告書第85集（財）1989北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
20. 『貫川遺跡5』北九州市埋蔵文化財調査報告書第121集（財）1992北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
21. 『貫川遺跡7』北九州市埋蔵文化財調査報告書第139集（財）1993北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
22. 『貫川遺跡10』北九州市埋蔵文化財調査報告書第170集1995（財）北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
23. 『貫川遺跡11』北九州市埋蔵文化財調査報告書第188集1996（財）北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
24. 『貫川遺跡12』北九州市埋蔵文化財調査報告書第277集2002（財）北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
25. 『貫・井手ヶ本遺跡』北九州市埋蔵文化財調査報告書第96集1990（財）北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
26. 『橋本一丁田遺跡4』福岡市埋蔵文化財調査報告書第816集2004福岡市教育委員会
27. 『松木遺跡群』那珂川町文化財調査報告書第12集1985那珂川町教育委員会
28. 『山田西遺跡』那珂川町文化財調査報告書第28集1991那珂川町教育委員会
29. 『脇山Ⅳ』福岡市埋蔵文化財調査報告書第312集1992福岡市教育委員会

石器変遷表に使用した図を掲載する文献

1. 『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第4集1977福岡県教育委員会
2. 『四箇周辺遺跡調査報告書(2)』福岡市埋蔵文化財調査報告書第47集1978福岡市教育委員会
3. 『二丈・浜玉道路関係埋蔵文化財調査報告』1980福岡県教育委員会
4. 『入部XⅢ』福岡市埋蔵文化財調査報告書第923集2007福岡市教育委員会
5. 『久原遺跡群Ⅲ』久山町文化財調査報告書第3集1995久山町教育委員会
6. 『田村遺跡V』福岡市埋蔵文化財調査報告書第192集1988福岡市教育委員会
7. 『十郎川』1982住宅・都市整備公団

その他の参考文献

- 池田裕司2000「早良平野の突帯文土器と板付式土器」『突帯文と遠賀川』土器持寄会論文集刊行会
- 小畑弘己1987「第3地点の調査、縄文包含層、石器」『田村遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第167集 福岡市教育委員会
- 清田純一1998「縄文後・晩期土器考」『肥後考古』第11号肥後考古学会
- 小池史哲1982「福岡県二丈町広田遺跡の縄文土器」『森貞次郎博士古希記念古文化論集』上巻
- 山下寛1988「九州縄文晩期の深鉢形土器の型式変化について」『人類史研究』第7号人類史研究会
- 妹尾周三1991「縄文晩期『広田式土器』再考」『考古学研究』第38巻第3号考古学研究会
- 中島直幸1982「初期稲作期の凸帯文土器」『森貞次郎博士古希記念古文化論集』上巻
- 中間研志1997「Ⅲクリナラ遺跡 D各論 2 縄文晩期土器」『九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告-43-』福岡県教育委員会
- 『東畑瀬遺跡1 大野遺跡1』佐賀県文化財調査報告書第170集2007佐賀県教育委員会
- 前田義人1987「下吉田遺跡の縄文時代晩期資料—突帯文土器出現期の一様相—」『古文化談叢』第20集(下)
- 前田義人1995「第V章まとめ」『貫川遺跡10』北九州市埋蔵文化財調査報告書第170集
- 前田義人2000「東北部九州における突帯文土器と初期遠賀川式土器」『突帯文と遠賀川』土器持寄会論文集刊行会
- 水ノ江和同1997「北部九州の縄文後・晩期土器」『縄文時代』第8号
- 水ノ江和同・宮地聡一郎2002「橿原式土器と文化交流-九州地方と近畿地方の交流-」『日本考古学協会2002年度橿原大会研究発表資料集』日本考古学協会2002年度橿原大会実行委員会編
- 宮地聡一郎2004「刻目突帯文土器園の成立(上・下)」『考古学雑誌』第88巻第1・2号
- 吉留秀敏1993「縄文時代後期から晩期の石技術総体の変化とその評価」『古文化談叢第30集(上)』
- 渡辺和子1982「縄文時代後期の剥片石器—四箇A地点における剥片石器について—」『森貞次郎博士古希記念古文化論集』上巻

| 図番号    | 出土遺構              | 外面調整           | 内面調整         | 外面色調           | 内面色調        | 胎土           | 径(cm) | 登録番号    | 備考               |
|--------|-------------------|----------------|--------------|----------------|-------------|--------------|-------|---------|------------------|
| 第40図1  | 2号土坑上位no.5        | 条痕→ナデ          | ケズリ状ナデ       | にぶい灰茶褐色        | 暗黄褐色～赤茶褐色   | 1～2mmの細砂粒少量  | □21.0 | 242     |                  |
| 第40図2  | 2号土坑にぶい暗褐色土       | ミガキ            | ミガキ          | 暗黒褐色           | にぶい暗黄灰～暗黒褐色 | 1～3mmの細砂粒少量  | □19.0 | 56      | 見込みに種子圧痕あり       |
| 第40図3  | 2号土坑              | 条痕             | ナデ           | 暗黒褐色           | 淡黒灰色        | 1～3mmの細砂粒少量  |       | 60      |                  |
| 第40図4  | 2号土坑no.4          | 条痕→ナデ          | 条痕→ナデ        | 暗黒褐色           | にぶい暗黄灰色     | 1～3mmの細砂粒少量  |       | 63      | 孔列文土器            |
| 第40図5  | 2号土坑no.4・13・暗黄褐色土 | 条痕             | ミガキ          | 黄褐色～暗黒褐色       | 茶褐色～暗黒褐色    | 1～2mmの細砂粒少量  | □53.8 | 103     |                  |
| 第40図6  | 2号土坑              | 条痕             | ミガキ          | にぶい明黄褐色        | 黒灰色         | 1～2mmの細砂粒わずか |       | 61      |                  |
| 第41図1  | 2号土坑              | 条痕→丁寧なナデ       | ナデ           | にぶい暗黄褐色        | にぶい暗黄灰色     | 1～3mmの細砂粒多い  |       | 240     |                  |
| 第41図2  | 2号土坑no.3にぶい黄褐色土   | 条痕→ナデ          | 条痕           | 暗黒褐色           | 灰黄色～暗黒褐色    | 1～2mmの細砂粒多い  |       | 118・175 | 外面に煤付着           |
| 第41図3  | 2号土坑              | 上半は条痕→ナデ、下半は条痕 | 条痕           | 暗黒褐色           | 灰黄色～暗黒褐色    | 1～2mmの細砂粒多い  | 肩25.0 | 57・62   | 外面に煤付着           |
| 第41図4  | 2号土坑              | 縦方向の擦過→ナデ      | ナデ           | 暗黒褐色           | 灰黄褐色～暗黒褐色   | 1～2mmの細砂粒少量  | 肩18.0 | 222     | 肩部に補修孔あり         |
| 第41図5  | 2号土坑no.3・9        | ミガキ            | ミガキ          | 茶褐色～暗黒褐色       | 茶褐色～暗黒褐色    | 混入物ほとんどなく精良  |       | 66      |                  |
| 第41図6  | 2号土坑no.2          | ナデ             | ナデ           | 黒灰色            | にぶい暗黄灰色     | 1～3mmの細砂粒多い  | 底8.6  | 67      | 2次焼成で赤変している      |
| 第44図1  | ピット5              | 縦方向の擦過         | ナデ           | にぶい明黄褐色        | にぶい黄褐色      | 1～3mmの細砂粒多い  | □31.6 | 75・87   |                  |
| 第44図2  | ピット5              | 板状工具による粗いナデ    | 板状工具による丁寧なナデ | 黒色～茶褐色         | 淡黒灰色        | 1～2mmの細砂粒少量  | □33.6 | 77      |                  |
| 第44図3  | ピット5              | 条痕             | 条痕→ナデ        | 黒色～茶褐色         | 淡黒灰色        | 1～2mmの細砂粒少量  | □34.2 | 56      |                  |
| 第44図4  | ピット5              | 条痕→丁寧なナデ       | 条痕           | 灰黄色            | 淡黒灰色        | 1～2mmの細砂粒少量  | 胴36.4 | 74      |                  |
| 第44図5  | ピット5              | 条痕             | ナデ           | 灰黄色            | 灰黄褐色～暗黒褐色   | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 73      |                  |
| 第44図6  | ピット5              | 条痕→ミガキ         | 条痕→ミガキ       | にぶい暗黄褐色        | 淡黒灰色        | 1～2mmの細砂粒少量  | □19.8 | 105     | 胴中位に稜入る          |
| 第47図1  | にぶい暗黄灰色土          | ミガキ            | ミガキ          | にぶい明黄褐色        | にぶい明黄褐色     | 1～2mmの細砂粒わずか |       | 120     | 精製浅鉢             |
| 第47図2  | j3グリッド中・下層        | 擦過             | ナデ           | 黒灰色            | 淡黒灰色        | 1～3mmの細砂粒多い  | □26.0 | 181     | 口唇部に突起部あり        |
| 第47図3  | no.33下層           | ケズリ状ナデ         | ナデ           | 茶褐色            | 黒茶褐色        | 1～2mmの細砂粒わずか |       | 233     | 17図3に似る          |
| 第47図4  | no.3下層            | 条痕             | 条痕→丁寧なナデ     | 黄灰～黒灰色         | 淡黒灰色        | 1～2mmの細砂粒わずか |       | 85      | 傾き不明確            |
| 第47図5  | no.19下層           | ケズリ状ナデ         | ナデ           | 茶褐色            | にぶい暗黄灰色     | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 93      | 傾き不明確            |
| 第47図6  | h2グリッド下層          | 条痕→ケズリ状ナデ      | ナデ           | 黄灰～灰褐色         | 淡黒灰色        | 1～3mmの細砂粒多い  |       | 217     |                  |
| 第47図7  | no.31下層           | ケズリ状ナデ         | ナデ           | 明黄灰色           | 淡黒灰色        | 1～2mmの細砂粒多い  |       | 99      |                  |
| 第47図8  | m3・4グリッド下層        | ナデ             | ナデ           | にぶい暗茶褐色        | 黒色          | 1～3mmの細砂粒多い  | 底8.6  | 215     |                  |
| 第47図9  | no.30中層           | ミガキ            | ミガキ          | にぶい暗茶褐色        | 黒色          | 混入物ほとんどなく精良  |       | 98      |                  |
| 第47図10 | m3グリッド中層          | ミガキ            | ミガキ          | 茶褐色            | 茶褐色         | 混入物ほとんどなく精良  |       | 212     | 肩部に2条沈線          |
| 第47図11 | F1区中層             | ミガキ            | ミガキ          | 黄茶褐色           | にぶい明黄灰色     | 混入物ほとんどなく精良  |       | 170     |                  |
| 第47図12 | no.16中層           | ミガキ            | ミガキ          | 暗黒褐色           | 暗黒褐色        | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 91      | 広田Ⅰ式             |
| 第47図13 | F2区中層下位           | ミガキ            | ミガキ          | 暗黒褐色           | 暗黒褐色        | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 146     |                  |
| 第47図14 | j・k3・4グリッド中層・土坑2  | ケズリ状ナデ         | ナデ           | にぶい暗茶褐色        | にぶい暗黄灰色     | 1～2mmの細砂粒多い  |       | 258     |                  |
| 第47図15 | E1区中層             | 条痕→丁寧なナデ       | 条痕           | 黄茶褐色           | にぶい暗黄灰色     | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 168     |                  |
| 第47図16 | k1グリッド中層          | ケズリ状ナデ         | ナデ           | 茶褐色            | 黒茶褐色        | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 183     |                  |
| 第47図17 | l2グリッド中層          | ナデ             | ナデ           | にぶい暗茶褐色        | にぶい暗黄灰色     | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 256     |                  |
| 第47図18 | B2区中層             | 縦方向の指ナデ        | 横方向の指ナデ      | 茶褐色            | 黒茶褐色        | 1～3mmの細砂粒多い  |       | 143     | 底部付近の胴部片         |
| 第47図19 | no.35中層           | ミガキ            | ミガキ          | 茶褐色            | 黒茶褐色        | 1～3mmの細砂粒多い  | 底6.0  | 100     | 浅鉢の底部            |
| 第47図20 | k2グリッド中層          | ナデ             | ナデ           | 明黄灰色           | 茶褐色         | 1～3mmの細砂粒多い  | 底11.0 | 182     | 底部端部は丸みあり浅鉢の底部   |
| 第48図1  | h2グリッド上層          | ミガキ            | ミガキ          | 黒褐色            | にぶい黒褐色      | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 257     |                  |
| 第48図2  | n2グリッド上層          | ミガキ            | ミガキ          | 黒～茶褐色          | にぶい茶褐色      | 1～2mmの細砂粒少量  | □26.0 | 138     |                  |
| 第48図3  | j1グリッド上層          | ミガキ            | ミガキ          | にぶい茶褐色         | 暗黒褐色        | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 177     | 口唇部に平坦面あり        |
| 第48図4  | l2グリッド上層          | ナデ             | ナデ           | 灰黄色            | 灰黄色         | 1～3mmの細砂粒少量  |       | 246     | 口唇部に平坦面あり        |
| 第48図5  | 第1遺構検出面           | ミガキ            | ミガキ          | 暗黒褐色           | にぶい暗黒褐色     | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 114     | 広田Ⅳ式             |
| 第48図6  | E2区上層             | 板状工具による粗いナデ    | 条痕→粗いナデ      | にぶい暗茶褐色        | にぶい黄褐色      | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 166     | 広田Ⅳ式             |
| 第48図7  | E2区上層             | ナデ             | ナデ           | にぶい灰褐色         | にぶい黄灰～灰褐色   | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 165     | 広田Ⅳ式             |
| 第48図8  | F2区上層             | ミガキ            | ミガキ          | にぶい暗黒褐色        | にぶい暗黒褐色     | 混入物ほとんどなく精良  | □24.0 | 145     | 黒川式中段階 浅鉢        |
| 第48図9  | F2区上層             | ミガキ            | ナデ           | にぶい黄灰～灰褐色      | にぶい暗黒褐色     | 混入物ほとんどなく精良  | □32.0 | 152     | 黒川式中段階 浅鉢        |
| 第48図10 | G2区上層             | ミガキ            | 条痕           | 黒褐色            | にぶい暗黄灰色     | 混入物ほとんどなく精良  |       | 169     | 黒川式古段階 浅鉢        |
| 第48図11 | m2グリッド上層          | ミガキ            | ミガキ          | にぶい灰褐色         | にぶい暗灰褐色     | 1～2mmの細砂粒少量  | □29.0 | 210     | 夜白1式 浅鉢          |
| 第48図12 | j3グリッド上層          | ミガキ            | ナデ           | にぶい黄灰～灰褐色      | 暗灰黄色        | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 178     | 夜白1式 壺           |
| 第48図13 | 包含層上層             | ミガキ            | ミガキ          | 暗黒褐色           | 黒褐色         | 1～2mmの細砂粒少量  | □15.0 | 154     |                  |
| 第48図14 | no.18上層           | ミガキ            | ミガキ          | 暗黒褐色           | 黒灰褐色        | 1～2mmの細砂粒少量  | □13.0 | 92      | 夜白1式 浅鉢          |
| 第48図15 | 第1遺構検出面           | 条痕             | ナデ           | 灰黄褐色           | にぶい暗黄灰色     | 1～3mmの細砂粒少量  |       | 243     | 傾き不明確            |
| 第48図16 | m2グリッド上層          | 板状工具によるナデ      | ナデ           | にぶい黄灰色         | にぶい黄灰色      | 1～3mmの細砂粒少量  |       | 208     | 傾き不明確            |
| 第48図17 | no.22上層           | ナデ             | ナデ           | にぶい暗茶褐色～黒色     | にぶい黄灰～黒灰色   | 1～2mmの細砂粒わずか |       |         |                  |
| 第49図1  | 第1遺構検出面           | 条痕             | ナデ           | 明黄褐色           | 明黄褐色        | 1～3mmの細砂粒少量  |       | 115     | 条痕は文様の           |
| 第49図2  | no.14・38上層        | 条痕             | ナデ           | 暗黒褐色           | 黒灰褐色        | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 102     | 条痕は文様の           |
| 第49図3  | no.36上層           | ケズリ状ナデ         | ナデ           | 暗茶褐色           | にぶい黄灰色      | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 236     | 15図3に似る          |
| 第49図4  | F2区上層             | ケズリ            | ナデ           | 灰黄～黒茶褐色        | にぶい黄灰～暗黄灰色  | 1～4mmの細砂粒少量  |       | 144     |                  |
| 第49図5  | m4グリッド上層          | 条痕             | ケズリ状ナデ       | 黄茶褐色           | 暗茶褐色        | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 250     | 条痕は文様の           |
| 第49図6  | no.11上層           | 条痕             | ナデ           | 黒灰色            | にぶい灰褐色      | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 59      | 波状口縁鉢            |
| 第49図7  | n1グリッド上層          | 条痕             | 条痕→粗いナデ      | 暗茶褐色           | 灰黄褐色        | 1～3mmの細砂粒多い  |       | 247     |                  |
| 第49図8  | l4グリッド上層          | 条痕             | ナデ           | 茶褐色            | にぶい暗灰褐色     | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 158     |                  |
| 第49図9  | m4グリッド上層          | 条痕→粗いナデ        | ナデ           | にぶい暗黄褐色～にぶい黄褐色 | 暗黄灰～黄灰色     | 1～3mmの細砂粒多い  |       | 157     | 19図6と同一個体の可能性高い  |
| 第49図10 | j1グリッド上層          | ナデ             | ナデ           | 暗灰褐色           | にぶい黄灰色      | 1～3mmの細砂粒少量  |       | 179     |                  |
| 第50図1  | G2区上層             | 板状工具による粗いナデ    | 条痕→粗いナデ      | にぶい暗茶褐色        | にぶい黄褐色      | 1～3mmの細砂粒多い  | □29.0 | 220     | 1・3グリッド上層に同一個体あり |
| 第50図2  | F2区上層             | 丁寧なナデ          | ナデ           | にぶい暗茶褐色        | 淡い黒灰色       | 1～2mmの細砂粒少量  |       | 187     |                  |

表5-1 内河遺跡第1次調査出土縄文土器観察表

| 図番号    | 出土遺構        | 外面調整        | 内面調整    | 外面色調      | 内面色調     | 胎土                          | 径(cm) | 登録番号    | 備考                                 |
|--------|-------------|-------------|---------|-----------|----------|-----------------------------|-------|---------|------------------------------------|
| 第50図3  | F2区上層       | 条痕→粗いナデ     | 条痕→粗いナデ | 濃黄褐色      | 黄褐色      | 1~2mmの細砂粒少量                 |       | 188     |                                    |
| 第50図4  | no.5・20上層   | 板状土具による粗いナデ | ナデ      | 黒褐色       | 暗灰褐色     | 1~2mmの細砂粒少量                 |       | 84・94   | 2号土坑8図3に近い                         |
| 第50図5  | no.25上層     | 条痕          | ナデ      | 茶褐～黒色     | 黒灰色      | 1~2mmの細砂粒少量                 |       | 235     | 口唇部に平坦面あり                          |
| 第50図6  | E2区上層       | ケズリ状ナデ      | ナデ      | にぶい黄灰～灰褐色 | にぶい黄灰色   | 1~2mmの細砂粒少量                 |       | 167     |                                    |
| 第51図1  | グリッド上層12・28 | 条痕          | 条痕→ナデ   | 灰黄色～黒灰色   | 暗灰褐色～黒褐色 | 1~2mmの細砂粒少量                 |       | 156・255 | 刻目突帯文                              |
| 第51図2  | 11グリッド上層    | 条痕          | 条痕→ナデ   | 黄灰褐色～暗灰色  | 黄茶褐色     | 1~2mmの細砂粒少量                 |       | 252     | 252と同一個体の可能性あり                     |
| 第51図3  | f3グリッド上層    | 条痕          | 条痕→ナデ   | 灰黄色       | 灰橙黄色     | 1~4mmの細砂粒含む                 |       | 190     | 刻目突帯文                              |
| 第51図4  | 11グリッド上層10  | 条痕          | 条痕→ナデ   | 灰黄色～黒灰色   | 暗灰褐色～黒褐色 | 1~2mmの細砂粒少量                 |       | 89・195  | 刻目突帯文                              |
| 第51図5  | m1グリッド上層    | ミガキ         | ナデ      | 灰黄色       | 灰黄褐色～暗茶色 | 1~3mmの細砂粒多い                 |       | 232     |                                    |
| 第51図6  | m4グリッド上層    | 幅の広いケズリ     | ナデ      | 暗灰黄色      | 灰橙黄色     | 1~4mmの細砂粒多い                 |       | 251     |                                    |
| 第51図7  | m2グリッド上層    | 条痕→ナデ       | 条痕→ナデ   | 暗茶褐～黒色    | 暗茶褐色～黒色  | mmの砂粒をやや多く含む                | 胴19.4 | 209     |                                    |
| 第51図8  | h1グリッド上層    | ナデ          | ナデ      | 黄白色       | 黒灰色      | 1~2mmの細砂粒少量                 | 底9.9  | 231     |                                    |
| 第51図9  | 土坑5上位       | ケズリ         | ナデ      | 黄橙褐色      | 灰黄色      | 1~4mmの細砂粒多い                 | 底12.0 | 70      | 浅鉢の底部                              |
| 第51図10 | no.27上層     | オサエ→ナデ      | ナデ      | にぶい黄橙褐色   | にぶい淡黒灰色  | 1~4mmの細砂粒多い                 | 底7.6  | 96      | 煮沸による変色、器面の荒れが少ない                  |
| 第51図11 | E2区上層       | ケズリ状ナデ      | ナデ      | にぶい橙灰褐色   | 黄灰褐色     | 1~3mmの細砂粒多い                 | 底7.6  | 142     | 煮沸による変色あり                          |
| 第51図12 | k4グリッド上層    | ナデ          | ナデ      | 暗黄褐～暗橙褐色  | 黄灰褐色     | 1~3mmの細砂粒わずか                | 底8.0  | 184     | 煮沸による変色あり                          |
| 第51図13 | no.37上層     | ナデ          | ナデ      | 黄褐～淡橙褐色   | 灰黄褐～黒色   | 1~2mmの細砂粒少量                 | 底7.6  | 101     | 煮沸による変色あり                          |
| 第51図14 | S3グリッド      | ナデ          | 条痕・ナデ   | 黄橙茶褐色     | 暗灰褐色     | 1~5mmの細砂粒多い                 | 底8.4  | 160     | no.6・17・33グリッド出土の複合                |
| 第51図15 | 14グリッド上層10  | ナデ          | ナデ      | 黄橙茶褐色     | 暗茶褐色～黒色  | 1~3mmの細砂粒多い                 |       | 200     |                                    |
| 第59図1  | 3号土坑        | 押型文施文       | ナデ      | 灰黄褐～灰黒褐色  | 灰黄褐～灰黒褐色 | 1~2mmの細砂粒少量                 | 口32.2 | 225     | 外面に幅10mmの山形押型文横走                   |
| 第59図2  | 3号土坑        | 押型文施文       | ナデ      | 灰黄褐～灰黒褐色  | 灰黄褐～灰黒褐色 | 1~2mmの細砂粒少量                 |       | 226     | 外面に幅10mmの山形押型文横走、縦走                |
| 第59図3  | 3号土坑        | 押型文施文       | ナデ      | 灰黄褐～灰黒褐色  | 灰黄褐～灰黒褐色 | 1~2mmの細砂粒少量                 |       | 230     | 外面に幅10mmの山形押型文横走                   |
| 第59図4  | 4号土坑        | 押型文施文       | ナデ      | 暗茶褐色      | 茶褐色      | 1mmの細砂粒少量<br>1mmの細砂粒少量      |       | 241     | 外面に径4×3mmの小型指門押型文横走<br>内面口唇部に施文原形痕 |
| 第59図5  | 4号土坑        | 押型文施文       | ナデ      | 茶褐色       | 暗茶褐色     | 1~4mmの細砂粒多い                 |       | 69      | 外面に径4×3mmの小型指門押型文横走                |
| 第59図6  | 5号土坑        | 押型文施文       | ナデ      | 黄褐色       | 暗茶褐色     | 1~3mmの細砂粒少量<br>1~3mmの細砂粒多い  |       | 239     | 外面に径4×1mmの小型指門押型文横走・斜走<br>28図10に近い |
| 第59図7  | 5号土坑        | 押型文施文       | ナデ      | 灰黄褐～灰黒褐色  | 灰黄褐～灰黒褐色 | 1~3mmの細砂粒多い                 |       | 238     | 外面に幅6mmの小型山形押型文横走                  |
| 第60図1  | F2区中層下位・上層  | 押型文施文       | ナデ      | 茶褐色       | 茶褐色      | 1~3mmの細砂粒多い<br>1~2mmの細砂粒わずか |       | 221     | 外面に径3×2mmの小型指門押型文横走<br>内面口唇部に施文原形痕 |
| 第60図2  | F2区中層下位     | 押型文施文       | ナデ      | 灰黄褐色      | 灰黄褐色     | 1~2mmの細砂粒わずか<br>1~3mmの細砂粒少量 |       | 150     | 外面に径3×2mmの小型指門押型文横走<br>内面口唇部に施文原形痕 |
| 第60図3  | F2区中層下位     | 押型文施文       | ナデ      | 暗茶褐色      | にぶい黄茶褐色  | 1~3mmの細砂粒わずか                |       | 151     | 外面に径3×2mmの小型指門押型文横走                |
| 第60図4  | F2区中層下位     | 押型文施文       | ナデ      | 褐色        | 黄橙褐色     | 1~3mmの細砂粒多い                 |       | 148     | 外面に径3×2mmの小型指門押型文横走                |
| 第60図5  | F2区黄色土      | 押型文施文       | ナデ      | 黄褐色       | 灰黄色      | 1~3mmの細砂粒わずか                |       | 253     | 外面に径3×2mmの小型指門押型文横走                |
| 第60図6  | F2区中層下位     | 押型文施文       | ナデ      | 黄褐色       | 灰黄色      | 1~5mmの砂粒少ない                 |       | 149     | 外面に径3×2mmの小型指門押型文横走                |
| 第60図7  | 第1遺構検出面     | 押型文施文       | ナデ      | 茶褐色       | 茶褐色      | 1~2mmの細砂粒少ない                |       | 254     | 外面に径3×2mmの小型指門押型文横走                |
| 第60図8  | 出土地点不明      | 押型文施文       | ナデ      | 暗茶褐色      | 茶褐色      | 1~3mmの細砂粒多い<br>1~3mmの細砂粒少量  |       | 135     | 外面に径10×8mmの指門押型文横走<br>内面口唇部に施文原形痕  |
| 第60図9  | F2区中層       | 押型文施文       | ナデ      | 明黄灰色      | 暗灰黄色     | 1~5mmの砂粒少量                  |       | 260     | 外面に径10×5mmの指門押型文斜走                 |
| 第60図10 | E1区上層       | 押型文施文       | ナデ      | 灰黄色       | 灰黄色      | 1~3mmの細砂粒少量<br>1~4mmの砂粒少量   |       | 162     | 外面に径5×1mmの指門押型文斜走<br>27図6に近い       |
| 第60図11 | E2区中層       | 押型文施文       | ナデ      | 茶褐色       | 暗茶褐色     | 1~4mmの砂粒多い                  |       | 228     | 外面に幅10mmの山形押型文横走                   |
| 第60図12 | E2区上層       | 押型文施文       | ナデ      | 灰黄～黒灰色    | 暗灰黄色     | 1~2mmの細砂粒多い                 |       | 164     | 外面に幅10mmの山形押型文横走                   |
| 第60図13 | 斜面黄色土       | ナデ          | ケズリ状ナデ  | 茶褐色       | にぶい暗灰褐色  | 1~3mmの細砂粒少量                 |       | 136     | 無文土器                               |
| 第63図1  | 流路黒灰色砂質土    | ケズリ状ナデ      | ナデ      | にぶい暗黄色    | にぶい暗黄色   | 1mmの細砂粒多い                   |       | 124     |                                    |
| 第63図2  | 流路黒灰色砂質土    | オサエ→ナデ      | ナデ      | 灰黒色       | にぶい黄橙灰色  | 1~3mmの細砂粒少量                 | 底8.6  | 127     | 外面使用による赤変                          |
| 第63図3  | 流路灰褐色粗砂     | ナデ          | ナデ      | 灰黄褐色      | 灰黄褐～灰黒色  |                             | 底10.8 | 125     |                                    |
| 第63図4  | 流路          | 条痕→ナデ       | 条痕→ナデ   | 黄茶褐色      | 黒灰褐色     |                             | 胴42.0 | 109・122 |                                    |
| 第63図10 | 2号溝         | ミガキ         | ミガキ     | 暗黒褐色      | 暗黒褐色     |                             |       | 72      | 広田Ⅰ式                               |
| 第63図11 | P8          | 押型文施文       | ナデ      | 茶褐色       | にぶい暗茶褐色  |                             |       | 79      | 外面に径4×3mmの小型指門押型文横走                |
| 第63図12 | P9          | 押型文施文       | ナデ      | にぶい灰黄褐色   | にぶい暗灰褐色  |                             |       | 80      | 外面に幅10mmの山形押型文横走                   |
| 第63図13 | P10         | 押型文施文       | ナデ      | 茶褐色       | にぶい灰茶褐色  |                             |       | 81      | 外面に径4×3mmの小型指門押型文横走                |

表5-2 内河遺跡第1次調査出土縄文土器観察表

| 図番号    | 出土地点                | 器種         | 長さ    | 幅     | 厚さ    | 重量(g)  | 石材    | 備考                |
|--------|---------------------|------------|-------|-------|-------|--------|-------|-------------------|
| 第42図1  | 土坑2上層               | 石鏃         | 3.1   | 1.9   | 0.3   | 1.5    | サヌカイト | 取り上げNo.8 完形品 全面風化 |
| 第42図2  | 土坑2一括               | 削器         | 3.2   | 2.1   | 0.4   | 2.4    | 黒曜石   | 不純物が入る石材          |
| 第42図3  | 土坑2一括               | 搔器         | 2.9   | 3.3   | 0.9   | 9.9    | 黒曜石   | 自然面3面             |
| 第42図4  | 土坑2一括               | 削器         | 4.2   | 2.3   | 0.4   | 4.9    | サヌカイト |                   |
| 第42図5  | 土坑2一括               | 削器         | 3.4   | 5.7   | 1.5   | 29.9   | サヌカイト | 古い剥離面を2面残す        |
| 第42図6  | 土坑2一括               | ラウンドスクレーパー | 3.7   | 4.0   | 1.1   | 18.8   | サヌカイト |                   |
| 第42図7  | 土坑2上位               | 搔器         | 3.3   | 3.3   | 1.4   | 15.5   | サヌカイト | 自然面1面残す 取り上げNo.3  |
| 第52図1  | 黄橙色土層               | 石鏃         | 2.2   | 2.3   | 0.5   | 1.7    | 黒曜石   | 取り上げNo.37 全面風化    |
| 第52図2  | j-k-3・4グリッドにぶい黄橙色土層 | 石鏃         | 2.9   | 2.0   | 0.8   | 3.1    | 黒曜石   | 全面風化              |
| 第52図3  | E1区粗砂層上面            | サイドブレード    | (2.2) | (1.7) | 0.2   | (0.7)  | 黒曜石   |                   |
| 第52図4  | h4グリッド下層            | 搔器         | (3.4) | 2.4   | 0.6   | 4.7    | 黒曜石   | 自然面1面             |
| 第52図5  | E1区粗砂層上面            | 削器         | (2.3) | (3.1) | 0.7   | (4.3)  | 黒曜石   | 全面風化              |
| 第52図6  | no.4下層              | 削器         | (3.4) | (4.3) | 0.9   | (13.6) | 黒曜石   | 自然面1面             |
| 第52図7  | F2区中層下位             | 削器         | 3.0   | 2.2   | 0.6   | 3.5    | 黒曜石   |                   |
| 第52図8  | F1区中層               | サイドブレード    | (2.3) | (2.8) | 0.4   | (2.2)  | 黒曜石   |                   |
| 第52図9  | F2区中層               | 削器         | 3.3   | 2.0   | 0.7   | 5.5    | 黒曜石   |                   |
| 第52図10 | j-k-3・4グリッドにぶい黄橙色土層 | 削器         | 3.6   | 1.7   | 0.7   | 3.6    | 黒曜石   |                   |
| 第52図11 | F2区中層下位             | 削器         | 5.9   | (5.9) | 1.2   | (40.6) | サヌカイト |                   |
| 第52図12 | m2グリッド中層            | 削器         | 2.8   | 2.2   | 0.7   | 3.4    | 黒曜石   |                   |
| 第52図13 | E2区中層               | 削器未製品      | 2.5   | 1.5   | 0.2   | 0.9    | 黒曜石   |                   |
| 第52図14 | j-k-3・4グリッドにぶい黄橙色土層 | 削器         | 2.7   | 3.8   | 1.4   | 16.3   | 黒曜石   | 自然面2面残す           |
| 第52図15 | n1グリッド中層            | 削器         | 2.5   | 3.1   | 0.4   | 3.0    | サヌカイト | 全面風化              |
| 第52図16 | F1区中層               | 使用痕のある剥片   | 2.0   | 2.2   | 0.6   | 1.4    | 黒曜石   | 削器的使用             |
| 第52図17 | m1グリッド中層            | 剥片         | 2.5   | 2.8   | 0.4   | 2.5    | サヌカイト | 全面風化 自然面1         |
| 第53図1  | F2区中層               | 削器         | 1.7   | 1.8   | 0.4   | 1.1    | 黒曜石   |                   |
| 第53図2  | j-k-3・4グリッドにぶい黄橙色土層 | 楔形石器       | 1.7   | (1.2) | 0.8   | (1.4)  | 黒曜石   |                   |
| 第53図3  | j3グリッド中層            | 搔器         | 3.4   | 2.6   | 1.2   | 8.4    | 黒曜石   | 自然面2面             |
| 第53図4  | F1区中層               | 削器         | 2.0   | 3.6   | 0.9   | 6.4    | 黒曜石   |                   |
| 第53図5  | E1区中層               | 削器         | 2.2   | 2.3   | 0.6   | 2.6    | 黒曜石   | 不純物を多く含む石材        |
| 第53図6  | E2区中層               | 削器         | 3.6   | 1.5   | 0.4   | 2.0    | 黒曜石   |                   |
| 第53図7  | j-k-3・4グリッドにぶい黄橙色土層 | 削器         | (3.3) | (1.8) | 0.4   | (1.3)  | 黒曜石   | 不純物入る石材 自然面1      |
| 第53図8  | F2区中層               | 2次加工剥片     | 3.8   | 5.0   | 1.8   | 33.6   | サヌカイト | 自然面3面残す           |
| 第53図9  | m1グリッド中層            | 打製石斧未製品    | (5.9) | 8.1   | 1.3   | (98.1) | 玄武岩   | 全面風化              |
| 第54図1  | 第1遺構検出面             | 石鏃         | 2.2   | (1.4) | 0.5   | (0.8)  | 黒曜石   | 半分欠損              |
| 第54図2  | i3グリッド上層            | 石鏃         | 2.9   | 1.8   | 0.4   | 1.7    | 黒曜石   | 完形品 先端は欠損後再加工     |
| 第54図3  | i4グリッド上層            | 石鏃         | 3.2   | 1.8   | 0.5   | 2.3    | サヌカイト |                   |
| 第54図4  | 第1遺構検出面             | 石鏃         | 3.0   | 1.7   | 0.7   | 2.9    | 黒曜石   |                   |
| 第54図5  | 黄橙色土層               | 縦型石匙       | 6.4   | 2.9   | 0.8   | 20.7   | サヌカイト | 取り上げNo.39         |
| 第54図6  | i3グリッド上層            | 石匙片か       | (2.5) | (2.4) | (0.7) | (3.8)  | サヌカイト |                   |
| 第54図7  | n1グリッド上層            | 削器         | 2.6   | 2.0   | 0.7   | 3.5    | 黒曜石   |                   |
| 第54図8  | i4グリッド上層            | 削器         | (2.1) | (2.7) | 0.4   | (2.1)  | 黒曜石   |                   |
| 第54図9  | k4グリッド上層            | 削器         | 4.2   | 2.3   | 0.6   | 6.7    | 黒曜石   |                   |
| 第54図10 | にぶい暗橙色土層(上層)        | 彫器兼削器      | 6.9   | 3.3   | 1.4   | 24.7   | サヌカイト | 先端は彫器として使用        |
| 第54図11 | にぶい暗黄橙色土層           | 彫器         | 5.0   | 1.4   | 0.4   | 3.4    | 黒曜石   |                   |
| 第54図12 | 遺構検出面               | 細石刃核       | 3.1   | 1.7   | 1.1   | 6.8    | 黒曜石   |                   |
| 第54図13 | F2区上層               | 削器         | 3.5   | 1.7   | 0.9   | 4.3    | 黒曜石   |                   |
| 第54図14 | h-1グリッド上層           | 使用痕のある剥片   | 2.6   | 1.8   | 0.4   | 1.1    | 黒曜石   |                   |
| 第54図15 | No.30上層             | 削器         | 3.2   | 2.3   | 0.6   | 4.6    | 黒曜石   |                   |
| 第54図16 | E2区上層               | 使用痕のある剥片   | 3.0   | 2.4   | 0.9   | 5.6    | 黒曜石   |                   |
| 第54図17 | j3グリッド上層            | サイドブレード    | 2.4   | 1.8   | 0.6   | 2.4    | 黒曜石   | 縞の入る石材            |
| 第54図18 | F1区上層               | 楔形石器       | 3.5   | 1.1   | 0.3   | 11.6   | 黒曜石   |                   |
| 第54図19 | j3グリッド上層            | 削器         | 2.8   | 2.8   | 1.5   | 1.6    | 黒曜石   |                   |
| 第54図20 | E2区上層               | 使用痕のある剥片   | 2.5   | 1.6   | 0.4   | 1.5    | 黒曜石   | 全面風化              |
| 第55図1  | F1区上層               | サイドブレード    | 1.7   | 1.6   | 0.3   | 1.6    | 黒曜石   |                   |
| 第55図2  | F2区上層               | サイドブレード    | (1.8) | (2.0) | 0.3   | (0.8)  | 黒曜石   |                   |

表6-1 内河遺跡第1次調査出土縄文石器観察表

| 図番号    | 出土地点        | 器種       | 長さ    | 幅     | 厚さ    | 重量(g)  | 石材    | 備考                     |
|--------|-------------|----------|-------|-------|-------|--------|-------|------------------------|
| 第55図3  | F2区上層       | 削器       | (3.0) | (3.0) | 0.5   | (4.2)  | 黒曜石   | 欠損のため刃部不明瞭             |
| 第55図4  | I2グリッド上層    | サイドブレード  | (2.2) | 1.6   | 0.5   | (1.2)  | 黒曜石   | 全面風化                   |
| 第55図5  | j3グリッド上層    | 削器       | 1.9   | 3.4   | 0.7   | 4.0    | サヌカイト | 全面風化 自然面1              |
| 第55図6  | I3グリッド上層    | 剥片       | 2.5   | 3.2   | 0.3   | 2.4    | サヌカイト | 全面風化                   |
| 第55図7  | にぶい暗黄橙色土層   | 使用痕のある剥片 | 1.7   | 2.8   | 0.3   | 1.4    | 黒曜石   | 自然面3面                  |
| 第55図8  | I3グリッド上層    | 剥片       | 1.8   | 1.4   | 0.2   | 0.6    | 黒曜石   |                        |
| 第55図9  | E1区上層       | 石核       | 2.1   | 2.5   | 2.0   | 8.1    | 黒曜石   | 自然面4面残す                |
| 第55図10 | I4グリッド上層    | 石核       | 2.5   | 3.2   | 2.4   | 19.0   | 黒曜石   | 自然面1面残す 不純物を多く含む       |
| 第55図11 | F2区上層       | 石核       | 2.6   | 3.9   | 1.9   | 19.8   | 黒曜石   | 自然面4面残す                |
| 第55図12 | E2区上層       | 石核       | (6.4) | 2.4   | 1.1   | (19.5) | 黒曜石   | 新欠損面以外風化               |
| 第55図13 | 第1遺構検出面     | 局部磨製石斧   | 15.3  | 5.7   | 1.9   | 273.1  | 緑泥片岩  |                        |
| 第55図14 | F2区上層       | 磨製石斧     | (8.5) | 3.3   | 1.3   | (67.6) | 凝灰岩   |                        |
| 第55図15 | F1区上層       | 磨製石斧     | (4.5) | (3.5) | (2.4) | (28.7) | 凝灰岩   |                        |
| 第56図1  | j3グリッド上層    | 削器未製品    | 4.5   | 4.7   | 2.2   | 39.9   | サヌカイト | 自然面3面残す                |
| 第56図2  | h1グリッド上層    | 2次加工剥片   | 4.3   | 5.0   | 2.0   | 30.5   | サヌカイト | 自然面1面残す                |
| 第56図3  | h1グリッド上層    | 2次加工剥片   | 3.2   | 7.7   | 2.5   | 52.9   | サヌカイト | 全面風化                   |
| 第56図4  | E2区上層       | 削器未製品    | 5.0   | 6.3   | 1.9   | 52.2   | サヌカイト | 自然面1面残す                |
| 第56図5  | E2区上層       | 2次加工剥片   | 7.4   | 4.8   | 2.0   | 57.3   | 安山岩   | 縞が多く入る                 |
| 第56図6  | E2区上層       | 削器未製品    | 3.6   | 5.6   | 1.5   | 39.5   | サヌカイト | 自然面1面残す                |
| 第61図1  | 土坑3         | 使用痕のある剥片 | 2.6   | 1.8   | 0.3   | 1.0    | 黒曜石   | 全面風化                   |
| 第61図2  | 土坑3         | 削器       | (1.7) | 2.0   | 0.9   | (2.5)  | 黒曜石   | 自然面1                   |
| 第61図3  | 土坑3         | 使用痕のある剥片 | (2.5) | 1.8   | 0.4   | (2.0)  | 黒曜石   | 全面風化                   |
| 第61図4  | 土坑4         | 石鏃       | (1.4) | (1.2) | 0.3   | (0.5)  | 黒曜石   | 取り上げNo.1 一部欠損          |
| 第61図5  | 土坑4         | 石核       | 2.7   | 4.4   | 1.7   | 23.1   | サヌカイト | 全面風化 取り上げNo.2          |
| 第61図6  | 土坑4・5       | 使用痕のある剥片 | 4.5   | 4.5   | 0.9   | 16.8   | サヌカイト | 取り上げNo.2               |
| 第61図7  | F2区明黄色土     | 挟入り石器    | 1.7   | 1.7   | 0.6   | 1.1    | 黒曜石   | 挟り入り                   |
| 第61図8  | 斜面黄色土層      | 石鏃       | 2.7   | (1.7) | 0.5   | 0.8    | 黒曜石   | 一部欠損                   |
| 第61図9  | F2区明黄色土     | 挟入り石器    | 2.8   | 2.5   | 0.7   | 4.3    | 黒曜石   | 挟り入り 縞の入る石材            |
| 第64図1  | 流路にぶい灰褐色粗砂層 | 横型石匙     | (2.9) | 11.8  | 0.8   | (30.0) | サヌカイト | 全面風化                   |
| 第64図2  | 流路暗灰色粗砂層    | 石錐       | 5.3   | 2.3   | 0.7   | 8.5    | サヌカイト | 全面風化                   |
| 第64図3  | 流路内         | 削器       | 3.4   | 1.8   | 0.5   | 3.1    | 黒曜石   | 全面風化                   |
| 第64図4  | 流路暗灰色粗砂質層   | 削器       | (1.8) | (1.3) | 0.4   | (1.2)  | 黒曜石   |                        |
| 第64図5  | 流路          | 搔器       | 1.5   | 1.4   | 0.4   | 1.0    | 黒曜石   |                        |
| 第64図6  | 流路          | 搔器       | 2.6   | 1.5   | 0.5   | 1.4    | 黒曜石   | 自然面1                   |
| 第64図7  | 流路にぶい黄橙灰色土層 | 2次加工剥片   | 2.3   | 1.8   | 0.8   | 2.8    | 黒曜石   |                        |
| 第64図8  | 流路黒灰色粗砂質層   | 削器       | (2.7) | 2.3   | 0.4   | (1.8)  | 黒曜石   | 不純物ある石材                |
| 第64図9  | 流路          | 削器       | 2.8   | 0.9   | 0.4   | 0.8    | 黒曜石   | 自然面1                   |
| 第64図10 | 流路黒灰色粗砂質層   | 搔器       | 2.2   | 3.3   | 0.7   | 4.5    | 黒曜石   | 全面風化                   |
| 第64図11 | 流路暗灰色粗砂質層   | 削器       | 2.4   | 1.7   | 0.5   | 1.5    | 黒曜石   | 不純物の入る石材               |
| 第64図12 | 流路黒灰色粗砂質層   | 搔器兼削器    | 2.4   | 1.9   | 0.3   | 1.4    | 黒曜石   | 一部に削器として使用した刃部がある      |
| 第64図13 | 土坑1         | サイドブレード  | 2.2   | 2.7   | 0.3   | 2.2    | 黒曜石   | 取り上げNo.6               |
| 第64図14 | 溝4          | サイドブレード  | (1.9) | (2.0) | 0.4   | (1.2)  | サヌカイト | 全面風化                   |
| 第64図15 | 溝4          | 石鏃未製品    | (1.7) | (1.5) | 0.7   | (2.3)  | 黒曜石   | 左端部は新欠                 |
| 第64図16 | 溝4          | 削器       | 3.1   | 4.6   | 1.3   | 17.7   | サヌカイト | 縞が入る石材 全面風化            |
| 不掲載分   |             |          |       |       |       |        |       |                        |
| 登88    | i3グリッド上層    | 剥片       | 2.6   | 2.1   | 0.6   | 5.3    | 黒曜石   | 姫島産                    |
| 登89    | 土坑2一括       | 剥片       | 2.0   | 1.3   | 0.3   | 1.1    | 黒曜石   | 自然面1面                  |
| 登90    | 土坑2一括       | 剥片       | 1.4   | 1.5   | 0.8   | 0.9    | 黒曜石   |                        |
| 登91    | 土坑2一括       | 剥片       | 1.9   | 1.3   | 0.4   | 1.2    | 黒曜石   |                        |
| 登92    | 土坑2一括       | 剥片       | 1.9   | 1.6   | 0.2   | 0.6    | 黒曜石   |                        |
| 登93    | 土坑2一括       | 剥片       | 2.3   | 2.0   | 0.4   | 1.6    | 黒曜石   | 一部使用か 不純物を含む石材         |
| 登94    | 土坑2一括       | 剥片       | 2.6   | 0.9   | 0.4   | 1.1    | 黒曜石   | 長方形の板状                 |
| 登95    | 土坑2一括       | 剥片       | 2.5   | 2.1   | 0.4   | 1.4    | 黒曜石   | 目的剥片か 一部使用か            |
| 登96    | 土坑2一括       | 剥片       | 2.2   | 1.4   | 0.4   | 1.1    | 黒曜石   |                        |
| 登97    | 土坑2一括       | 剥片       | 1.9   | 2.1   | 0.5   | 2.2    | 黒曜石   | 不純物を含む石材               |
| 登98    | 土坑2一括       | 剥片       | 2.2   | 1.6   | 0.6   | 3.2    | 黒曜石   | 不純物を含む石材               |
| 登99    | 土坑2一括       | 剥片       | (2.1) | (2.8) | 0.6   | (2.7)  | 黒曜石   | 不純物を含む石材 下端新欠          |
| 登100   | 土坑2一括       | 剥片       | 3.7   | 1.2   | 0.5   | 2.1    | 黒曜石   | 自然面1面 不純物を含む石材         |
| 登101   | 土坑2一括       | 剥片       | 3.5   | 1.4   | 0.8   | 3.3    | 黒曜石   | 先端を彫器として使用したか 不純物を含む石材 |

表6-2 内河遺跡第1次調査出土縄文石器観察表

| 図番号  | 出土地点        | 器種       | 長さ    | 幅     | 厚さ    | 重量(g) | 石材    | 備考                       |
|------|-------------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------------------|
| 登102 | 土坑2一括       | 剥片       | 1.2   | 2.3   | 0.5   | 1.3   | 黒曜石   | 不純物を含む石材                 |
| 登103 | 土坑2一括       | 剥片       | 2.6   | 2.0   | 1.0   | 4.1   | 黒曜石   | 不純物を含む石材                 |
| 登104 | 土坑2一括       | 剥片       | 2.2   | 2.4   | 1.0   | 6.8   | 黒曜石   | 自然面と古い剥離面を背面とする石核状       |
| 登105 | 土坑2一括       | 剥片       | 2.8   | 2.9   | 0.8   | 5.0   | 黒曜石   | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面1面           |
| 登106 | 土坑2一括       | 剥片       | 2.6   | 3.2   | 0.8   | 6.5   | 黒曜石   | 不純物を含む石材 自然面2面           |
| 登107 | 土坑2一括       | 剥片       | 2.1   | 3.5   | 0.7   | 3.3   | サヌカイト | 全面風化                     |
| 登108 | 土坑4         | 剥片       | 2.0   | 2.6   | 0.4   | 1.9   | サヌカイト | 目的剥片か 全面風化               |
| 登109 | 溝2          | 剥片       | 1.7   | 1.3   | 0.4   | 0.7   | 黒曜石   | 石刃状 一部使用か 不純物を含む石材       |
| 登110 | 溝2          | 剥片       | 1.7   | 1.4   | 1.0   | 2.3   | 黒曜石   | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面1面 不純物を含む石材  |
| 登111 | 溝2          | 剥片       | 4.2   | 2.8   | 1.0   | 7.1   | 黒曜石   | 一部使用か 不純物を含む石材           |
| 登112 | 溝3下層        | 剥片       | 3.6   | 4.0   | 0.9   | 14.0  | サヌカイト | 皮剥ぎ段階の剥片 全面風化            |
| 登113 | ピット1        | 使用剥片     | 3.3   | 1.5   | 0.4   | 2.6   | 黒曜石   | 一部を搔器的に使用か 自然面2面         |
| 登114 | ピット2        | 使用剥片     | (1.8) | 1.5   | 0.3   | (0.7) | 黒曜石   | サイドブレードの可能性あり 風化         |
| 登115 | 倒木痕         | 剥片       | 1.6   | 1.3   | 0.7   | 1.2   | 黒曜石   | 自然面2面                    |
| 登116 | No.8        | 剥片       | 4.2   | 2.0   | 0.7   | 6.4   | サヌカイト | 石刃状の縦長剥片 一部使用の可能性あり 自然面1 |
| 登117 | E1区上層       | 剥片       | 1.5   | 1.0   | 0.3   | 0.2   | 黒曜石   | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面1面 全面風化      |
| 登118 | E1区上層       | 剥片       | 1.0   | 1.5   | 0.2   | 0.2   | 黒曜石   |                          |
| 登119 | E1区上層       | 剥片       | 1.3   | 2.2   | 0.3   | 0.5   | 黒曜石   | 横長剥片                     |
| 登120 | E1区上層       | 剥片       | 0.9   | 1.2   | 0.4   | 0.6   | 黒曜石   | 横長剥片                     |
| 登121 | E1区上層       | 剥片       | 1.7   | 2.2   | 0.6   | 1.4   | 黒曜石   | 横長剥片                     |
| 登122 | E1区上層       | 剥片       | 1.4   | 2.4   | 0.4   | 1.2   | 黒曜石   | 横長剥片                     |
| 登123 | E1区上層       | 剥片       | 1.4   | 1.8   | 1.2   | 3.5   | 黒曜石   | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面1面           |
| 登124 | E1区上層       | 剥片       | 1.7   | 2.8   | 0.3   | 1.4   | サヌカイト | 自然面3面                    |
| 登125 | E1区上層       | 剥片       | 2.2   | 2.4   | 1.2   | 4.6   | サヌカイト | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面1面           |
| 登126 | E1区上層       | 剥片       | 2.0   | 0.7   | 0.2   | 0.2   | 黒曜石   | 小石刃状 風化していない             |
| 登127 | E1区上層       | 剥片       | 2.5   | 1.2   | 0.5   | 0.8   | 黒曜石   | 自然面1面 横長剥片               |
| 登128 | E1区上層       | 剥片       | 2.2   | 1.8   | 0.5   | 1.7   | 黒曜石   | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面3面           |
| 登129 | E1区上層       | 使用剥片     | 3.7   | 1.6   | 0.9   | 4.9   | 黒曜石   | 削器として一部使用 自然面2面          |
| 登130 | E1区上層       | 剥片       | 1.9   | 2.9   | 0.6   | 2.5   | サヌカイト | 全面風化                     |
| 登131 | E1区上層       | 剥片       | 2.7   | 2.0   | 0.6   | 3.7   | サヌカイト | 全面風化 自然面1面               |
| 登132 | E2区         | 剥片       | 2.0   | 3.2   | 1.0   | 3.4   | サヌカイト | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面1面           |
| 登133 | E2区上層       | 剥片       | 2.1   | 4.2   | 2.2   | 15.3  | サヌカイト | 残核状 全面風化                 |
| 登134 | E2区中層       | 剥片       | 2.0   | 3.4   | 1.5   | 20.9  | サヌカイト | 2次加工剥片の可能性あり 自然面2面       |
| 登135 | F1区上層       | 剥片       | 2.5   | 2.0   | 0.6   | 2.5   | 黒曜石   | 目的剥片か 自然面1面              |
| 登136 | F1区中層       | 剥片       | 1.7   | 1.7   | 1.8   | 4.2   | 黒曜石   | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面2と古い剥離面1     |
| 登137 | F2区上層       | 剥片       | 1.6   | 1.2   | 0.2   | 0.6   | 黒曜石   | 自然面1面                    |
| 登138 | F2区上層       | 剥片       | 2.0   | 1.2   | 0.2   | 0.6   | 黒曜石   | 自然面1を打面とする核から剥ぎ出されたもの    |
| 登139 | F2区上層       | 剥片       | 1.2   | 1.8   | 0.4   | 0.8   | 黒曜石   | 横長剥片                     |
| 登140 | F2区上層       | 剥片       | 2.2   | 5.4   | 0.7   | 10.5  | サヌカイト | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面3面           |
| 登141 | F2区上層       | 剥片       | 2.0   | 1.3   | 0.3   | 0.7   | 黒曜石   | 斜めに剥いだ剥片                 |
| 登142 | F2区上層       | 剥片       | 1.9   | 2.3   | 0.7   | 3.4   | 黒曜石   | 自然面2 一部使用か               |
| 登143 | F2区上層       | 2次加工剥片   | 2.9   | 1.5   | 0.7   | 2.4   | 黒曜石   | 彫器の未製品か 不純物入る石材          |
| 登144 | F2区上層       | 2次加工剥片   | 2.5   | 1.7   | 1.1   | 4.2   | 黒曜石   | 一部削器として使用か               |
| 登145 | F2区上層       | 剥片       | 3.7   | 2.6   | 0.8   | 8.7   | 黒曜石   | 目的剥片か 自然面4面で原礫をスライスしたもの  |
| 登146 | F2区黄色土層     | サイドブレード片 | (1.1) | (2.6) | (0.4) | (1.0) | 黒曜石   | 1面に調整剥離 刃部あり             |
| 登147 | F2区黄色土層     | 剥片       | 1.4   | 1.7   | 0.9   | 1.1   | 黒曜石   | 自然面1                     |
| 登148 | F2区黄色土層     | 剥片       | 2.3   | 1.5   | 0.4   | 1.2   | サヌカイト | 全面風化 自然面1                |
| 登149 | F2区明黄色土層    | 剥片       | 1.6   | 1.0   | 0.4   | 0.2   | 黒曜石   | 自然面2                     |
| 登150 | F2区明黄色土層    | 剥片       | 1.5   | 1.8   | 0.5   | 1     | 黒曜石   | 自然面1 一部使用か               |
| 登151 | F2区明黄色土層    | 剥片       | 2.1   | 2.0   | 0.9   | 3.9   | 黒曜石   | 目的剥片か 自然面1               |
| 登152 | F2区明黄色土層    | 石核残欠か    | 2.3   | 1.8   | 1.4   | 3.2   | 黒曜石   | 三角錐状 不純物を含む石材            |
| 登153 | F2区明黄色土層    | 剥片       | 3.0   | 2.4   | 0.7   | 4.8   | 黒曜石   | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面3面           |
| 登154 | F2区明黄色土層    | 剥片       | 3.9   | 1.8   | 1.7   | 5.6   | サヌカイト | 目的剥片か                    |
| 登155 | n1グリッド黄橙色土層 | 剥片       | 3.2   | 1.8   | 0.6   | 3.2   | 黒曜石   | 目的剥片か                    |
| 登156 | i1グリッド中層    | 剥片       | 2.2   | 1.1   | 0.4   | 0.9   | 黒曜石   | 自然面1 一部使用か               |
| 登157 | i2グリッド中層    | サイドブレードか | 1.1   | 1.6   | 0.3   | 0.5   | 黒曜石   | 調整剥離が部分的                 |
| 登158 | j2グリッド中層    | 剥片       | 2.0   | 2.2   | 0.5   | 2.5   | 黒曜石   | 自然面1 縞が入る石材              |
| 登159 | j2グリッド中層    | 剥片       | 2.2   | 2.5   | 0.6   | 2.8   | 黒曜石   | 横長剥片 自然面1面               |
| 登160 | j1グリッド上層    | 剥片       | 0.8   | 2.4   | 0.6   | 1.2   | 黒曜石   | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面1面           |

表6-3 内河遺跡第1次調査出土縄文石器観察表



| 図番号  | 出土地点                | 器種   | 長さ    | 幅   | 厚さ  | 重量(g) | 石材    | 備考                      |
|------|---------------------|------|-------|-----|-----|-------|-------|-------------------------|
| 登161 | j2グリッド上層            | 剥片   | 2.3   | 2.1 | 0.5 | 2.3   | 黒曜石   | 削器として一部使用か              |
| 登162 | j2グリッド上層            | 剥片   | 2.1   | 1.8 | 0.8 | 3.2   | 黒曜石   | 自然面2 不純物が多く入る石材         |
| 登163 | j2グリッド上層            | 剥片   | 2.5   | 2.1 | 0.8 | 3.2   | サヌカイト | 全面風化 一部削器として使用か         |
| 登164 | j2グリッド上層            | 剥片   | 5.0   | 2.0 | 1.2 | 8.0   | サヌカイト | 上下面に自然面                 |
| 登165 | j2グリッド中層            | 剥片   | 2.2   | 2.6 | 1.0 | 3.9   | 黒曜石   | 自然面2                    |
| 登166 | j2グリッド中層            | 剥片   | 2.0   | 3.9 | 1.0 | 6.8   | 黒曜石   | 自然面3                    |
| 登167 | j3グリッド中層            | 剥片   | 2.0   | 1.3 | 0.3 | 0.8   | 黒曜石   | 縞の入る石材                  |
| 登168 | j-k-3・4グリッドにぶい黄橙色土層 | 剥片   | 1.1   | 1.6 | 0.3 | 0.1   | 黒曜石   | 横長剥片                    |
| 登169 | j-k-3・4グリッドにぶい黄橙色土層 | 剥片   | (1.5) | 1.5 | 0.4 | (0.8) | 黒曜石   | 下部欠損 不純物を含む石材           |
| 登170 | j-k-3・4グリッドにぶい黄橙色土層 | 剥片   | 2.5   | 1.7 | 0.8 | 2.6   | 黒曜石   | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面3面 不純物を含む石材 |
| 登171 | j-k-3・4グリッドにぶい黄橙色土層 | 剥片   | 2.6   | 2.1 | 0.8 | 2.7   | 黒曜石   | 自然面1 不純物が多く含む石材         |
| 登172 | j-k-3・4グリッドにぶい黄橙色土層 | 剥片   | 4.5   | 2.7 | 0.4 | 5.0   | 黒曜石   | 目的剥片か 自然面1面             |
| 登173 | j-k-3・4グリッドにぶい黄橙色土層 | 剥片   | 1.9   | 1.6 | 0.4 | 1.6   | 黒曜石   |                         |
| 登174 | j-k-3・4グリッドにぶい黄橙色土層 | 剥片   | 3.0   | 1.4 | 0.4 | 1.5   | サヌカイト |                         |
| 登175 | j-k-3・4グリッドにぶい黄橙色土層 | 剥片   | 3.1   | 3.1 | 0.3 | 3.8   | サヌカイト | 全面風化 板状                 |
| 登176 | l1グリッド中層            | 剥片   | 3.1   | 1.7 | 0.3 | 1.7   | サヌカイト | 全面風化                    |
| 登177 | l4グリッド              | 剥片   | 1.2   | 2.7 | 0.9 | 2.8   | 黒曜石   | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面2面          |
| 登178 | m1グリッド中層            | 剥片   | 1.9   | 3.7 | 1.0 | 4.3   | サヌカイト | 皮剥ぎ段階の剥片                |
| 登179 | m1グリッド中層            | 剥片   | 1.7   | 2.4 | 1.1 | 4.0   | 黒曜石   | 残核状 自然面1                |
| 登180 | 欠番                  |      |       |     |     |       |       |                         |
| 登181 | m2グリッド上層            | 使用剥片 | 3.4   | 1.8 | 0.7 | 2.0   | 黒曜石   | 自然面2                    |
| 登182 | m2グリッド中層            | 剥片   | 4.9   | 1.6 | 0.6 | 3.4   | サヌカイト |                         |
| 登183 | m3グリッド上層            | 剥片   | 1.4   | 1.9 | 0.5 | 1.4   | 黒曜石   |                         |
| 登184 | m3グリッド              | 使用剥片 | 2.7   | 2.4 | 0.4 | 4.1   | 黒曜石   | 自然面1 一部削器として使用          |
| 登185 | m3グリッド上層            | 剥片   | 3.2   | 2.6 | 1.2 | 8.6   | 黒曜石   | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面1面          |
| 登186 | l-m4グリッド下層          | 剥片   | 3.1   | 2.2 | 0.3 | 2.0   | サヌカイト | 全面風化                    |
| 登187 | にぶい暗黄橙色土層           | 剥片   | 1.6   | 2.1 | 0.4 | 1.8   | 黒曜石   | 自然面1 不純物の入る石材           |
| 登188 | にぶい暗黄橙色土層           | 剥片   | 1.1   | 1.8 | 0.5 | 1.1   | 黒曜石   | 自然面3 不純物の入る石材           |
| 登189 | にぶい暗黄橙色土層           | 剥片   | 2.2   | 1.5 | 0.8 | 1.8   | 黒曜石   | 不純物の入る石材                |
| 登190 | にぶい暗黄橙色土層           | 剥片   | 1.6   | 1.1 | 0.3 | 0.8   | 黒曜石   | 不純物の入る石材                |
| 登191 | にぶい暗黄橙色土層           | 剥片   | 2.2   | 2.5 | 1.6 | 7.0   | 黒曜石   | 石核状 自然面2 不純物の入る石材       |
| 登192 | にぶい暗黄橙色土層           | 剥片   | 2.1   | 2.1 | 0.8 | 4.2   | 黒曜石   | 自然面3 不純物の入る石材           |
| 登193 | にぶい暗黄橙色土層           | 剥片   | 2.2   | 1.6 | 0.5 | 1.4   | 黒曜石   |                         |
| 登194 | にぶい暗黄橙色土層           | 剥片   | 2.1   | 1.8 | 0.5 | 1.4   | 黒曜石   | 不純物の入る石材                |
| 登195 | にぶい暗黄橙色土層           | 剥片   | 2.2   | 1.2 | 0.7 | 1.8   | 黒曜石   | 皮剥ぎ段階の剥片 自然面2 不純物の入る石材  |
| 登196 | 第1遺構検出面             | 剥片   | 3.0   | 1.6 | 1.3 | 6.4   | 黒曜石   | 石核状 不純物の入る石材            |
| 登197 | 第1遺構検出面             | 剥片   | 2.2   | 1.2 | 0.3 | 0.9   | 黒曜石   | 自然面1                    |
| 登198 | 流路上層                | 剥片   | 2.9   | 2.2 | 0.5 | 2.4   | 黒曜石   | 自然面1 欠損面以外風化            |
| 登199 | 流路黒灰粗砂質土層           | 剥片   | 4.5   | 6.6 | 0.7 | 15.5  | サヌカイト | 横長目的剥片の失敗品 全面風化         |
| 登200 | 斜面黄色土層              | 剥片   | 1.8   | 2.0 | 0.6 | 1.8   | 黒曜石   | 自然面1                    |

表6-4 内河遺跡第1次調査出土縄文石器観察表

## IV おわりに

本書で報告した遺跡は中世墓と思われる方形周溝（観音山古墳群瀬戸Ⅳ群）、縄文後期土器包含層・後期古墳（観音山古墳群中原Ⅲ群）そして縄文早期・晩期、中世の遺構・遺物を出土した内河遺跡と内容的にはほとんど接点をもたない3遺跡である。したがって本書の最後に当たって、九州新幹線建設に伴って発掘調査を行った遺跡及び影響を被った石造物などについて若干付記しておきたい（3頁、表1）。なお、試掘・確認調査等で遺跡を検出しなかった対象地については略する。

### 観音山古墳群平石Ⅲ群

中小10基の円墳と4基ほどの小石室、3基の奈良時代に造られた小型円形周溝墓、そして縄文時代に属するものと思われる石組炉などを検出した。円墳群は南端では沢に沿って東西に並び、いずれも南に開口する。調査区東端付近では南北方向に並び、西あるいは南に開口する。これらは調査区内でL字状に配置するが、古墳の無い空地地には何ら関連する遺構はなく、配列の意図は不明である。石室はすべて盗堀を受けていて、特記すべき出土品はない。

奈良時代の円形周溝墓は周溝内に土器を供献した例があることから間違いのないであろう。沢に沿った後期古墳に連続するように並んでいた。主体部は土坑墓1、石室2であるが、石室1基は半壊していた。良好に残る石室は礫を用いた棺台を設置し、堅穴式石室状に石状を組んでいたが、組み方が雑で、天井石は用いてなかった。

縄文早期に属する可能性のある石組炉は確実に1基であるが、発掘時に赤変した花崗岩を数点確認しており、本来は10基前後存在した可能性がある。遺物は古墳封土や地山の黄褐色土中において、グリッドを設定して掘り下げたがその他の遺構やまとまりは確認できなかった。

### 観音山古墳群平石Ⅳ群

1基が単独で立地していた。急斜面を掘鉢状に大きく開削し、その中にどちらかといえば小型の横穴式石室を組み上げている。南に開口し、東側は地山中に埋設するが、西側は盛土で押さえる形となる。崩落した痕跡は認めなかったが、西辺墓道貼石の前面（東側）に大型の石材を置いて二重構造としていた。石室は盗堀を受け、玉類・耳環と若干の鉄製品を出土したにすぎない。

なお、トンネル坑口付近の尾根線頂部にもわずかな高まりがあったためにトレンチ調査を行ったが、何ら遺構は確認できなかった。

### 観音山古墳群平石Ⅴ群

対象地の斜面下位の3基の横穴式石室墳を調査した。2号墳は石材のほとんどを抜き取られ、閉塞と一方の袖石を残すのみであった。3号墳の周溝は2号墳の墳丘を削り込むように堀削されていたが、その溝底から数点の鉄鏃などが出土していて、その意味を検討する必要がある。これも特記すべき出土品はない。古墳の上位斜面でも尾根線や谷状地形に数本のトレンチを開けたが、その他の遺構は存在しなかった。

### 観音山古墳群平石Ⅵ群

平石Ⅴ群の南に隣接する。工事範囲内は急峻な斜面となり、土坑やピットを検出したものの、古墳はなかった。古墳群は工事対象地の西、下位斜面に群集する。

#### 観音山古墳群瀬戸Ⅰ群

大溝1条、土坑やピットを検出した。大溝からは須恵器等が出土し、古墳群へ向かって延びることから墓道と考えられる。

#### 観音山古墳群瀬戸Ⅱ群

地形改変が著しく、尾根線西側は既に大きく破壊されていた。3基の古墳を調査したが、内1基は周溝のみが残存、1基は半壊、1基はほぼ完存する石室をもつが、いずれも小型の石室であった。

#### 観音山古墳群平瀬戸Ⅲ群

古墳3基と土坑などを検出した。そのうちの1基は直径15mを越える大型円墳で、玄室から墓道にかけて石組の排水暗渠を設けていた。玄室内からは韓国系の土器も出土し、盟主的な人物が葬られていたものと思われる。

なお、石造物の取扱いとは以下のようである。

#### 猿田彦命

梶原川左岸に併走する県道の西側に位置する。工事の影響が無く、現状のままである。

#### 大行事

「天保一四（1843）□八月八日」銘がある。大行事神は山王二十一社（滋賀県日吉大社）の一つで、北部九州山岳修験の一大拠点である彦山（英彦山）が神領内鎮守神として各地に大行事社を設置している。それとは別に、各地に「大行事」と記された石塔が分布しており、牛馬の守り神・農耕守護神としての信仰を持っている。田植え後に苗の余ったものを供えたり、団子を供えて牛馬の安全を祈ったりしている（佐々木哲也『福岡の民俗文化』1993）。本例は周辺では珍しいものであるが、同じ区内に豊前坊を祀る祠もあり、その性格については即断できない。工事用道路建設によって場所を近接地に移動。

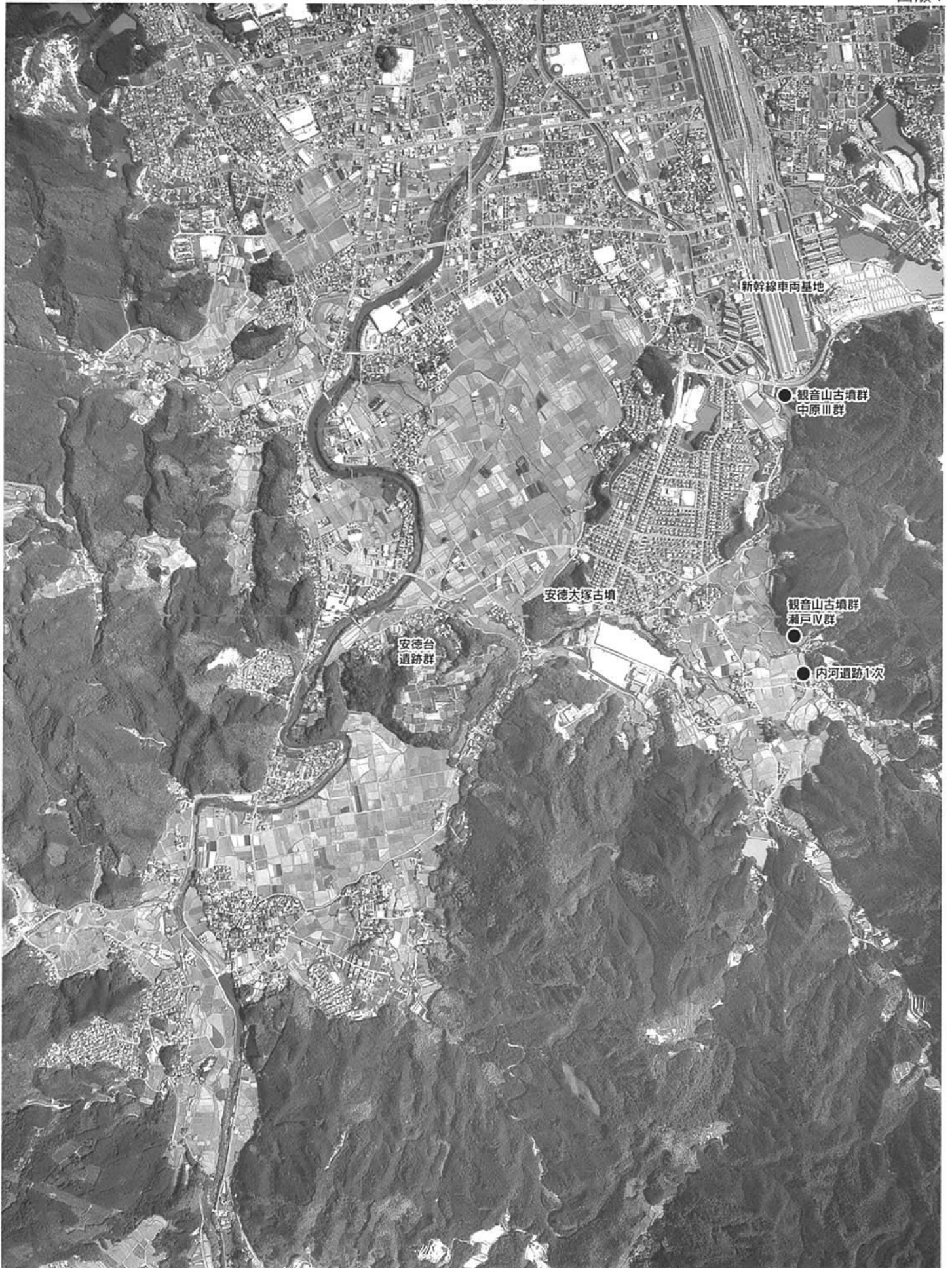
#### 見返り燈籠（町指定文化財）

かつて大宰府天満宮への参詣道であった旧道脇に、安政年間に造られた。先の福岡西方沖地震の影響か、本体が大きくずれて、工事の振動による崩壊の危険があったために解体した。工事終了後に現地に復原の予定である。



工事風景（那珂川町大字松木地内）

# 図 版



観音山古墳群瀬戸Ⅳ群周辺航空写真(上から、上が北)





1.瀬戸Ⅳ群 遠景(南から)



2.瀬戸Ⅳ群 全景(西から)



3.瀬戸Ⅳ群調査区  
全景(上から、上が北)

1.瀬戸Ⅳ群周溝墓調査前  
(東から)



2.瀬戸Ⅳ群周溝墓調査前  
(南から)



3.瀬戸Ⅳ群周溝墓(1)  
(東から)







1.瀬戸Ⅳ群周溝墓(2)  
(南東から)



2.瀬戸Ⅳ群周溝墓(3)  
(北東から)



3.瀬戸Ⅳ群周溝墓(4)  
(西から)



1.瀬戸Ⅳ群周溝墓  
東西土層ベルト東側  
(南東から)



2.瀬戸Ⅳ群周溝墓  
東西土層ベルト西側  
(南西から)



3.瀬戸Ⅳ群周溝墓  
南北土層ベルト中央  
(西から)





1.瀬戸Ⅳ群周溝墓南北土層ベル  
(北東から)



2.瀬戸Ⅳ群周溝墓南北土層ベル  
周溝土層(東から)



3.瀬戸Ⅳ群周溝墓掘り下げ状況  
(南東から)

1.瀬戸IV群調査区  
第1トレンチ(南西から)



2.瀬戸IV群試掘  
第3トレンチ(北西から)



3.瀬戸IV群試掘  
第4トレンチ(北東から)







1.瀬戸Ⅳ群試掘第5トレンチ  
(西から)



2.瀬戸Ⅳ群試掘第7トレンチ  
(南から)



3.瀬戸Ⅳ群試掘第8トレンチ  
(東南東から)

1.全景(南から)



2.本線調査区  
(上空から)



3.工事用道路調査区  
(上空から)





1.33号墳全景(上空から)



2.同全景(上空から)



3.同全景(南東から)



1.33号墳閉塞状況  
(南から)



2.同閉塞状況  
(南西から)



3.同石室  
(南西から)





1.33号墳検出状況  
(南から)



2.同検出状況  
(南西から)



3.同石室内堆積状況  
(北から)



1.33号墳閉塞状況  
(西から)



2.同閉塞中土器出土状況  
(南西から)



3.同全景  
(東から)

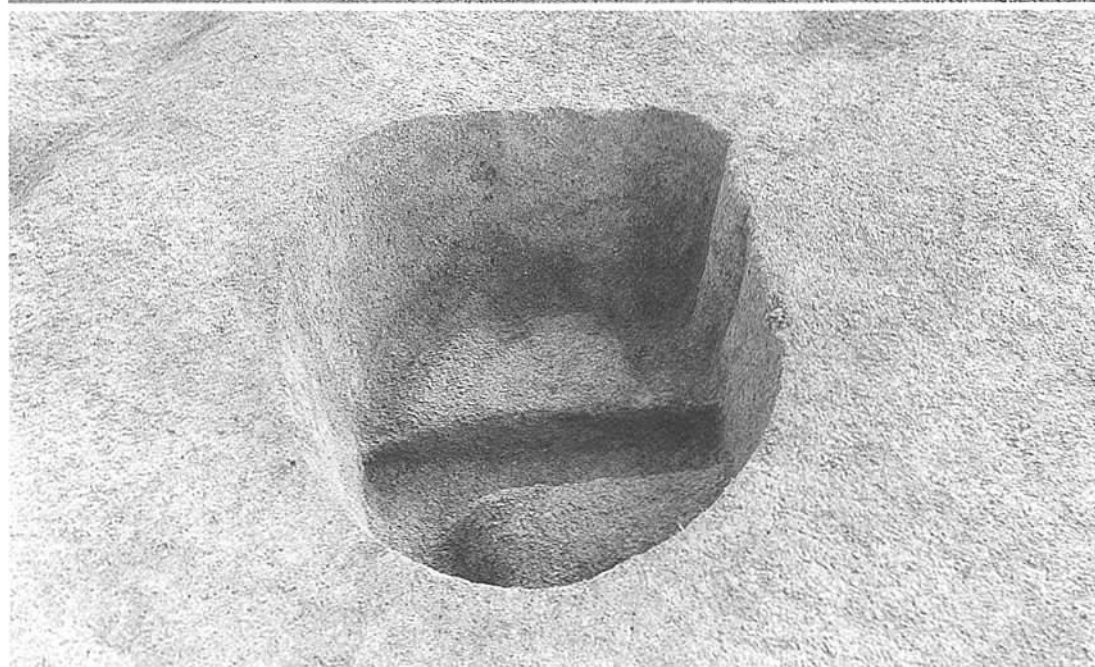


4.同周溝土層  
(南から)





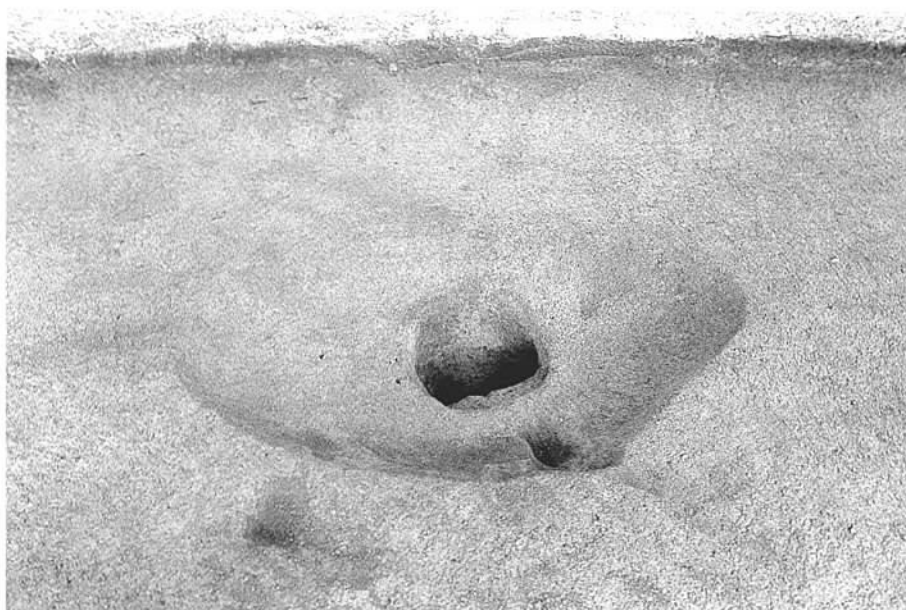
1.1号土坑(南から)



2.2号土坑(北から)



3.3号土坑(西から)



1.4号土坑(南から)



2.調査区北壁土層  
(南東から)



3.本線北東隅縄文土器  
出土状況(西から)





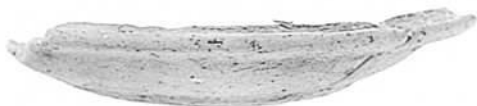
第12図9



第13図13



第12図10



第12図11



第12図12



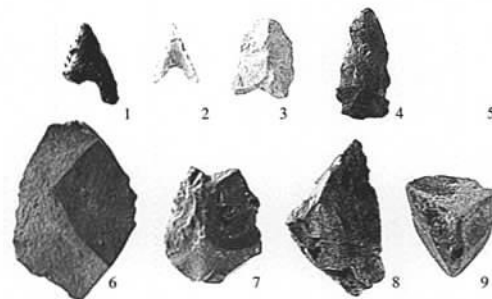
第12図15



第13図1



第13図6



第30図



10



11



12



10



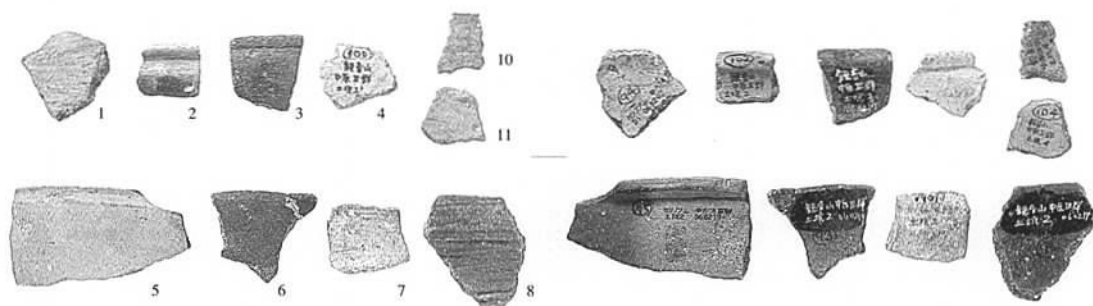
11



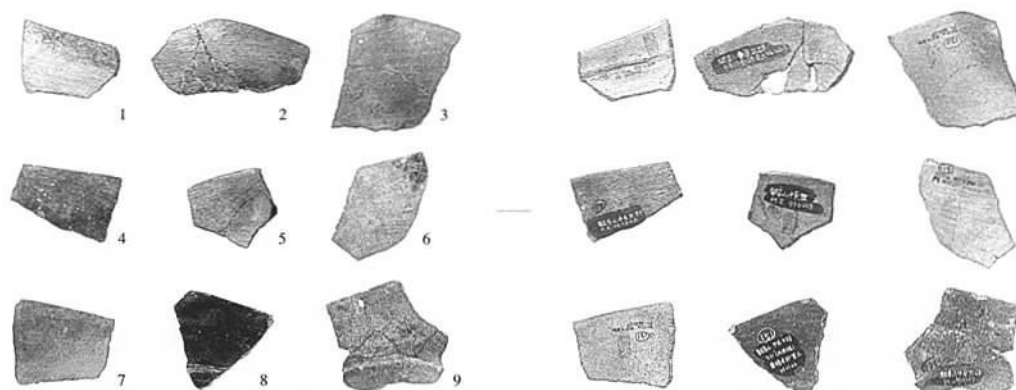
12



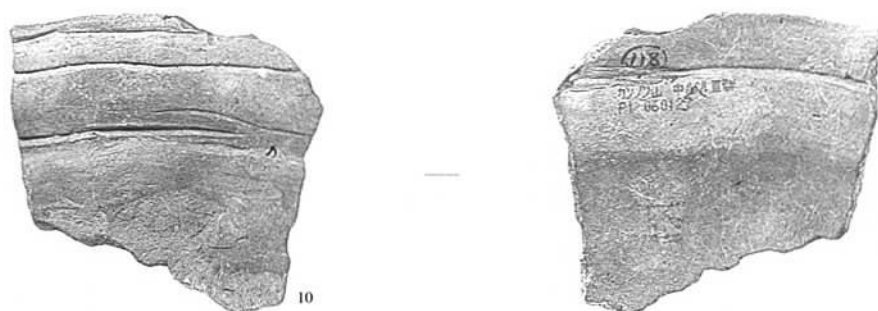
第16図



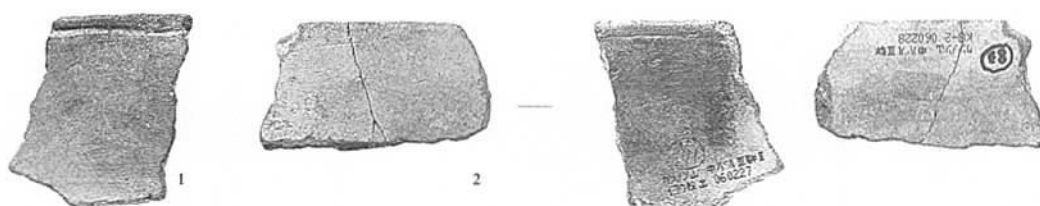
第15図



第17図



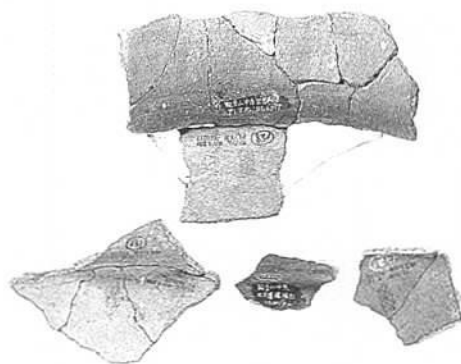
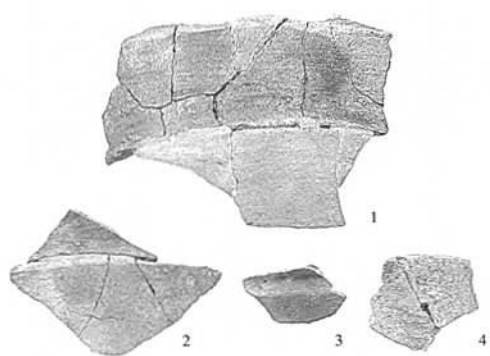
第17図



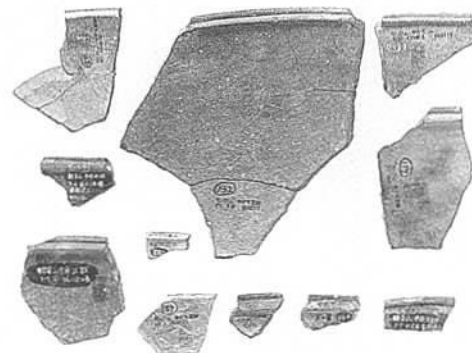
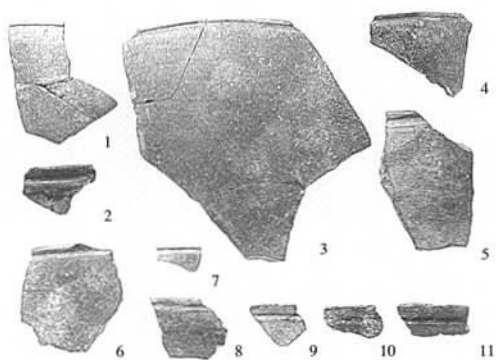
第18図



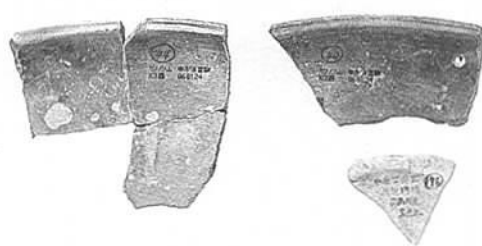
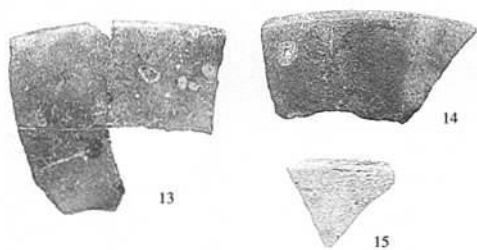
第19図



第20図



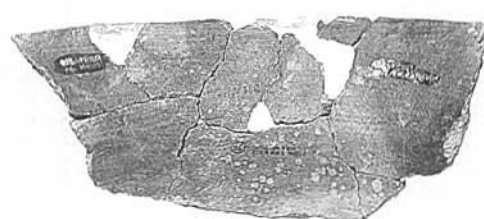
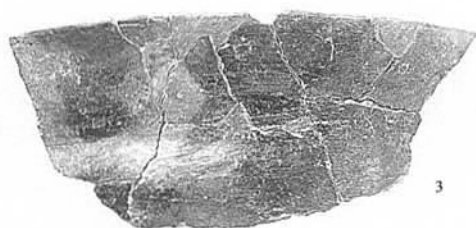
第21図



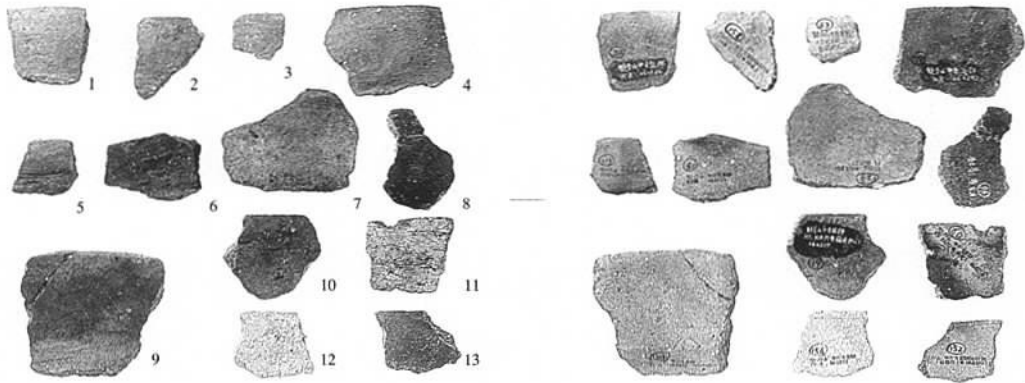
第21図



第22図



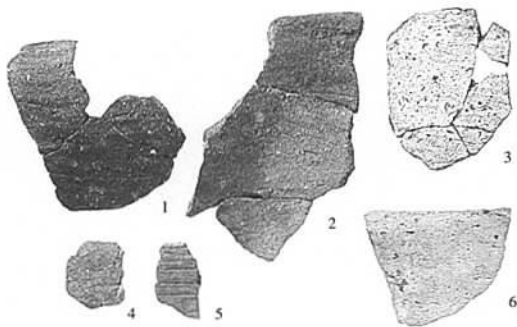
第22図



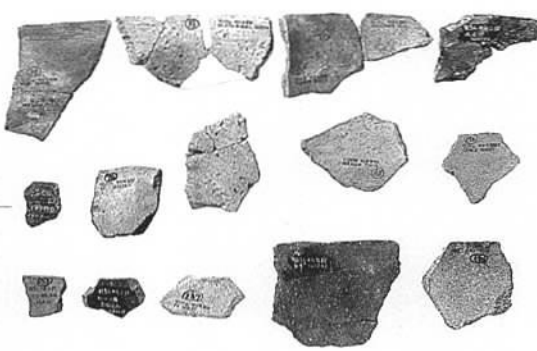
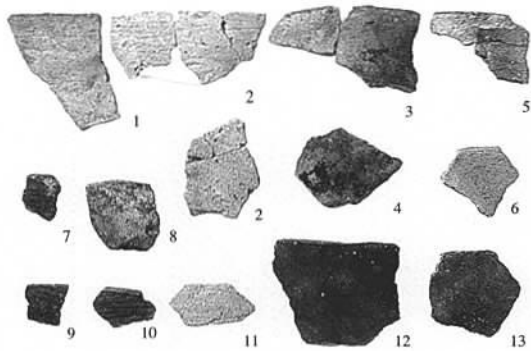
第23図



第23図



第24図

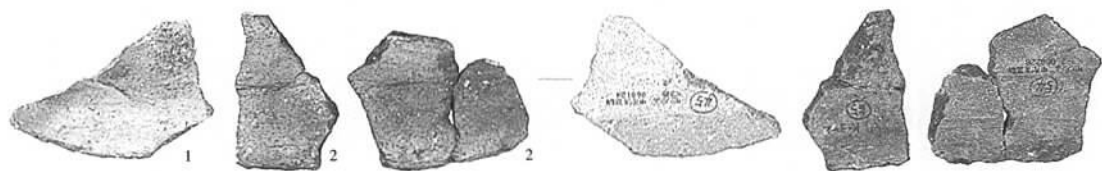


第25図

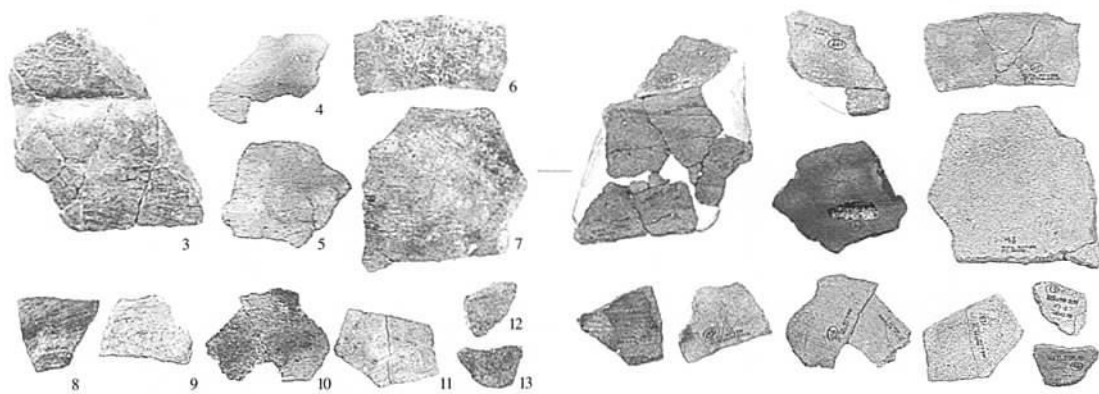


第26図

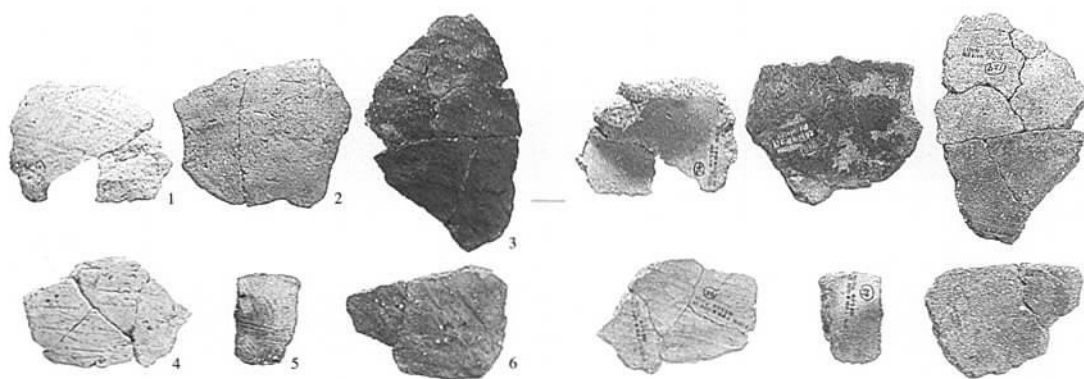




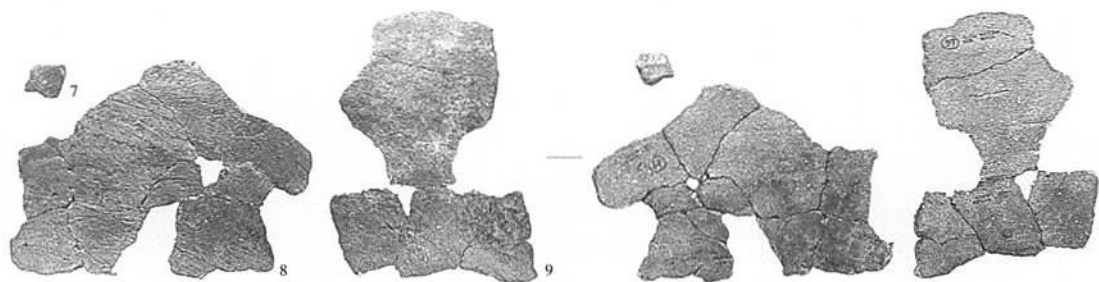
第27図



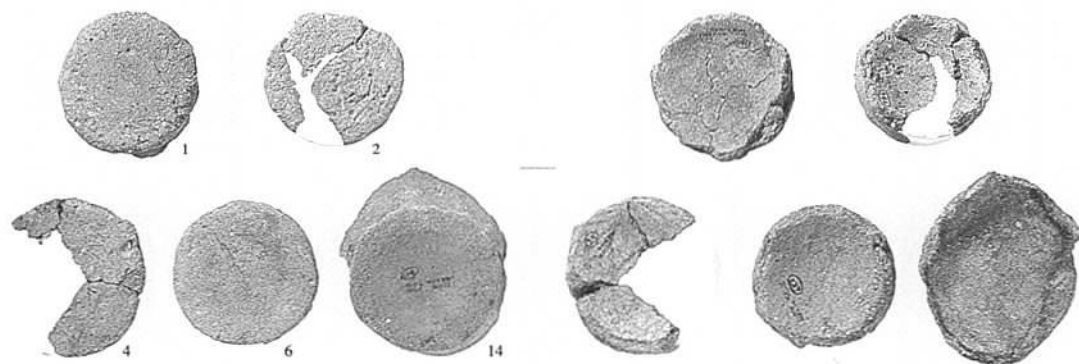
第27図



第28図



第28図

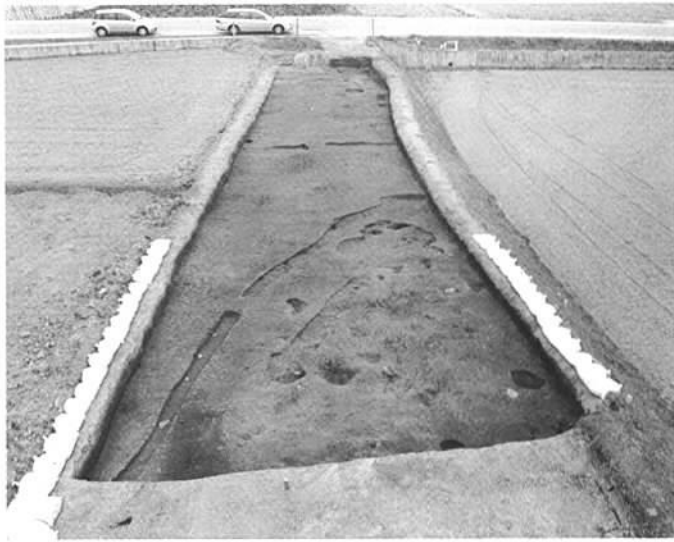


第29図

1. 内河遺跡全景(北西上空から)



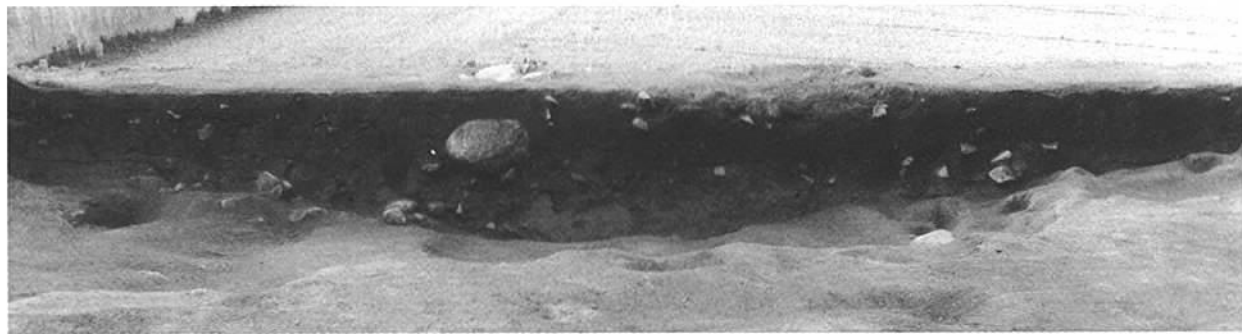
2. 調査区南半第1遺構面検出状況(南西上空から)



1.第1遺構面南半部全景(北から)



2.1号土坑(北から)



3.1号土坑土層断面(東から)



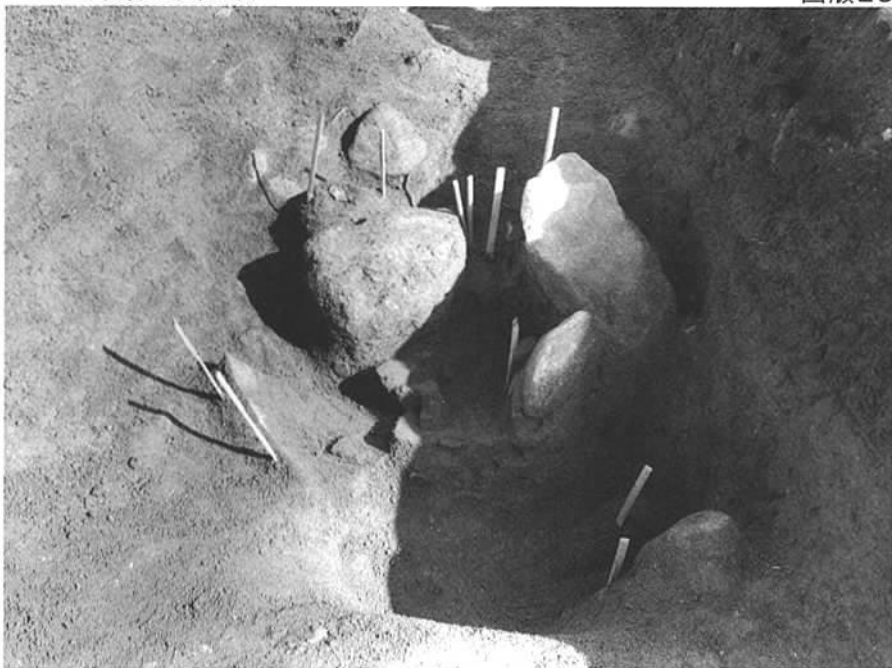
4.j3・4グリッド北壁土層断面(南から)



5.m3グリッド南壁土層断面(北から)



6.第2遺構面南半部東側(北から)



1.2号土坑粘土塊出土状態(南から)



2.2号土坑下位遺物出土状態(西から)



3.2号土坑掘り上り状況(西から)





1.調査区北半部第2遺構面全景  
(上空から)



2.調査区南半部第2遺構面全景(南から)

1.3号土坑遺物出土状態  
(東から)



2.3号土坑掘り上り状態  
(東から)



3.3号土坑土層断面  
(西から)





1.4号土坑(東から)



2.4号土坑土層断面(西から)



3.5号土坑(東から)





1.3~5号土坑流路  
(上空から)



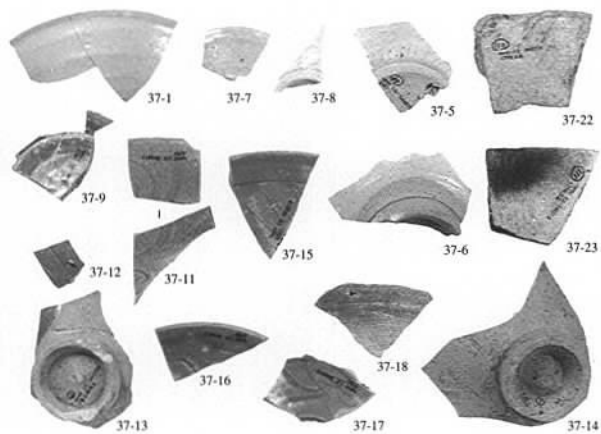
2.5号土坑土層断面  
(西から)



3.流路土層断面  
(西から)



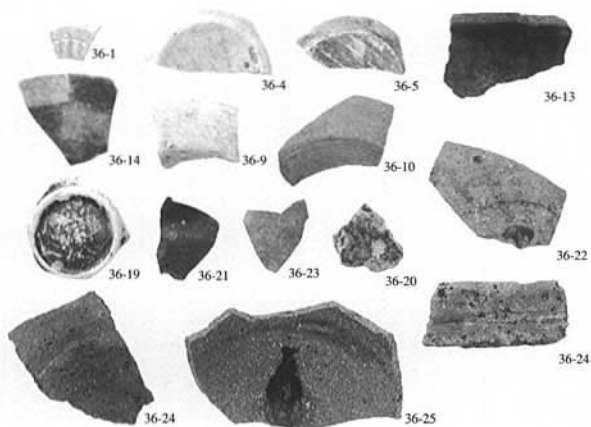
4.流路内石匙出土状況  
(北西から)



1号土坑出土土器・陶磁器



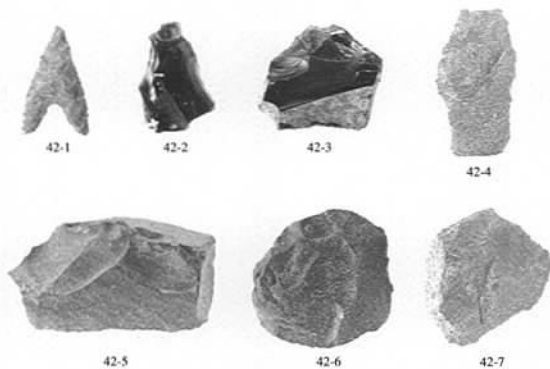
第37図11 外底部圧痕



1号土坑・遺物包含層上層出土中世遺物



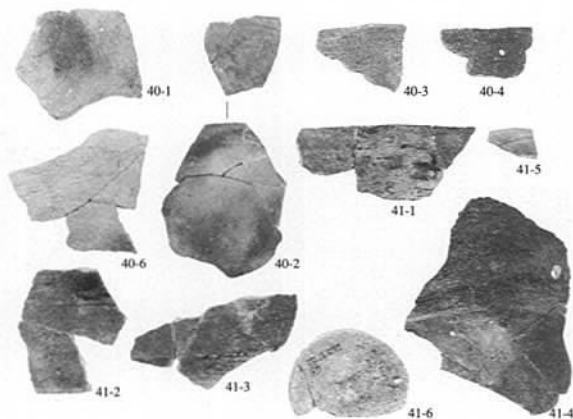
2号土坑出土土器1



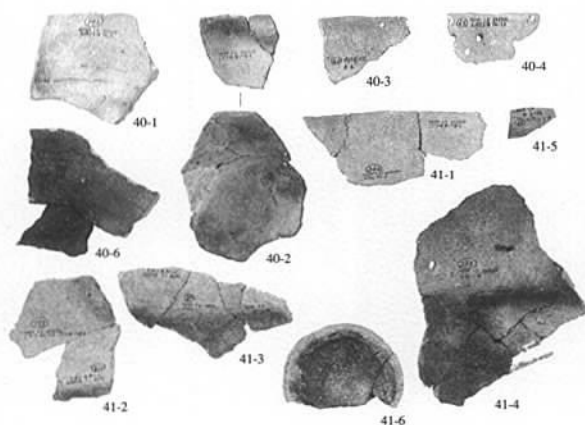
2号土坑出土石器

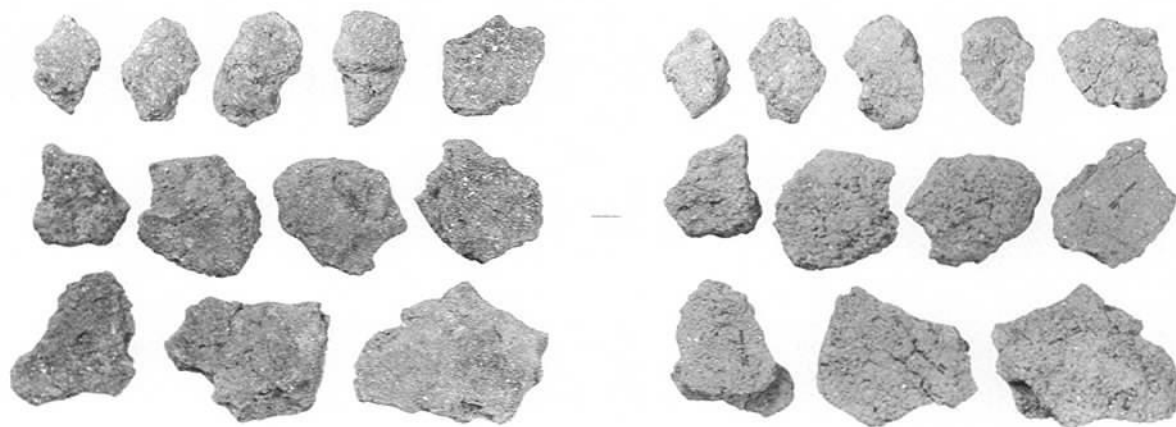


第39図2 種子圧痕アップ

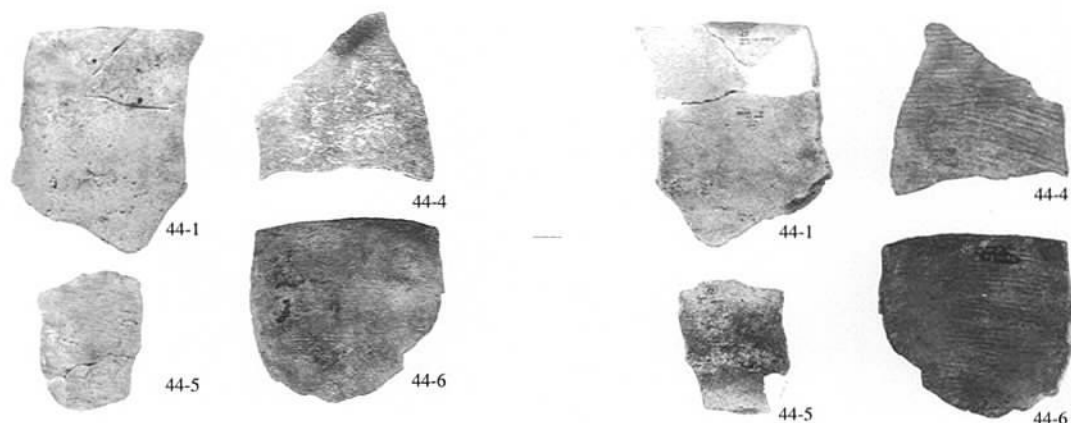


2号土坑出土土器

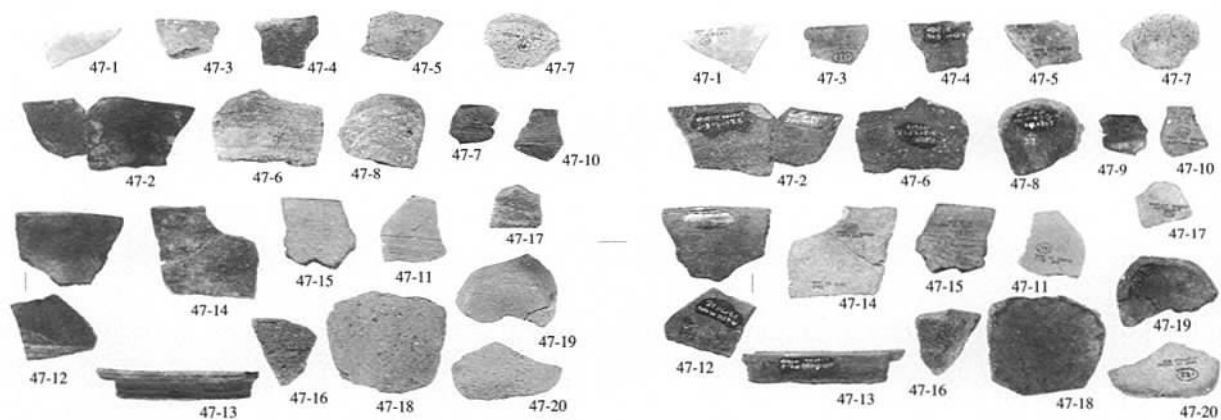




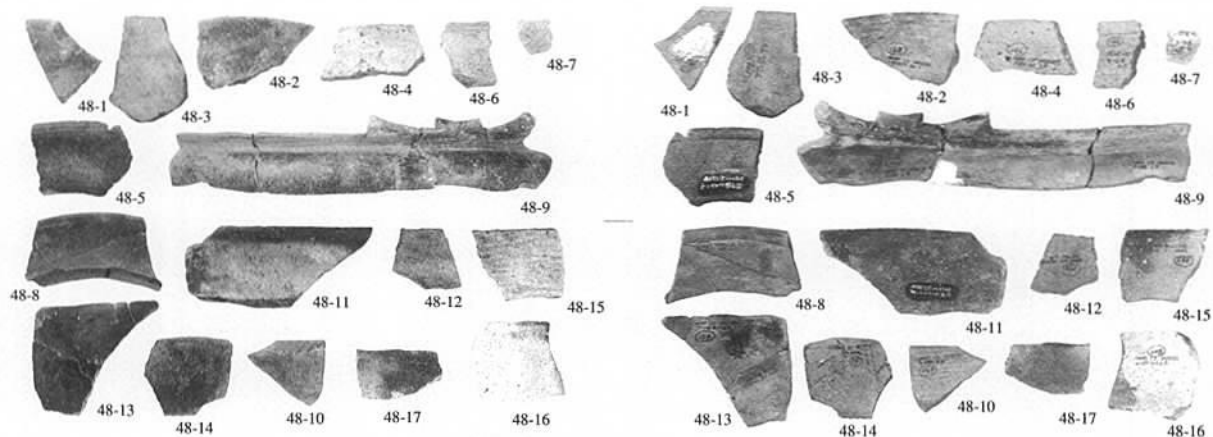
2号土坑出土粘土塊



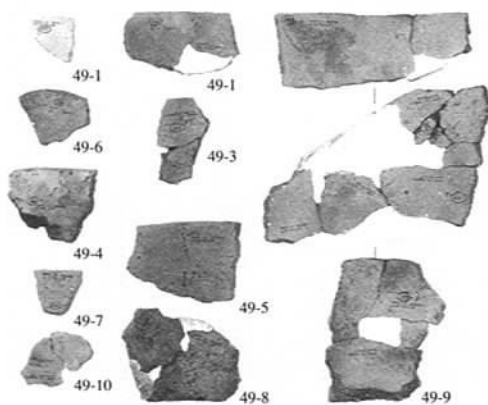
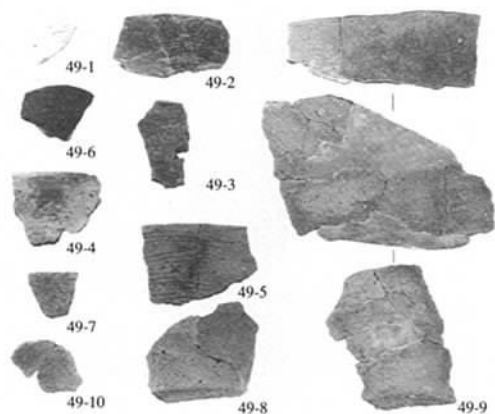
ピット5 出土土器



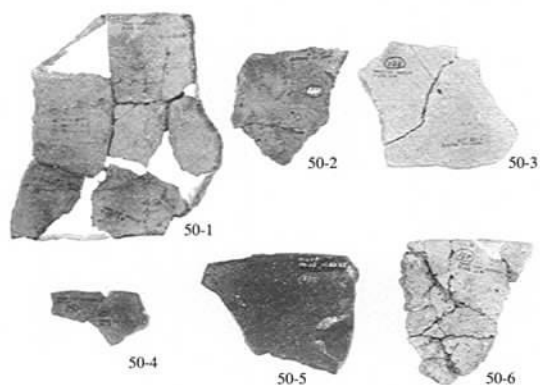
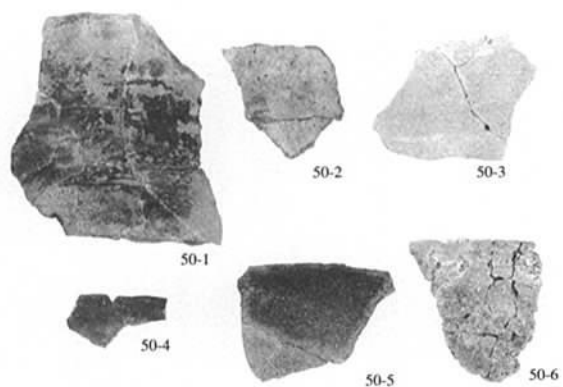
縄文晩期～弥生早期包含層 下・中層出土土器



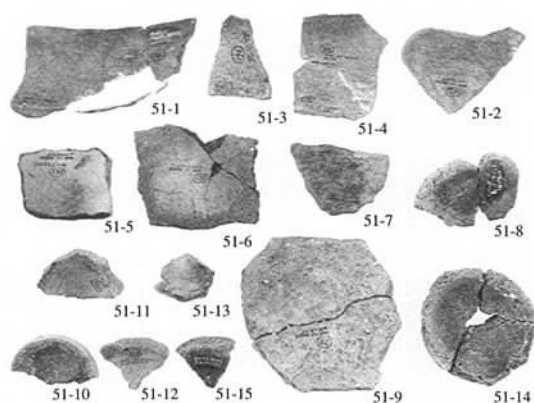
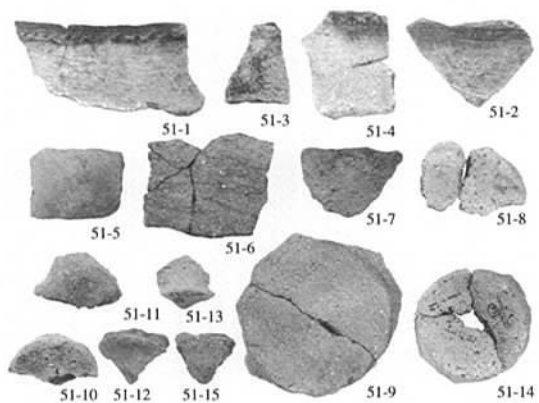
縄文晩期～弥生早期包含層 上層出土土器I



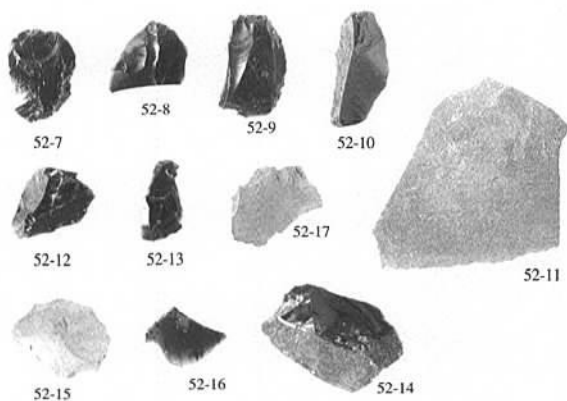
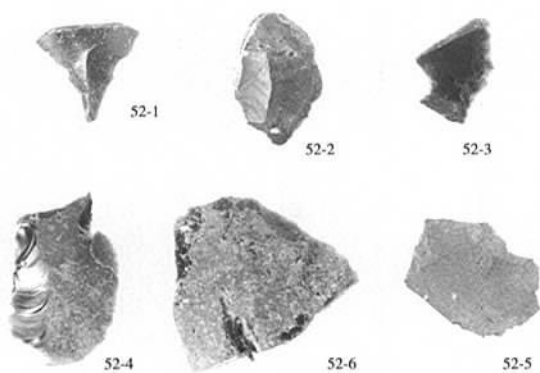
縄文晩期～弥生早期包含層上層出土土器2



縄文晩期～弥生早期包含層上層出土土器3

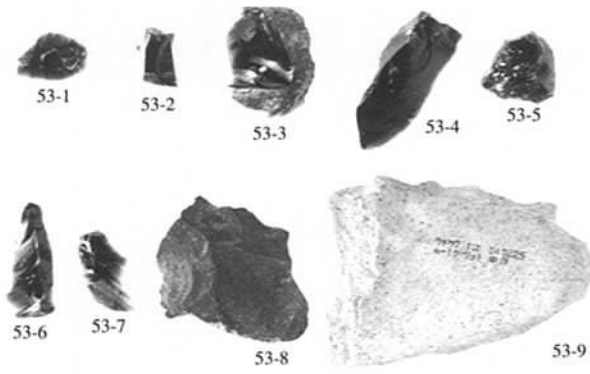


縄文晩期～弥生早期包含層上層出土土器4

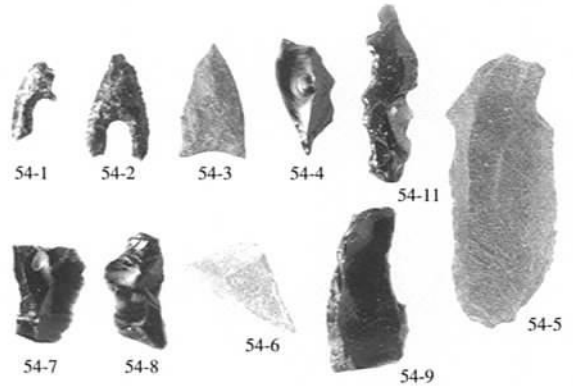


縄文晩期～弥生早期包含層下層出土石器

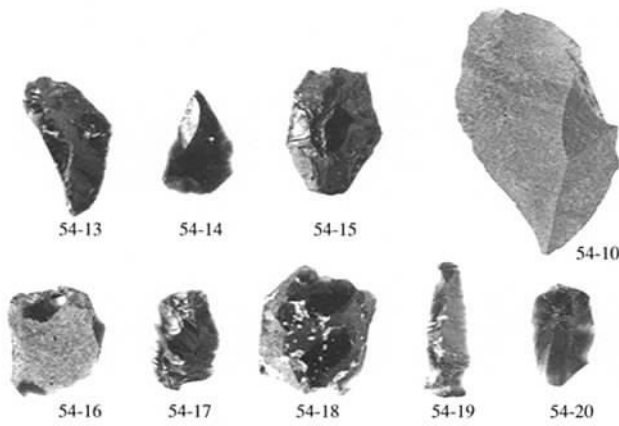
縄文晩期～弥生早期包含層中層出土石器



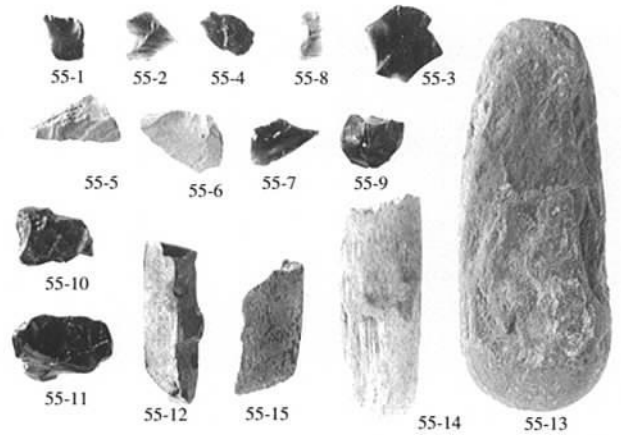
縄文晩期～弥生早期包含層中層出土石器



縄文晩期～弥生早期包含層上層出土石器1

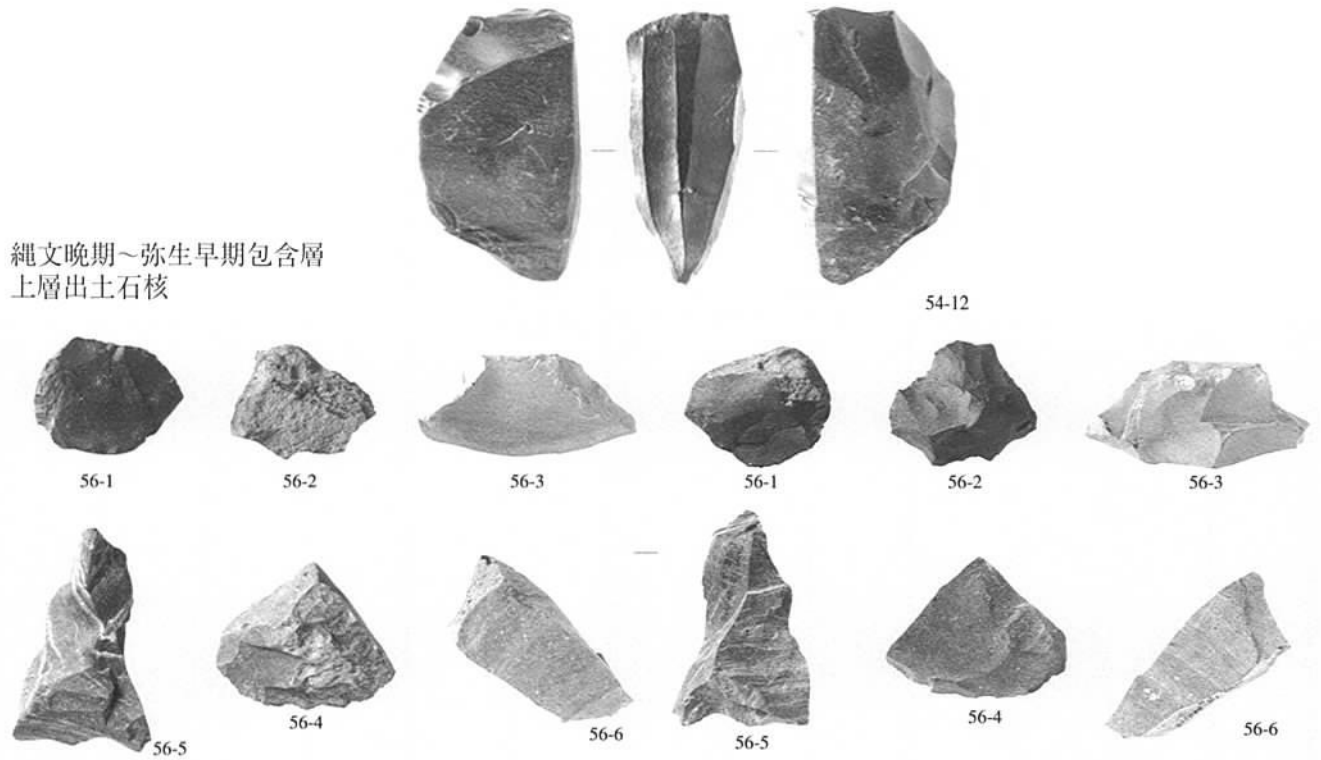


縄文晩期～弥生早期包含層上層出土石器2



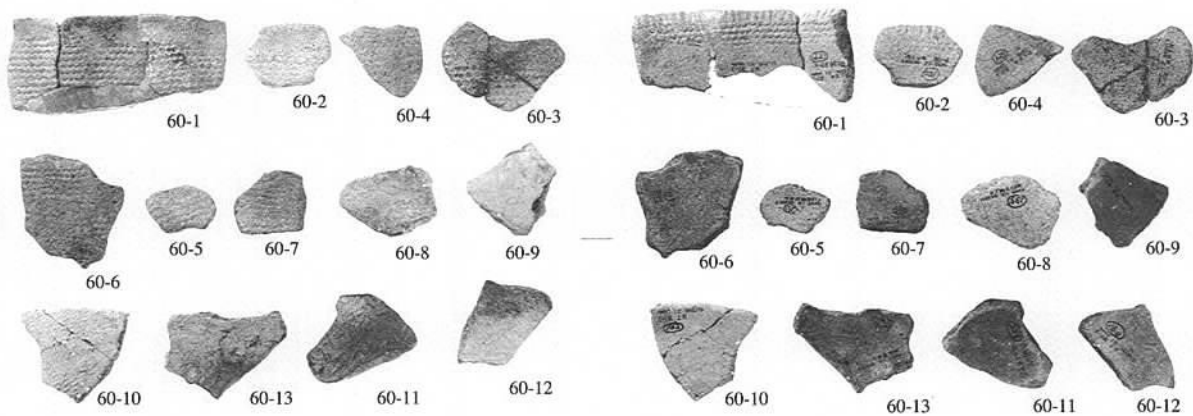
縄文晩期～弥生早期包含層上層出土石器3

縄文晩期～弥生早期包含層  
上層出土石核

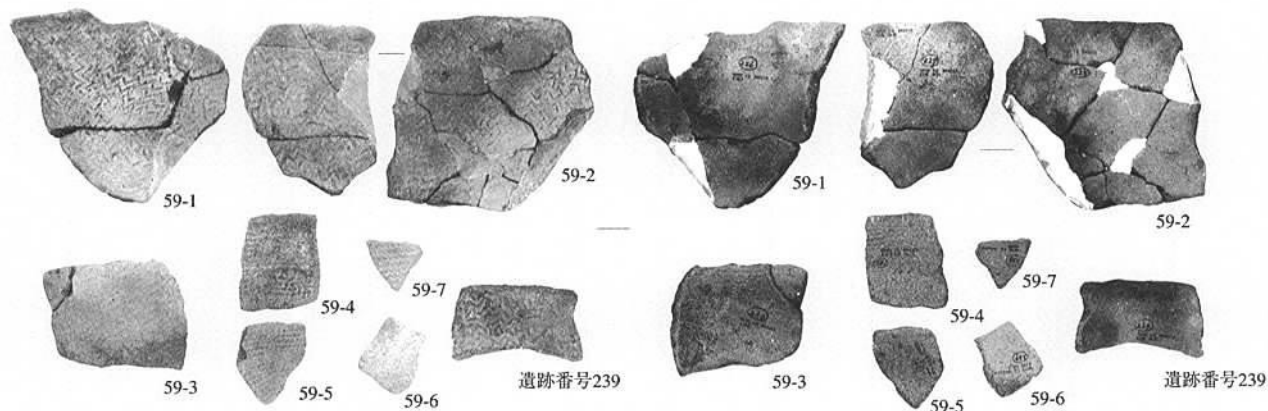


縄文晩期～弥生早期包含層上層出土石器4

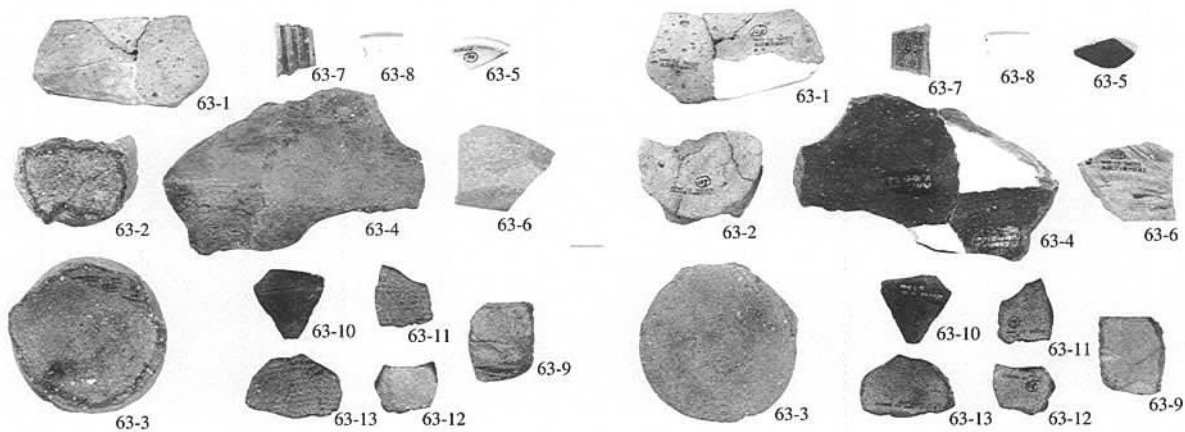




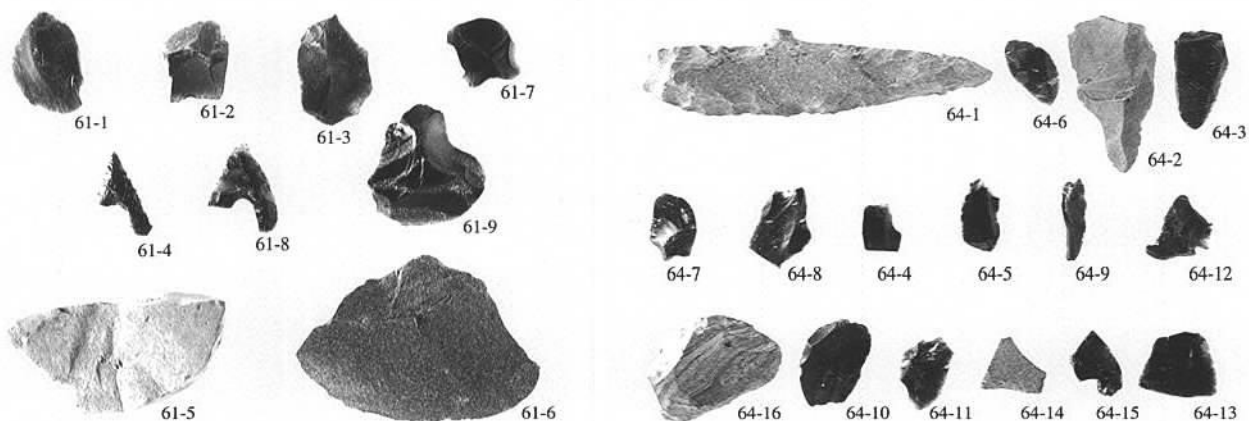
遺物包含層出土の縄文早期の土器



3～5号土坑出土土器



流路・溝状遺構・ピット出土遺物



縄文早期の遺構・遺物包含層出土の石器

流路・中世の遺構出土の縄文晩期～弥生早期の石器

## 報告書抄録

| ふりがな                  | かんのんやまこふんぐんせとよんぐん かんのんやまこふんぐんなかばるさんぐんうちごういせきだいいちじ |          |               |                   |                    |                                |                            |              |
|-----------------------|---------------------------------------------------|----------|---------------|-------------------|--------------------|--------------------------------|----------------------------|--------------|
| 書名                    | 観音山古墳群瀬戸Ⅳ群 観音山古墳群中原Ⅲ群 内河遺跡第1次                     |          |               |                   |                    |                                |                            |              |
| 福書名                   |                                                   |          |               |                   |                    |                                |                            |              |
| 巻次                    |                                                   |          |               |                   |                    |                                |                            |              |
| シリーズ名                 | 九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告                                  |          |               |                   |                    |                                |                            |              |
| シリーズ番号                | 第11集                                              |          |               |                   |                    |                                |                            |              |
| 編著者名                  | 大庭孝夫 飛野博文 秦憲二 林知恵                                 |          |               |                   |                    |                                |                            |              |
| 編集機関                  | 福岡県教育委員会                                          |          |               |                   |                    |                                |                            |              |
| 所在地                   | 〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園7-7 TEL:092-651-1111        |          |               |                   |                    |                                |                            |              |
| 発行年月日                 | 西暦2008年3月31日                                      |          |               |                   |                    |                                |                            |              |
| ふりがな<br>所収遺跡名         | ふりがな<br>所在地                                       | コード      |               | 北緯                | 東経                 | 調査期間                           | 調査面積<br>( m <sup>2</sup> ) | 調査原因         |
|                       |                                                   | 市町村      | 遺跡番号          |                   |                    |                                |                            |              |
| かんのんやまこふんぐん<br>観音山古墳群 | ふくおかけんちくしぐんなかがわまち<br>福岡県筑紫郡那珂川町                   | 305      | 200           | 33°<br>29′<br>47″ | 130°<br>26′<br>25″ | 20040712<br>～ 0928<br>20050617 | 380                        | 九州新幹線建設      |
| せとよんぐん<br>瀬戸Ⅳ群        | おおあざしもかじわら<br>大字下梶原                               |          | 118           | 33°<br>30′<br>19″ | 130°<br>26′<br>24″ | 20060117<br>～ 323              | 1200                       |              |
| かんのんやまこふんぐん<br>観音山古墳群 | ふくおかけんちくしぐんなかがわまち<br>福岡県筑紫郡那珂川町                   |          | 202           | 33°<br>29′<br>36″ | 130°<br>26′<br>28″ | 20040212<br>～ 0331             | 350                        |              |
| なかばるさんぐん<br>中原Ⅲ群      | おおあざまつのき<br>大字松木                                  |          |               |                   |                    |                                |                            |              |
| うちごういせき<br>内河遺跡       | ふくおかけんちくしぐんなかがわまち<br>福岡県筑紫郡那珂川町                   |          |               |                   |                    |                                |                            |              |
| だいいちじ<br>第1次          | おおあざかみかじわら<br>大字上梶原                               |          |               |                   |                    |                                |                            |              |
| 所収遺跡名                 | 種別                                                | 主な時代     | 主な遺構          |                   |                    | 主な遺物                           |                            | 特記事項         |
| 観音山古墳群<br>瀬戸Ⅳ群        | 墳墓                                                | 中世       | 方形周溝          |                   |                    | なし                             |                            |              |
| 観音山古墳群<br>中原Ⅲ群        | 散布地<br>古墳                                         | 縄文<br>古墳 | 土坑<br>円墳      |                   |                    | 縄文土器・石器<br>須恵器・土師器             |                            | 主として晩期<br>大破 |
| 内河遺跡                  | 集落                                                | 縄文<br>中世 | 土坑<br>土坑・溝・柵等 |                   |                    | 縄文土器・石器<br>土師器・陶磁器・石製品         |                            | 早期・晩期        |



| 福岡県行政資料    |                  |
|------------|------------------|
| 分類番号<br>JH | 所属コード<br>2114107 |
| 登録年度<br>19 | 登録番号<br>4        |

九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告 第11集

観音山古墳群中原Ⅲ群  
観音山古墳群瀬戸Ⅳ群  
内河遺跡第1次

平成20年3月31日

発行 福岡県教育委員会  
福岡市博多区東公園7番7号

印刷 株式会社ファイン  
〒819-0006 福岡市西区姪浜駅4丁目12-12  
TEL 092-892-7720 FAX 092-892-7721